P3XU-E271-04Z0

エンベデッドコンピュータ AR8300 シリーズ

取扱説明書

このページは空白です。

はじめに

このたびは、弊社のエンベデッドコンピュータ AR8300 シリーズ（ミドルタワータイプ）をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本製品は、幅広い組込み用途に利用可能な組込み用コンピュータ（エンベデッドコンピュータ）です。
本書は、本製品の基本的な取り扱い方法について解説しています。
本書をご覧いただき、本製品を正しくお使いくださいますよう、お願いいたします。

2007 年 4 月

インテル、Intel、Celeron、Pentium、Intel SpeedStep、および Xeon は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。
その他の社名および商品名は各社の登録商標または商標です。

All Rights Reserved, Copyright © 1985-2007 Phoenix Technologies Ltd.
All Rights Reserved, Copyright © 1999-2007 Intel Corporation
All Rights Reserved, Copyright © 2003-2007 Adaptec, Inc.
All Rights Reserved, Copyright © PFU LIMITED 2004-2007

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全にお使いいただくための重要な情報が記載されています。

弊社は、お客さまの生命、身体や財産に被害を及ぼすことなく安全にお使いいただくために、細心の注意を払っています。本製品をお使いの際は、本書をよくお読みになり、ご理解されたうえでご使用ください。

●警告表示について

本書では、使用者および周囲の方々や財産に損害を与えないための警告表示をしています。警告表示は、警告レベルの記号と警告文の組み合わせになっています。

⚠警告　正しく使用しない場合、死亡または重傷のおそれがあることを示します。

⚠注意　正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。
また、当該製品自体または他の使用者の財産に対して損害を与えるおそれがあることを示します。

⚠警告　本製品を安全にお使いいただくために、必ずお守りください。正しく使用しない場合、死亡または重傷のおそれがあることを示します。

作業区分	警　告　事　項
感電・火災について	本製品の分解・解体・改造・再生を行わないでください。
	本製品の上には絶対に物をのせないでください。感電・火災・故障の原因となります。
	直射日光のあたる場所や暖房機の近く、湿気、ほこりの多い場所には置かないでください。 感電や火災のおそれがあります。
	装置内部が高温になるのを防ぐため、通気孔をふさがないでください。 火災のおそれがあります。
	電源ケーブルは弊社専用品を使用してください。感電・火災・故障の原因となります。
	万一、装置から発熱・発煙・異臭が発生したときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。 電源を切ったら購入元に連絡してください。そのまま使用すると、感電や火災のおそれがあります。なお、この場合、通信中のデータは保証されません。
	電源ケーブルやその他のケーブル類を傷つけたり、加工したりしないでください。 電源ケーブルやその他のケーブル類の上に物を載せたり、絡ませたり、足を引っかけたりしないようにしてください。 感電や火災のおそれがあります。
	本製品の電源ケーブルは、タコ足配線にしないでください。コンセントが過熱し、火災の原因となることがあります。
	電源プラグの金属部分およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
	電源ケーブルは、プラグ部分を持ってコンセントから抜いてください。 プラグが傷んで感電や火災のおそれがあります。
	電源プラグは、電源コンセントに確実に奥まで差し込んでください。 差し込みが不十分な場合、感電・発煙・火災の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。
	電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは、使用しないでください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

作業区分	警　告　事　項
感電・火災について	使用中の装置を布でおおったり、包んだりしないでください。熱がこもり、火災の原因となることがあります。
	電源ケーブルを束ねて使用しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。
	雷が鳴りだしたら、ケーブル類に触れないでください。感電の原因となります。
	コーヒーなどの液体やクリップなどの金属片が、装置内部に入らないように気をつけてください。また、装置内部に異物が入るのを防ぐため、装置の上には物を置かないでください。感電や火災のおそれがあります。
	装置のすき間に、ドライバやペン先などを入れないでください（リセットスイッチを除く）。感電の原因となります。
破損・負傷について	振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。 落下したりして、けがの原因となることがあります。
	装置の上に物を置いたり、装置の上で作業したりしないでください。 装置が破損したり、作業者が負傷したりするおそれがあります。
	梱包に使用しているビニール袋は、お子様が口に入れたり、かぶって遊んだりしないようご注意ください。窒息の原因となります。
	本製品を廃棄するときは、他のゴミと一緒に捨てないでください。火中に投じると破裂するおそれがあります。

⚠ 注意　正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。また、当該製品自体または他の使用者の財産に対して損害を与えるおそれがあることを示します。

作業区分	注　意　事　項
故障について	振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。故障の原因となります。
	装置の上に物を置いたり、装置の上で作業したりしないでください。故障の原因となります。
	装置を高いところから落とさないでください。故障の原因となります。
	本製品は、屋内に設置してください。屋外で使用すると故障の原因となります。
	極端な高温または低温状態や、温度変化の激しい場所で使用しないでください。故障の原因となります。
	塩害地域では使用しないでください。故障の原因となります。
	衝撃や振動の加わる場所で使用しないでください。故障の原因となります。
	薬品の雰囲気中や、薬品に触れる場所で使用しないでください。故障の原因となります。
	電子レンジなど、強い磁界を発生する装置のそばで使用しないでください。故障の原因となります。
	内部に液体や金属類などの異物が入った状態で使用しないでください。故障の原因となります。
	本製品を移動するときは、必ず電源ケーブルを本体から抜いてください。故障の原因となります。
電波障害について	ラジオやテレビジョン受信機のそばで使用しないでください。 ラジオやテレビジョン受信機に雑音が入る場合があります。
感電について	保守時には必ず電源ケーブルを本体から抜いてください。

●使用上の注意

- 本製品として提供される取扱説明書、装置本体は、お客さまの責任でご使用ください。
- 本製品の使用によって発生する損失やデータの損失については、弊社では一切責任を負いかねます。また、本製品の障害の保証範囲はどんな場合も、本製品の代金としてお支払いいただいた金額を超えることはありません。あらかじめご了承ください。
- 本製品に含まれる、装置本体、専用オプション以外の他社のハードウェア、ソフトウェアに関するトラブルについては、弊社では一切責任を負いかねます。
- 本製品に改変や分解を行うことは、一切許可していません。

●拡張カードの装着に関する注意

⚠警告 取り付けや取り外しを行うときは、装置および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルを装置本体から取り外してください。感電の原因となります。

⚠注意 ●本体装置内部について

電源を切った直後は、装置内部が熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行うときは、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。

また、ベースボード上に搭載されているヒートシンクなどに、絶対に触らないでください。

●拡張カード

- 拡張カードは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、装置本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電してください。
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。
- 静電気の影響を受けやすいので、伝導パッドなどの上に置くか、取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。
- 外部に電源が出力される拡張カード (VGA、USB、SCSI などのインターフェースに電源供給を行うもの）については、拡張カード内に安全規格の認定を得た 5A 以下の過電流保護素子を挿入してください。
- 拡張可能な PCI カードの総電力は 60W 以下です。

●バッテリの交換について

⚠ 注意　本製品では、BIOS 情報などの保持のため、バッテリ（CMOS RAM のバッテリ）を搭載しています。

- バッテリには触れないでください。また、バッテリの取り付けや取り外しは絶対に行わないでください。感電の原因となったり、人体に発生する静電気によって装置に損傷を与える場合があります。
- 電源投入時 "CMOS Battery Low" のメッセージが画面に表示される場合や、BIOS セットアップにより設定した内容が正しく保存されない場合は、バッテリが消耗していることが考えられます。
  この場合はバッテリを交換せずに、必ず弊社の担当営業までご連絡ください。

●電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

●高調波電流障害の防止について

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

●海外での使用について

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

●ハイセイフティについて

本製品は、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。
お客さまは、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

●使用済み製品のリサイクルについて

- この製品の所有権が事業主の場合には、使用済み後に廃却される製品は産業廃棄物扱いとなり、廃棄する際にはマニフェスト伝票（廃棄物管理表）の発行が必要となります。
- 製品所有者が弊社に廃棄を依頼される場合には、弊社と連携している物流会社（産業廃棄物収集運搬許可業者）にて引き取りを行います。その際には、「PFU ライフビジネス株式会社　首都圏リサイクルセンター」（電話 0467-70-7290）へお問い合わせください。
- 弊社では、リサイクルシステムを構築し、リサイクルセンターで使用済み製品の解体、分別処理により、部品の再使用や材料へのリサイクルを行っています。

●使用済み電池の廃却について

- 本製品に使用している電池は、埋蔵量の少ない高価な希少資源を使用しています。リサイクルにご協力ください。
- 使用済み電池を廃棄する場合は、本製品のお客さまが事業主の場合は産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託してください。個人のお客さまは、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従って廃棄してください。

●グリーン製品について

弊社の厳しい環境評価基準をクリアした、地球に優しい、環境への負荷の少ない「グリーン製品」です。

主な特長

- 小型／省資源化
- 節電機能保有
- 再資源化率が高い

PFU ENVIRONMENTAL PROTECTION

本書の読み方

●本書の構成について

第 1 章　お使いになる前に

本製品の概要について説明します。

第 2 章　取り扱い方法

本製品の基本的な取り扱い方法について説明します。

第 3 章　拡張カードの取り付け／ 取り外し

拡張カードの取り付け／取り外し手順について説明します。

第 4 章　BIOS セットアップ

BIOS セットアップの概要、メニューの項目について説明します。

第 5 章　SCSI セレクトユーティリティ（モデル 210/210E のみ）

SCSI セレクトユーティリティの概要、メニューの項目について説明します。

第 6 章　困ったときには

本製品を使用中に異常が起きた際の対処方法について説明します。

付録

仕様や留意事項について説明します。

●本書の表記について

本書で使用している記号とその意味を以下に示します。

重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
備考	操作に関する補足事項を記述しています。 必要に応じてお読みください。
参照	関連する情報が記載されているマニュアルを示したり、参照先を示しています。 必要に応じてお読みください。

●略称

本書では、以下の用語について省略して表記する場合がありますので、ご了承ください。

製品名称	略称
エンベデッドコンピュータ AR8300 シリーズ　モデル 200 エンベデッドコンピュータ AR8300 シリーズ　モデル 210 エンベデッドコンピュータ AR8300 シリーズ　モデル 220 エンベデッドコンピュータ AR8300 シリーズ　モデル 210E	本製品
Microsoft® Windows® XP Professional operating system	Windows® XP Professional
Microsoft® Windows® XP Professional operating system、または Microsoft® Windows® XP Embedded operating system を区別しない場合	Windows® XP
Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system	Windows® 2000
Red Hat® Enterprise Linux® V3 / V4	Linux

● CD-ROM の表記について

ここでは、CD-ROM ドライブ、CD-RW および DVD-ROM ドライブを「CD-ROM ドライブ」と表記しています。特に断りのない限り、CD-ROM ドライブと記述している部分は、CD-RW/DVD-ROM ドライブを含みます。

また、CD-ROM、CD-RW および DVD-ROM を「CD-ROM」と表記しています。特に断りのない限り、CD-ROM と記述している部分は、CD-RW/DVD-ROM を含みます。

目次

はじめに i
安全にお使いいただくために ii
●警告表示について ii
●使用上の注意 iv
●拡張カードの装着に関する注意 iv
●バッテリの交換について v
●電波障害自主規制について v
●高調波電流障害の防止について v
●海外での使用について v
●ハイセイフティについて v
●使用済み製品のリサイクルについて vi
●使用済み電池の廃却について vi
●グリーン製品について vi
本書の読み方 vii
●本書の構成について vii
●本書の表記について viii
●略称 viii
● CD-ROM の表記について viii

目次 ix

第 1 章　お使いになる前に 1
1.1　機能と特長 1
1.2　作業の流れ 3
1.3　梱包物の確認 4
1.4　各部の名称と働き 5
（1） 本体前面 5
（2） 本体背面（モデル 200） 6
（3） 本体背面（モデル 210） 8
（4） 本体背面（モデル 220） 9
（5） 本体背面（モデル 210E） 11
1.5　装置ラベルについて 13
（1） 警告ラベル 13
（2） VCCI ラベル 14
（3） 注意ラベル 14
（4） ライセンスラベル 14

（5） 製造銘板 14
1.6 本製品の設置 15
（1） 設置条件 15
（2） 台足の取り付け 18
（3） コネクタの接続 19

第 2 章 取り扱い方法 23
2.1 電源の入れ方／切り方 23
（1） 電源を入れる 23
（2） 電源を切る 24
2.2 フロッピーディスクのセット／取り出し 25
（1） 取り扱い上の注意 25
（2） フロッピーディスクをセットする 25
（3） フロッピーディスクの取り出し 25
2.3 CD-ROM のセット／取り出し 26
（1） 取り扱い上の注意 26
（2） CD-ROM をセットする 28
（3） CD-ROM を取り出す 29
2.4 防塵フィルタの取り扱いについて 30
（1） 防塵フィルタの点検 30
（2） 防塵フィルタの清掃方法 30
（3） フィルタの点検／交換手順 30
2.5 ブラケットオプションの取り扱いについて 31
（1） 本体のカバーの取り外し 31
（2） 本オプションの取り外し 32
（3） 拡張カードの取り付け／取り外し 32
（4） 本オプションの取り付け 32
（5） 本体のカバーの取り付け 32
2.6 RAID カードの取り扱いについて 32

第 3 章 拡張カードの取り付け／取り外し 33
3.1 取り付ける前に 33
（1） 拡張カードの搭載場所 33
（2） 拡張カードスロットの仕様 35
3.2 各カバーの取り外し／取り付け 37
（1） 取り外し手順 37
（2） 取り付け手順 37
3.3 拡張カードの取り付け／取り外し 38
（1） 取り付け手順 38
（2） 取り外し手順 39

第 4 章 BIOS セットアップ 41
4.1 BIOS セットアップについて 41

4.2 BIOS セットアップの操作（モデル 200/220/210E）..... 43
（1） BIOS セットアップの起動 43
（2） BIOS セットアップで使用するキー 45
（3） BIOS セットアップによる設定の変更方法 45
（4） BIOS セットアップの終了 46
（5） Quiet ブート時の BIOS セットアップの起動 47
4.3 BIOS セットアップの操作（モデル 210）..... 48
（1） BIOS セットアップの起動 48
（2） BIOS セットアップで使用するキー 49
（3） BIOS セットアップによる設定の変更方法 50
（4） BIOS セットアップの終了 50
4.4 BIOS セットアップのメニュー（モデル 200）..... 51
（1） Main メニュー 52
（2） Main メニューのサブメニュー 54
（3） Advanced メニュー 63
（4） Advanced メニューのサブメニュー 67
（5） Power メニュー 83
（6） Boot メニュー 85
（7） Boot メニューのサブメニュー 86
（8） Exit メニュー 88
4.5 BIOS セットアップのメニュー（モデル 210）..... 89
（1） Main メニュー 89
（2） Advanced メニュー 91
（3） Advanced メニューのサブメニュー 93
（4） PCI PnP メニュー 107
（5） PCI PnP メニューのサブメニュー 110
（6） Boot メニュー 112
（7） Boot メニューのサブメニュー 114
（8） Monitoring メニュー 120
（9） Security メニュー 121
（10） Chipset メニュー 125
（11） Chipset メニューのサブメニュー 126
（12） Exit メニュー 129
4.6 BIOS セットアップのメニュー（モデル 220）..... 131
（1） Main メニュー 132
（2） Main メニューのサブメニュー 133
（3） Advanced メニュー 135
（4） Advanced メニューのサブメニュー 138
（5） Security メニュー 146
（6） Power メニュー 147
（7） Power メニューのサブメニュー 149
（8） Boot メニュー 150
（9） Boot メニューのサブメニュー 151
（10） Exit メニュー 153

4.7 BIOS セットアップのメニュー（モデル 210E）.....154
（1） Main メニュー 155
（2） Main メニューのサブメニュー 157
（3） Advanced メニュー 161
（4） Advanced メニューのサブメニュー 163
（5） Security メニュー 175
（6） Power メニュー 176
（7） Boot メニュー.....178
（8） Boot メニューのサブメニュー.....180
（9） Exit メニュー 182

第 5 章 SCSI セレクトユーティリティ（モデル 210/210E のみ） 183
5.1 SCSI セレクトユーティリティについて 183
5.2 SCSI セレクトユーティリティの操作.....184
（1） SCSI セレクトユーティリティの起動.....184
（2） SCSI セレクトユーティリティで使用するキー 185
（3） SCSI セレクトユーティリティの終了.....186
5.3 SCSI セレクトユーティリティのメニュー.....187
（1） Main メニュー 187
（2） Boot Adapter List メニュー.....188
（3） Global Properties メニュー 189
（4） Adapter Properties メニュー 190
（5） Device Properties メニュー.....192

第 6 章 困ったときには.....195
6.1 起動時の動作に関するトラブル 195
（1） 電源が入らない 195
（2） 起動時にメッセージが表示される 195
6.2 営業員に連絡するときは.....196
（1） 確認事項 196
（2） 修理対象期間.....196

付録 A 仕様..... 197
A.1 製品仕様 197

付録 B BIOS メッセージ 203
B.1 モデル 200/210E 203
B.2 モデル 210/220.....205

付録 C コンフィグレーションシート 206
C.1 BIOS 設定シート 206
（1） モデル 200.....206

（2） モデル 210.....211
（3） モデル 220.....217
（4） モデル 210E 221
C.2 SCSI セレクトユーティリティ設定シート（モデル 210/210E）
..... 227

付録 D アラーム LED の仕様について 229
（1） モデル 200/220.....229
（2） モデル 210/210E 230

付録 E 他社製周辺機器をご利用の際の注意事項..... 231

付録 F ハードディスクの連続長時間運用に関する注意事項
..... 232
F.1 故障と運用時の注意事項 232
F.2 修理について 232

付録 G カリフォルニア州法（過塩素酸塩の取り扱いに関する
規制）について..... 233
G.1 規制対象..... 233
G.2 適用範囲..... 233
G.3 過塩素酸塩物質の管理実践要求事項の表示..... 233
G.4 必要な対応 233

索引..... 235

このページは空白です。

第 1 章　お使いになる前に

この章では、本製品の概要と操作の流れについて説明します。

1.1　機能と特長

本製品は、幅広い組み込み用途に利用可能なミドルタワー型のコンピュータです。

- モデル 200 は、インテル ® Pentium® 4 プロセッサ、またはインテル ®Celeron® プロセッサを 1 個搭載できます。
- モデル 210/210E は、インテル ® Xeon® プロセッサを最大 2 個搭載できます。
- モデル 220 は、インテル ® Pentium® M プロセッサ、またはインテル ®Celeron® M プロセッサを最大 1 個搭載できます。
- 各モデルのメモリの最大搭載容量は、以下のとおりです（弊社提供オプションをご利用ください）。
    - モデル 200/220：最大 2GB
    - モデル 210：最大 6GB
    - モデル 210E：最大 8GB
- 3.5 インチのハードディスクを 2 台まで搭載できます（弊社提供オプションをご利用ください）。
- USB（Universal Serial Bus）コネクタを装備しています。
  モデル 200/220：USB2.0 × 6（前面× 2、背面× 4）
  モデル 210：USB1.1 × 2（背面）
  モデル 210E：USB2.0 × 2（背面）
- 背面に以下のコネクタを装備しています。
    - LAN コネクタ
      モデル 200：10/100BASE-TX × 1
      モデル 210：10/100/1000BASE-T × 1、10/100BASE-TX × 1
      モデル 220：10/100BASE-TX × 2
      モデル 210E：10/100/1000BASE-T × 2
    - シリアルポート
    - パラレルポート
    - オーディオコネクタ（モデル 200/220）
    - ディスプレイコネクタ
- 機能拡張用オプションとして以下のものを用意しています。
    - LAN カードオプション
      10/100/1000BASE-T 対応、最大 3 枚まで搭載可能
    - RS-232C ブラケットオプション
      RS-232C コネクタを 1 個増設可能

- ラック搭載オプション

  参照 本オプションの取り扱いについては、本オプションと共に提供される「ラック搭載オプションの取扱い上の注意事項について」を参照してください。
- CD-RW/DVD-ROM オプション
- 高信頼 HDD オプション（モデル 210E のみ）

  注：モデル 200/220 に本オプションを搭載する際には、RAID オプションが必要となります。また、モデル 210 には本オプションを搭載することはできません。
- OS オプション

  Windows® XP Professional プレインストール
- RAID オプション

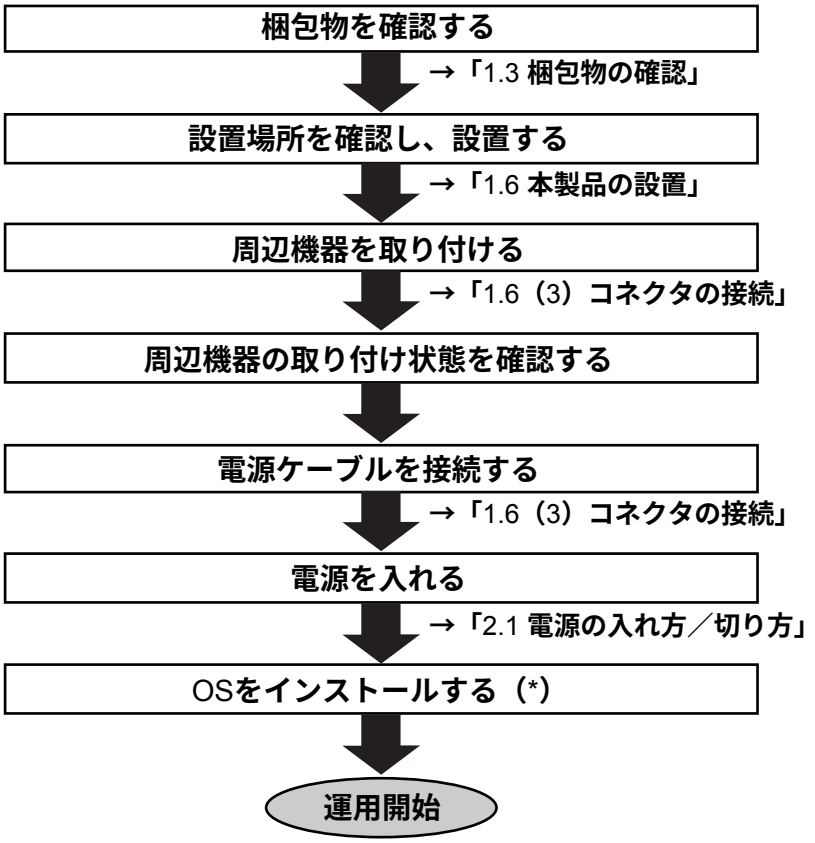
  SATA RAID カードを使用して RAID1（ミラーリング）を構築します。

  本オプション搭載時に選択可能な HDD として、80GB、160GB、250GB（高信頼）の 3 種類を用意しています。

本製品には 4 つのモデルがあり、コネクタなどが異なります。
本書で使用する本体の図は、特に断りのない限り、モデル 210E の例です。

1.2 作業の流れ

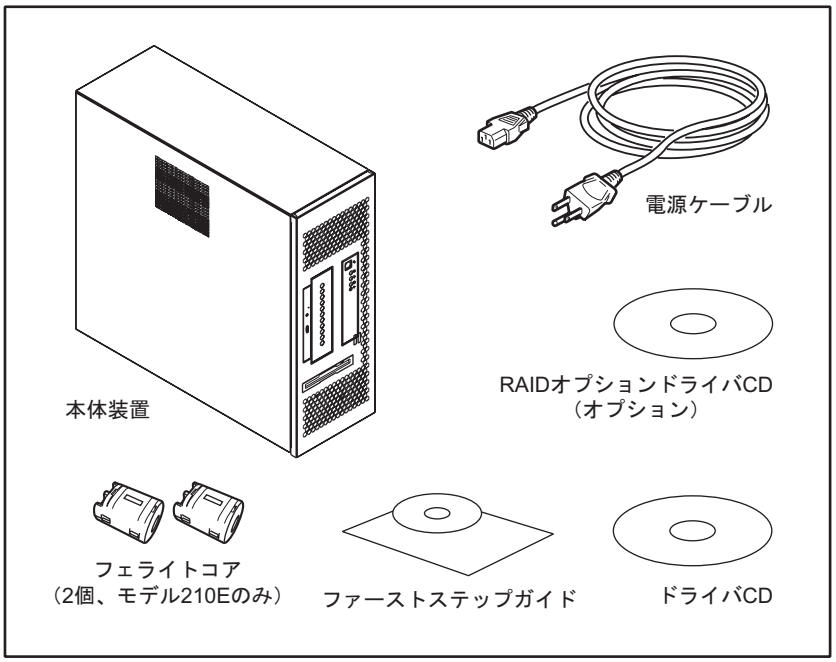
開梱から運用開始までの作業の流れを次に示します。



*）弊社提供の OS オプションを選択されている場合、本作業は不要です。

1.3 梱包物の確認

本製品をお使いになる前に、次のものがすべてそろっているか確認してください。
万一、不足しているものがある場合は、購入元に連絡してください。



添付品の名称	内容
□装置本体	本製品の装置本体です。
□電源ケーブル	本体用の電源ケーブルです。
□ドライバ CD	本製品のデバイスドライバ類、監視プログラム（System Monitor）および『取扱説明書』（本書）を格納した CD-ROM です。
□ RAID オプションドライバ CD（オプション）	RAID オプションのドライバ類、プログラム類（Adaptec Storage Manager など）および取扱説明書類を格納した CD-ROM です。
□フェライトコア（2 個、モデル 210E のみ）	LAN ケーブル用のコアです。
□ファーストステップガイド	Windows® XP Professional の説明書とリカバリ用 CD-ROM です。

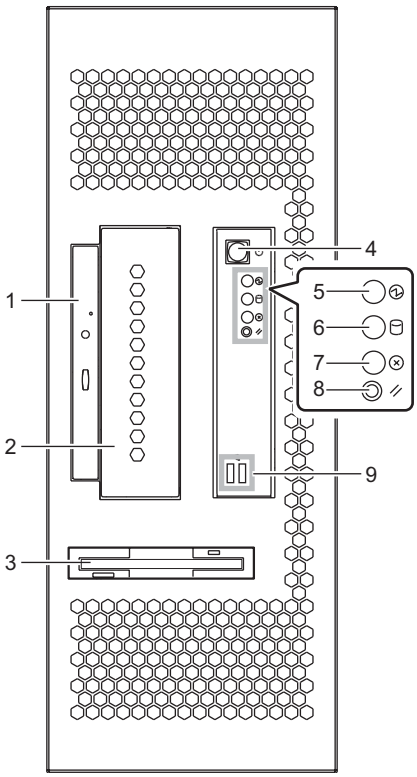
重要

お客様のご希望により、本製品を縦置きにするためのゴム足と、ゴム足固定用のカバーおよびネジが、装置本体に付けられている場合があります。
本書では、それらのオプションについては記載していません。

1.4 各部の名称と働き

本製品の各部の名称とその働きは、以下のとおりです。

（1） 本体前面



1 CD-ROM ドライブ

2 5 インチベイ
5 インチオプションを搭載できます。

3 フロッピーディスクドライブ

4 電源スイッチ ⏻
本製品の電源を入れたり切ったりする場合に使用します。5 秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。

5 電源ランプ ⏻
本製品に電源が入っているときに、緑色に点灯します。

6 ハードディスクアクセスランプ
ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み込んだりしているときに、緑色に点灯します。

7 アラームランプ ⊗
POST 動作中に異常が検出されたときオレンジ色に点灯します。
詳細は、「付録 D アラーム LED の仕様について」（→ P.229）を参照してください。

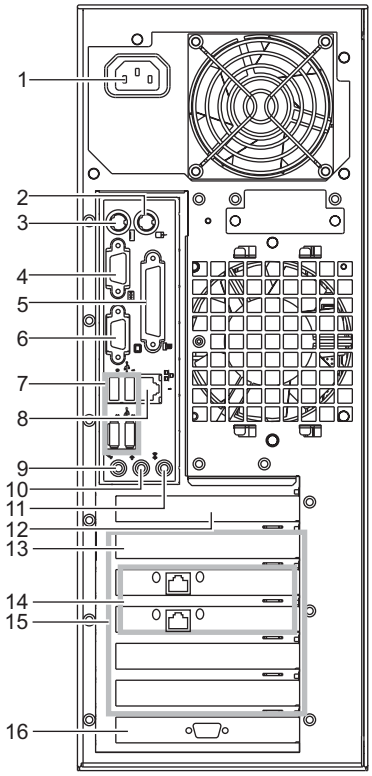
8 リセットスイッチ
システムのリセットを行います。

9 USB コネクタ
（モデル 200/220）
モデル 200/220 の場合、USB2.0 規格のコネクタが 2 つ用意されています。

⚠ 注意

本コネクタを使用される際には、50cm 以上の長さの USB 延長ケーブルはご使用にならないでください。ご使用になった場合、接続した USB デバイスが正常に動作しない場合があります。
（ご使用になった場合の動作の保証は致しかねます。）

（2） 本体背面（モデル 200）



1 インレット
電源ケーブルを接続します。

2 マウスコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したマウスを接続します。

3 キーボードコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したキーボードを接続します。

4 シリアルポート
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

5 パラレルポート
プリンタ装置（ESC/P シーケンス）のケーブルを接続します。

6 ディスプレイコネクタ
ディスプレイを接続します。

7 USB コネクタ
USB2.0 規格のコネクタが 4 つ用意されています。

8 LAN コネクタ
10/100BASE-TX 仕様準拠の LAN コネクタです。

9 マイクインコネクタ
オーディオケーブル（マイク入力用）を接続します。

10 ラインアウトコネクタ
オーディオケーブル（ライン出力用）を接続します。

11 ラインインコネクタ
オーディオケーブル（ライン入力用）を接続します。

12 AGP スロット
AGP カードを搭載します。

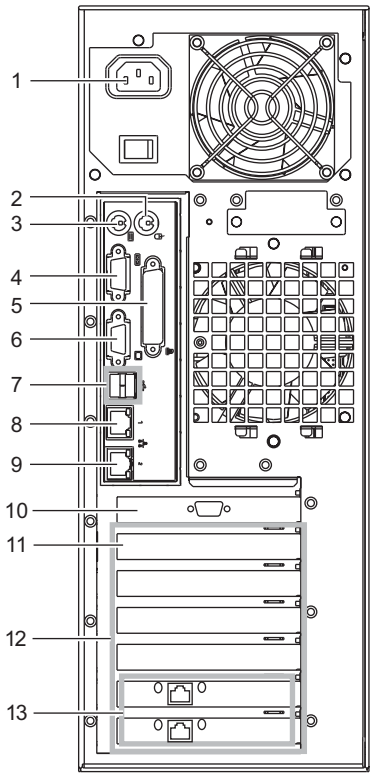
13 RAID カード（オプション）

14 LAN コネクタ 2（オプション）
10/100/1000BASE-T 仕様準拠の LAN コネクタです。

15 PCI スロット
PCI カードを搭載します。
上から PCI スロット 1 ～ 5 になります。

16 シリアルポート 2（ブラケットオプション）
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

（3） 本体背面（モデル 210）



1 インレット
電源ケーブルを接続します。

2 マウスコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したマウスを接続します。

3 キーボードコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したキーボードを接続します。

4 シリアルポート
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

5 パラレルポート
プリンタ装置（ESC/P シーケンス）のケーブルを接続します。

6 ディスプレイコネクタ
ディスプレイを接続します。

7 USB コネクタ
USB1.1 規格のコネクタが 2 つ用意されています。

8 LAN コネクタ 1
10/100BASE-TX 仕様準拠の LAN コネクタです。

9 LAN コネクタ 2
10/100/1000BASE-T 仕様準拠の LAN コネクタです。

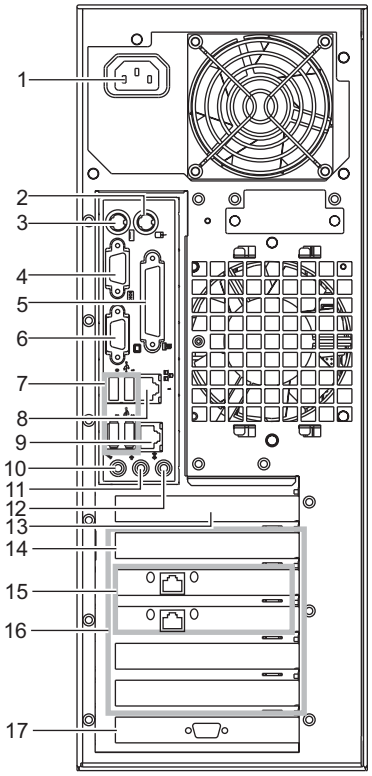
10 シリアルポート 2（ブラケットオプション）
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

11 RAID カード（オプション）

12 PCI スロット
PCI カードを搭載します。
下から PCI スロット 1 ～ 6 になります。

13 LAN コネクタ 3（オプション）
10/100/1000BASE-T 仕様準拠の LAN コネクタです。

（4） 本体背面（モデル 220）



1 インレット
電源ケーブルを接続します。

2 マウスコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したマウスを接続します。

3 キーボードコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したキーボードを接続します。

4 シリアルポート
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

5 パラレルポート
プリンタ装置（ESC/P シーケンス）のケーブルを接続します。

6 ディスプレイコネクタ
ディスプレイを接続します。

7 USB コネクタ
USB2.0 規格のコネクタが 4 つ用意されています。

8 LAN コネクタ 1
10/100BASE-TX 仕様準拠の LAN コネクタです。

9 LAN コネクタ 2
10/100BASE-TX 仕様準拠の LAN コネクタです。

10 マイクインコネクタ
オーディオケーブル（マイク入力用）を接続します。

11 ラインアウトコネクタ
オーディオケーブル（ライン出力用）を接続します。

12 ラインインコネクタ
オーディオケーブル（ライン入力用）を接続します。

13 AGP スロット
AGP カードを搭載します。

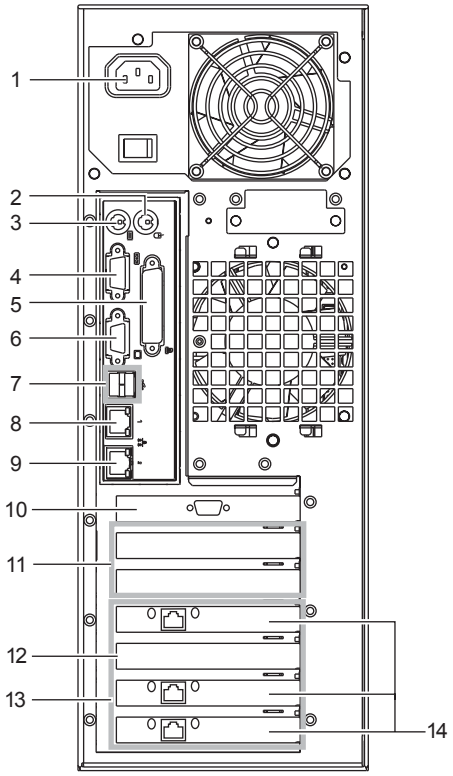
14 RAID カード（オプション）

15 LAN コネクタ 3（オプション）
10/100/1000BASE-T 仕様準拠の LAN コネクタです。

16 PCI スロット
PCI カードを搭載します。
上から PCI スロット 1 ～ 5 になります。

17 シリアルポート 2（ブラケットオプション）
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

（5） 本体背面（モデル 210E）



1 インレット
電源ケーブルを接続します。

2 マウスコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したマウスを接続します。

3 キーボードコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したキーボードを接続します。

4 シリアルポート
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

5 パラレルポート
プリンタ装置（ESC/P シーケンス）のケーブルを接続します。

6 ディスプレイコネクタ
ディスプレイを接続します。

7 USB コネクタ
USB2.0 規格のコネクタが 2 つ用意されています。

8 LAN コネクタ 1
10/100/1000BASE-T 仕様準拠の LAN コネクタです。

9 LAN コネクタ 2
10/100/1000BASE-T 仕様準拠の LAN コネクタです。

10 シリアルポート 2（ブラケットオプション）
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

11 PCI Express x8 スロット
PCI Express カードを搭載します。
下から PCI Express x8 スロット 1 ～ 2 になります。

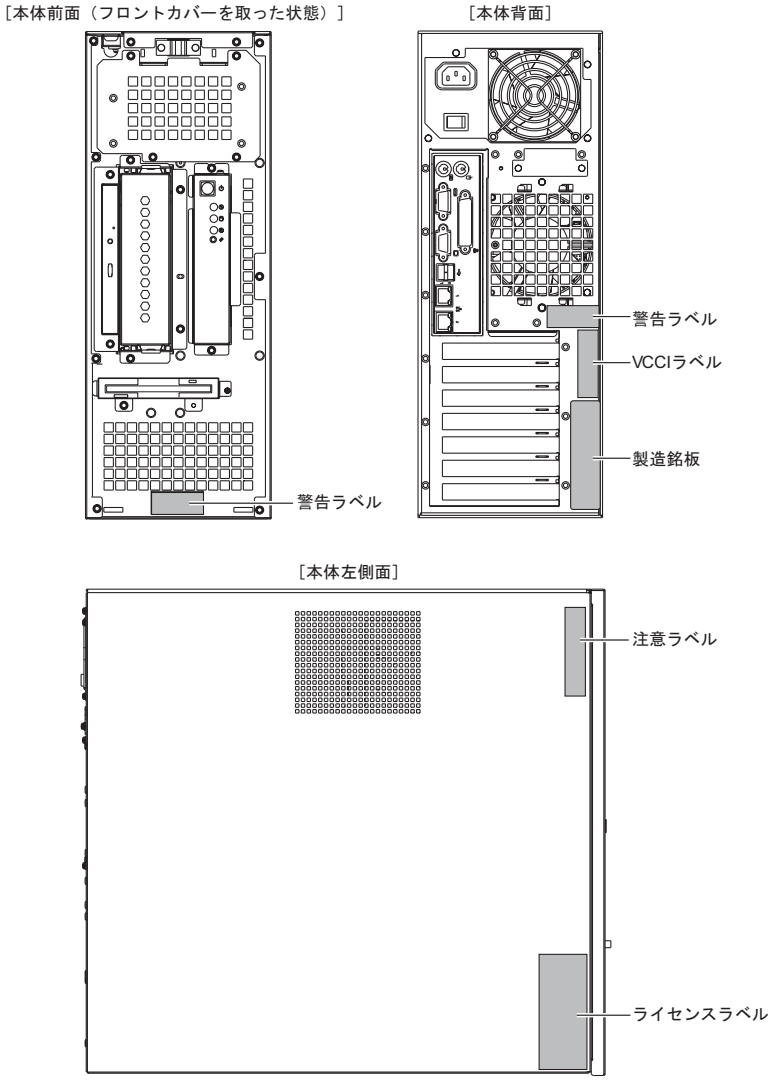
12 RAID カード（オプション）

13 PCI スロット
PCI カードを搭載します。
下から PCI スロット 1 〜 4 になります。

14 LAN コネクタ 3（オプション）
10/100/1000BASE-T 仕様準拠の LAN コネクタです。

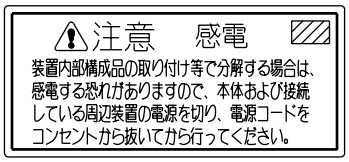
1.5 装置ラベルについて

本製品に貼付されているラベルについて説明します。



（1） 警告ラベル

本製品には、以下のような警告ラベルが貼ってあります。
警告ラベルは、絶対にはがしたり汚したりしないでください。



（2） VCCI ラベル

VCCI の基準に関するラベルです。

この装置は、クラスＡ情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI－A

（3） 注意ラベル

本製品には、以下のような注意ラベルが貼ってあります。
注意ラベルは、絶対にはがしたり汚したりしないでください。

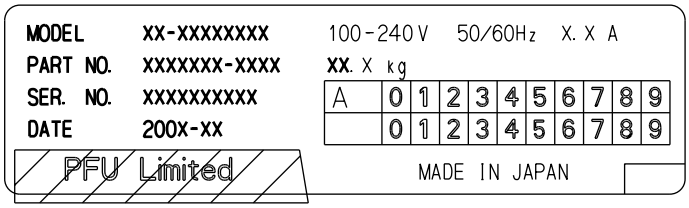
注意
本装置を持つときは、フロントカバー部を持たないでください。

（4） ライセンスラベル

Microsoft 社の COA（Certificate of Authenticity）ラベルです。

（5） 製造銘板

型名、型番、製造年月、製造番号などが、以下のように記載されています。



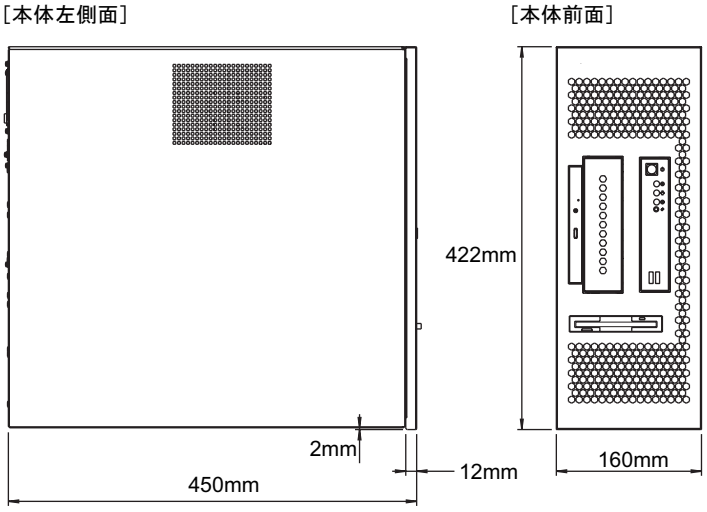
1.6　本製品の設置

本製品の設置条件や設置手順について説明します。

（1）　設置条件

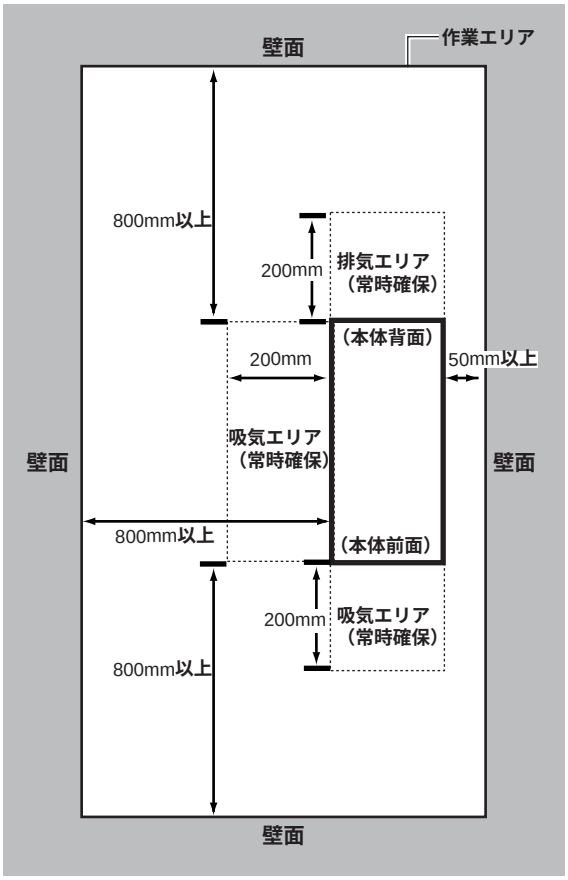
●外形寸法の詳細について

外形寸法の詳細について次に示します。



●設置スペース

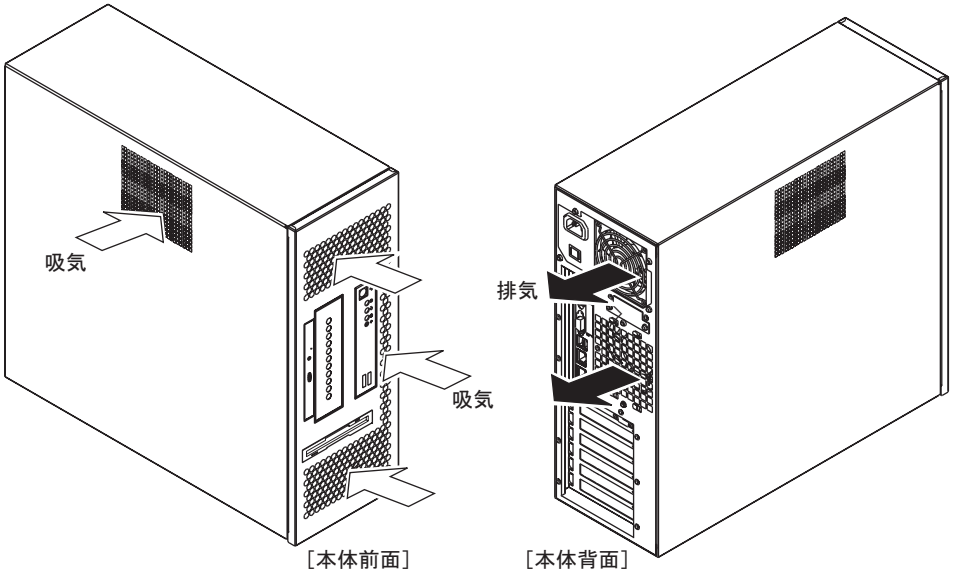
設置する際は、以下のスペースを確保してください。



●吸排気について

本製品は、空冷方式で本体内部を冷却しています。したがって、本体の空気吸入口および排気口の周辺は、十分な空間を確保する必要があります。吸排気のための十分な空間がない場合、本体内の温度が非常に高くなり、装置が故障することがあるため、吸排気には十分にご注意ください。

本製品の空気吸入口と排気口を、以下に示します。



●設置環境

以下に本製品の設置条件を示します。

項目	条件
温度	動作時 5 ～ 40 ℃、休止時 0 ～ 50 ℃
湿度	動作時 20 ～ 80%RH、休止時 8 ～ 80%RH （結露しないこと）
温度勾配	15 ℃ /Hr 以下（結露しないこと）
湿度勾配	30%/Day 以下
騒音	55dB 以下
振動	動作時 0.2G、休止時 0.4G

（2） 台足の取り付け

本製品を設置する際は、お客様で台足をご用意いただくか、弊社提供の縦置き用台足オプションを用いて、必ず本製品に固定してください。

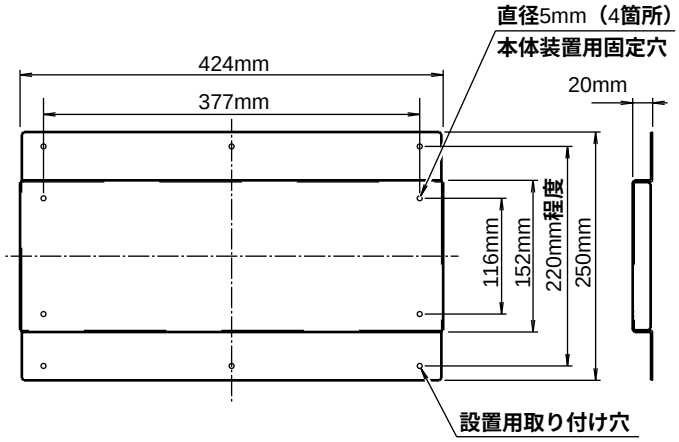
⚠ 注意
- 台足は、形状、材質、厚さ等が必ず条件に合ったものを使用してください。
  条件に合わない台足を使用すると、本体装置の設置状態が不安定になり、外部からの力で転倒するおそれがあります。
- 本体装置底面の穴をすべてふさいでください。
  装置の故障により内部で異常発熱した場合、燃焼物が本体底面の穴から落下し、火災の原因になるおそれがあります。

●設置条件

材質：SPCC-SD 相当

厚さ：1.6mm 以上

寸法：以下の条件にあったもの

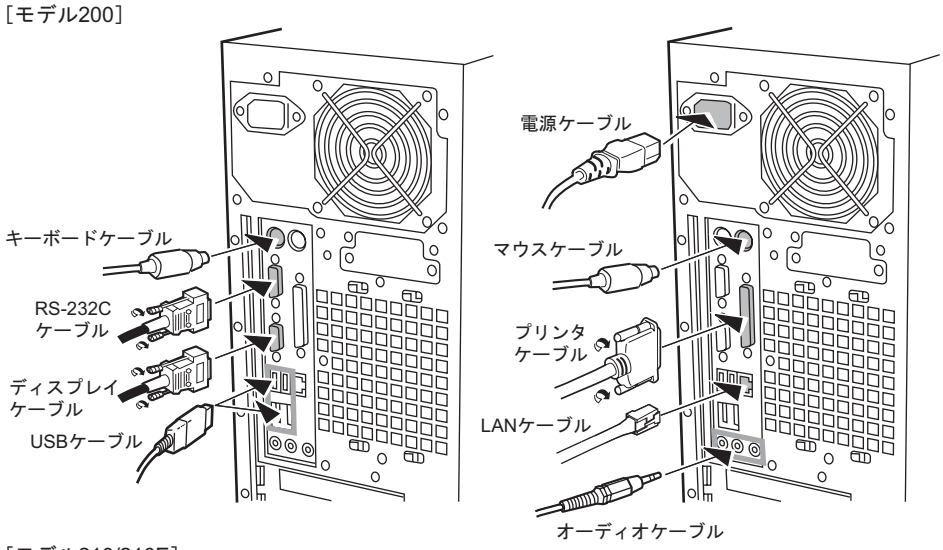


- 台足は、M4 ネジで 4 箇所を本体に固定してください。
  M4 ネジは、本体に入り込む長さが 5mm 以下のものを使用してください。
- 設置用取り付け穴は、お客様がお持ちのラック等に固定するためのものです。必要に応じて設置用取り付け穴を追加してください。

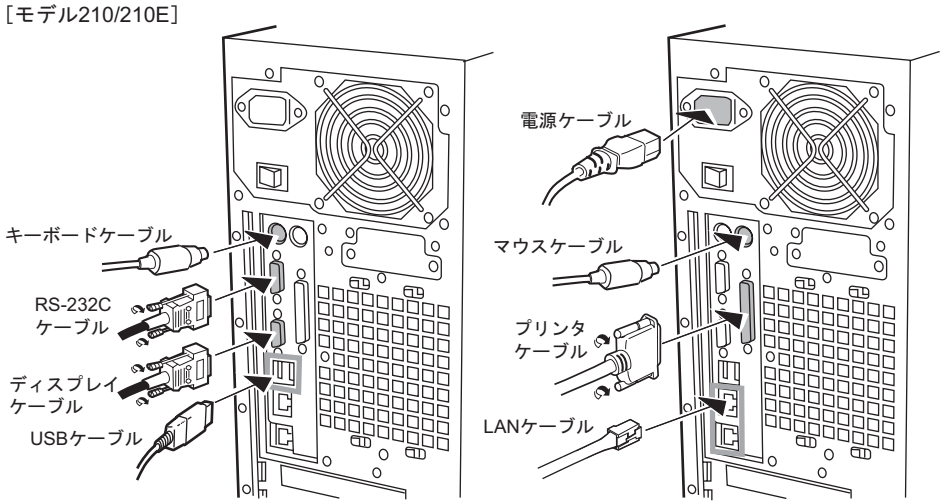
(3) コネクタの接続

本製品に周辺機器を接続します。
各ケーブルは、次のように装置本体に接続してください。

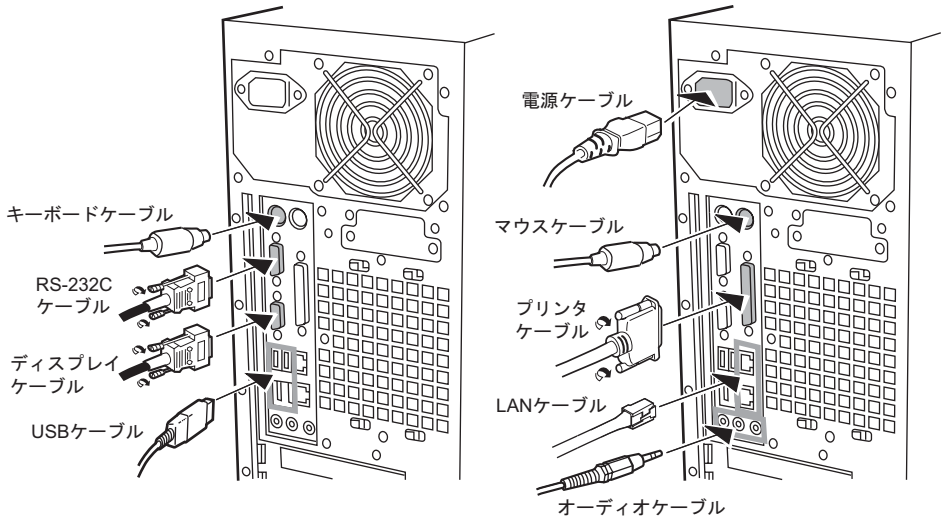
［モデル200］



［モデル210/210E］

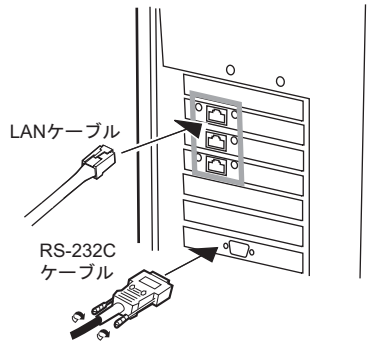


［モデル220］

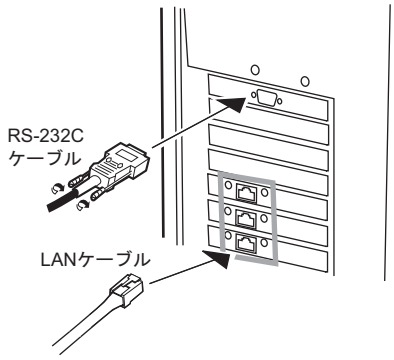


RS-232C ブラケット、LAN カード（オプション）搭載時

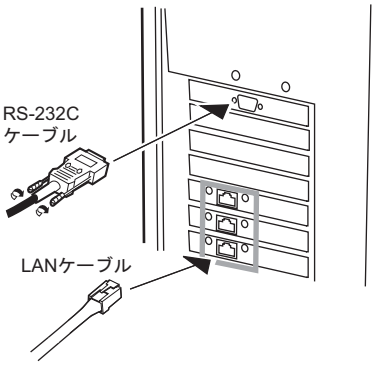
［モデル200/220］



［モデル210］



［モデル210E］



⚠注意・ 接続するときは、装置本体および周辺機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください（→「電源の入れ方／切り方」(P.23)）。感電の原因となります。

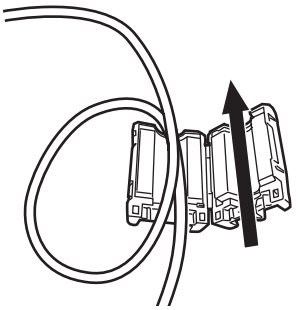
- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると、電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因になります。
- 電源ケーブルやプラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは、使用しないでください。そのまま使用すると、火災の原因になります。
- 電源プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災の原因になります。
- 本製品に添付の電源コードは、定格電圧 AC125V まで対応しています。本製品を定格電圧 125V を超えて使用する場合は、弊社の担当営業に連絡してください。

●フェライトコアの取り付け方法（モデル 210E のみ）

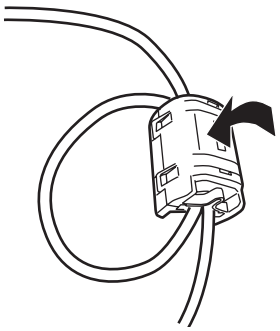
本製品に LAN ケーブルを接続する前に、添付のフェライトコアを LAN ケーブルに取り付けてください。

1 コアを開きます。

2 LAN ケーブルをコアに巻きつけます。
LAN ケーブルは 2 回以上、コアの中を通してください。



3 コアを閉じます。
このとき、線材を噛み込まないように注意して閉じてください。



このページは空白です。

第 2 章　取り扱い方法

この章では、電源の入れ方など、本製品の基本的な取り扱い方法について説明します。

2.1　電源の入れ方／切り方

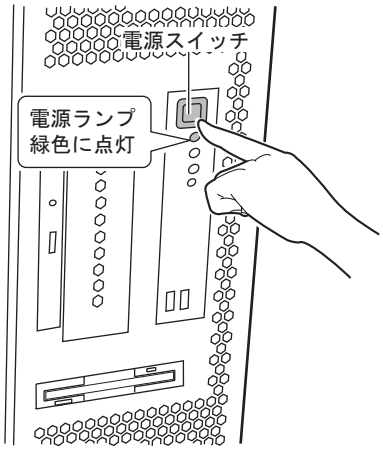
本製品の電源を入れたり切ったりする方法について、説明します。

⚠注意・ 電源を入れたまま、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。本製品内部のハードディスクを損傷し、データを消失する原因となります。

- 本製品が結露している場合は、結露がなくなってから電源を入れてください。故障、感電の原因となります。
- この章で示す操作手順で、電源を入れたり切ったりしてください。操作手順に反すると、データが破壊されるおそれがあります。

(1)　電源を入れる

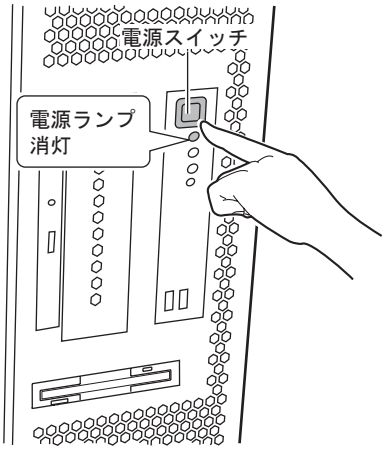
1 フロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに、媒体がセットされていないことを確認します。
2 ディスプレイや周辺機器の電源を入れます。
3 装置前面の電源スイッチを押します。
電源が入ると、電源ランプが緑色に点灯し、本装置は「POST（Power On Self Test: パワーオンセルフテスト)」を行います。POST の結果、異常があればエラーメッセージが表示されます（→「付録 B BIOS メッセージ（P.203)」)。



（2） 電源を切る

1 フロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブなどに、媒体がセットされていないことを確認します。
媒体が入っている場合は、取り出してください。

2 OSを終了します。
OSの終了後、装置本体の電源が自動的に切れます。
OSを終了しても電源が切れない場合は、装置本体前面の電源スイッチを5秒以上押し続けます。



3 ディスプレイや周辺機器の電源を切ります。

2.2 フロッピーディスクのセット／取り出し

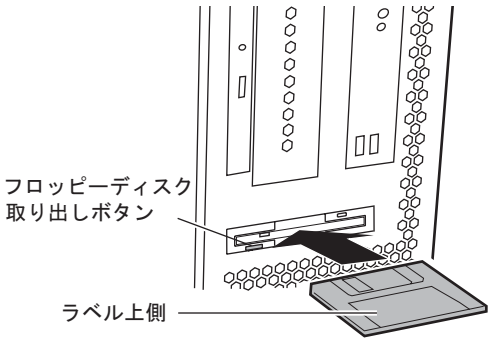
(1) 取り扱い上の注意

フロッピーディスクを取り扱うときは、次の点にご注意ください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクに触らないでください。
- 曲げたり、重い物をのせたりしないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温／低温の場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

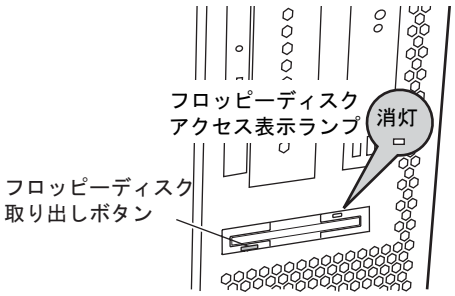
(2) フロッピーディスクをセットする

シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。
カシャッと音がし、フロッピーディスク取り出しボタンが出てきます。



(3) フロッピーディスクの取り出し

フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認して、取り出しボタンを押します。
フロッピーディスクが出てきます。



⚠注意・ フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中にフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内部のデータが破壊されるおそれがあります。

2.3 CD-ROM のセット／取り出し

（1） 取り扱い上の注意

故障などを防ぐため、CD-ROM ドライブや CD-ROM を取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

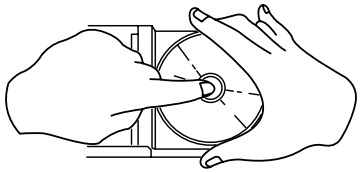
● CD-ROM ドライブ

⚠ 注意

- 湿気やほこりなど、浮遊物の少ないところで使用してください。また、内部に水などの液体やクリップなどの金属類が入ると、感電や故障の原因となります。
- 衝撃や振動の加わる場所では使用しないでください。
- CD-ROM トレイには規定の CD-ROM 以外のディスクおよびディスク以外の物をセットしないでください。
- CD-ROM トレイは、力を入れて引き出したり、強く押しつけたりしないでください。
- CD-ROM ドライブユニットは絶対に分解しないでください。
- CD-ROM トレイは使用前にきれいにしておいてください。清掃時は乾いた柔らかい布をご使用ください。
- 長期間ご使用にならないときは、万一の事故を防ぐために CD-ROM ドライブユニットから CD-ROM を取り出しておいてください。また、CD-ROM ドライブユニットにほこりやゴミが入りこまないように、CD-ROM トレイを閉じた状態（ロード状態）にしておいてください。

● CD-ROM

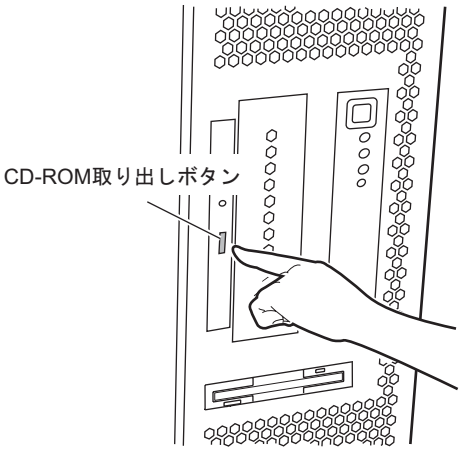
⚠注意・ ケースから取り出すときは、下図のように、ケースのセンターホルダを押さえながら持ち上げてください。



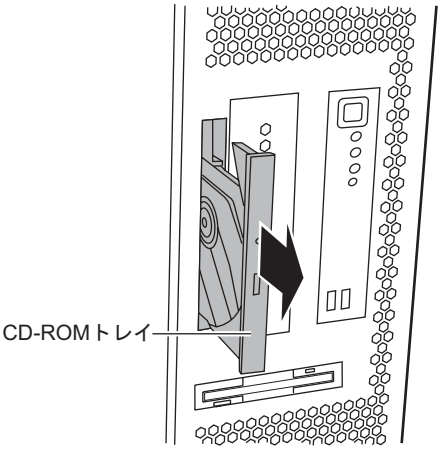
- CD-ROM の縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。
- CD-ROM の表面に指紋、油、ゴミなどをつけないでください。汚れた場合には、乾いた柔らかい布で CD-ROM の内側から外側へ向けて拭いてください。ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- CD-ROM の表面に傷をつけないように十分注意してください。
- 熱を加えないでください。
- 曲げたり、重い物を載せたりしないでください。
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
- レーベル面にラベルなどを貼り付けないでください。偏芯によって、異常振動が発生する場合があります。
- 屋外などの寒い場所から急に暖かい場所に移すと、表面に水滴がついて、CD-ROM ドライブがデータを読み込めないことがあります。この場合は、乾いた柔らかい布で水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアドライヤーなどで乾燥させないでください。
- ほこり、傷、変形などを避けるため、使用しないときはケースに入れて保管してください。
- 直射日光が長時間あたるところや暖房器具などの熱があたるところなど、高温になる場所での保管は避けてください。

（2） CD-ROM をセットする

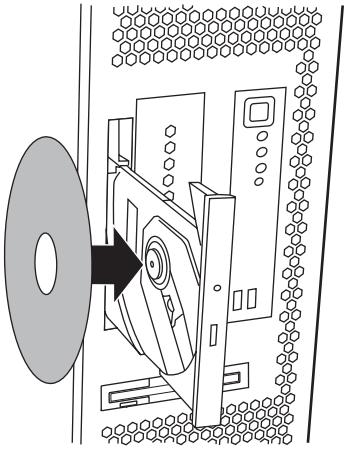
1 装置本体の電源が入っていることを確認して、CD-ROM 取り出しボタンを押します。
CD-ROM トレイが少し出ます。



2 出てきた CD-ROM トレイを引き出します。

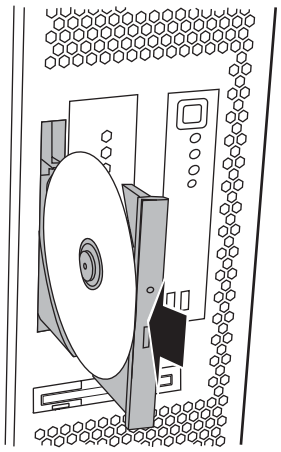


3 CD-ROM のレーベル面を左側にして、CD-ROM トレイ中央にセットします。
CD-ROM トレイの裏側を手で支えて、CD-ROM をカチッという音がするまではめ込みます。



⚠注意
- CD-ROM のセットが不十分なまま CD-ROM トレイを閉めると、CD-ROM ドライブや CD-ROM が破損するおそれがあります。ご注意ください。
- CD-ROM セット時には、レンズに触れないよう注意してください。

4 CD-ROM トレイを戻します。
CD-ROM トレイを、カチッと音がするまで静かに押し込みます。



(3) CD-ROM を取り出す

取り出しも、「(2) CD-ROM をセットする」(→ P.28) の手順 1 ～ 2 のように、CD-ROM 取り出しボタンを押して行います。

備考 本製品の内蔵 CD-ROM ドライブでは、下図のマークが付いた CD-ROM を使用できます。

2.4 防塵フィルタの取り扱いについて

（1） 防塵フィルタの点検

防塵フィルタは定期的に点検し、汚れがひどい場合は清掃または交換をしてください。
また、その場合本体装置の電源を切ったあとに行ってください。
※点検・清掃は 3ヶ月に 1 回程度の割合で行ってください。
　特に汚れがひどい場所では上記周期を短縮して点検・清掃を行ってください。

（2） 防塵フィルタの清掃方法

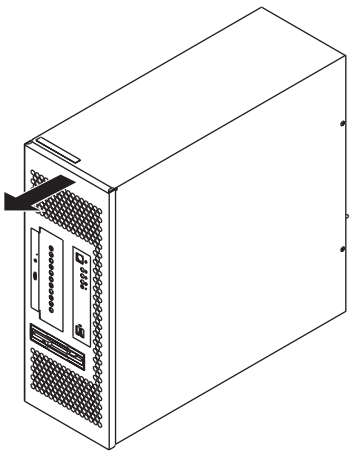
ほこりを掃除機などで取り除きます。
※黒いほこりは汚れが目立ちません。光にすかしてみて、その光が見えない場合は、
　汚れていると判断して清掃してください。

⚠ 警告・ フィルタが目詰まりしたまま使用を継続しないでください。装置内部の温度が異常上昇し、装置の破損や火災を引き起こす原因となります。

装置から異常な音や臭気がしたり、装置が異常に熱くなるなどの危険信号を発見したら、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電や火災の原因となります。

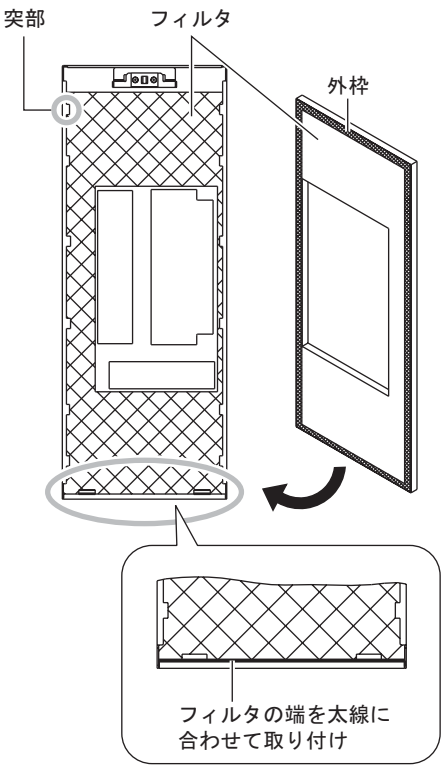
（3） フィルタの点検／交換手順

1 フロントカバーを取り外します。
　下側を支点にして上部を手前に引いて簡易ロックを外して取り外します。



2 フィルタを取り外します。
3 フィルタを点検します。
　汚れがひどい場合は清掃または交換をしてください。
4 フィルタを取り付けます。
　取り付けはフィルタの外枠の面を裏側にして取り付け位置、向きに注意して取り付けます。
　フロントカバーの左右にある突部にフィルタを押し込みます。

5 フロントカバーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。



2.5 ブラケットオプションの取り扱いについて

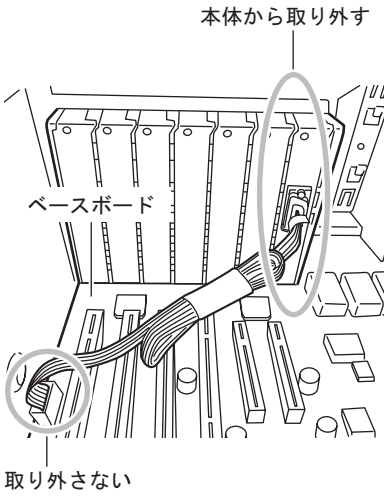
お客様において、拡張カードの取り付け／取り外しする際の、本オプションの取り扱い上の注意事項と、作業手順について説明します。

(1) 本体のカバーの取り外し

「第 3 章 拡張カードの取り付け／ 取り外し」の手順にしたがって、カバーを取り外してください。

（2） 本オプションの取り外し

本オプションのケーブルが拡張スロットの上に実装され、拡張カードを取り付け／取り外ししづらい場合は、先に、本オプションをいったん取り外してください。
ベースボード側のコネクタは抜かないでください。再接続する際に誤接続するおそれがあり、正常動作しなくなる原因となります。



（3） 拡張カードの取り付け／取り外し

「第 3 章　拡張カードの取り付け／ 取り外し」の手順にしたがって作業を行ってください。

（4） 本オプションの取り付け

「(2) 本オプションの取り外し」で取り外した本オプションを、取り外したときの逆の手順で元の位置に取り付けてください。

その際、ケーブルの余長が装置からはみだしたり、ファンの羽に届かないよう、余長を適当な長さに折りたたみ、テープ（絶縁材）などで束ね直してください。

（5） 本体のカバーの取り付け

「(1) 本体のカバーの取り外し」で取り外したカバーを、外したときの逆の手順で取り付けてください。

2.6 RAID カードの取り扱いについて

RAID カードの取り扱いについては、本製品に添付されている「Bootable RAID Installation CD Version 2i」に格納されている「インストールおよびユーザーズガイド」を参照してください。

第 3 章 拡張カードの取り付け／取り外し

この章では、拡張カードの取り付け／取り外し方法について説明します。

3.1 取り付ける前に

本製品は、モデルによって拡張カードの搭載可能枚数や搭載できるカードの種類が異なります。

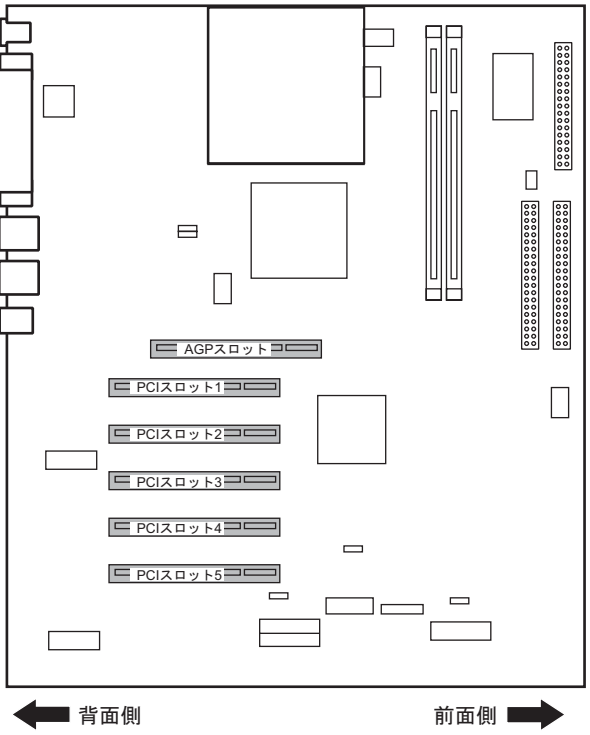
(1) 拡張カードの搭載場所

拡張カードはベースボード上の PCI スロット、または AGP スロットや PCI Express × 1 スロットに取り付けます。

- モデル 200/220

  PCI スロットを 5 スロット、AGP スロットを 1 スロット備えています。

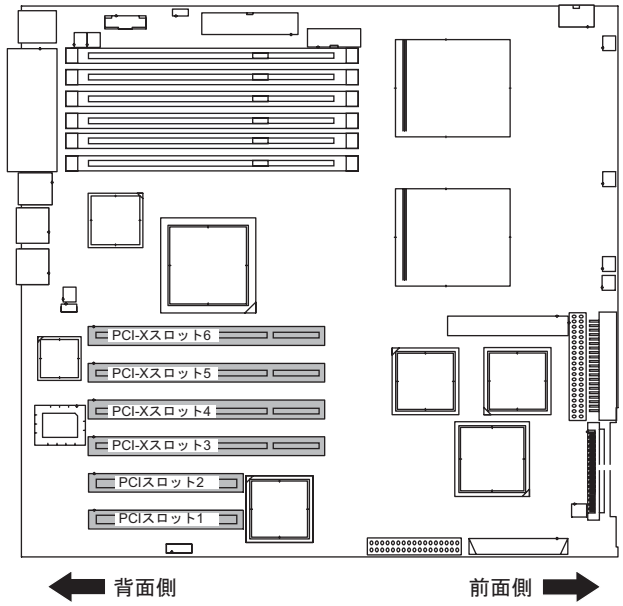
［ベースボード］



- モデル 210

  PCI スロットを 6 スロット備えています（うち 4 スロットは PCI-X 対応）。

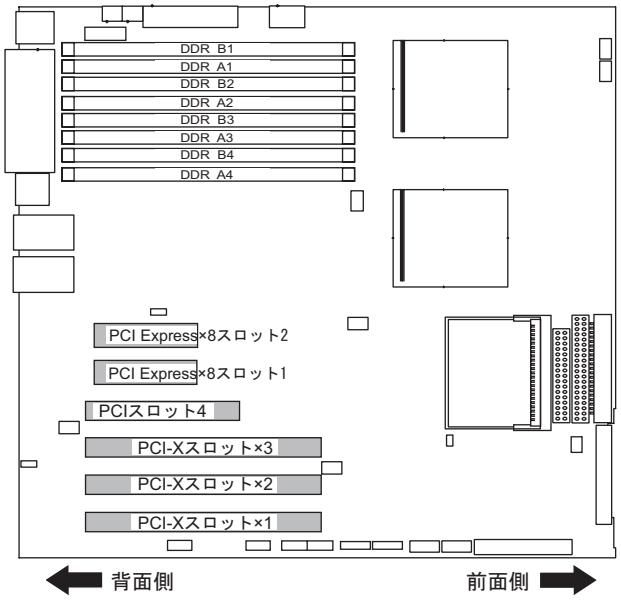
  ［ベースボード］



- モデル 210E

  PCI スロットを 4 スロット、PCI Express x8 スロットを 2 スロット備えています。

［ベースボード］



(2) 拡張カードスロットの仕様

以下に、拡張カードスロットの仕様を示します。

- モデル 200/220

拡張スロット	仕様
PCI スロット 1 ～ 5（*）	32bit/33MHz、5V、120 ピン
AGP スロット	AGP 2x/4x、124 ピン

*）PCI スロット 5 にロングカードを 1 枚搭載可能

- モデル 210

拡張スロット	仕様
PCI スロット 1、2（*）	32bit/33MHz、5V、120 ピン
PCI-X スロット 3、4	64bit/100MHz、3.3Ｖ、184 ピン
PCI-X スロット 5、6	64bit/66MHz、3.3Ｖ、184 ピン

*）PCI スロット 1、2 にロングカードを 2 枚搭載可能

- モデル 210E

拡張スロット	仕様
PCI-X スロット 1（*）	64bit/133MHz、3.3V、184 ピン
PCI-X スロット 2、3（*）	PCI-X スロット 2　64bit/100MHz、3.3V、184 ピン PCI-X スロット 3　64bit/100MHz、3.3V、184 ピン
PCI スロット 4	32bit/133MHz、5V、120 ピン
PCI Express x8 スロット 1、2	双方向 40Gbytes/s、164 ピン ADD2 カード搭載可

*）PCI-X スロット 1、2 にロングカードを 2 枚搭載可能

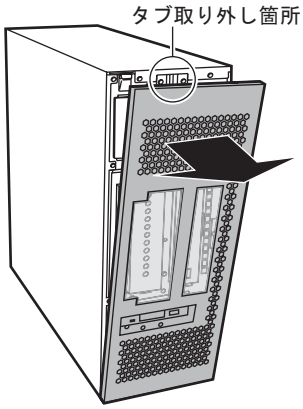
3.2 各カバーの取り外し／取り付け

本体のフロントカバーおよびサイドカバーの取り外し手順を説明します。

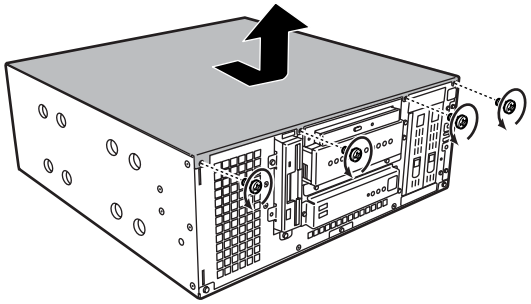
(1) 取り外し手順

1 本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外します。
→「2.1 電源の入れ方／切り方」(P.23)

2 フロントカバーを取り外します。
上部のタブを外して取り外します。



3 本体の右側面を下にして寝かせ、サイドカバーを取り外します。
前面のネジを取り外してから、
前面側にスライドさせて取り
外します。



(2) 取り付け手順

各カバー取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

3.3 拡張カードの取り付け／取り外し

⚠警告・ 拡張カードを取り付けるときは、本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります（→「2.1 電源の入れ方／切り方」（P.23））。

⚠注意・ 拡張カードは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電してください。

- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。
- 拡張カードは静電気の影響を受けやすいので、伝導パッドなどの上に置くか、取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。

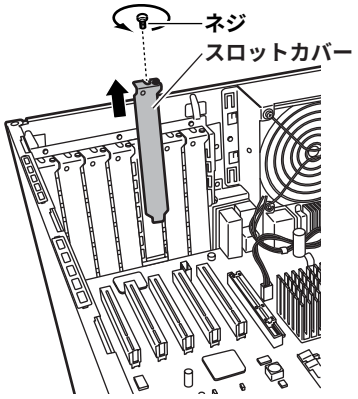
（1） 取り付け手順

ここでは、モデル 220 の図を例に説明します。

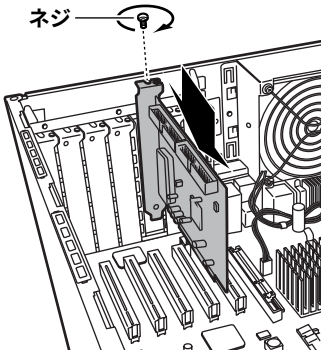
1 本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外します。
→「2.1 電源の入れ方／切り方」（P.23）

2 サイドカバーとフロントカバーを取り外します。
→「3.2 各カバーの取り外し／取り付け」（P.37）

3 拡張カードを取り付けるスロットのスロットカバーを取り外します。
取り外したスロットカバーは大切に保管してください。



4 拡張カードをスロットに取り付けます。
拡張カードをスロットにしっかりと差し込みます。拡張カードは実装面が底面側になるように取り付け、手順 4 で取り外したネジで固定します。



5 サイドカバーとフロントカバーを取り付けます。
→「3.2 各カバーの取り外し／取り付け」（P.37）

（2） 取り外し手順

拡張カードの取り外しは、取り付けと逆の手順で行います。

このページは空白です。

第 4 章 BIOS セットアップ

この章では、BIOS セットアップの概要およびメニューの項目について、説明します。

4.1 BIOS セットアップについて

BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、ハードウェア環境を設定するためのプログラムです。
通常は、BIOS セットアップで環境を変更する必要はありません。

BIOS セットアップが必要な場合

BIOS セットアップが必要な場合の一例を、以下に示します。

- モデル 200 で省電力モードを解除する、または設定し直す場合
- 起動ドライブの優先順位を変更する場合
- POST（Power On Self Test）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合

備考 BIOS セットアップで設定した内容は、本製品内の CMOS RAM に記憶されます。この CMOS RAM は、本製品に搭載されたバックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。

BIOS セットアップの設定

本製品には 4 つのモデルがあり、BIOS セットアップの設定方法が異なります。
ご購入のモデルに合わせて正しく設定してください。

- モデル 200
  →「4.2 BIOS セットアップの操作（モデル 200/220/210E）」の「●モデル 200 の場合」（P.43）
  →「4.4 BIOS セットアップのメニュー（モデル 200）」（P.51）
- モデル 210
  →「4.3 BIOS セットアップの操作（モデル 210）」（P.48）
  →「4.5 BIOS セットアップのメニュー（モデル 210）」（P.89）
- モデル 220
  →「4.2 BIOS セットアップの操作（モデル 200/220/210E）」の「●モデル 220 の場合」（P.43）
  →「BIOS セットアップのメニュー（モデル 220）」（P.131）

- モデル 210E
  →「4.2 BIOS セットアップの操作（モデル 200/220/210E）」の「●モデル 210E の場合」（P.44）
  →「4.7 BIOS セットアップのメニュー （モデル 210E）」（P.154）

4.2　BIOS セットアップの操作（モデル 200/220/210E）

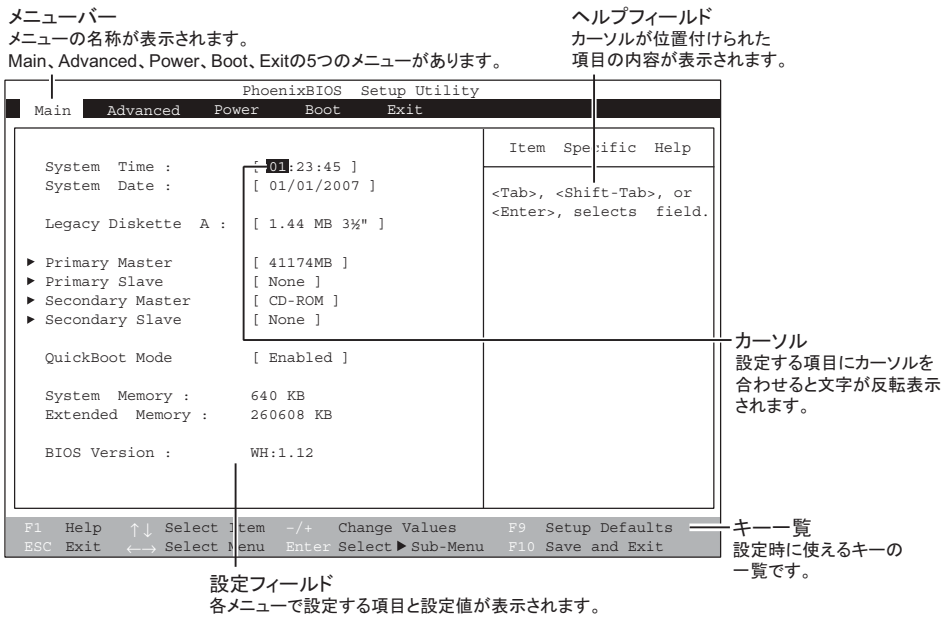
BIOS セットアップの起動、終了および設定変更の方法を、以下に説明します。

（1） BIOS セットアップの起動

●モデル 200 の場合

BIOS セットアップは、POST 中の画面左下に「Press F2 for System Utilities」と表示されている間に <F2> キーを押すと、起動されます。

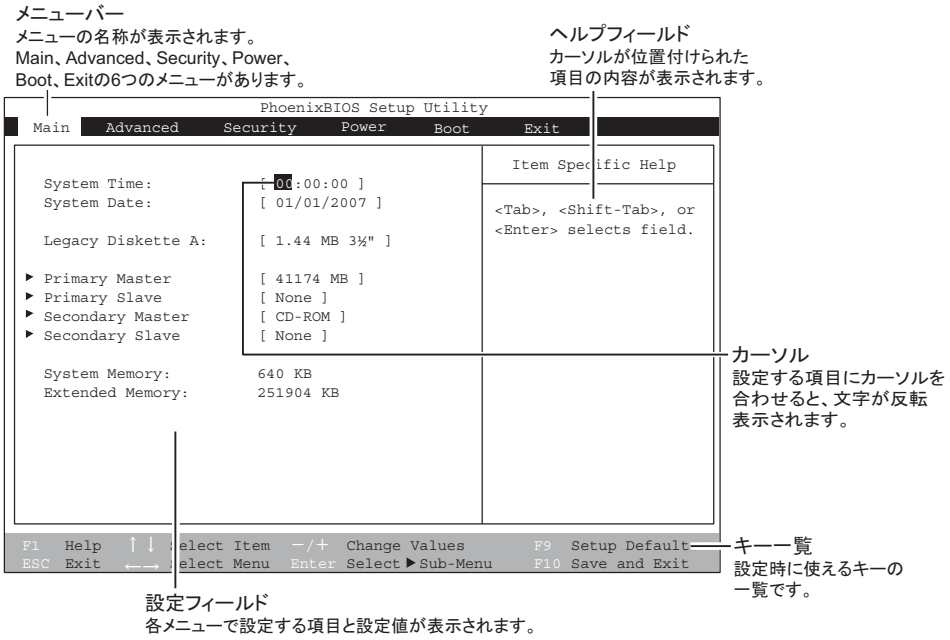
次に、BIOS セットアップ画面を示します。



●モデル 220 の場合

BIOS セットアップは、POST 中に画面左下に「Press <F2> to enter SETUP」または「Press F2 for System Utilities」と表示されている間に <F2> キーを押すと、起動されます。

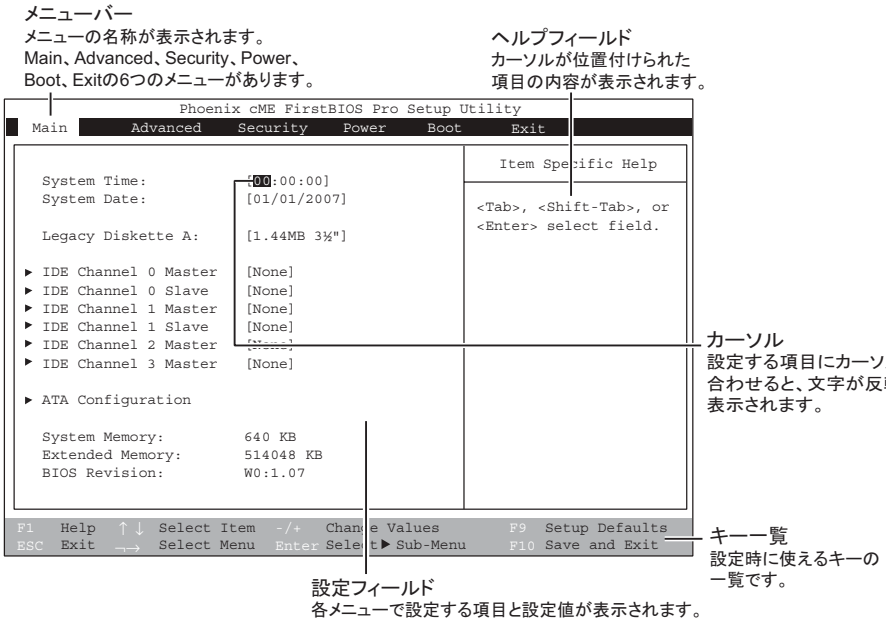
次に、BIOS セットアップ画面を示します。



●モデル 210E の場合

BIOS セットアップは、システム起動時の画面に「Press <F2> to enter SETUP」と表示されている間に <F2> キーを押すと、起動します。

次に、BIOS セットアップ画面を示します。



重要 USB キーボードをお使いの場合、POST のメモリテスト中における <F2> キーの入力は無効です。

（2） BIOS セットアップで使用するキー

BIOS セットアップの実行時は、使用できるキーが画面下に一覧表示されます。使用できるキーと意味について、以下に示します。
なお、表示されるキーは、画面によって異なります。

使用するキー	意味
← →	メニューを切り替えます。
↑ ↓	設定する項目にカーソルを移動します。
− / ＋	項目の設定値を変更します。
<F1>	BIOS セットアップに関する全体のヘルプが表示されます。
<F9>	すべてのメニューの設定値を工場出荷設定値に戻します。
<F10>	設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。
<ESC>	Exit メニューに移動します。ただし、サブメニューを表示している場合は、メニューに戻ります。
<Enter>	設定項目を設定します。 ▶ が付いている項目で <Enter> キーを押すと、サブメニューが表示されます。

（3） BIOS セットアップによる設定の変更方法

BIOS セットアップの操作は、すべてキーボードから行います。操作手順を以下に示します。

●すべての設定内容を一度に工場出荷時の設定に戻すには

1 Exit メニューで「Load Setup Defaults」を選択し、<Enter> キーを押します。
または、メニューおよびサブメニュー画面で <F9> キーを押します。
「Load default configuration now? ［Yes］［No］」と表示されます。

2 ［Yes］を選択し、<Enter> キーを押します。
すべての設定内容が工場出荷時の設定に戻ります。

●すべての設定内容を一度に変更前の内容に戻すには

モデル 200/220 の場合

1 Exit メニューで「Discard Changes」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Load default configuration now? ［Yes］［No］」と表示されます。

2 ［Yes］を選択し、<Enter> キーを押します。
すべての設定内容が変更前の内容に戻ります。

モデル 210E の場合

1 Exit メニューで「Discard Changes」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Load previous configuration now? ［Yes］［No］」と表示されます。

2 ［Yes］を選択し、<Enter> キーを押します。
すべての設定内容が変更前の内容に戻ります。

重要 Exit メニューの「Save Changes」で変更内容を保存した場合は、変更前の状態には戻すことができません。
各モデルの Exit メニューは、以下を参照してください。

- モデル 200 :「(8) Exit メニュー」(→ P.88)
- モデル 220 :「(10) Exit メニュー」(→ P.153)
- モデル 210E :「(9) Exit メニュー」(→ P.182)

●設定した内容をいったん CMOS RAM に保存するには

1 Exit メニューで「Save Changes」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Save configuration changes now?［Yes］［No］」と表示されます。

2 ［Yes］を選択し、<Enter> キーを押します。
設定内容が CMOS RAM に保存されます。この場合 BIOS セットアップは終了しないので、続けて設定内容を変更することができます。

(4) BIOS セットアップの終了

BIOS セットアップを終了する手順を、以下に示します。

●変更した設定内容を保存して終了するとき

1 Exit メニューで「Exit Saving Changes」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Save configuration changes and exit now? ［Yes］［No］」と表示されます。

2 ［Yes］を選択し、<Enter> キーを押します。

備考 各メニュー画面で <F10> キーを押すと、BIOS セットアップを直接終了させることができます。この場合、上記の手順 1 のメッセージが表示されるので、［OK］を選択し、<Enter> キーを押します。

●変更した設定内容を保存しないで終了するとき

1 Exit メニューで「Exit Discarding Changes」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Configuration has not been saved! Save before exiting ［Yes］［No］」と表示されます。

2 <→> キーを押して［No］を選択し、<Enter> キーを押します。
このとき［Yes］を選択した場合は、設定内容が CMOS RAM に保存されます。

（5） Quiet ブート時の BIOS セットアップの起動

Quiet ブートは、BIOS セットアップの以下のメニューで設定します。

- モデル 200 :「(3) Advanced メニュー」（→ P.63）
- モデル 220 :「(8) Boot メニュー」（→ P.150）
- モデル 210E :「(7) Boot メニュー」（→ P.178）

ここで「Boot-time Diagnostic Screen」を「Disabled」に設定すると、POST の診断メッセージが表示されずに Quiet ブート画面が表示されます。

Quiet ブートを設定した場合の画面の状態を、以下に示します。

- POST 中に <Esc> キーを押すと、Quiet ブートを中止して POST 画面が表示されます。
  また、<Esc> キーの代わりに <F2> キーを押すと、BIOS セットアップが起動します。
- POST 中にエラーが発生した場合は、「Press <F1> to resume, <F2> to SETUP」というメッセージが表示され、キー入力を待ちます（モデル 220 を除く）。
- 拡張 ROM-BIOS でキー入力の要求を促すような設定をしている場合、Quiet ブートは中止され、通常の POST 画面に戻り、設定された情報が表示されます。

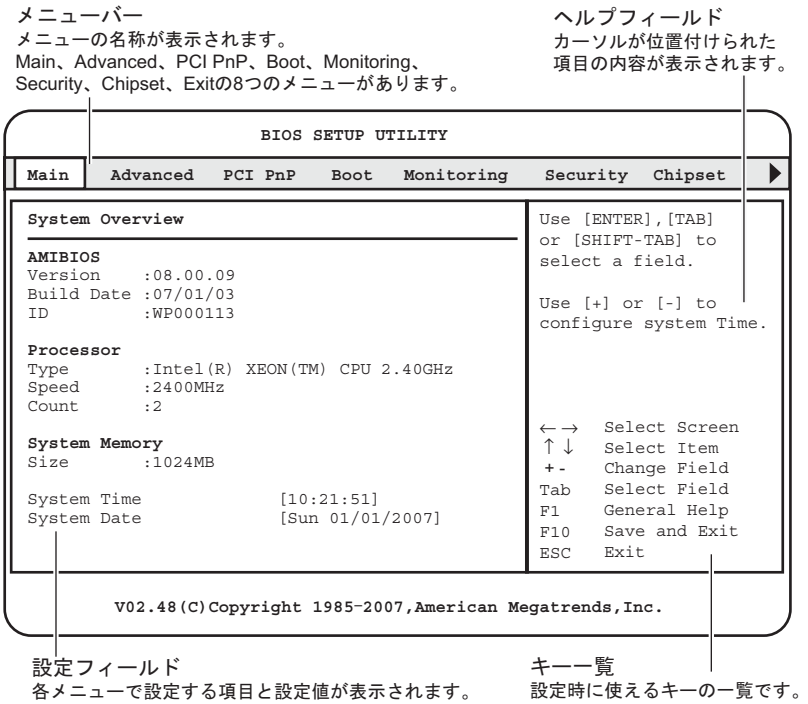
4.3　BIOS セットアップの操作（モデル 210）

BIOS セットアップの起動、終了および設定変更の方法を、以下に説明します。

（1） BIOS セットアップの起動

BIOS セットアップは、システム起動時に画面に「Press DEL to run SETUP」と表示されている間に <Delete> キーを押すと、起動されます。

以下に、BIOS セットアップ画面を示します。



重要

「(7) Boot メニューのサブメニュー」の「● Boot Settings Configuration」（→ P.114）の「Hit 'DEL' Message Display」を「Disabled」に設定した場合、「Press DEL to run SETUP」は表示されません。

（2） BIOS セットアップで使用するキー

BIOS セットアップの実行時は、使用できるキーが画面下に一覧表示されます。使用できるキーと意味について、以下に示します。表示されるキーは、画面によって異なります。

使用するキー	意味
← →	メニューを切り替えます。
↑ ↓	設定する項目にカーソルを移動します。
− / ＋	項目の設定値を変更します。
Tab	設定するフィールドを切り替えます（進む）。
Shift ＋ Tab	設定するフィールドを切り替えます（戻る）。
<F1>	BIOS セットアップに関する全体のヘルプが表示されます。
<F7>	CMOS RAM に保存されている設定を読み出して、前回の設定内容に戻します。
<F8>	BIOS の設定値を自動安全制御設定に設定します。
<F9>	すべてのメニューの設定値を工場出荷設定値に戻します。
<F10>	設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。
<ESC>	Exit メニューに移動します。ただし、サブメニューを表示している場合は、メニューに戻ります。
<Enter>	設定項目を設定します。 ▶ が付いている項目で <Enter> キーを押すと、サブメニューが表示されます。

重要 USB 接続キーボードは、BIOS セットアップでは使用できません。BIOS セットアップを行う際には、必ず PS/2 キーボードを接続してください。

（3） BIOS セットアップによる設定の変更方法

BIOS セットアップの操作は、すべてキーボードで行います。操作手順を以下に示します。

●すべての設定内容を一度に工場出荷時の設定に戻すには

1 Exit メニューで「Load Optimal Defaults」を選択し、<Enter> キーを押します。
または、メニューおよびサブメニュー画面で <F9> キーを押します。
「Load Optimal Defaults?［OK］［Cancel］」と表示されます。

2 ［OK］を選択し、<Enter> キーを押します。
すべての設定内容が、工場出荷時の設定に戻ります。

●すべての設定内容を一度に変更前の内容に戻すには

1 Exit メニューで「Discard Changes」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Discard Changes?［OK］［Cancel］」と表示されます。

2 ［OK］を選択し、<Enter> キーを押します。
すべての設定内容が変更前の内容に戻ります。

（4） BIOS セットアップの終了

BIOS セットアップを終了する場合の手順を、以下に示します。

●変更した設定内容を保存して終了するとき

1 Exit メニューで「Save Changes and Exit」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Save configuration changes and exit setup?［OK］［Cancel］」と表示されます。

2 ［OK］を選択し、<Enter> キーを押します。

備考 各メニュー画面から <F10> キーを押すと、BIOS セットアップを直接終了させることができます。この場合、上記の手順 2 のメッセージが表示されるので、［OK］を選択し、<Enter> キーを押します。

●変更した設定内容を保存しないで終了するとき

1 Exit メニューで「Discard Changes and Exit」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Discard Changes and exit setup?［OK］［Cancel］」と表示されます。

2 ［OK］を選択し、<Enter> キーを押します。

備考 各メニュー画面から <ESC> キーを押すと、BIOS セットアップを直接終了させることができます。この場合、上記の手順 1 のメッセージが表示されるので、［OK］を選択し、<Enter> キーを押します。

4.4 BIOS セットアップのメニュー（モデル 200）

BIOS セットアップメニューは、以下の 5 つに分かれています。メニューによっては、より詳細な設定を行うためのサブメニューが用意されています。

メニュー名	内　容	参照ページ
Main	日時やドライブの設定など、基本的なシステム構成に関する設定を行います。	52
Advanced	内蔵機器のポートアドレスに関する高度な設定を行います。	63
Power	電源のオン／オフに関する設定を行います。	83
Boot	システムの起動に関する設定を行います。	85
Exit	BIOS セットアップの終了、設定値の変更および保存を行います。	88

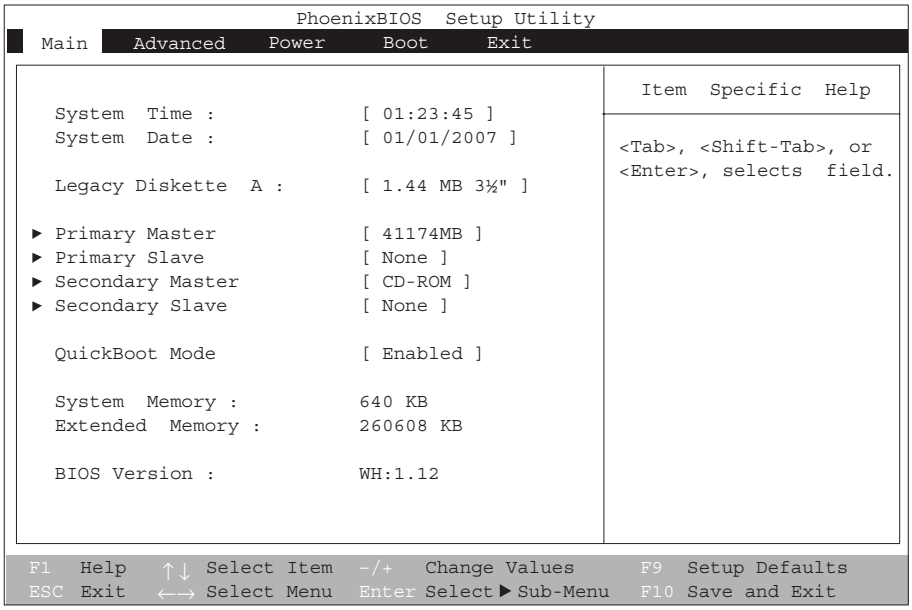
以降、各メニューの項目の詳細について説明します。

操作方法については、「4.2 BIOS セットアップの操作（モデル 200/220/210E）」の「●モデル 200 の場合」（→ P.43）を参照してください。

（1） Main メニュー

Main メニューでは、基本的なシステム構成について設定／表示を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを設定します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Power Boot Exit
Item Specific Help
System Time : [01:23:45]
System Date : [01/01/2007]
Legacy Diskette A : [1.44 MB 3½"]
▶ Primary Master [41174MB]
▶ Primary Slave [None]
▶ Secondary Master [CD-ROM]
▶ Secondary Slave [None]
QuickBoot Mode [Enabled]
System Memory : 640 KB
Extended Memory : 260608 KB
BIOS Version : WH:1.12
<Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter>, selects field.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

System Time

時：分：秒を設定します。

<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

System Date

月／日／年（西暦）を設定します。

<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

Legacy Diskette A

フロッピーディスクドライブの使用について、設定します。

□ **Disabled**　フロッピーディスクドライブを使用しません。

■ **1.44 MB 3 1/2"**

3.5 インチ 1.44MB ドライブを使用します。

Primary Master

プライマリマスタードライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。

参照 「(2) Main メニューのサブメニュー」の「● Primary Master」（→ P.54）

Primary Slave

プライマリスレーブドライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。

参照 「(2) Main メニューのサブメニュー」の「● Primary Slave」（→ P.56）

Secondary Master

セカンダリマスタードライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。

参照 「(2) Main メニューのサブメニュー」の「● Secondary Master」（→ P.58）

Secondary Slave

セカンダリスレーブドライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。

参照 「(2) Main メニューのサブメニュー」の「● Secondary Slave」（→ P.60）

QuickBoot Mode

Quick ブート（POST 処理を短縮した起動）について設定します。

- ■ **Enabled**　メモリチェックなどを簡素化し、POST 処理を短縮します。
- □ **Disabled**　通常の POST 処理を行います。

System Memory

基本メモリ容量が表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

Extended Memory

拡張メモリ容量が表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

BIOS Revision

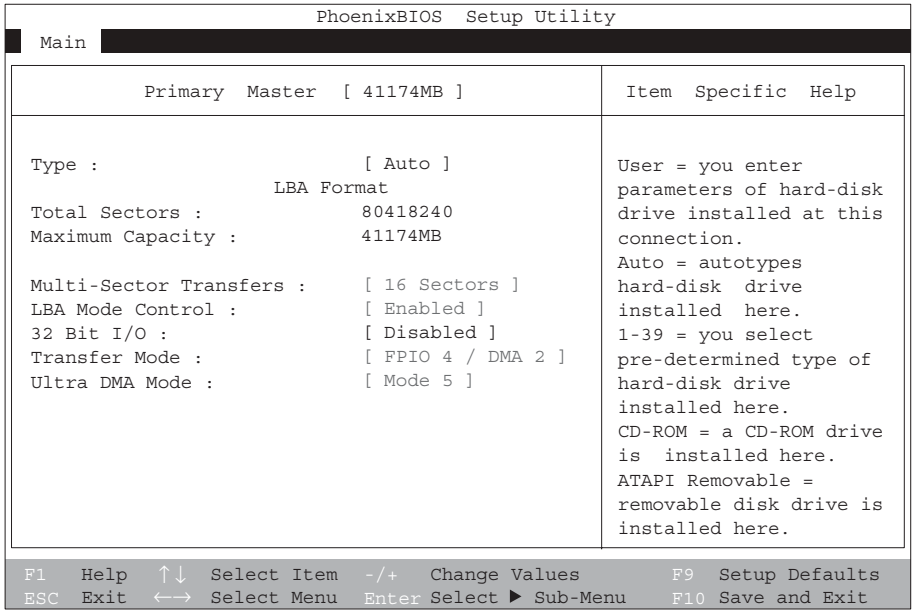
BIOS のバージョンが表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

（2） Main メニューのサブメニュー

ここでは、Main メニューのサブメニューについて説明します。

● Primary Master

プライマリマスタードライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type

ハードディスクの接続の有無や各パラメタを設定します。

- **■ Auto**　自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。
- **□ None**　ハードディスクを未接続とします。
- **□ CD-ROM**　CD-ROM ドライブ（IDE）を接続します。
- **□ Other ATAPI**　そのほかの ATAPI デバイスを接続します。
- **□ User**　各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）を直接指定します。

Multi-Sector Transfers

複数のセクタのデータを一括して転送するかどうかを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

- □ **Disabled**　1 セクタずつ転送します。
- □ **2 Sectors ～ 16 Sectors（■ 16 Sectors）**
  一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control

LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

- □ **Disabled**　LBA モードを使用しません。
- ■ **Enabled**　LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O

内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。「Type」に「None」以外を指定した場合に設定可能です。

- ■ **Disabled**　32 ビット転送を行いません。
- □ **Enabled**　32 ビット転送行います。

Transfer Mode

データの転送モードを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

各モードの設定では、数字が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

- □ **Standard**　PIO Mode 0 に設定します。
- □ **Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4**
  Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4 のいずれかを選択します。
- □ **FPIO 3 / DMA 1**
  Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。
- ■ **FPIO 4 / DMA 2**
  Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

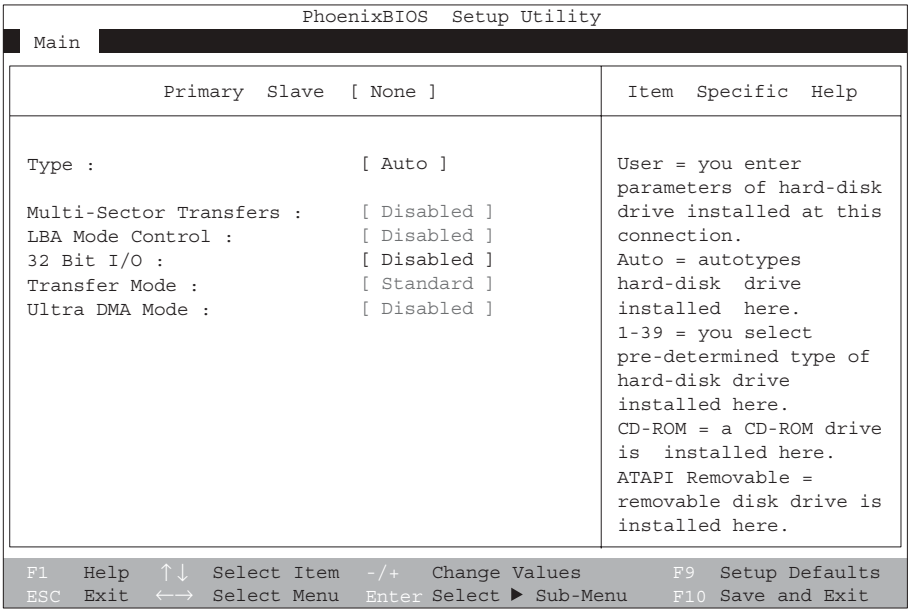
Ultra DMA Mode

Ultra DMA モードの使用について設定します。「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

- □ **Disabled**　Ultra DMA モードを使用しません。
- □ **Mode 0 ～ Mode 5（■ Mode 5）**
  Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

● Primary Slave

プライマリスレーブドライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type

ハードディスクの接続の有無や各パラメタを設定します。

■ Auto　自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。

□ None　ハードディスクを未接続とします。

□ CD-ROM　CD-ROM ドライブ（IDE）を接続します。

□ Other ATAPI

そのほかの ATAPI デバイスを接続します。

□ User　各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）を直接指定します。

Multi-Sector Transfers

複数のセクタのデータを一括して転送するかどうかを設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

■ **Disabled**　1 セクタずつ転送します。

□ **2 Sectors ～ 16 Sectors**

一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control

LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

■ **Disabled**　LBA モードを使用しません。

□ **Enabled**　LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O

内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。

「Type」に「None」以外を指定した場合に設定可能です。

■ **Disabled**　32 ビット転送を行いません。

□ **Enabled**　32 ビット転送を行います。

Transfer Mode

データの転送モードを設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

各モードの設定では、数字が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

■ **Standard**　PIO Mode 0 に設定します。

□ **Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4**

Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4 のいずれかを選択します。

□ **FPIO 3/DMA 1**

Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。

□ **FPIO 4/DMA 2**

Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

Ultra DMA Mode

Ultra DMA モードの使用について、設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

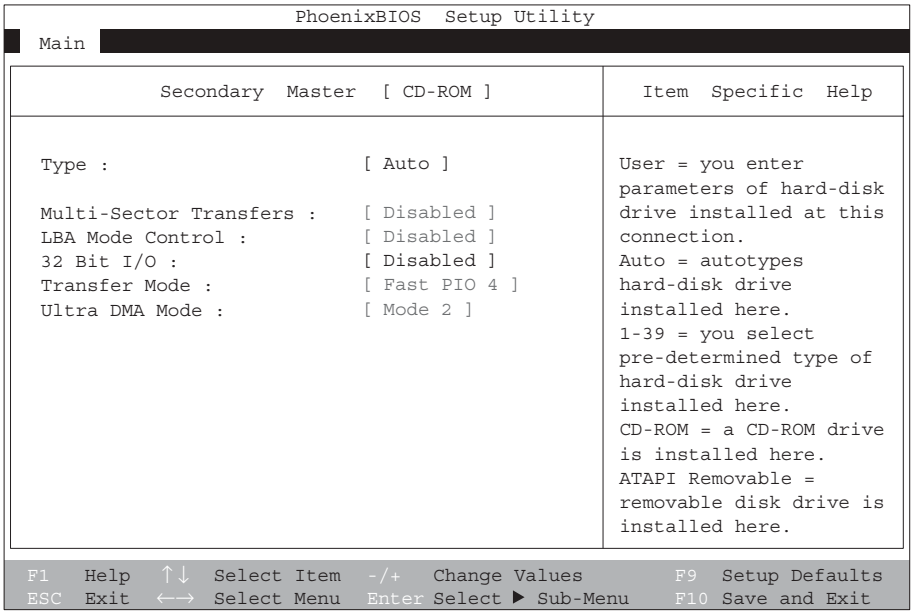
■ **Disabled**　Ultra DMA モードを使用しません。

□ **Mode 0 ～ Mode 5**

Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

● Secondary Master

セカンダリマスタードライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main
Secondary Master [CD-ROM]
Item Specific Help
Type : [Auto]
Multi-Sector Transfers : [Disabled]
LBA Mode Control : [Disabled]
32 Bit I/O : [Disabled]
Transfer Mode : [Fast PIO 4]
Ultra DMA Mode : [Mode 2]
User = you enter parameters of hard-disk drive installed at this connection.
Auto = autotypes hard-disk drive installed here.
1-39 = you select pre-determined type of hard-disk drive installed here.
CD-ROM = a CD-ROM drive is installed here.
ATAPI Removable = removable disk drive is installed here.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type

ハードディスクの接続の有無や各パラメタを設定します。

■ **Auto**　自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。
接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。

□ **None**　ハードディスクを未接続とします。

□ **CD-ROM**　CD-ROM ドライブ（IDE）を接続します。

□ **Other ATAPI**

そのほかの ATAPI デバイスを接続します。

□ **User**　各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）を直接指定します。

Multi-Sector Transfers

複数のセクタのデータを一括して転送するかどうかを設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

■ **Disabled**　1 セクタずつ転送します。

□ **2 Sectors ～ 16 Sectors**

一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control

LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

■ **Disabled**　LBA モードを使用しません。

□ **Enabled**　LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O

内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。

「Type」に「None」以外を指定した場合に設定可能です。

■ **Disabled**　32 ビット転送を行いません。

□ **Enabled**　32 ビット転送を行います。

Transfer Mode

データの転送モードを設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

各モードの設定では、数字が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

□ **Standard**　PIO Mode 0 に設定します。

□ **Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4（■ Fast PIO 4）**

Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4 のいずれかを選択します。

□ **FPIO 3/DMA 1**

Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。

□ **FPIO 4/DMA 2**

Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

Ultra DMA Mode

Ultra DMA モードの使用について設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

- □ **Disabled** Ultra DMA モードを使用しません。
- □ **Mode 0 ～ Mode 5（■ Mode 2）**
  Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

● Secondary Slave

セカンダリスレーブドライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。

```
                    PhoenixBIOS  Setup Utility
 Main
 ┌──────────────────────────────────────┬──────────────────────────────┐
 │          Secondary  Slave  [ None ]  │  Item  Specific  Help        │
 │                                      │                              │
 │ Type :                  [ Auto ]     │ User = you enter             │
 │                                      │ parameters of hard-disk      │
 │ Multi-Sector Transfers : [ Disabled ]│ drive installed at this      │
 │ LBA Mode Control :       [ Disabled ]│ connection.                  │
 │ 32 Bit I/O :             [ Disabled ]│ Auto = autotypes             │
 │ Transfer Mode :          [ Standard ]│ hard-disk drive              │
 │ Ultra DMA Mode :         [ Disabled ]│ installed here.              │
 │                                      │ 1-39 = you select            │
 │                                      │ pre-determined type of       │
 │                                      │ hard-disk drive              │
 │                                      │ installed here.              │
 │                                      │ CD-ROM = a CD-ROM drive      │
 │                                      │ is  installed here.          │
 │                                      │ ATAPI Removable =            │
 │                                      │ removable disk drive is      │
 │                                      │ installed here.              │
 └──────────────────────────────────────┴──────────────────────────────┘
  F1   Help  ↑↓  Select Item  -/+   Change Values      F9  Setup Defaults
  ESC  Exit  ←→  Select Menu  Enter Select ▶ Sub-Menu  F10 Save and Exit
```

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type

ハードディスクの接続の有無や各パラメタを設定します。

- ■ **Auto** 自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。
  接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。
- □ **None** ハードディスクを未接続とします。
- □ **CD-ROM** CD-ROM ドライブ（IDE）を接続します。
- □ **Other ATAPI**
  そのほかの ATAPI デバイスを接続します。
- □ **User** 各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）を直接指定します。

Multi-Sector Transfers

複数のセクタのデータを一括して転送するかどうかを設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

■ **Disabled** 1 セクタずつ転送します。

□ **2 Sectors ～ 16 Sectors**

一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control

LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

■ **Disabled** LBA モードを使用しません。

□ **Enabled** LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O

内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。

「Type」に「None」以外を指定した場合に設定可能です。

■ **Disabled** 32 ビット転送を行いません。

□ **Enabled** 32 ビット転送を行います。

Transfer Mode

データの転送モードを設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

各モードの設定では数字が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

■ **Standard** PIO Mode 0 に設定します。

□ **Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4**

Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4 のいずれかを選択します。

□ **FPIO 3/DMA 1**

Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。

□ **FPIO 4/DMA 2**

Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

Ultra DMA Mode

Ultra DMA モードの使用について設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定可能です。

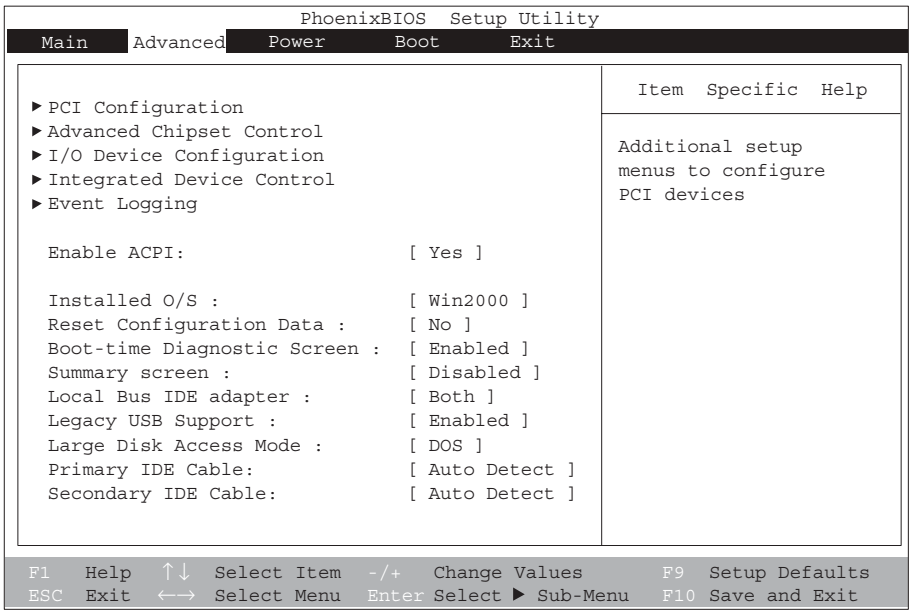
■ **Disabled**　Ultra DMA モードを使用しません。

□ **Mode 0 ～ Mode 5**

Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

（3） Advanced メニュー

Advanced メニューでは、本製品に搭載されたデバイスについて詳細な設定を行います。
< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Power Boot Exit
▶PCI Configuration
▶Advanced Chipset Control
▶I/O Device Configuration
▶Integrated Device Control
▶Event Logging
Enable ACPI: [Yes]
Installed O/S : [Win2000]
Reset Configuration Data : [No]
Boot-time Diagnostic Screen : [Enabled]
Summary screen : [Disabled]
Local Bus IDE adapter : [Both]
Legacy USB Support : [Enabled]
Large Disk Access Mode : [DOS]
Primary IDE Cable: [Auto Detect]
Secondary IDE Cable: [Auto Detect]
Item Specific Help
Additional setup menus to configure PCI devices
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

PCI Configuration

外部 PCI スロットに対して、資源の割り当ての設定を行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● PCI Configuration」（→ P.67）

Advanced Chipset Control

チップセット関連の設定をします。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Advanced Chipset Control」（→ P.69）

I/O Device Configuration

内蔵機器の I/O ポートアドレスや割り込みレベルの設定などを行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● I/O Device Configuration」（→ P.71）

Integrated Device Control

内蔵デバイスを使用するかどうかを設定します。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Integrated Device Control」(→ P.75)

Event Logging

イベントログ機能に関する設定などを行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Event Logging」(→ P.77)

Enable ACPI

パワーマネジメントインタフェースとして ACPI を使用するかどうかを指定します。

- ■ **Yes** ACPI を使用します。
- □ **No** ACPI を使用しません。

Installed O/S

使用する OS を指定します。

- ■ **Win2000** Windows® 2000 などの PnP OS 向けの設定
- □ **Other** 他の OS 向けの設定

Reset Configuration Data

Extended System Configuration Data(ESCD)領域のデータ初期化を指定します。「Yes」に変更後、再起動すると、データが初期化されます。

- ■ **No** ESCD 領域のデータを初期化しません。
- □ **Yes** ESCD 領域のデータを初期化します。

重要 本項目の設定値は、データ初期化を実行後、自動的に「No」へ戻ります。

Boot-time Diagnostic Screen

POST 時の診断画面やメッセージの表示について、設定します。

- ■ **Enabled** POST の診断画面やメッセージを表示します。
- □ **Disabled** POST の診断画面やメッセージを表示せずに、ロゴ(グラフィックイラスト)のみを表示します。

Summary screen

起動中のシステム構成情報(Summary screen)の表示について、設定します。

- □ **Enabled** Summary screen を表示します。
- ■ **Disabled** Summary screen を表示しません。

Local Bus IDE adapter

IDE アダプタ関連の設定をします。

- ☐ **Disabled** ローカルバスの IDE アダプタを使用しません。
- ☐ **Primary** プライマリドライブのみ使用します。
- ☐ **Secondary** セカンダリドライブのみ使用します。
- ■ **Both** プライマリ、セカンダリどちらも使用します。

Legacy USB Support

USB をサポートしていない環境（DOS など）で、USB キーボードや USB マウスを PS/2 キーボードやマウスとして使用するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled** USB デバイスを従来のデバイスとして使用します。
- ☐ **Disabled** USB デバイスは使用しません。

Large Disk Access Mode

アクセスモードを設定します。

- ☐ **Other** Linux などの OS を使用時に問題が発生した場合に、設定します。
- ■ **DOS** 通常時の設定です。

Primary IDE Cable

使用する IDE ケーブルタイプを指定します。

- ■ **Auto Detect** ケーブルタイプを自動判別します。
- ☐ **80-Wire** Ultra ATA/100 まで対応可能な IDE80 芯（40pin）ケーブルを使用します。
- ☐ **40-Wire** Ultra ATA/33 まで対応可能な IDE40 芯（40pin）ケーブルを使用します。

重要

- IDE デバイス側の仕様により、IDE80 芯（40pin）ケーブルを使用していても、そのケーブルの自動判別ができない場合があります。
- Main メニューのサブメニューで、「Primary Master」および「Primary Slave」の「Type」が「Auto」であるときの「Ultra DMA Mode」が、そのデバイスで対応可能なもっとも高い転送モードであることを確認してください。
  もっとも高い転送モードになっていない場合、本項目を「80-Wire」に変更して再起動すると、転送モードが変更される場合があります。

Secondary IDE Cable

使用する IDE ケーブルタイプを指定します。

■ **Auto Detect**	ケーブルタイプを自動判別します。
□ **80-Wire**	Ultra ATA/100 まで対応可能な IDE80 芯（40pin）ケーブルを使用します。
□ **40-Wire**	Ultra ATA/33 まで対応可能な IDE40 芯（40pin）ケーブルを使用します。

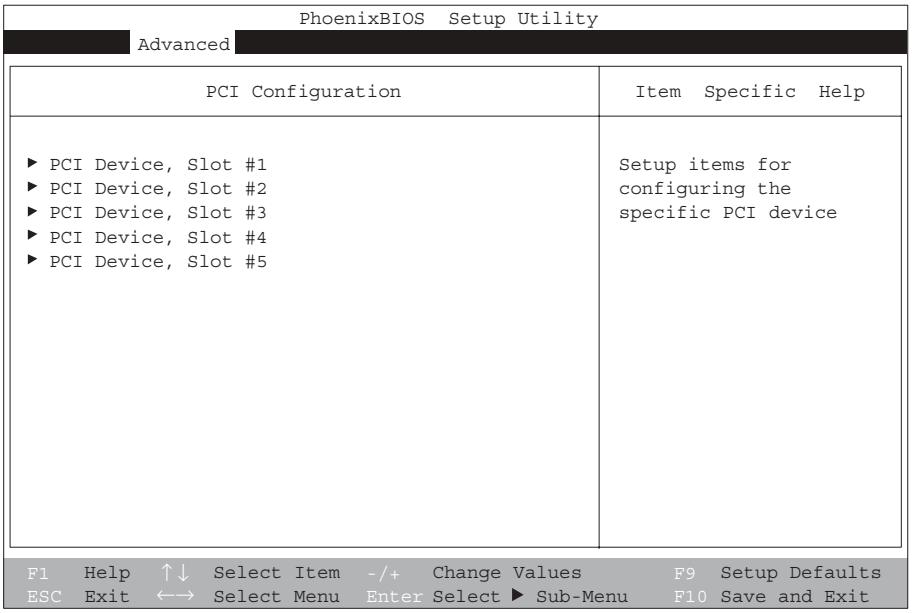
- IDE デバイス側の仕様により、IDE80 芯（40pin）ケーブルを使用していても、そのケーブルの自動判別ができない場合があります。
- Main メニューのサブメニューで、「Secondary Master」および「Secondary Slave」の「Type」が「Auto」であるときの「Ultra DMA Mode」が、そのデバイスで対応可能なもっとも高い転送モードであることを確認してください。もっとも高い転送モードになっていない場合、本項目を「80-Wire」に変更して再起動すると、転送モードが変更される場合があります。

（4） Advanced メニューのサブメニュー

ここでは、Advanced メニューのサブメニューについて説明します。

● PCI Configuration

PCI スロットに関する設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
PCI Configuration
Item Specific Help
▶ PCI Device, Slot #1
▶ PCI Device, Slot #2
▶ PCI Device, Slot #3
▶ PCI Device, Slot #4
▶ PCI Device, Slot #5
Setup items for configuring the specific PCI device
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

PCI Device, Slot #n

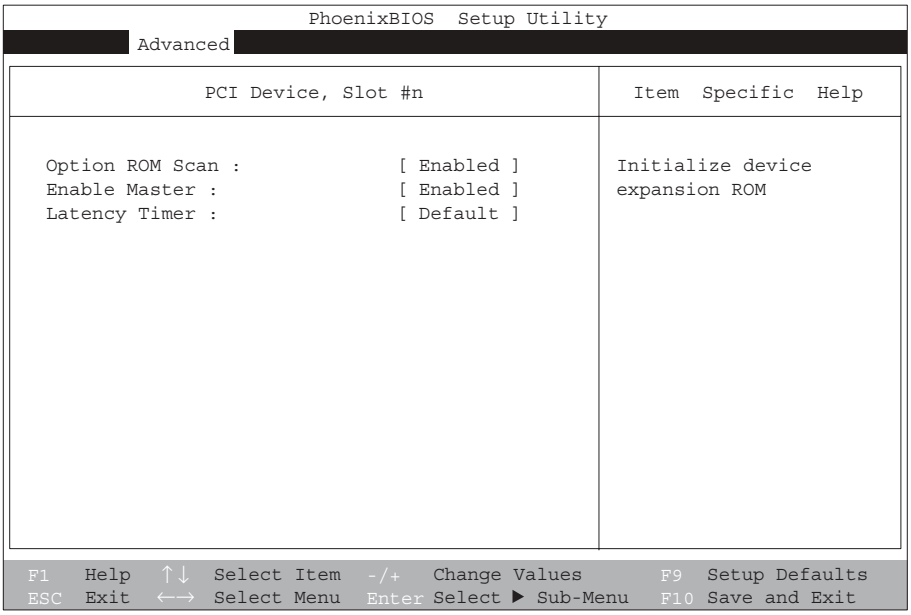
PCI デバイスまたはスロット #1 ～ #5 の設定を行います。

参照 「● PCI Configuration のサブメニュー」の「PCI Device, Slot #n」（→ P.68）

● PCI Configuration のサブメニュー

PCI Configuration のサブメニューについて説明します。

PCI Device, Slot #n


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
PCI Device, Slot #n
Item Specific Help
Option ROM Scan : [Enabled]
Enable Master : [Enabled]
Latency Timer : [Default]
Initialize device expansion ROM
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Option ROM Scan

PCI デバイスに搭載されているオプション ROM をスキャンするかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　オプション ROM をスキャンします。
- □ **Diasbled**　オプション ROM をスキャンしません。

Enable Master

接続されているデバイスを、PCI バスマスターデバイスとして使用するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　バスマスターデバイスとして使用します。
- □ **Disabled**　バスマスターデバイスとして使用しません。

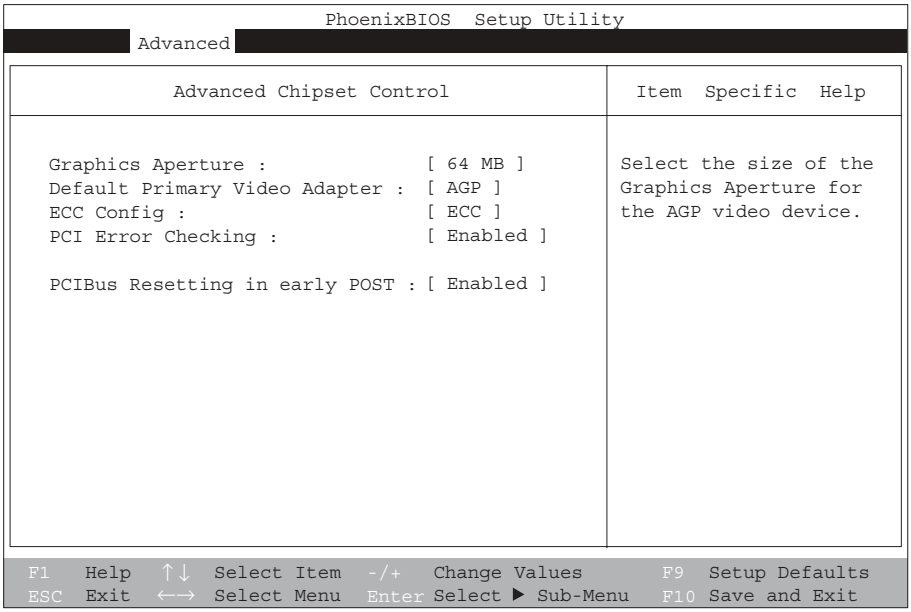
Latency Timer

バスマスターデバイスとして使用する場合の、PCI バスの使用優先度を指定します。

- ■ **Default**　標準の優先度とします。
- □ **0020h ～ 00E0h**　優先度を PCI バスクロック数で指定します。高速なデバイスに対して大きな値を指定すると、高い性能が得られます。

● Advanced Chipset Control

チップセット関連の設定をします。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Advanced Chipset Control
Item Specific Help
Graphics Aperture : [64 MB]
Default Primary Video Adapter : [AGP]
ECC Config : [ECC]
PCI Error Checking : [Enabled]
PCIBus Resetting in early POST : [Enabled]
Select the size of the Graphics Aperture for the AGP video device.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Graphics Aperture

AGP ビデオ装置のために、Graphics Aperture のサイズを以下から選択します。

□ 256MB、□ 128MB、■ 64MB、□ 32MB

Default Primary Video Adapter

AGP、PCI ビデオカードが混在している場合、プライマリとなるビデオカードを指定します。

□ PCI　PCI ビデオカードをプライマリとして使用するときに、指定します。

■ AGP　AGP ビデオカードをプライマリとして使用するときに、指定します。

ECC Config

メモリの ECC 機能の使用について設定します。

□ Disabled　ECC 機能を使用しません。

■ ECC　ECC 機能を使用します。

重要

- ECC 機能をサポートしたメモリを搭載している場合にのみ、設定できます。
- ECC 付き／ ECC なしメモリの混在は禁止です。

PCI Error Checking

PCI バスエラーの検出について設定します。

■ **Enabled**　PCI バスエラーを検出します。

□ **Disabled**　PCI バスエラーを検出しません。

PCIBus Resetting in early POST

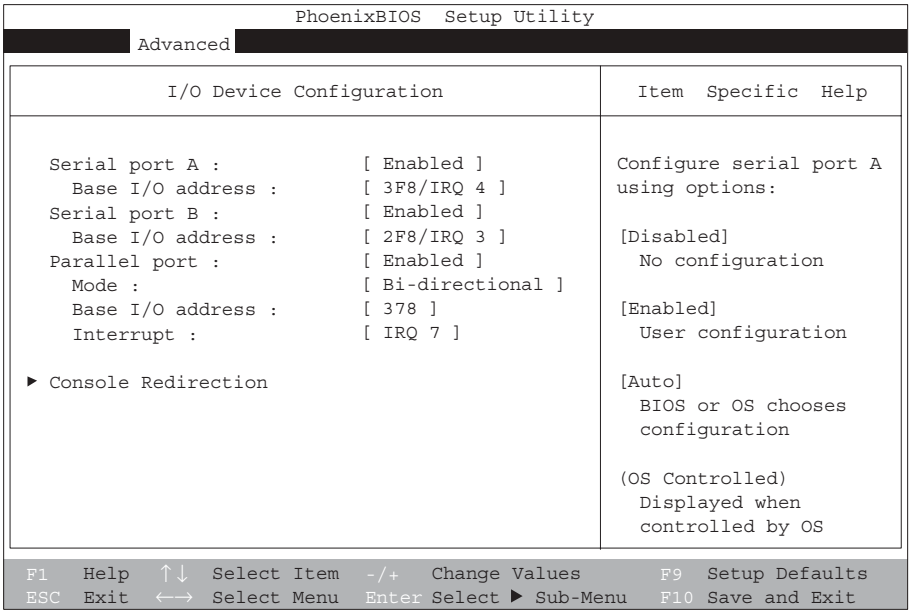
POST の診断処理での、PCI バスのリセット処理について設定します。

■ **Enabled**　POST 時に PCI バスをリセットします。

□ **Disabled**　POST 時に PCI バスをリセットしません。

● I/O Device Configuration

内蔵機器の I/O ポートアドレスや IRQ（割り込みレベル）の設定などを行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
I/O Device Configuration
Item Specific Help
Serial port A : [Enabled]
Base I/O address : [3F8/IRQ 4]
Serial port B : [Enabled]
Base I/O address : [2F8/IRQ 3]
Parallel port : [Enabled]
Mode : [Bi-directional]
Base I/O address : [378]
Interrupt : [IRQ 7]
▶ Console Redirection
Configure serial port A using options:
[Disabled]
No configuration
[Enabled]
User configuration
[Auto]
BIOS or OS chooses configuration
(OS Controlled)
Displayed when controlled by OS
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Serial port A（Serial port B）

シリアルポート A（COM1）やシリアルポート B（COM2）の I/O ポートアドレスおよび IRQ（割り込みレベル）を指定します。

■ Enabled　内蔵シリアルポートを使用します。

「Enabled」を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

Base I/O address

I/O ポートアドレスを、以下の 4 種類の中から選択します。

■ 3F8 / IRQ 4 （Serial port A）

■ 2F8 / IRQ 3 （Serial port B）

□ 3E8 / IRQ 4

□ 2E8 / IRQ 3

□ Auto　内蔵シリアルポートを使用します。
I/O ポートアドレスおよび割り込みレベルは、自動的に設定されます。

重要　「(3) Advanced メニュー」（→ P.63）の「Installed O/S」が「Win2000」に設定されている場合は、BIOS では I/O ポートアドレスおよび割り込みレベルの設定は行いません。

□ Disabled　内蔵シリアルポートを使用しません。

Parallel port

パラレルポートの動作モード、I/O ポートアドレスおよび IRQ を指定します。

■ **Enabled**　内蔵パラレルポートを使用します。

「Enabled」を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

Mode

内蔵パラレルポートの動作モードを指定します。

□ **Output only**：単方向モードで動作します。

■ **Bi-directional**：双方向モードで動作します。

□ **ECP**：ECP モードで動作します。

□ **EPP**：EPP モードで動作します。

Base I/O address

I/O ポートアドレスを、以下の 2 種類から選択します。

■ **378**、□ **278**

Interrupt

割り込みレベルを、以下の 2 種類から選択します。

□ **IRQ 5**、■ **IRQ 7**

DMA Channel

DMA チャネルを指定します。「Mode」に「ECP」を指定した場合にのみ、設定可能です。

■ **DMA 1**：DMA チャネル 1 を使用します。

□ **DMA 3**：DMA チャネル 3 を使用します。

□ **Auto**　内蔵パラレルポートを使用し、動作モードのみを選択します。I/O ポートアドレスおよび IRQ は自動的に設定されます。

重要　「(2) Advanced メニュー」（→ P.91）の「Installed O/S」が「Win2000」に設定されている場合は、BIOS では I/O ポートアドレス、割り込みレベルおよび DMA チャネルの設定は行いません。

□ **Disabled**　内蔵パラレルポートを使用しません。

Console Redirection

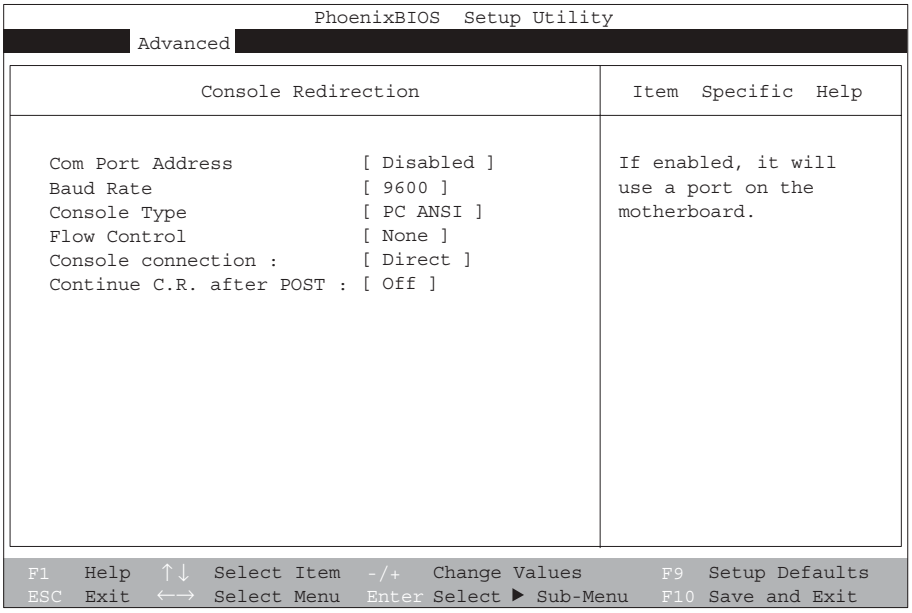
コンソールリダイレクションの設定を行います。

参照　「● I/O Device Configuration のサブメニュー」の「Console Redirection」（→ P.73）

● I/O Device Configuration のサブメニュー

I/O Device Configuration のサブメニューについて説明します。

Console Redirection


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Console Redirection
Item Specific Help
Com Port Address [Disabled]
Baud Rate [9600]
Console Type [PC ANSI]
Flow Control [None]
Console connection : [Direct]
Continue C.R. after POST : [Off]
If enabled, it will use a port on the motherboard.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Com Port Address

コンソールリダイレクションを使用するシリアルポートを指定します。

- **■ Disabled**　コンソールリダイレクションを使用しません。
- **□ On-board COM A**　シリアルポート A からコンソールリダイレクションを使用します。
- **□ On-board COM B**　シリアルポート B からコンソールリダイレクションを使用します。

Baud Rate

コンソールリダイレクションを使用するときの転送速度を、以下から選択します。

□ 300、□ 1200、□ 2400、■ 9600、□ 19.2K、□ 38.4K、□ 57.6K、□ 115.2K

Console Type

コンソールタイプを指定します。

- **□ VT100**　VT100 コンソール定義を使用します（Data7bit）。
- **□ VT100, 8bit**　VT100 コンソール定義を使用します（Data8bit）。
- **□ PC-ANSI, 7bit**　PC-ANSI コンソール定義を使用します（Data7bit）。
- **■ PC ANSI**　PC-ANSI コンソール定義を使用します（Data8bit）。
- **□ VT100+**　VT100+ コンソール定義を使用します。
- **□ VT-UTF8**　VT-UTF8 コンソール定義を使用します。

Flow Control

フロー制御について指定します。

- ■ **None** フロー制御を使用しません。
- □ **XON/XOFF** ソフトウェアフロー制御を使用します。
- □ **CTS/RTS** ハードウェアフロー制御を使用します。

Console connection

コンソールとの接続方法を指定します。

- ■ **Direct** 直接接続します。
- □ **Via modem** モデム経由で接続します。

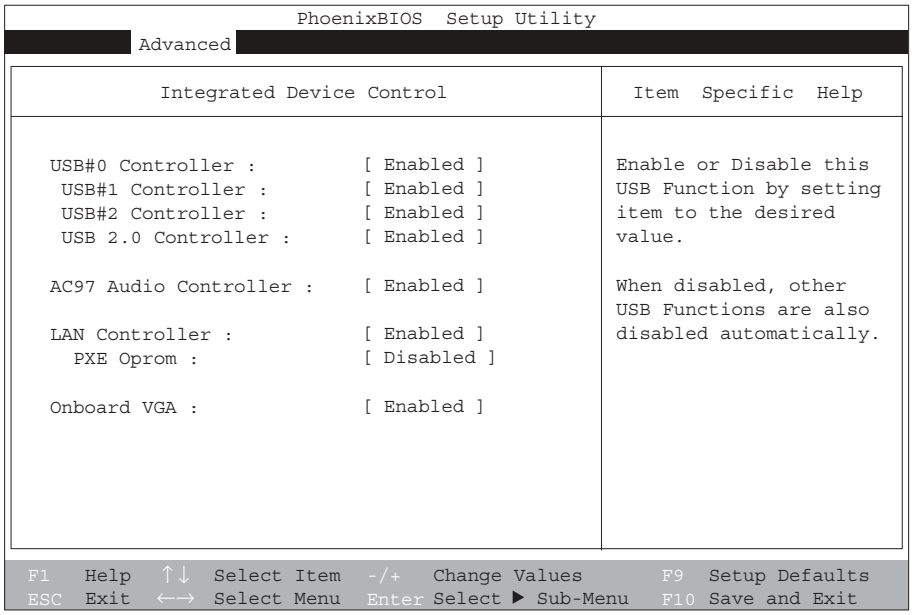
Continue C.R. after POST

POST 後もコンソールリダイレクションを続けるかどうかを指定します。

- ■ **Off** POST 後はコンソールリダイレクションを続けません。
- □ **On** POST 後もコンソールリダイレクションを続けます。

● Integrated Device Control

内蔵デバイスを使用するかどうかを設定します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Integrated Device Control
Item Specific Help
USB#0 Controller : [Enabled]
USB#1 Controller : [Enabled]
USB#2 Controller : [Enabled]
USB 2.0 Controller : [Enabled]
AC97 Audio Controller : [Enabled]
LAN Controller : [Enabled]
PXE Oprom : [Disabled]
Onboard VGA : [Enabled]
Enable or Disable this USB Function by setting item to the desired value.
When disabled, other USB Functions are also disabled automatically.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

USB#0 Controller

USB #0（ポート 0 ／ポート 1）の使用について設定します。

■ **Enabled**　USB #0 を使用します。

□ **Disabled**　USB #0 を使用しません。

重要　「USB#0 Controller」を「Disabled」にした場合、「USB#1 Controller」と「USB#2 Controller」は、自動的に「Disabled」となります。

USB#1 Controller

USB #1（ポート 2 ／ポート 3）の使用について設定します。

■ **Enabled**：USB #1 を使用します。

□ **Disabled**：USB #1 を使用しません。

USB#2 Controller

USB #2（ポート 4 ／ポート 5）の使用について設定します。

■ **Enabled**：USB #2 を使用します。

□ **Disabled**：USB #2 を使用しません。

USB2.0 Controller

USB 2.0 の使用について設定します。

■ **Enabled :** USB 2.0 を使用します。

□ **Disabled :** USB 2.0 を使用しません。

重要 USB 2.0 の機器でブートする際は、「Disabled」を選択してください。この場合、USB 1.1 でブートします。

AC97 Audio Controller

本装置内の AC97 オーディオコントローラの使用について設定します。

■ **Enabled** AC97 オーディオコントローラを使用します。

□ **Disabled** AC97 オーディオコントローラを使用しません。

LAN Controller

本装置内の LAN コントローラの使用について設定します。

■ **Enabled** LAN コントローラを使用します。

□ **Disabled** LAN コントローラを使用しません。

PXE Oprom

本装置内の PXE（Pre-boot eXecution Environment）の使用について設定します。

□ **Enabled:** PXE を使用します。

■ **Disabled :** PXE を使用しません。

重要 この項目は、「LAN Controller」が「Enabled」の場合にのみ、設定を変更できます。

Onboard VGA

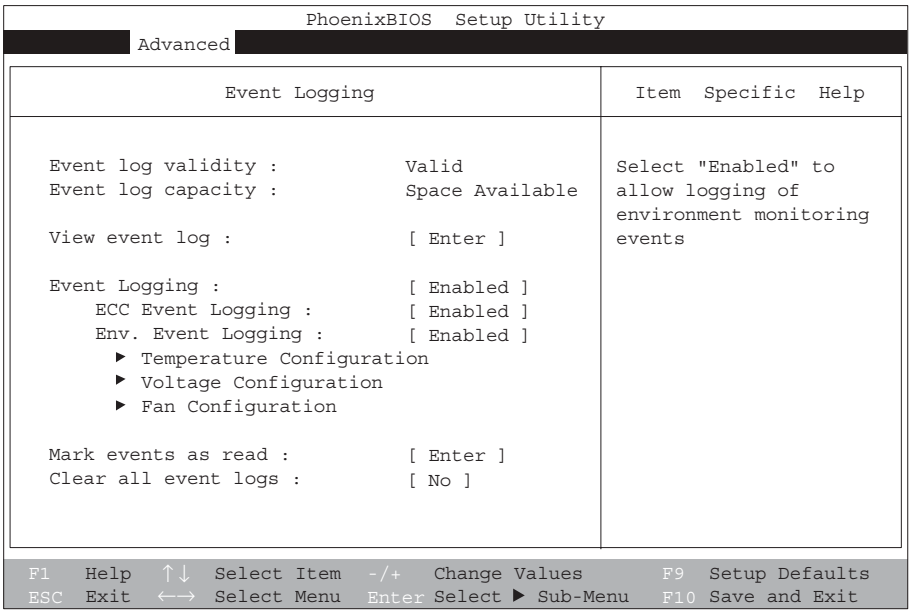
本装置内の VGA（Video Graphics Array）の使用について設定します。

■ **Enabled** オンボード VGA を使用します。

□ **Disabled** オンボード VGA を使用しません。

● Event Logging

イベントログ機能に関する設定などを行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Event Logging
Item Specific Help
Event log validity : Valid
Event log capacity : Space Available
View event log : [Enter]
Event Logging : [Enabled]
ECC Event Logging : [Enabled]
Env. Event Logging : [Enabled]
▶ Temperature Configuration
▶ Voltage Configuration
▶ Fan Configuration
Mark events as read : [Enter]
Clear all event logs : [No]
Select "Enabled" to allow logging of environment monitoring events
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Event log validity

イベントログ格納領域が正常の場合は「Valid」、異常の場合は「Not valid」と表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

Event log capacity

イベントログを書き込む領域の状態を表示します。領域がいっぱいの場合は、「Full」が表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

View event log

イベントログを表示します。

Event Logging

イベントログの採取について設定します。

■ **Enabled**　　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　　イベントログを採取しません。

ECC Event Logging

メモリ ECC 関連のイベントログの採取について、設定します。

■ **Enabled**　　ECC イベントログを採取します。

□ **Disabled**　　ECC イベントログを採取しません。

Env. Event Logging

環境監視関連（温度、電圧、FAN）のイベントログの採取について、設定します。

■ **Enabled**　環境監視イベントログを採取します。

□ **Disabled**　環境監視イベントログを採取しません。

Temperature Configuration

温度に関するイベントログの設定をします。

参照「● Event Logging のサブメニュー」の「Temperature Configuration」（→ P.79）

Voltage Configuration

電圧に関するイベントログの設定をします。

参照「● Event Logging のサブメニュー」の「Voltage Configuration」（→ P.80）

Fan Configuration

ファンに関するイベントログの設定をします。

参照「● Event Logging のサブメニュー」の「Fan Configuration」（→ P.82）

Mark events as read

未読のイベントログを既読にします。

Clear all event logs

記録されているイベントログの消去について、設定します。

■ **No**　イベントログは消去されません。

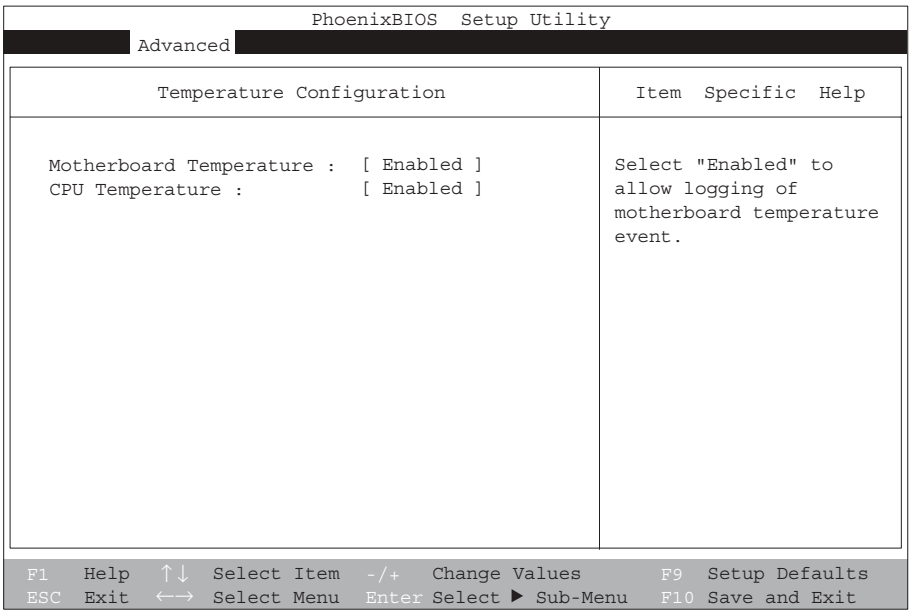
□ **Yes**　記録されているイベントログをすべて消去します。

● Event Logging のサブメニュー

Event Logging のサブメニューについて説明します。

Temperature Configuration

温度に関するイベントログの採取について、設定します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Temperature Configuration
Item Specific Help
Motherboard Temperature : [Enabled]
CPU Temperature : [Enabled]
Select "Enabled" to allow logging of motherboard temperature event.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

各設定項目のイベントログについて示します。

Motherboard Temperature

ベースボード周辺温度に関するイベントログ。

■ **Enabled**　　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　　イベントログを採取しません。

CPU Temperature

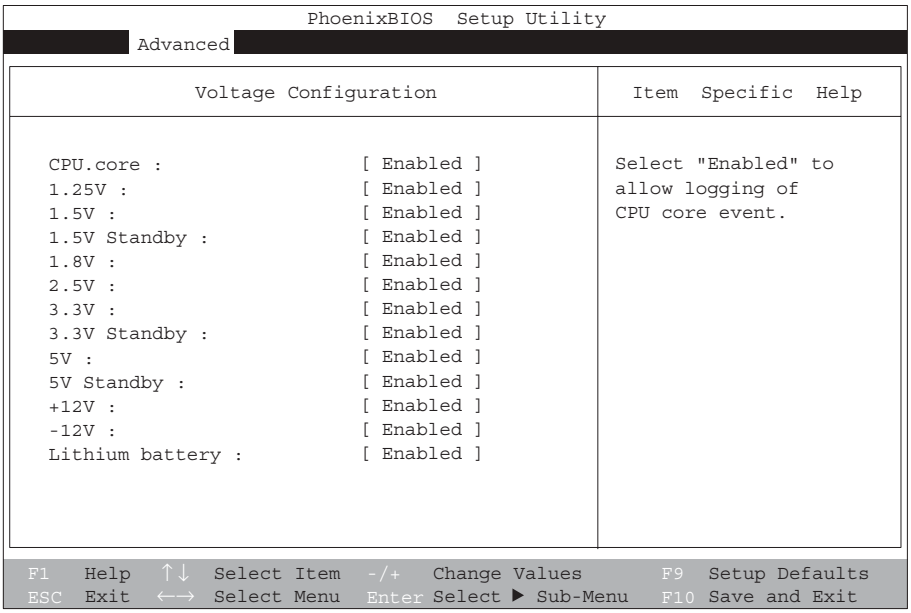
CPU 温度に関するイベントログ。

■ **Enabled**　　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　　イベントログを採取しません。

Voltage Configuration

電圧に関するイベントログの採取について、設定します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Voltage Configuration
Item Specific Help
CPU.core : [Enabled]
1.25V : [Enabled]
1.5V : [Enabled]
1.5V Standby : [Enabled]
1.8V : [Enabled]
2.5V : [Enabled]
3.3V : [Enabled]
3.3V Standby : [Enabled]
5V : [Enabled]
5V Standby : [Enabled]
+12V : [Enabled]
-12V : [Enabled]
Lithium battery : [Enabled]
Select "Enabled" to allow logging of CPU core event.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

各設定項目のイベントログについて示します。

CPU core

CPU コア電圧に関するイベントログ。

- ■ **Enabled**　　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　　イベントログを採取しません。

1.25V

1.25V 電圧に関するイベントログ。

- ■ **Enabled**　　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　　イベントログを採取しません。

1.5V

1.5V 電圧に関するイベントログ。

- ■ **Enabled**　　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　　イベントログを採取しません。

1.5V Standby

1.5V スタンバイ電圧に関するイベントログ。

- ■ **Enabled**　　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　　イベントログを採取しません。

1.8V

1.8V 電圧に関するイベントログ。

■ **Enabled**　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　イベントログを採取しません。

2.5V

2.5V 電圧に関するイベントログ。

■ **Enabled**　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　イベントログを採取しません。

3.3V

3.3V 電圧に関するイベントログ。

■ **Enabled**　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　イベントログを採取しません。

3.3V Standby

3.3V スタンバイ電圧に関するイベントログ。

■ **Enabled**　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　イベントログを採取しません。

5V

5V 電圧に関するイベントログ。

■ **Enabled**　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　イベントログを採取しません。

5V Standby

5V スタンバイ電圧に関するイベントログ。

■ **Enabled**　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　イベントログを採取しません。

+12V

+12V 電圧に関するイベントログ。

■ **Enabled**　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　イベントログを採取しません。

-12V

-12V 電圧に関するイベントログ。

■ **Enabled**　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　イベントログを採取しません。

Lithium battery

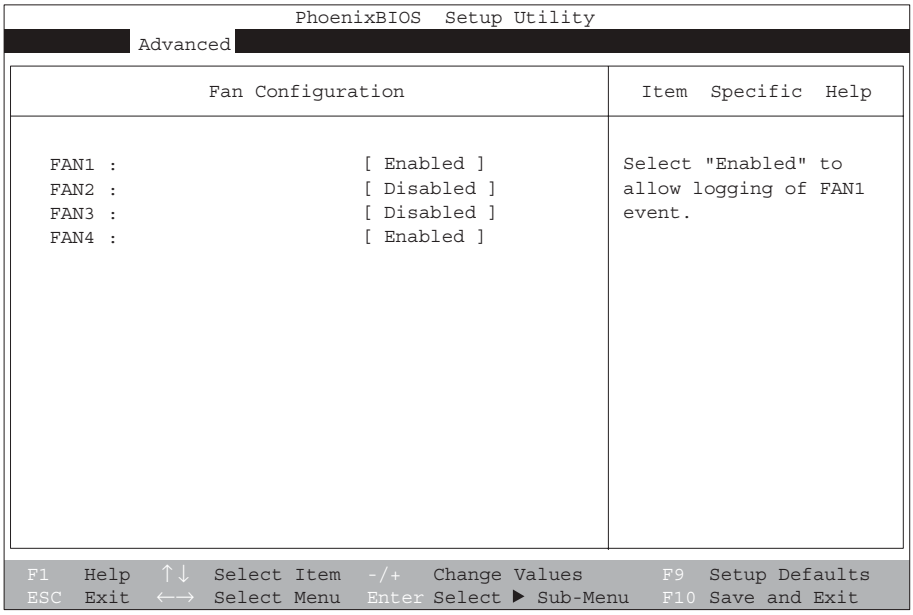
リチウムバッテリの電圧に関するイベントログ。

■ **Enabled**　イベントログを採取します。

□ **Disabled**　イベントログを採取しません。

Fan Configuration

ファンに関するイベントログの採取について、設定します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Fan Configuration
Item Specific Help
FAN1 : [Enabled]
FAN2 : [Disabled]
FAN3 : [Disabled]
FAN4 : [Enabled]
Select "Enabled" to allow logging of FAN1 event.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

各設定項目のイベントログについて示します。

FAN1

FAN1 に関するイベントログ。

- ■ **Enabled**　　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　　イベントログを採取しません。

FAN2

FAN2 に関するイベントログ。

- □ **Enabled**　　イベントログを採取します。
- ■ **Disabled**　　イベントログを採取しません。

FAN3

FAN3 に関するイベントログ。

- □ **Enabled**　　イベントログを採取します。
- ■ **Disabled**　　イベントログを採取しません。

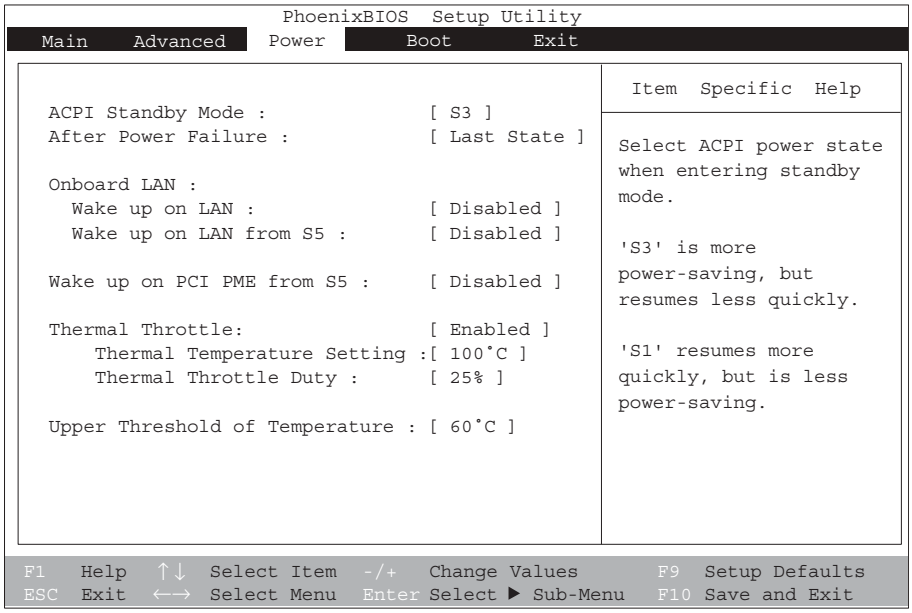
FAN4

FAN4 に関するイベントログ。

- ■ **Enabled**　　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　　イベントログを採取しません。

（5） Power メニュー

Power メニューでは、電源のオン／オフに関する詳細な設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Power Boot Exit
ACPI Standby Mode : [S3]
After Power Failure : [Last State]
Onboard LAN :
Wake up on LAN : [Disabled]
Wake up on LAN from S5 : [Disabled]
Wake up on PCI PME from S5 : [Disabled]
Thermal Throttle: [Enabled]
Thermal Temperature Setting :[100˚C]
Thermal Throttle Duty : [25%]
Upper Threshold of Temperature : [60˚C]
Item Specific Help
Select ACPI power state when entering standby mode.
'S3' is more power-saving, but resumes less quickly.
'S1' resumes more quickly, but is less power-saving.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

ACPI Standby Mode

ACPI でスタンバイモードに移行するときのモードを指定します。

- ■ **S3**　消費電力は低く抑えられますが、復帰に比較的時間のかかるモードです。
- □ **S1**　すばやく復帰できますが、比較的消費電力が高いモードです。

After Power Failure

停電後、通電が再開したときの動作を指定します。

- □ **Stay Off**　停電前の電源状態にかかわらず、電源は入りません。
- ■ **Last State**　停電前の電源状態に復帰します。
- □ **Power On**　停電前の電源状態にかかわらず、電源が入ります。

Onboard LAN

オンボード LAN コントローラの以下の項目について、設定します。

Wake up on LAN

APM OS での Wake up on LAN の使用について、設定します。

- □ **Enabled**: Wake up on LAN を使用します。
- ■ **Disabled**: Wake up on LAN を使用しません。

重要　この項目は、「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Integrated Device Control」（→ P.75）の「LAN Controller」が「Enabled」の場合にのみ、設定を変更できます。

Wake up on LAN from S5

Windows® XP や Windows® 2000 などの ACPI OS で、S5（ソフトオフ）状態から、オンボード LAN での Wake up on LAN のサポートについて、設定します。

□ **Enabled:** S5 状態からの Wake up on LAN を使用します。

■ **Disabled:** S5 状態からの Wake up on LAN を使用しません。

重要 この項目は、「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Integrated Device Control」（→ P.75）の「LAN Controller」が「Enabled」の場合にのみ、設定を変更できます。

Wake up on PCI PME from S5

Windows® 2000 や Windows® XP などの ACPI OS で、S5（ソフトオフ）状態から、PCI スロット上の LAN での Wake up on LAN のサポートについて、設定します。

□ **Enabled** S5 状態からの Wake up on LAN を使用します。

■ **Disabled** S5 状態からの Wake up on LAN を使用しません。

Thermal Throttle

CPU の熱暴走を防止するための Thermal Throttle の使用について、設定します。

■ **Enabled** Thermal Throttle を使用します。

□ **Disabled** Thermal Throttle を使用しません。

Thermal Temperature Setting

Thermal Throttle の温度を、以下の 4 種類から選択します。

□ **70°C**、□ **80°C**、□ **90°C**、■ **100°C**

Thermal Throttle Duty

Thermal Throttle の Duty 比を、以下の 3 種類から選択します。

■ **25%**、□ **50%**、□ **75%**

Upper Threshold of Temperature

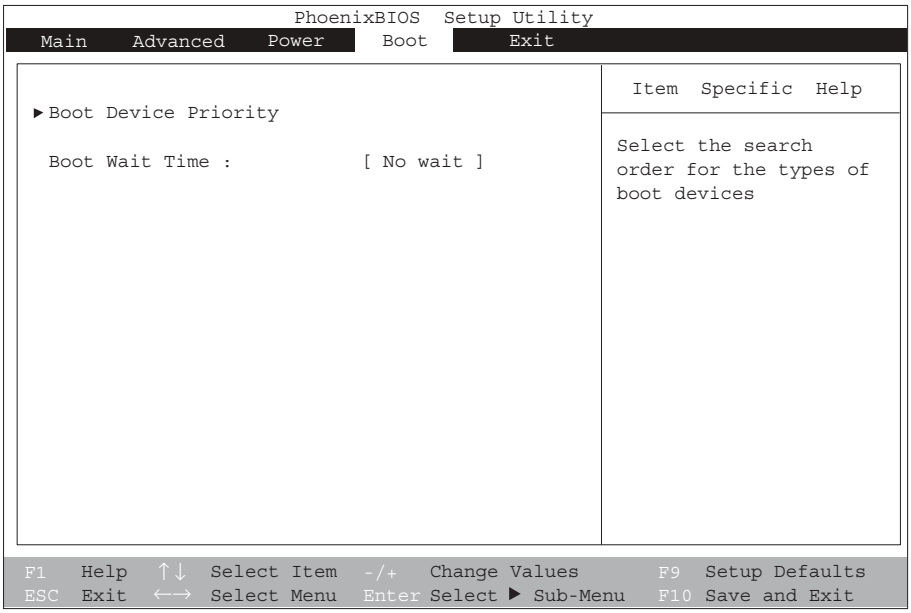
ベースボード上の温度の上限値を、以下から選択します。

□ **30 ℃**、□ **35 ℃**、□ **40 ℃**、□ **45 ℃**、□ **50 ℃**、□ **55 ℃**、■ **60 ℃**

（6） Boot メニュー

Boot メニューでは、システムの起動に関する設定を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Power Boot Exit
Item Specific Help
▶Boot Device Priority
Boot Wait Time : [No wait]
Select the search order for the types of boot devices
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Boot Device Priority

起動ドライブの優先順位の設定を行います。

参照 「(7) Boot メニューのサブメニュー」の「● Boot Device Priority」（→ P.86）

Boot Wait Time

システム起動時のウェイト時間（秒）を、以下から選択します。

■ No wait、□ 30s、□ 60s、□ 90s、□ 120s、□ 150s、□ 180s

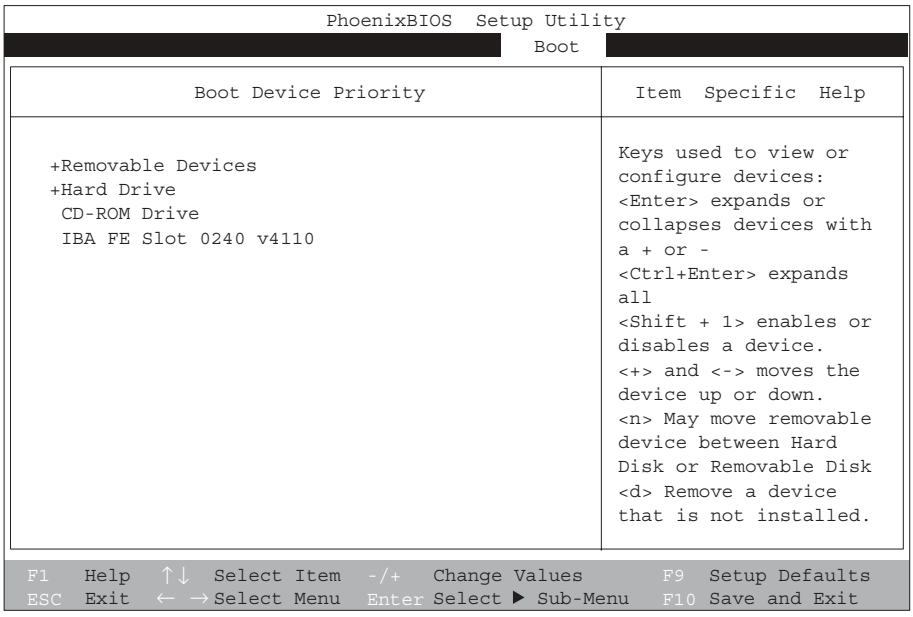
（7） Boot メニューのサブメニュー

ここでは、Boot メニューのサブメニューについて説明します。

● Boot Device Priority

起動ドライブの優先順位の設定を行います。
以下のキー入力を行うことによって、優先順位の変更およびそのドライブからの起動を、有効にするか無効にするかを設定できます。

使用するキー	意味
< ＋ >	**カーソルのあるエントリを上位の優先順位にします。**
< － >	**カーソルのあるエントリを下位の優先順位にします。**
<d>	**取り外したデバイスの情報を削除します。**
<Shift> + <1>	**そのドライブから起動を有効にするか無効にするかを切り替えます。**
<Enter>	**各エントリの前に「+」がある場合は、詳細情報を表示します。 各エントリの前に「-」がある場合は、詳細情報を非表示にします。**



Removable Device

リムーバブルドライブからの起動を行います。
リムーバブルドライブとは、ドライブレターが A となるドライブのことです。フロッピーディスクドライブや LS-120 などがこれにあたります。対象となるドライブについては、詳細情報を表示すると確認できます。

Hard Drive

ハードディスクからの起動を行います。

IDE ハードディスク、SCSI ハード ディスク、IDE インタフェースに準拠したデバイスなどがこれにあたります。対象となるドライブについては、詳細情報を表示すると確認できます。

ハードディスクや ATA/ATAPI インタフェース準拠のリムーバブルディスクデバイスの情報は、取り外したデバイスについても保持されます。
取り外したデバイスの情報を削除する場合は、デバイスを選択して <d> キーを押してください。

CD-ROM Drive

ATAPI インタフェース準拠の CD-ROM からの起動を行います。

上記のドライブを IDE インタフェースのプライマリスレーブに接続する場合は、「(1) Main メニュー」（→ P.89）の「Primary Slave」の設定を「Auto」に変更したあとシステムを再起動し、再度 BIOS セットアップを起動してください。

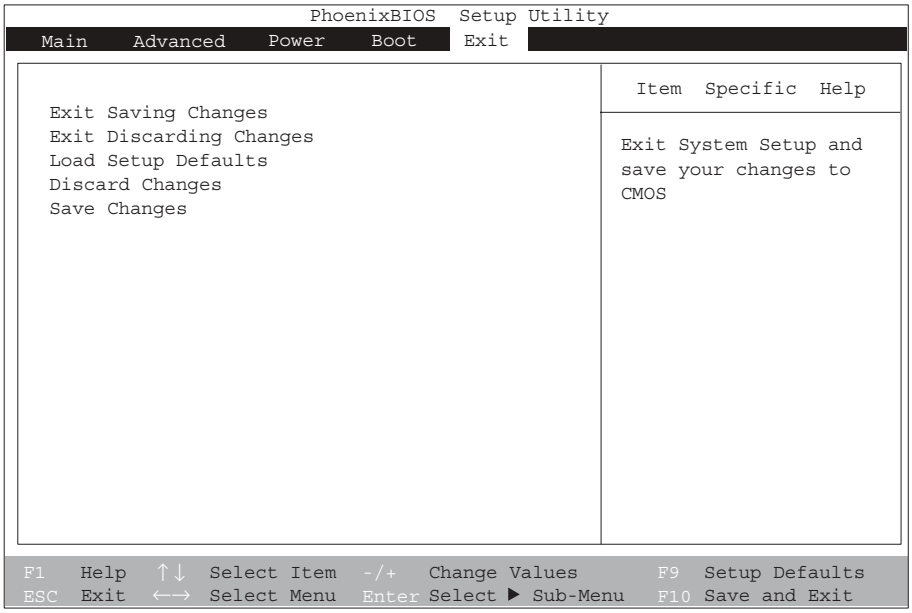
IBA FE Slot 0240 v4110

オンボード LAN コントローラを使用して、ネットワークからのブートを行います。

この項目は、「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Integrated Device Control」（→ P.75）の「PXE Oprom」が「Enabled」の状態で起動した場合にのみ表示されます。

（8） Exit メニュー

Exit メニューでは、設定を保存したり工場出荷時の設定に戻したりしてから、BIOS セットアップを終了します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Power Boot Exit
Exit Saving Changes
Exit Discarding Changes
Load Setup Defaults
Discard Changes
Save Changes
Item Specific Help
Exit System Setup and save your changes to CMOS
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

Exit Saving Changes

設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。

Exit Discarding Changes

設定内容を保存しないで、BIOS セットアップを終了します。

Load Setup Defaults

設定内容を、工場出荷時の設定内容に戻します。

Discard Changes

CMOS RAM に保存されている設定を読み出して、前回の設定内容に戻します。
(<F7> キーを使用した場合と同じ動作となります)。

Save Changes

現在の設定内容を、CMOS RAM に保存します。

4.5 BIOS セットアップのメニュー（モデル 210）

BIOS セットアップメニューは、以下の 8 つに分かれています。メニューによっては、より詳細な設定を行うためのサブメニューが用意されています。

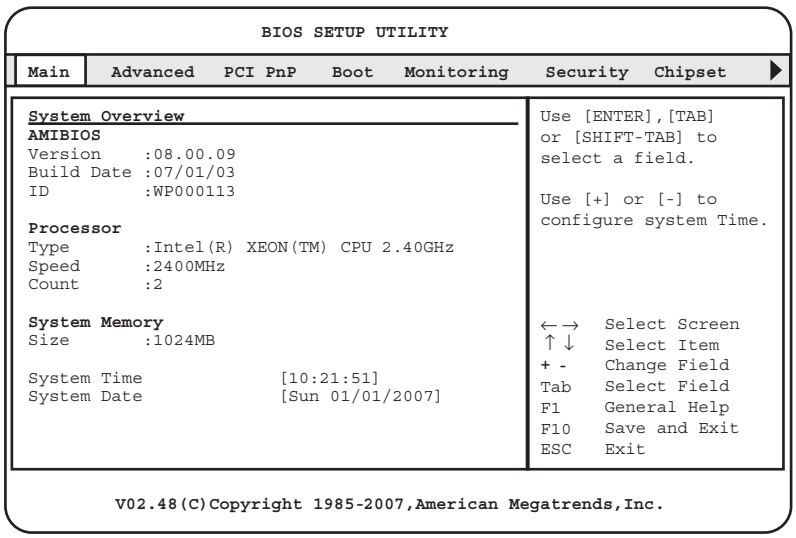
メニュー名	内　容	参照ページ
Main	基本的な構成の表示と日時の設定を行います。	89
Advanced	内蔵デバイスに関する詳細な設定を行います。	91
PCI PnP	プラグアンドプレイ機能に関する詳細な設定を行います。	107
Boot	システムの起動に関する設定を行います。	112
Monitoring	システムの状態監視に関する設定を行います。	120
Security	セキュリティレベルやパスワードの設定を行います。	121
Chipset	チップセットに関する詳細な設定を行います。	125
Exit	設定値の保存、初期設定値の読み込み、およびメニューの終了を行います。	129

以降、各メニューの項目の詳細について説明します。

参照 操作方法については、「4.3 BIOS セットアップの操作（モデル 210）」（→ P.48）を参照してください。

（1） Main メニュー

Main メニューでは、基本的なシステム構成の表示と日時の設定を行います。



AMIBIOS

AMIBIOS 情報が表示されます。

Version

AMIBIOS のバージョンが表示されます。

Build Date
AMIBIOS のリリース日時が表示されます。

ID
AMIBIOS の ID が表示されます。

Processor
検出された CPU 情報が表示されます。

Type
システムに搭載されているプロセッサ名が表示されます。

Speed
プロセッサ動作周波数が表示されます。

Count
論理プロセッサ数が表示されます。

System Memory
基本メモリの情報が表示されます。

Size
認識された基本メモリ容量が表示されます。

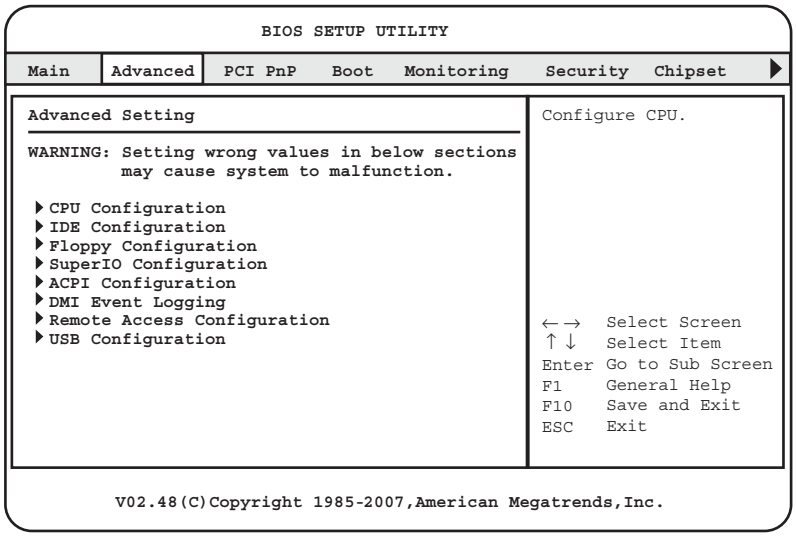
System Time
時：分：秒を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

System Date
月／日／年（西暦）を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

（2） Advanced メニュー

Advanced メニューでは、本製品に搭載されたデバイスについて、詳細な設定を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。



CPU Configuration

CPU に関する設定の表示や変更を行います。

参照 「（3）Advanced メニューのサブメニュー」の「● CPU Configuration」（→ P.93）

IDE Configuration

IDE/ATAPI ポートに関する設定の表示や変更を行います。

参照 「（3）Advanced メニューのサブメニュー」の「● IDE Configuration」（→ P.94）

Floppy Configuration

フロッピーディスクドライブに関する設定の表示や変更を行います。

参照 「（3）Advanced メニューのサブメニュー」の「● Floppy Configuration」（→ P.98）

SuperIO Configuration

本製品に搭載された Super I/O に関する設定の表示や変更を行います。

参照 「(3) Advanced メニューのサブメニュー」の「● SuperIO Configuration」(→ P.99)

ACPI Configuration

本製品の ACPI 機能に関する設定の表示や変更を行います。

参照 「(3) Advanced メニューのサブメニュー」の「● ACPI Configuration」(→ P.101)

DMI Event Logging

本製品のイベントログ機能に関する設定の表示や変更を行います。

参照 「(3) Advanced メニューのサブメニュー」の「● DMI Event Logging」(→ P.103)

Remote Access Configuration

本製品のリモートアクセス機能に関する設定の表示や変更を行います。

参照 「(3) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Remote Access Configuration」(→ P.104)

USB Configuration

本製品に搭載された USB ポートに関する設定の表示や変更を行います。

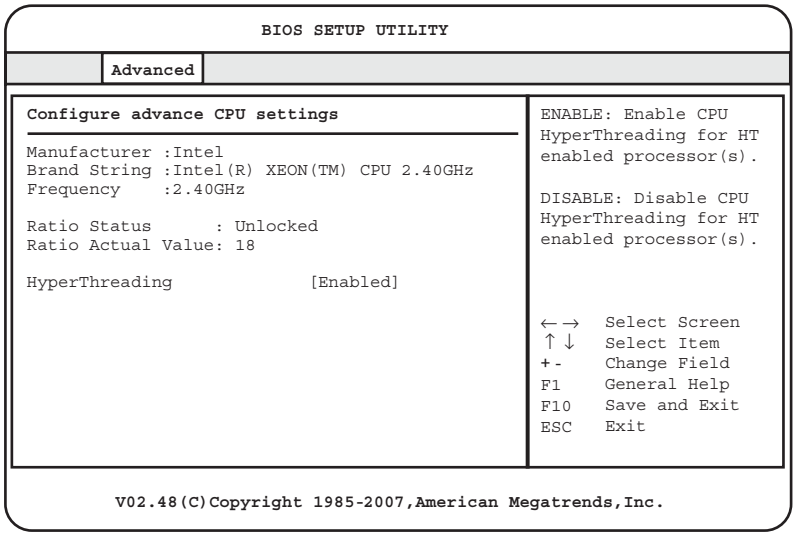
参照 「(3) Advanced メニューのサブメニュー」の「● USB Configuration」(→ P.105)

（3） Advanced メニューのサブメニュー

ここでは、Advanced メニューのサブメニューについて説明します。

● CPU Configuration

CPU Configuration では、本製品に搭載された CPU に関する設定の表示や変更を行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Manufacturer

製造元が表示されます。

Brand String

商標文字列が表示されます。

Frequency

プロセッサ動作周波数が表示されます。

Ratio Status

搭載された CPU で、プロセッサ動作周波数と FSB 周波数の比率が固定されているかどうかが、表示されます。

Ratio Actual Value

プロセッサ動作周波数と FSB 周波数の現在の比率が表示されます。

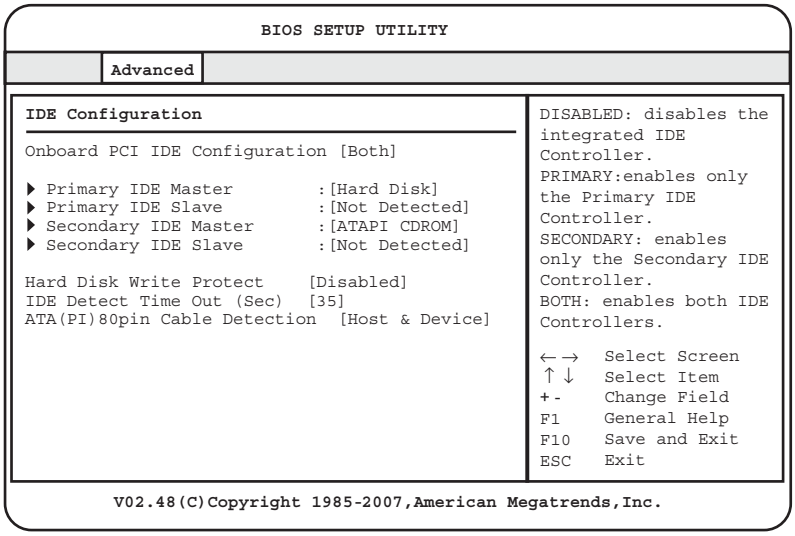
HyperThreading

ハイパースレッディング機能について設定します。

- □ **Disabled**　ハイパースレッディング機能を使用しません。
- ■ **Enabled**　ハイパースレッディング機能を使用します。

● IDE Configuration

IDE Configuration では、本製品の IDE/ATAPI ポートに接続されたデバイスに関する設定の表示や変更を行います。


BIOS SETUP UTILITY
Advanced
IDE Configuration
Onboard PCI IDE Configuration [Both]
▶ Primary IDE Master :[Hard Disk]
▶ Primary IDE Slave :[Not Detected]
▶ Secondary IDE Master :[ATAPI CDROM]
▶ Secondary IDE Slave :[Not Detected]
Hard Disk Write Protect [Disabled]
IDE Detect Time Out (Sec) [35]
ATA(PI)80pin Cable Detection [Host & Device]
DISABLED: disables the integrated IDE Controller.
PRIMARY:enables only the Primary IDE Controller.
SECONDARY: enables only the Secondary IDE Controller.
BOTH: enables both IDE Controllers.
← → Select Screen
↑ ↓ Select Item
+ - Change Field
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
V02.48(C)Copyright 1985-2007,American Megatrends,Inc.

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Onboard PCI IDE Configuration

IDE コントローラについて設定します。

- □ **Disabled**　IDE コントローラを使用しません。
- □ **Primary**　プライマリ IDE コントローラのみを使用します。
- □ **Secondary**　セカンダリ IDE コントローラのみを使用します。
- ■ **Both**　プライマリ／セカンダリ両方の IDE コントローラを使用します。

Primary IDE Master

プライマリマスターに接続したデバイスについて表示／設定します。

Primary IDE Slave

プライマリスレーブに接続したデバイスについて表示／設定します。

Secondary IDE Master

セカンダリマスターに接続したデバイスについて表示／設定します。

Secondary IDE Slave

セカンダリスレーブに接続したデバイスについて表示／設定します。

参照 「● IDE Configuration のサブメニュー」の「Primary IDE Master ／ Primary IDE Slave ／ Secondary IDE Master ／ Secondary IDE Slave」（→ P.95）

Hard Disk Write Protect

ハードディスクのライトプロテクト機能について設定します。

- ■ **Disabled**　ハードディスクのライトプロテクト機能を使用しません。
- □ **Enabled**　ハードディスクのライトプロテクト機能を使用します。

IDE Detect Time Out (Sec)

IDE デバイス検索時のタイムアウト時間（秒）を、以下のいずれかに設定します。

□ **0**、□ **5**、□ **10**、□ **15**、□ **20**、□ **25**、□ **30**、■ **35**

ATA（PI）80pin Cable Detection

ATA（PI）80pin ケーブルの検出機構について設定します。

- ■ **Host & Device**　ホスト側とデバイス側の両方から検出します。
- □ **Host**　ホスト側からのみ検出します。
- □ **Device**　デバイス側からのみ検出します。

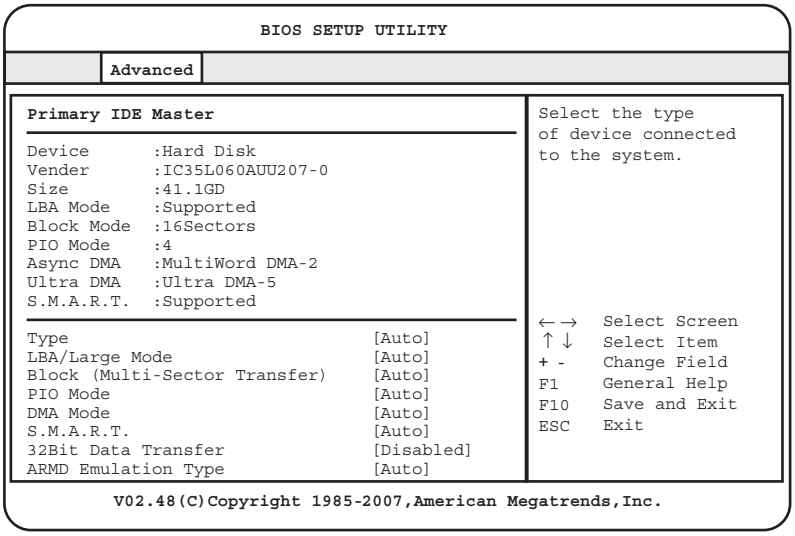
● IDE Configuration のサブメニュー

IDE Configuration のサブメニューについて説明します。

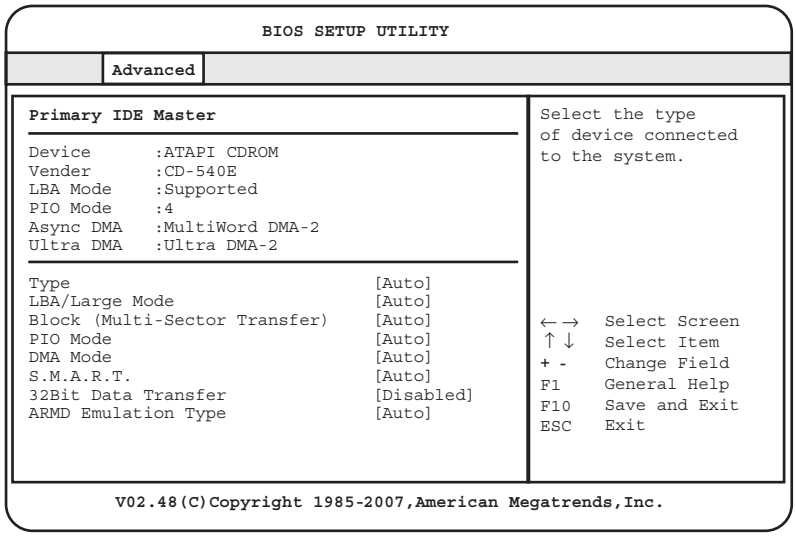
Primary IDE Master ／ Primary IDE Slave ／ Secondary IDE Master ／ Secondary IDE Slave

ここでは、Primary IDE Master を例に説明します。

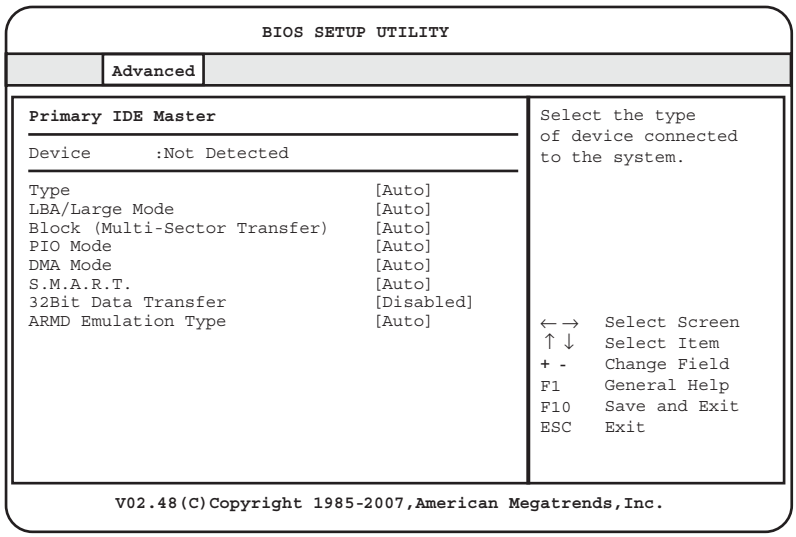
- コントローラがハードディスクを認識した場合



- コントローラが CD-ROM ドライブを認識した場合



- コントローラがデバイスを認識しなかった場合



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type

接続デバイスの種別について設定します。

- ■ **Auto**　自動的に設定します。
- □ **ARMD**　デバイスを ARMD として認識させます。
- □ **CDROM**　デバイスを CD-ROM ドライブとして認識させます。
- □ **Not Installed**　デバイスを認識させません。

LBA/Large Mode

LBA モードの使用について設定します。

- ■ **Auto** 自動的に設定します。
- □ **Disabled** LBA モードを使用しません。

Block (Multi-Sector Transfer)

ブロックモードの使用について設定します。

- ■ **Auto** 自動的に設定します。
- □ **Disabled** ブロックモードを使用しません。

PIO Mode

PIO モード時の転送モードを設定します。

- ■ **Auto** 自動的に設定します。
- □ **0 ～ 4** PIO モードの 0 ～ 4 のいずれかを設定します。

DMA Mode

DMA モード時の転送モードを設定します。

- ■ **Auto** 自動的に設定します。
- □ **SWDMA0 ～ 2** SWDMA0 ～ 2 のいずれかを設定します。
- □ **MWDMA0 ～ 2** MWDMA0 ～ 2 のいずれかを設定します。
- □ **UDMA0 ～ 4** UDMA0 ～ 4 のいずれかを設定します。

S.M.A.R.T.

S.M.A.R.T. 機能の使用について設定します。

- ■ **Auto** 自動的に設定します。
- □ **Disabled** S.M.A.R.T. 機能を使用しません。
- □ **Enabled** S.M.A.R.T. 機能を使用します。

32Bit Data Transfer

データの転送バス幅を設定します。

- ■ **Disabled** データを 16 ビット幅で転送します。
- □ **Enabled** データを 32 ビット幅で転送します。

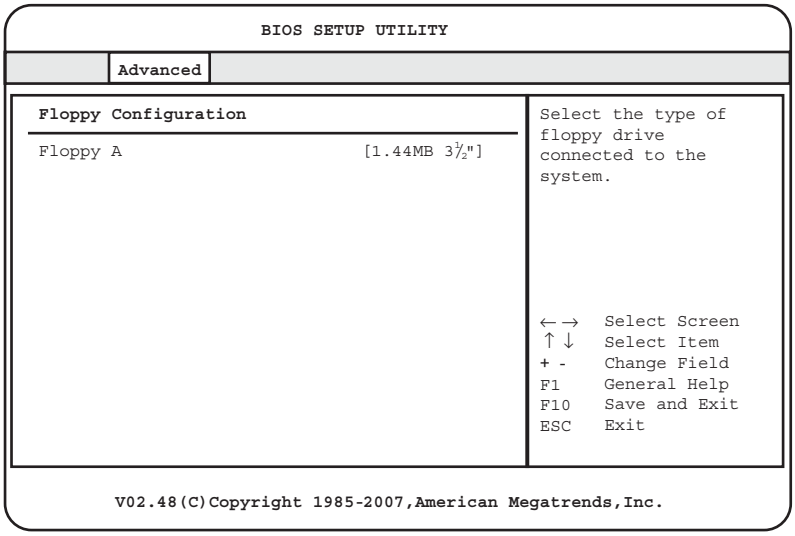
ARMD Emulation Type

ARMD Emulation タイプを設定します。

- ■ **Auto** 自動的に設定します。
- □ **Floppy** フロッピーディスクドライブとして設定します。
- □ **Hard Disk** ハードディスクとして設定します。

● Floppy Configuration

Floppy Configuration では、本製品に接続されたフロッピーディスクドライブに関する設定の表示や変更を行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Floppy A

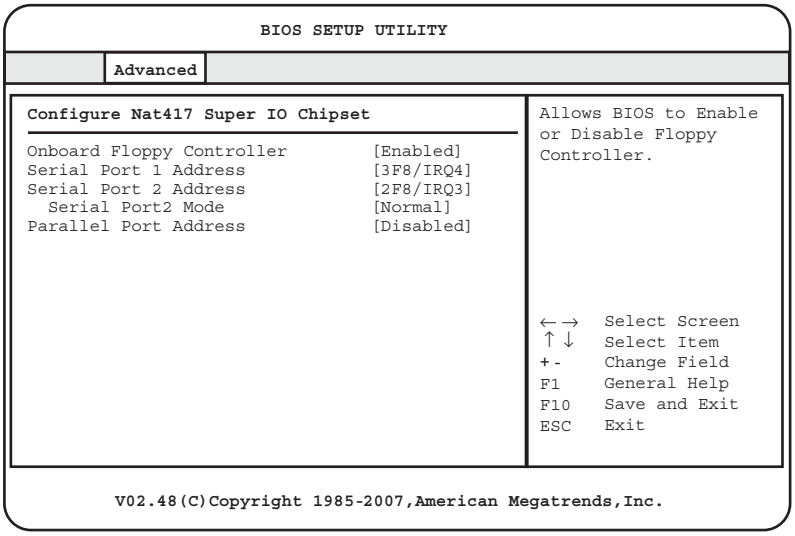
フロッピーディスクドライブの種類を設定します。

□ Disabled　フロッピーディスクドライブを使用しません。

■ 1.44MB 3 1/2"　フロッピーディスクドライブを 1.44MB（3.5 インチ）として設定します。

● SuperIO Configuration

Super IO Configuration では、本製品に搭載された Super I/O PC87417（National Semiconductor 社製）の制御下にあるデバイスについて、設定の表示や変更を行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Onboard Floppy Controller

フロッピーディスクコントローラの使用について設定します。

- □ **Disabled**　フロッピーディスクコントローラを使用しません。
- ■ **Enabled**　フロッピーディスクコントローラを使用します。

Serial Port 1 Address

シリアルポート（COM1）が使用する I/O アドレスと IRQ（割り込みレベル）を設定します。

- □ **Disabled**　シリアルポート（COM1）を使用しません。
- ■ **3F8/IRQ4**　I/O アドレス /IRQ を 3F8/IRQ4 に設定します。
- □ **2F8/IRQ3**　I/O アドレス /IRQ を 2F8/IRQ3 に設定します。
- □ **3E8/IRQ4**　I/O アドレス /IRQ を 3E8/IRQ4 に設定します。
- □ **2E8/IRQ3**　I/O アドレス /IRQ を 2E8/IRQ3 に設定します。

Serial Port 2 Address

シリアルヘッダ（COM2）が使用する I/O アドレスと IRQ（割り込みレベル）を設定します。

- □ **Disabled**　シリアルポート（COM2）を使用しません。
- □ **3F8/IRQ4**　I/O アドレス /IRQ を 3F8/IRQ4 に設定します。
- ■ **2F8/IRQ3**　I/O アドレス /IRQ を 2F8/IRQ3 に設定します。
- □ **3E8/IRQ4**　I/O アドレス /IRQ を 3E8/IRQ4 に設定します。
- □ **2E8/IRQ3**　I/O アドレス /IRQ を 2E8/IRQ3 に設定します。

備考 シリアルポート（COM 1、COM2）のアドレス設定では、他方のポートで、すでに割り当てられているアドレス値は表示されません。

Serial Port 2 Mode

シリアルヘッダ（COM2）の動作モードを設定します。

- ■ **Normal** 通常のシリアルポートとして動作します。
- □ **Sharp-IR** Sharp-IR モードで動作します。
- □ **SIR** SIR モードで動作します。
- □ **Consumer** Consumer モードで動作します。

「Normal」以外を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

IR Duplex Mode

IR Duplex モードを設定します。

- □ **Full Duplex**：Full Duplex モードに設定します。
- ■ **Half Duplex**：Half Duplex モードに設定します。

IR Receiver Pin

IR Receiver ピンを設定します。

- ■ **IRRX 1**：IR Receiver ピンを IRRX 1 に設定します。
- □ **IRRX 2**：IR Receiver ピンを IRRX 2 に設定します。

Parallel Port Address

パラレルポートが使用する I/O アドレスを設定します。

- ■ **Disabled** パラレルポートを使用しません。
- □ **378** I/O アドレス 378 を使用します。
- □ **278** I/O アドレス 278 を使用します。
- □ **3BC** I/O アドレス 3BC を使用します。

「Disabled」以外を選択した場合は、「Parallel Port Mode」と「Parallel Port IRQ」が表示されます。

Parallel Port Mode

パラレルポートの動作モードを設定します。

- ■ **Normal** 通常のパラレルポートとして設定します。
- □ **Bi-Directional** Bi-Directional モードに設定します。
- □ **EPP** EPP モードに設定します。
- □ **ECP** ECP モードに設定します。

「EPP」を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

EPP Version

EPP 規格の対応バージョンを、以下のいずれかに設定します。

■ **1.9**、□ **1.7**

「ECP」を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

ECP Mode DMA Channel

ECP モードで、DMA チャネルを以下のいずれかに設定します。

□ DMA0、□ DMA1、■ DMA3

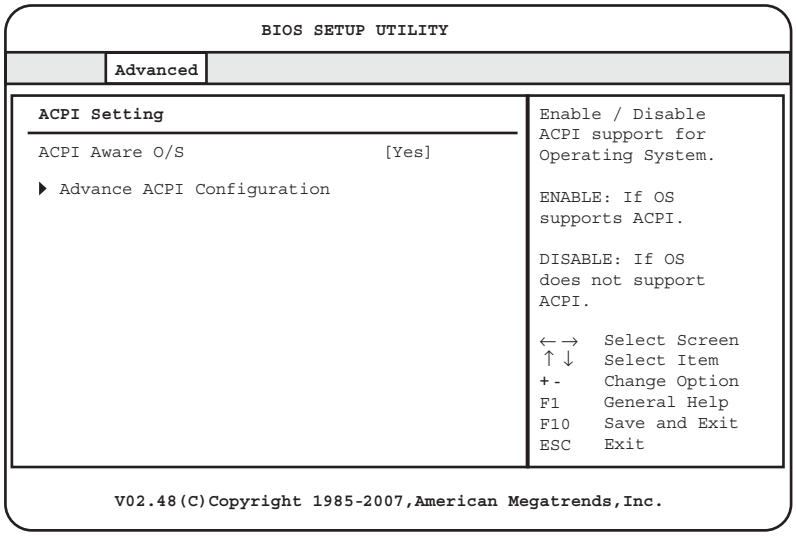
Parallel Port IRQ

パラレルポートが使用する IRQ を、以下のいずれかに設定します。

□ IRQ5、■ IRQ7

● ACPI Configuration

ACPI Configuration では、本製品に搭載された ACPI 機能の基本的および高度な設定を行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

ACPI Aware O/S

ACPI 機能対応 OS の使用について設定します。

□ No　　ACPI 機能対応 OS を使用しません。

■ Yes　　ACPI 機能対応 OS を使用します。

Advanced ACPI Configuration

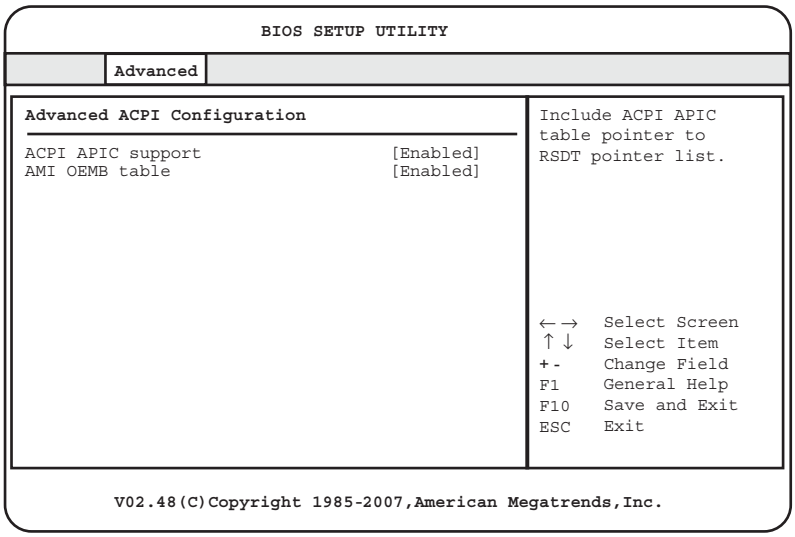
ACPI 機能の高度な設定を行います。

参照 「● ACPI Configuration のサブメニュー」の「Advanced ACPI Configuration」（→ P.102）

● ACPI Configuration のサブメニュー

ACPI Configuration のサブメニューについて説明します。

Advanced ACPI Configuration



□：設定項目　■：工場出荷設定値

ACPI APIC support

ACPI APIC 機能について設定します。

- □ **Disabled**　ACPI APIC 機能を使用しません。
- ■ **Enabled**　ACPI APIC 機能を使用します。

AMI OEMB table

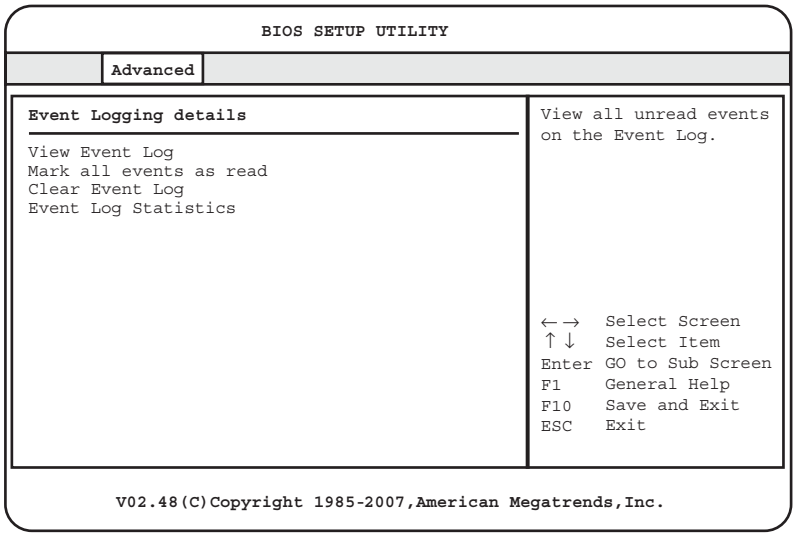
AMI OEMB table について設定します。

- □ **Disabled**　AMI OEMB table を使用しません。
- ■ **Enabled**　AMI OEMB table を使用します。

● DMI Event Logging

DMI Event Logging では、本製品のイベントログ機能にて記録されたイベントログの参照を行います。

参照 「(8) Monitoring メニュー」(→ P.120) の「System Event Log」



View Event Log

未読のイベントログが表示されます。

Mark all events as read

未読のイベントログを既読に設定します。

Clear Event Log

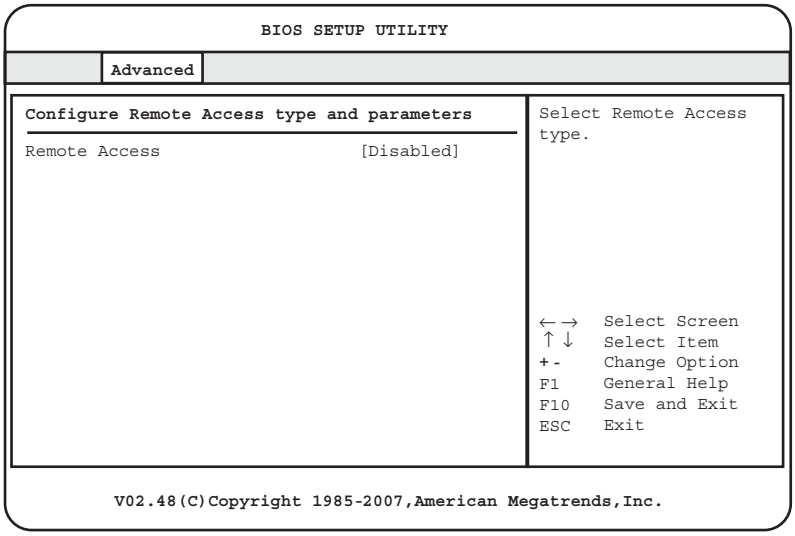
記録されているイベントログを消去します。

Event Log Statistics

イベントログの統計表が表示されます。

● Remote Access Configuration

Remote Access Configuration では、本製品に搭載されたリモートアクセス機能に関する設定の表示や変更を行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Remote Access

リモートアクセス機能の使用について設定します。

- ■ **Disabled**　リモートアクセス機能を使用しません。
- □ **Serial**　シリアルポート経由でリモートアクセス機能を使用します。

以下の項目は、「Remote Access」を「Serial」に設定した場合に表示されます。

Serial Port number

使用するシリアルポートを設定します。

- □ **COM1**　シリアルポート（COM1）を使用します。
- ■ **COM2**　シリアルヘッダ（COM2）を使用します。

Serial Port Mode

シリアルポートの動作モードを、以下のいずれかに設定します。

□ **115200 8,n,1**、□ **57600 8,n,1**、□ **19200 8,n,1**、■ **9600 8,n,1**

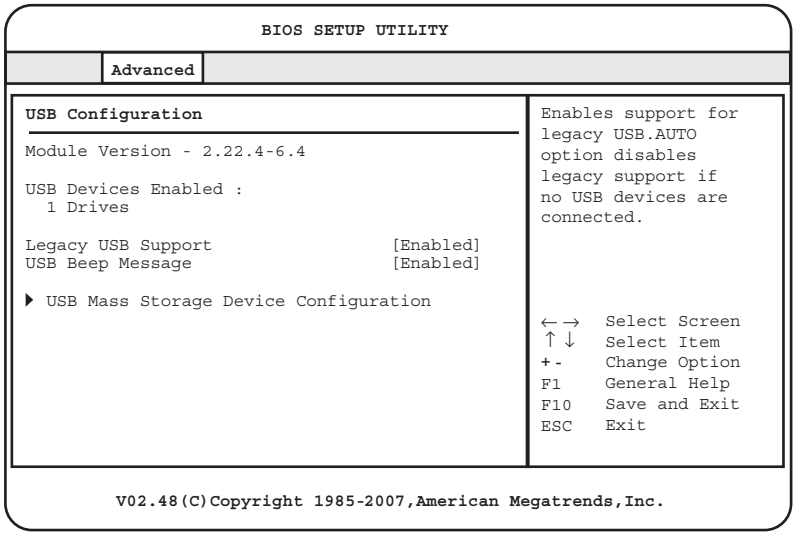
Post-Boot support

リモートアクセス機能の POST 時の対応について設定します。

- □ **Disabled**　POST 後には対応しません。
- ■ **Enabled**　POST 後にも対応します。

● USB Configuration

USB Configuration では、本製品に搭載された USB ポートの動作に関して、設定の表示や変更を行います。


BIOS SETUP UTILITY
Advanced
USB Configuration
Module Version - 2.22.4-6.4
USB Devices Enabled :
1 Drives
Legacy USB Support [Enabled]
USB Beep Message [Enabled]
USB Mass Storage Device Configuration
Enables support for legacy USB.AUTO option disables legacy support if no USB devices are connected.
← → Select Screen
↑ ↓ Select Item
+ - Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
V02.48(C)Copyright 1985-2007,American Megatrends,Inc.

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Legacy USB Support

レガシー USB デバイスのサポートについて設定します。

- □ **Auto**　自動的に判別します。
- □ **Disabled**　レガシー USB デバイスを使用しません。
- ■ **Enabled**　レガシー USB デバイスを使用します。

USB Beep Message

USB デバイスを抜き差しした際のビープ音について、設定します。

- □ **Disabled**　ビープ音を鳴らしません。
- ■ **Enabled**　ビープ音を鳴らします。

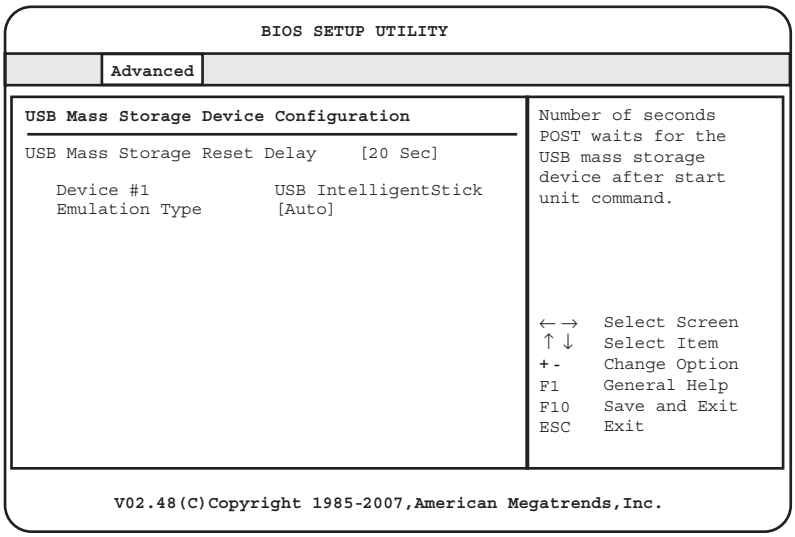
USB Mass Storage Device Configuration

USB ストレージデバイスについて設定します。

● USB Configuration のサブメニュー

USB Configuration のサブメニューについて説明します。

USB Mass Storage Device Configuration


BIOS SETUP UTILITY
Advanced
USB Mass Storage Device Configuration
USB Mass Storage Reset Delay [20 Sec]
Device #1 USB IntelligentStick
Emulation Type [Auto]
Number of seconds POST waits for the USB mass storage device after start unit command.
←→ Select Screen
↑↓ Select Item
+- Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
V02.48(C)Copyright 1985-2007,American Megatrends,Inc.

□：設定項目　■：工場出荷設定値

USB Mass Storage Reset Delay

USB ストレージデバイスの認識に必要な時間（秒）を、以下のいずれかに設定します。

□ 10 sec、■ 20 sec、□ 30 sec、□ 40 sec

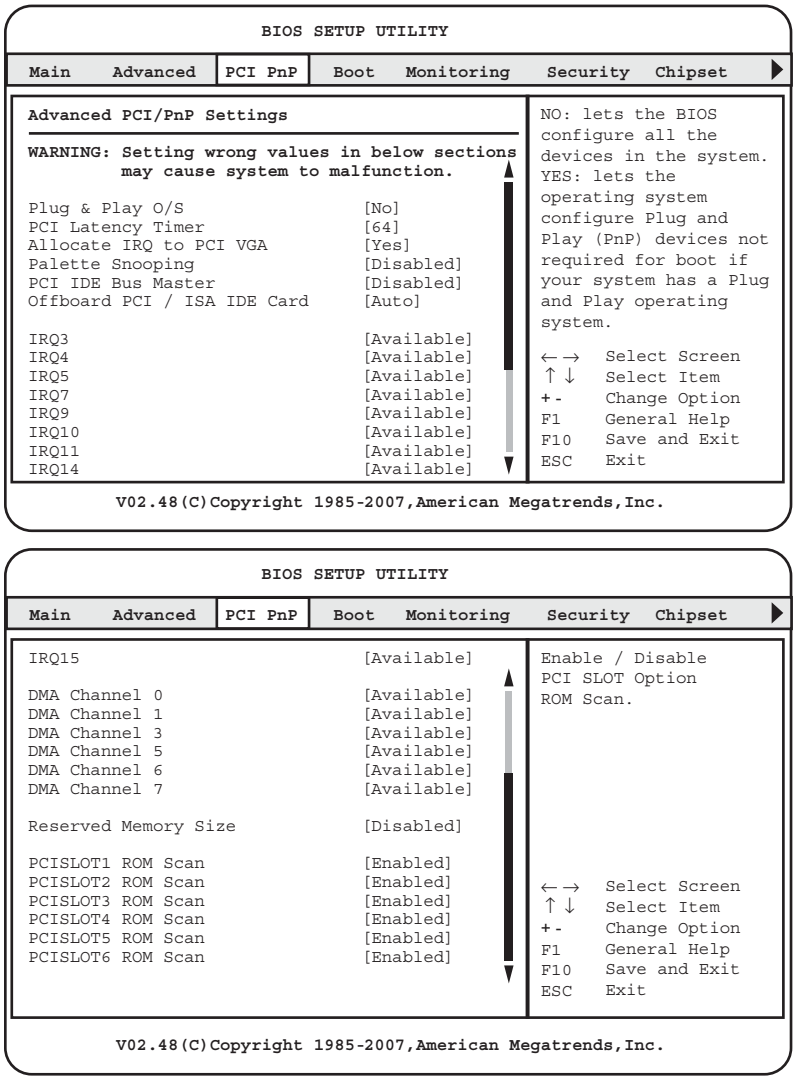
Emulation Type

エミュレーションタイプを設定します。

■ Auto	自動的に判別します。
□ Floppy	フロッピーディスクドライブとして認識させます。
□ Forced FDD	ハードディスクを強制的にフロッピーディスクドライブとして認識させます。
□ Hard Disk	ハードディスクとして認識させます。
□ CDROM	CD-ROM ドライブとして認識させます。

（4） PCI PnP メニュー

PCI PnP メニューでは、プラグアンドプレイ機能に関する詳細な設定を行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Plug & Play O/S

プラグアンドプレイ対応 OS の使用について設定します。

- **■ No**　　プラグアンドプレイ対応 OS を使用しません。
- **□ Yes**　　プラグアンドプレイ対応 OS を使用します。

PCI Latency Timer

PCI Latency タイマのレジスタ値（クロック数）を、以下のいずれかに設定します。

□ **32**、■ **64**、□ **96**、□ **128**、□ **160**、□ **192**、□ **224**、□ **248**

Allocate IRQ to PCI VGA

PCI VGA への IRQ の割り当てについて設定します。

□ **No**　PCI VGA へ IRQ を割り当てません。

■ **Yes**　PCI VGA へ IRQ を割り当てます。

Palette Snooping

Palette Snooping について設定します。

■ **Disabled**　Palette Snooping を設定しません。

□ **Enabled**　Palette Snooping を設定します。

PCI IDE Bus Master

PCI IDE Bus Master について設定します。

■ **Disabled**　PCI IDE Bus Master を設定しません。

□ **Enabled**　PCI IDE Bus Master を設定します。

Offboard PCI / ISA IDE Card

増設 IDE カードの使用時について設定します。

■ **Auto**　増設 IDE カードを自動的に認識します。

□ **PCI Slot1 ～ 6**　増設 IDE カードを PCI スロット 1 ～ 6 に搭載したものとして、設定します。

参照 「(5) PCI PnP メニューのサブメニュー」の「● Offboard PCI / ISA IDE Card」（→ P.110）

IRQ3 ～ 5、IRQ7、IRQ9 ～ 11、IRQ14、IRQ15

IRQ3 ～ 5、7、9 ～ 11、14、15 を設定します。

■ **Available**　プラグアンドプレイ機能によって割り当てができます。

□ **Reserved**　非プラグアンドプレイデバイスのために予約します。

DMA Channel 0、DMA Channel 1、DMA Channel 3、DMA Channel 5 ～ 7

DMA チャネル 0、1、3、5 ～ 7 を設定します。

■ **Available**　プラグアンドプレイ機能によって割り当てができます。

□ **Reserved**　非プラグアンドプレイデバイスのために予約します。

Reserved Memory Size

プラグアンドプレイ機能の割り当てから除外するメモリ領域を設定します。

■ **Disabled**　除外機能を使用しません。

□ **16K**、□ **32K**、□ **64K**　指定したサイズの領域を除外します。

参照 「(5) PCI PnP メニューのサブメニュー」の「● Reserved Memory Size」（→ P.111）

PCI Slot(1 ～ 6) ROM Scan

システム起動時に、PCI スロットごとに ROM スキャンを行うかどうかを設定します。

□ **Disabled**　ROM スキャンを行いません。

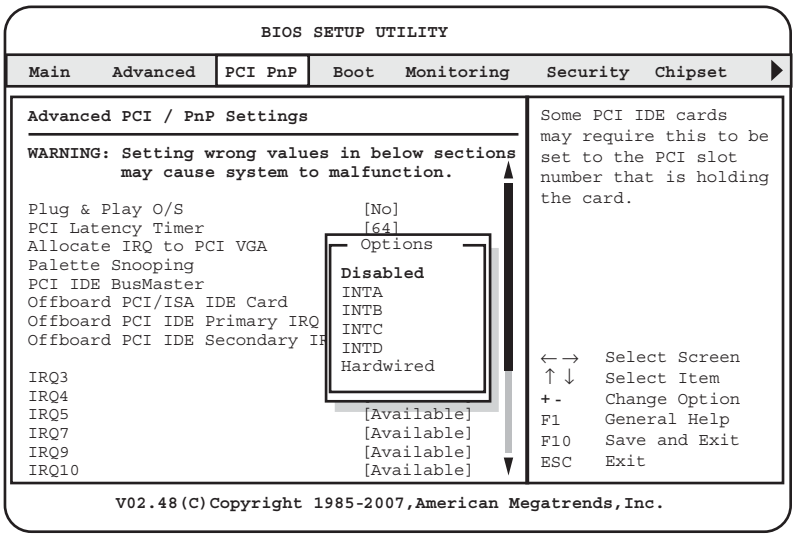
■ **Enabled**　ROM スキャンを行います。

PCI スロット 1 ～ 6 について設定できます。

（5） PCI PnP メニューのサブメニュー

ここでは、PCI PnP メニューのサブメニューについて説明します。

● Offboard PCI / ISA IDE Card



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Offboard PCI / ISA IDE Card

増設 IDE カードの使用時について設定します。

- ■ **Auto**　増設 IDE カードを自動的に認識します。
- □ **PCI Slot1 ～ 6**　増設 IDE カードを PCI スロット 1 ～ 6 に搭載したものとして、設定します。

以下の項目は、「Offboard PCI / ISA IDE Card」を「PCI Slot1 ～ 6」に設定した場合に表示されます。

Offboard PCI IDE Primary IRQ

増設 IDE カードプライマリチャネルの IRQ を設定します。

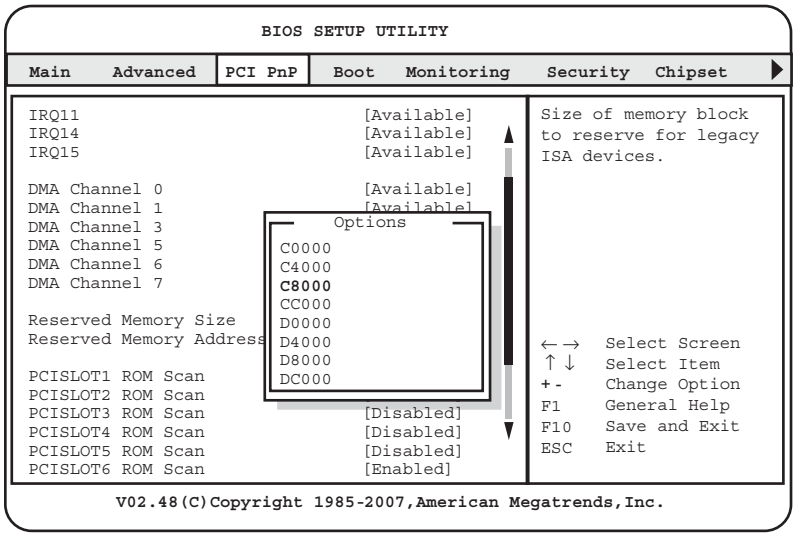
- ■ **Disabled**　IRQ を割り当てません。
- □ **INTA ～ INTD**　IRQ を INTA ～ INTD に設定します。
- □ **Hardwired**　増設 IDE カードが持つ値に設定します。

Offboard PCI IDE Secondary IRQ

増設 IDE カードセカンダリチャネルの IRQ を設定します。

- ■ **Disabled**　IRQ を割り当てません。
- □ **INTA ～ INTD**　IRQ を INTA ～ INTD に設定します。
- □ **Hardwired**　増設 IDE カードが持つ値に設定します。

● Reserved Memory Size



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Reserved Memory Size

メモリ容量の設定が表示されます。

- **■ Disabled**　メモリ容量を設定しません。
- **□ 16k**　メモリ容量を 16k バイトに設定します。
- **□ 32k**　メモリ容量を 32k バイトに設定します。
- **□ 64k**　メモリ容量を 64k バイトに設定します。

以下の項目は、「Reserved Memory Size」を「Disabled」以外に設定した場合に表示されます。

Reserved Memory Address

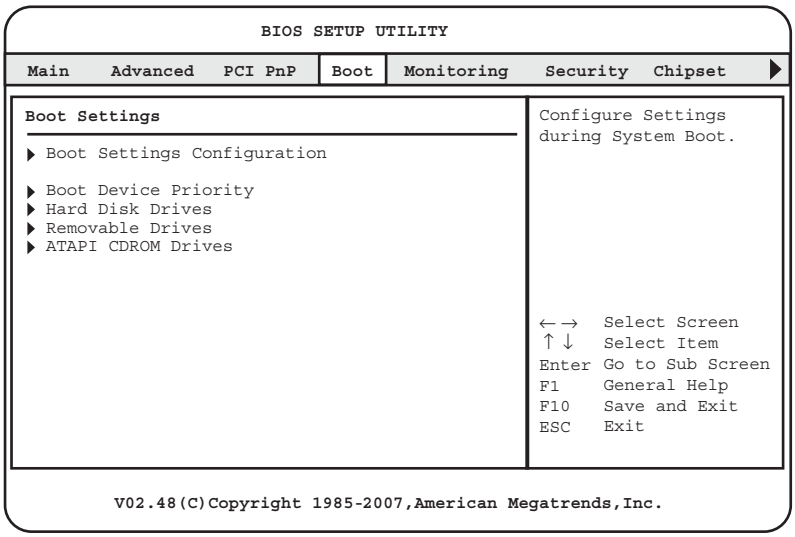
メモリアドレスを、以下のいずれかに設定します。

□ C0000、□ C4000、■ C8000、□ CC000、□ D0000、□ D4000、□ D8000、□ DC000

（6） Boot メニュー

Boot メニューでは、システムの起動に関する設定を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを設定します。



Boot Settings Configuration

起動時の各種動作について設定します。

参照 「(7) Boot メニューのサブメニュー」の「● Boot Settings Configuration」（→ P.114）

Boot Device Priority

起動デバイスの優先順位について設定します。

この項目は、起動デバイス（ハードディスク、リムーバブルドライブ、CD-ROM ドライブ）が接続されている場合に表示されます。

参照 「(7) Boot メニューのサブメニュー」の「● Boot Device Priority」（→ P.116）

Hard Disk Drives

起動可能なハードディスクについて設定します。

この項目は、起動デバイス（ハードディスク）が接続されている場合に表示されます。

参照 「(7) Boot メニューのサブメニュー」の「● Hard Disk Drives」（→ P.117）

Removable Drives

起動可能なリムーバブルドライブについて設定します。
この項目は、起動デバイス（リムーバブルドライブ）が接続されている場合に表示されます。

参照 「(7) Boot メニューのサブメニュー」の「● Removable Drives」（→ P.118）

ATAPI CDROM Drives

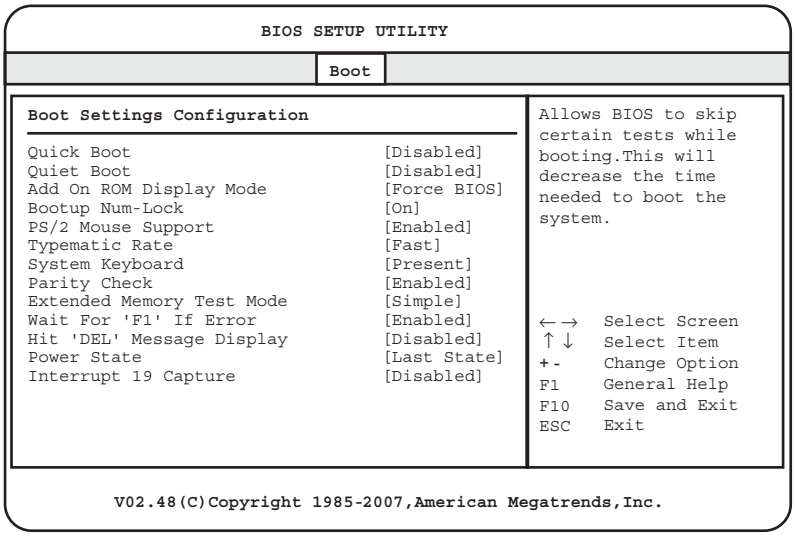
起動可能な CD-ROM ドライブについて設定します。
この項目は、起動デバイス（CD-ROM ドライブ）が接続されている場合に表示されます。

参照 「(7) Boot メニューのサブメニュー」の「● ATAPI CDROM Drives」（→ P.119）

（7） Boot メニューのサブメニュー

ここでは、Boot メニューのサブメニューについて説明します。

● Boot Settings Configuration


BIOS SETUP UTILITY
Boot
Boot Settings Configuration
Quick Boot [Disabled]
Quiet Boot [Disabled]
Add On ROM Display Mode [Force BIOS]
Bootup Num-Lock [On]
PS/2 Mouse Support [Enabled]
Typematic Rate [Fast]
System Keyboard [Present]
Parity Check [Enabled]
Extended Memory Test Mode [Simple]
Wait For 'F1' If Error [Enabled]
Hit 'DEL' Message Display [Disabled]
Power State [Last State]
Interrupt 19 Capture [Disabled]
Allows BIOS to skip certain tests while booting.This will decrease the time needed to boot the system.
← → Select Screen
↑ ↓ Select Item
+ - Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
V02.48(C)Copyright 1985-2007,American Megatrends,Inc.

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Quick Boot

Quick ブート機能（メモリ検査などを省略し、高速にシステムを起動する機能）の使用について、設定します。

- ■ **Disabled**　Quick ブート機能を使用しません。
- □ **Enabled**　Quick ブート機能を使用します。

Quiet Boot

Quiet ブート機能（システムの起動時にできるだけ情報を表示させない機能）の使用について、設定します。

- ■ **Disabled**　Quiet ブート機能を使用しません。
- □ **Enabled**　Quiet ブート機能を使用します。

Add On ROM Display Mode

Add On ROM 表示モードを設定します。

- ■ **Force BIOS**　拡張 BIOS によるメッセージを表示します。
- □ **Keep Current**　Quiet ブート機能の使用時に、拡張 BIOS によるメッセージを表示しません。

Bootup Num-Lock

起動時の Num-Lock を設定します。

- □ **Off**　起動時の Nun-Lock をオフに設定します。
- ■ **On**　起動時の Nun-Lock をオンに設定します。

PS/2 Mouse Support

PS/2 マウスについて設定します。

- □ **Disabled**　PS/2 マウスを使用しません。
- ■ **Enabled**　PS/2 マウスを使用します。

Typematic Rate

キーボードの、リピート開始までの遅延時間を設定します。

- □ **Slow**　遅めに設定します。
- ■ **Fast**　早めに設定します。

System Keyboard

キーボードについて設定します。

- □ **Absent**　キーボードを使用しません。
- ■ **Present**　キーボードを使用します。

重要　「System Keyboard」を「Absent」に設定すると、BIOS セットアップも含めてすべてのキーボード操作ができなくなります。再びキーボードを使用する場合は、CMOS RAM の内容を消去する必要があります。

Parity Check

PCI バスのパリティチェック機能について設定します。

- □ **Disabled**　パリティチェック機能を使用しません。
- ■ **Enabled**　パリティチェック機能を使用します。

Extended Memory Test Mode

メモリテスト方法について設定します。

- ■ **Simple**　簡易テストを行います。
- □ **All**　全領域テストを行います。

Wait For 'F1' If Error

エラー発生時の動作について設定します。

- □ **Disabled**　エラー発生時に、そのまま処理を実行します。
- ■ **Enabled**　エラー発生時にメッセージを表示し、<F1> キーが押されるまで待ちます。

Hit 'DEL' Message Display

BIOS セットアップの起動時の、「Press DEL to run SETUP」のメッセージについて設定します。

- ■ **Disabled**　メッセージを表示しません。
- □ **Enabled**　メッセージを表示します。

Power State

停電後に復電した場合、システムを再起動するかどうかを設定します。

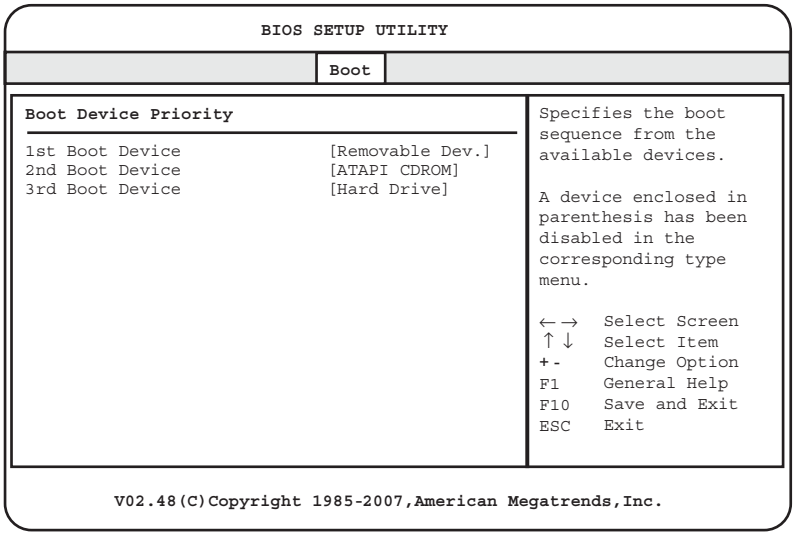
- ■ **Last State**　停電前の電源状態に戻ります。
- □ **Power ON**　復電後にシステムを再起動します。
- □ **Stay OFF**　復電後もシステムは停止した状態となります。この場合は、パワースイッチ（PWRSW）押下により、システムが起動します

Interrupt 19 Capture

INT 19h Capture 機能について設定します。

- ■ **Disabled**　INT 19h Capture 機能を使用しません。
- □ **Enabled**　INT 19h Capture 機能を使用します。

● Boot Device Priority


BIOS SETUP UTILITY
Boot
Boot Device Priority
1st Boot Device [Removable Dev.]
2nd Boot Device [ATAPI CDROM]
3rd Boot Device [Hard Drive]
Specifies the boot sequence from the available devices.
A device enclosed in parenthesis has been disabled in the corresponding type menu.
←→ Select Screen
↑↓ Select Item
+- Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
V02.48(C)Copyright 1985-2007,American Megatrends,Inc.

□：設定項目　■：工場出荷設定値

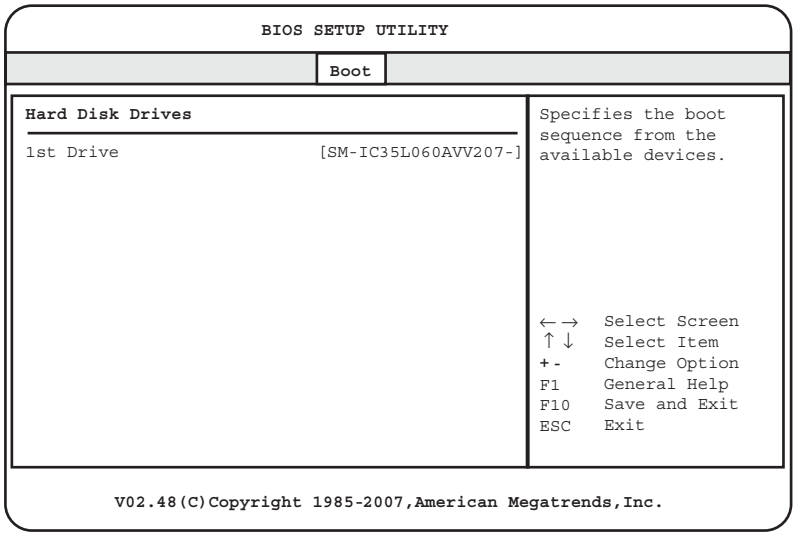
1st ～ 3rd Boot Device

検出された起動デバイスの優先順位を設定します。

- □ **Disabled**　起動デバイスを設定しません。
- □ **Hard Drives**　ハードディスクを設定します。
- ■ **Removable Dev.**　リムーバブルドライブを設定します。
- □ **ATAPI CDROM**　CD-ROM ドライブを設定します。

● Hard Disk Drives

この項目は、起動デバイス（ハードディスク）が接続されている場合に表示されます。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

1st ～ 12th Drive

ハードディスクの優先順位を設定します。

□ **Disabled**	起動デバイスを設定しません。
■ **Hard Disk Drive（型式名）**	起動するハードディスクを設定します。

最大 12 個のハードディスクを設定できます。

備考

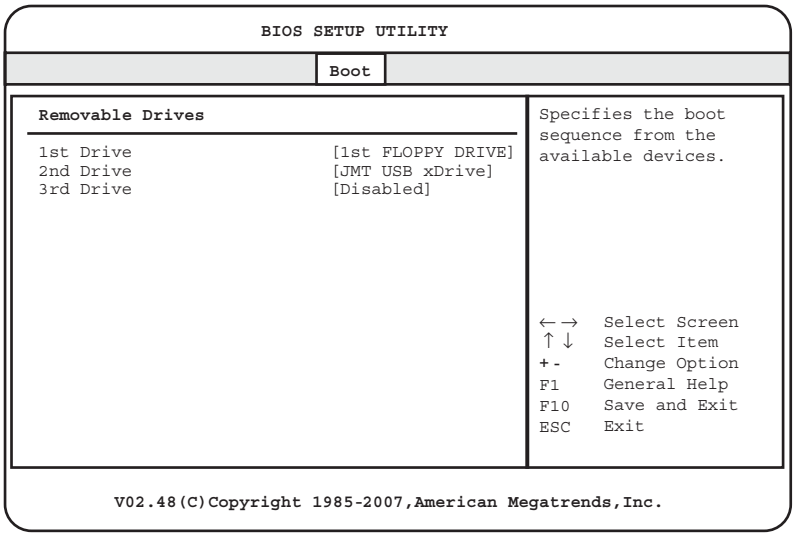
本製品では、接続した順に、ハードディスクの優先順位が自動的に設定されます。優先順位を変更したい場合は、この項目で設定してください。

なお、以下の操作を行うと、優先順位が再設定される場合があります。その場合にも、必要に応じてこの項目で優先順位を設定してください。

- ドライブ構成の変更
- BIOS のアップデート
- Load Optimal Defaults
  （「(12) Exit メニュー」（→ P.129）の「Load Optimal Defaults」）
- Load Failsafe Defaults
  （「(12) Exit メニュー」（→ P.129）の「Load Failsafe Defaults」）

● Removable Drives

この項目は、起動デバイス（リムーバブルドライブ）が接続されている場合に表示されます。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

1st ～ 4th Drive

リムーバブルドライブの優先順位を設定します。

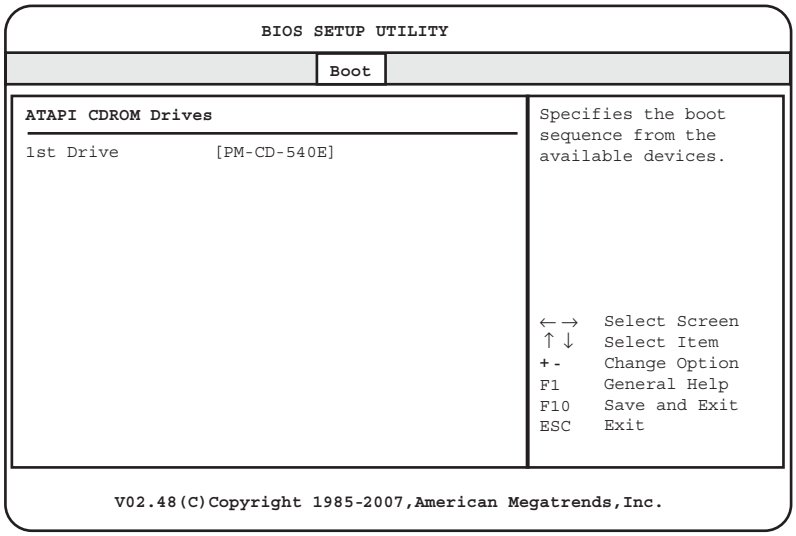
□ **Disabled**　起動デバイスを設定しません。

■ **Removable Drive（デバイス名）**　起動するリムーバブルドライブを設定します。

最大 4 個のリムーバブルドライブを設定できます。

● ATAPI CDROM Drives

この項目は、起動デバイス（CD-ROM ドライブ）が接続されている場合に表示されます。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

1 ～ 4th Drive

CD-ROM ドライブの優先順位を設定します。

□ **Disabled**　　起動デバイスを設定しません。

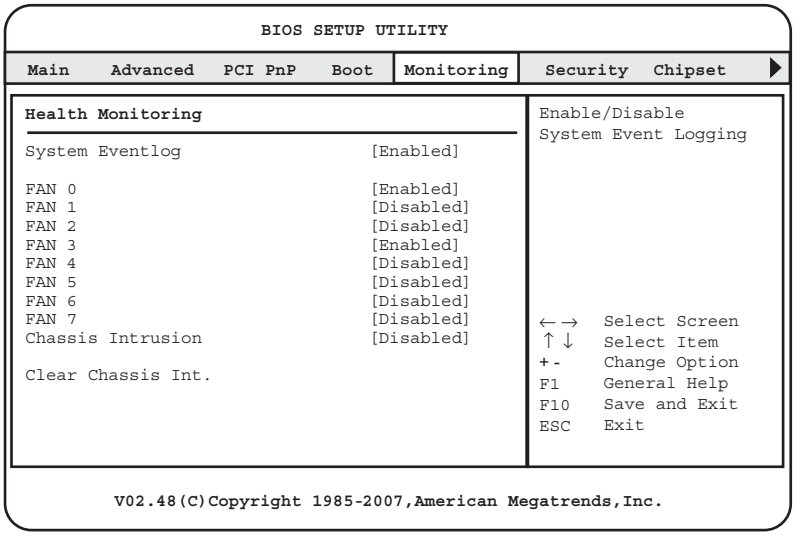
■ **ATAPI CDROM Device（型式名）**

起動する CD-ROM ドライブを設定します。

最大 4 個の ATAPI CD-ROM ドライブを設定できます。

（8） Monitoring メニュー

Monitoring メニューでは、FAN の回転数とシャーシ開閉（シャーシイントリュージョン）の監視に関する設定を行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

System Event Log

イベントログ機能について設定します。

- □ **Disabled**　イベントログ機能を使用しません。
- ■ **Enabled**　イベントログ機能を使用します。

FAN 0 ～ 7

FAN 0 ～ 7 の回転数の監視機能について設定します。

- ■ **Disabled**　FAN 1、2、4 ～ 7 の回転数を監視しません。
- ■ **Enabled**　FAN 0、3 の回転数を監視します。

回転数が約 1,300 回転まで低下した場合、BIOS にイベントログが記録されます。
なお、回転数のしきい値は変更できません。

Chassis Intrusion

シャーシ開閉の監視機能について設定します。

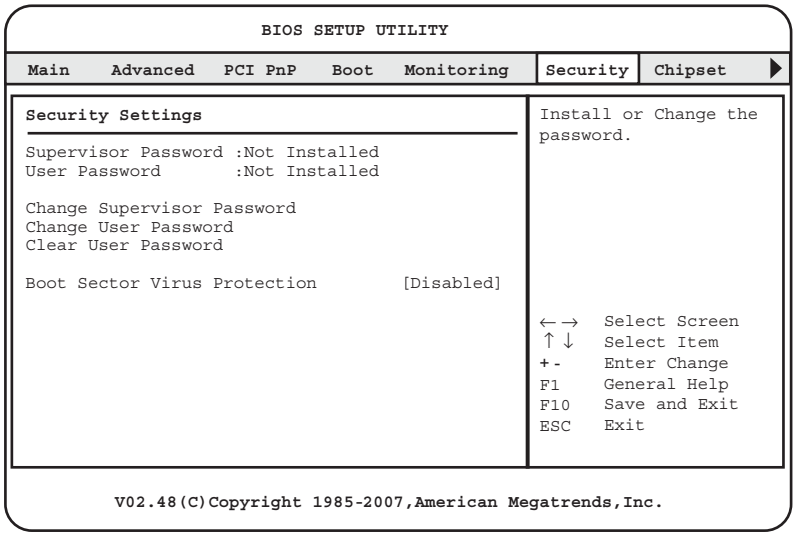
- ■ **Disabled**　シャーシの開閉を監視しません。
- □ **Enabled**　シャーシの開閉を監視します。

Clear Chassis Int.

「Chassis secure switch」で検出した割り込みをクリアします。
本製品では未サポートです。

（9） Security メニュー

Security メニューでは、セキュリティに関する設定を行います。この機能を使用することによって、他のユーザが BIOS 設定を変更したりシステムを起動することを、防ぐことができます。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Supervisor Password

現在の管理者用パスワードの設定が表示されます。

- ■ **Not Installed**　管理者用パスワードが設定されていません。
- □ **Installed**　管理者用パスワードが設定されています。

User Password

現在のユーザ用パスワードの設定が表示されます。

- ■ **Not Installed**　ユーザ用パスワードが設定されていません。
- □ **Installed**　ユーザ用パスワードが設定されています。

備考　セキュリティ機能を使用する場合、管理者用パスワードまたはユーザ用パスワードのどちらか一方を設定してください。

Change Supervisor Password

管理者パスワードを設定／変更します。
パスワードを設定すると、BIOS セットアップを起動する際に、毎回パスワードが必要になります。
以下の手順で、管理者用パスワードを設定／変更します。

1 「Change Supervisor Password」を選択します。
パスワードを入力する画面が表示されます。

2 パスワードを 6 文字以内で入力して、<Enter> キーを押します。
確認のために、パスワードを再入力する画面が表示されます。

3 2 と同じパスワードを再度入力します。
パスワードが設定／変更されます。
パスワードを入力せずに <Enter> キーを押した場合、または異なるパスワードを入力した場合は、パスワードがクリアされます。

- ユーザによる BIOS セットアップの権限を設定する場合は、「(9) Security メニュー」の「● User Access Level」（→ P.123）を参照してください。
- パスワードを入力する場面を設定する場合は、「(9) Security メニュー」の「● Password Check」（→ P.124）を参照してください。

Change User Password

ユーザパスワードを設定／変更します。
パスワードを設定すると、BIOS セットアップを起動する際に、毎回パスワードが必要になります。
以下の手順で、ユーザ用パスワードを設定／変更します。

1 「Change User Password」を選択します。
パスワードを入力する画面が表示されます。

2 パスワードを 6 文字以内で入力して、<Enter> キーを押します。
確認のために、パスワードを再入力する画面が表示されます。

3 2 と同じパスワードを再度入力します。
パスワードが設定／変更されます。
パスワードを入力せずに <Enter> キーを押した場合、または異なるパスワードを入力した場合は、パスワードがクリアされます。

パスワードを入力する場面を設定する場合は、「(9) Security メニュー」の「● Password Check」（→ P.124）を参照してください。

Clear User Password

ユーザ用パスワードを削除します。
「Change User Password」で、パスワードを入力せずに <Enter> キーを押した場合と同じ動作になります。

Boot Sector Virus Protection

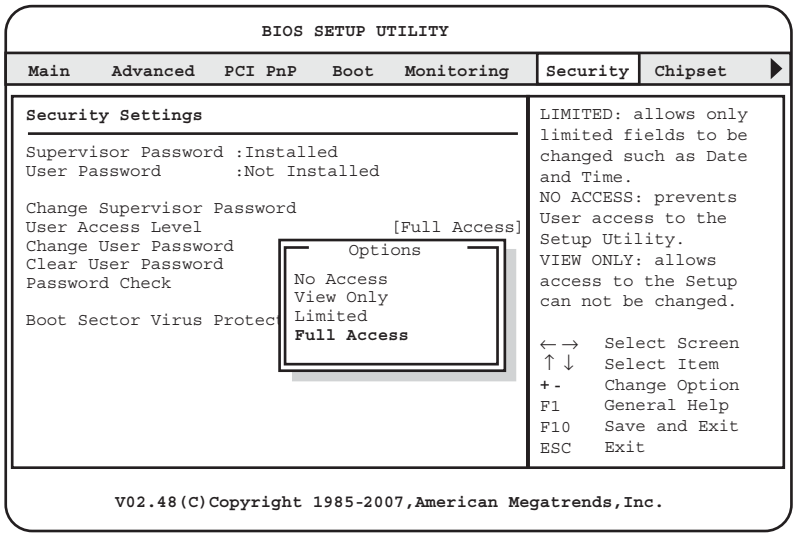
ブートセクタの保護機能について設定します。

■ **Disabled**　ブートセクタへの書き込みを許可します。

□ **Enabled**　ブートセクタへの書き込みを禁止します。

● User Access Level

この項目は、管理者用パスワードを設定した場合に表示されます。


BIOS SETUP UTILITY
Main Advanced PCI PnP Boot Monitoring Security Chipset
Security Settings
Supervisor Password :Installed
User Password :Not Installed
Change Supervisor Password
User Access Level [Full Access]
Change User Password
Clear User Password
Password Check
Boot Sector Virus Protect
Options
No Access
View Only
Limited
Full Access
LIMITED: allows only limited fields to be changed such as Date and Time.
NO ACCESS: prevents User access to the Setup Utility.
VIEW ONLY: allows access to the Setup can not be changed.
← → Select Screen
↑ ↓ Select Item
+ - Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
V02.48(C)Copyright 1985-2007,American Megatrends,Inc.

□：設定項目　■：工場出荷設定値

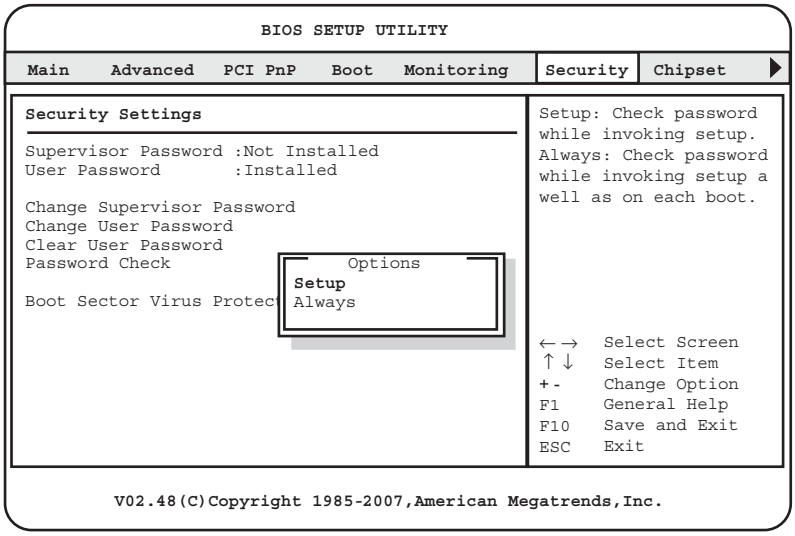
User Access Level

ユーザに対して、BIOS セットアップの権限を設定します。

- □ **No Access**　BIOS セットアップの起動を許可しません。
- □ **View Only**　参照のみを許可します。変更は許可しません。
- □ **Limited**　一部の項目の変更を許可します。
- ■ **Full Access**　すべての機能の変更を許可します。
  （管理者用パスワードとユーザ用パスワードの変更は除く）

● Password Check

この項目は、管理者用パスワードまたはユーザ用パスワードのどちらか 1 つを設定した場合に、表示されます。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Password Check

パスワードを入力する場面を設定します。

- **■ Setup**　BIOS セットアップを起動するときのみ、パスワードを確認します。
- **□ Always**　BIOS セットアップ起動時、およびシステム起動時にもパスワードを確認します。これによって、パスワードを知らない人がシステムを使用することを防ぐことができます。

●セキュリティ機能の動作

1. BIOS セットアップを起動します。
   「Enter CURRENT Password:」と表示されます。
2. パスワードを入力し、<Enter> キーを押します。
   BIOS セットアップが起動します。
   このとき、入力したパスワードによって、管理者とユーザが区別されます。

   備考　間違ったパスワードを 3 回入力すると、BIOS セットアップの起動が拒否されます。

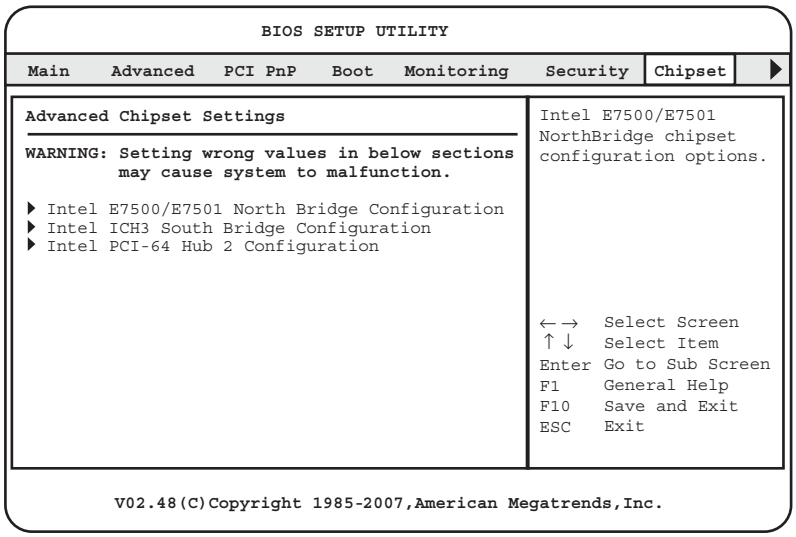
なお、「User Access Level」が「No Access」に設定されている場合、正しいユーザ用パスワードを入力すると、BIOS セットアップの起動がスキップされます。また、パスワードを入力せず <Enter> キーを押した場合も、同様に BIOS セットアップの起動がスキップされます。

また 、「Password Check」が「Always」に設定されている場合、BIOS セットアップ起動時に加え、通常のシステム起動時にもパスワードの入力が要求されます。正しいパスワードを入力して <Enter> キーを押すとシステムが起動しますが、誤ったパスワードを入力するとシステムが停止します。

（10） Chipset メニュー

Chipset メニューでは、チップセットに関する詳細な設定を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを設定します。


BIOS SETUP UTILITY
Main Advanced PCI PnP Boot Monitoring Security Chipset
Advanced Chipset Settings
WARNING: Setting wrong values in below sections may cause system to malfunction.
Intel E7500/E7501 North Bridge Configuration
Intel ICH3 South Bridge Configuration
Intel PCI-64 Hub 2 Configuration
Intel E7500/E7501 NorthBridge chipset configuration options.
← → Select Screen
↑ ↓ Select Item
Enter Go to Sub Screen
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
V02.48(C)Copyright 1985-2007,American Megatrends,Inc.

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Intel E7500/E7501 North Bridge Configuration

Intel E7500/E7501 North Bridge チップセットの機能について設定します。

参照 「（11）Chipset メニューのサブメニュー」の「● Intel E7500/E7501 North Bridge Configuration」（→ P.126）

Intel ICH3 South Bridge Configuration

ICH3 South Bridge チップセットの機能について設定します。

参照 「（11）Chipset メニューのサブメニュー」の「● Intel ICH3 South Bridge Configuration」（→ P.127）

Intel PCI-64 Hub 2 Configuration

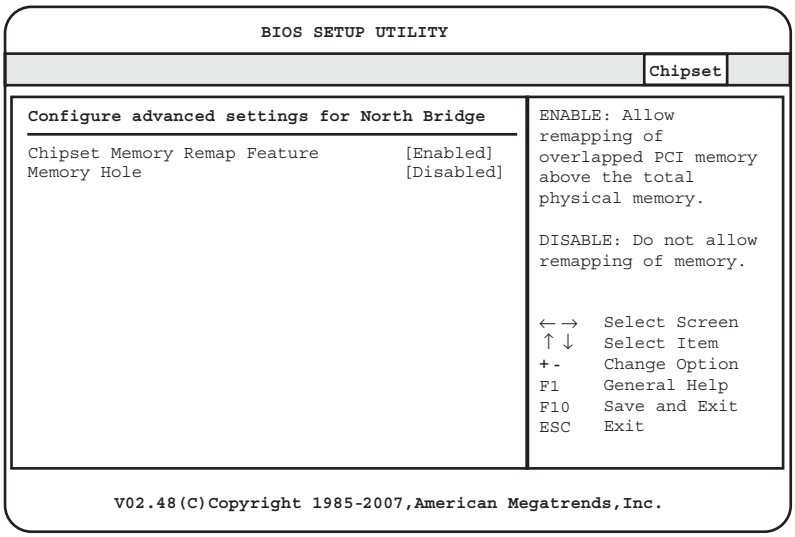
PCI-64 Hub 2 PCI Hub チップセットの機能について設定します。

参照 「（11）Chipset メニューのサブメニュー」の「● Intel PCI-64 Hub 2 Configuration」（→ P.129）

（11） Chipset メニューのサブメニュー

ここでは、Chipset メニューのサブメニューについて説明します。

● Intel E7500/E7501 North Bridge Configuration


BIOS SETUP UTILITY
Chipset
Configure advanced settings for North Bridge
Chipset Memory Remap Feature [Enabled]
Memory Hole [Disabled]
ENABLE: Allow remapping of overlapped PCI memory above the total physical memory.
DISABLE: Do not allow remapping of memory.
← → Select Screen
↑ ↓ Select Item
+ - Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
V02.48(C)Copyright 1985-2007,American Megatrends,Inc.

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Chipset Memory Remap Feature

Chipset Memory Remap 機能について設定します。

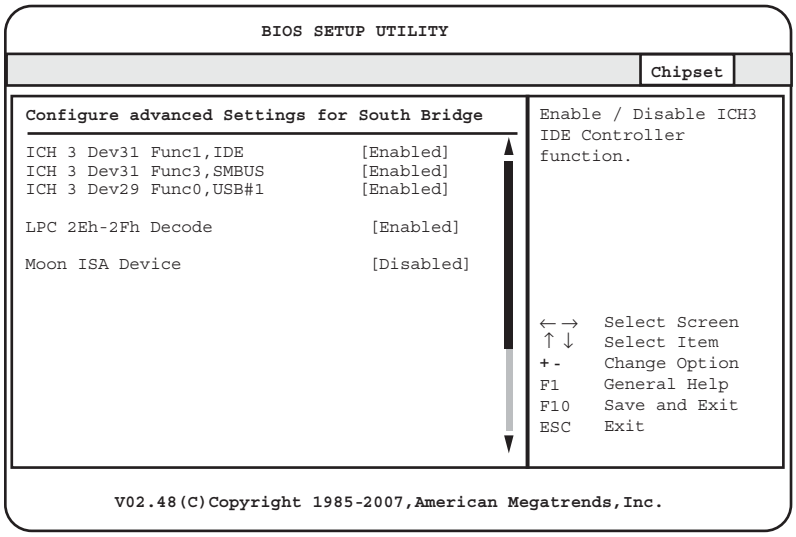
- □ **Disabled**　Chipset Memory Remap 機能を使用しません。
- ■ **Enabled**　Chipset Memory Remap 機能を使用します。

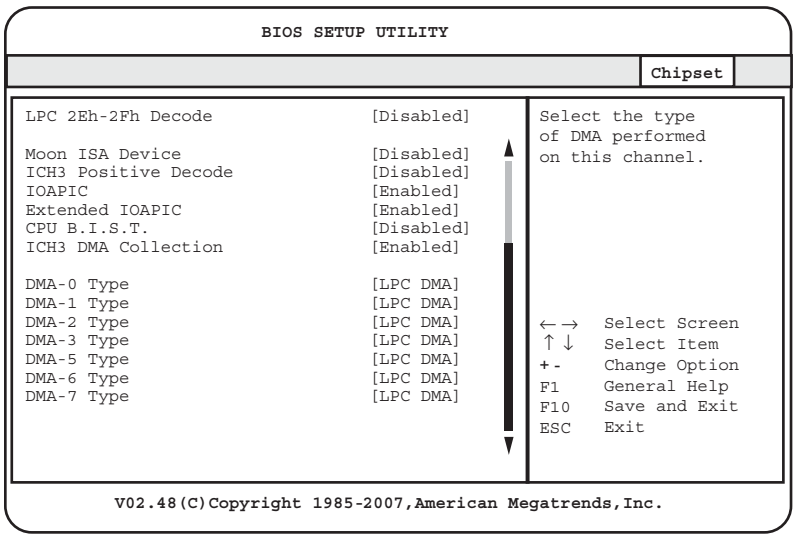
Memory Hole

システムで 15M-16M メモリ空間を使用するかどうかを設定します。

- ■ **Disabled**　15M-16M メモリ空間を使用しません。
- □ **Enabled**　15M-16M メモリ空間を使用します。

● Intel ICH3 South Bridge Configuration





□：設定項目　■：工場出荷設定値

ICH 3 Dev31 Func1,IDE

内蔵 IDE コントローラについて設定します。

- □ **Disabled**　IDE コントローラを使用しません。
- ■ **Enabled**　IDE コントローラを使用します。

ICH 3 Dev31 Func3,SMBUS

SMBUS コントローラについて設定します。

- □ **Disabled**　SMBUS コントローラを使用しません。
- ■ **Enabled**　SMBUS コントローラを使用します。

ICH 3 Dev29 Func0,USB#1

USB コントローラ #1 について設定します。

- ☐ **Disabled** USB コントローラ #1 を使用しません。
- ■ **Enabled** USB コントローラ #1 を使用します。

LPC 2Eh-2Fh Decode

ポート 2Eh ～ 2Fh の LPC によるデコードを、許可するかどうかを設定します。

- ☐ **Disabled** デコードを許可しません。
- ■ **Enabled** デコードを許可します。

Moon ISA Device

オンボード PCI/ISA ブリッジについて設定します。

- ■ **Disabled** PCI/ISA ブリッジを使用しません。
- ☐ **Enabled** PCI/ISA ブリッジを使用します。

ICH3 Positive Decode

ICH3 Positive Decode 機能について設定します。「Moon ISA Device」が「Disabled」の場合に設定できます。

- ■ **Disabled** ICH3 Positive Decode 機能を使用しません。
- ☐ **Enabled** ICH3 Positive Decode 機能を使用します。

IOAPIC

ICH3 の IOAPIC 機能について設定します。

- ☐ **Disabled** IOAPIC 機能を使用しません。
- ■ **Enabled** IOAPIC 機能を使用します。

Extended IOAPIC

ICH3 IOAPIC 機能の拡張モードについて設定します。

- ☐ **Disabled** IOAPIC 機能の拡張モードを使用しません。
- ■ **Enabled** IOAPIC 機能の拡張モードを使用します。

CPU B.I.S.T

CPU Built-In Self Test 機能について設定します。

- ■ **Disabled** CPU Built-In Self Test 機能を使用しません。
- ☐ **Enabled** CPU Built-In Self Test 機能を使用します。

ICH3 DMA Collection

ICH3 の DMA Collention Buffer について設定します。

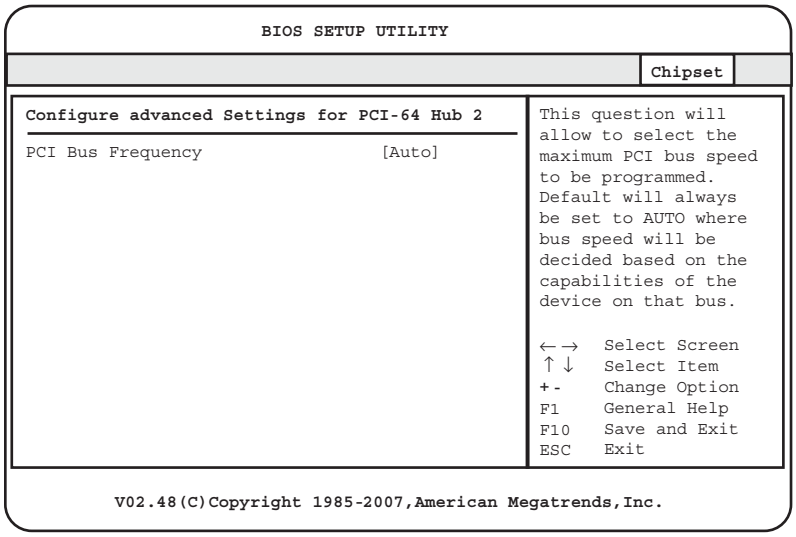
- ☐ **Disabled** DMA Collection Buffer を使用しません。
- ■ **Enabled** DMA Collection Buffer を使用します。

DMA-0 ～ DMA-7 Type

DMA チャネルの動作について設定します。

- ☐ **PC / PCI** PC/PCI タイプに設定します。
- ■ **LPC DMA** LPC DMA タイプに設定します。

● Intel PCI-64 Hub 2 Configuration


BIOS SETUP UTILITY
Chipset
Configure advanced Settings for PCI-64 Hub 2
PCI Bus Frequency [Auto]
This question will allow to select the maximum PCI bus speed to be programmed. Default will always be set to AUTO where bus speed will be decided based on the capabilities of the device on that bus.
←→ Select Screen
↑↓ Select Item
+- Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
V02.48(C)Copyright 1985-2007,American Megatrends,Inc.

□：設定項目　■：工場出荷設定値

PCI Bus Frequency

PCI バスの動作クロックを設定します。

□ 66Mhz、□ 100Mhz、□ 133Mhz
PCI バスの動作クロックを、選択した周波数に設定します。

■ Auto　PCI バスの動作クロックを自動的に設定します。

（12） Exit メニュー

Exit メニューでは、設定を保存したり初期設定値に戻すなどして、BIOS セットアップを終了します。

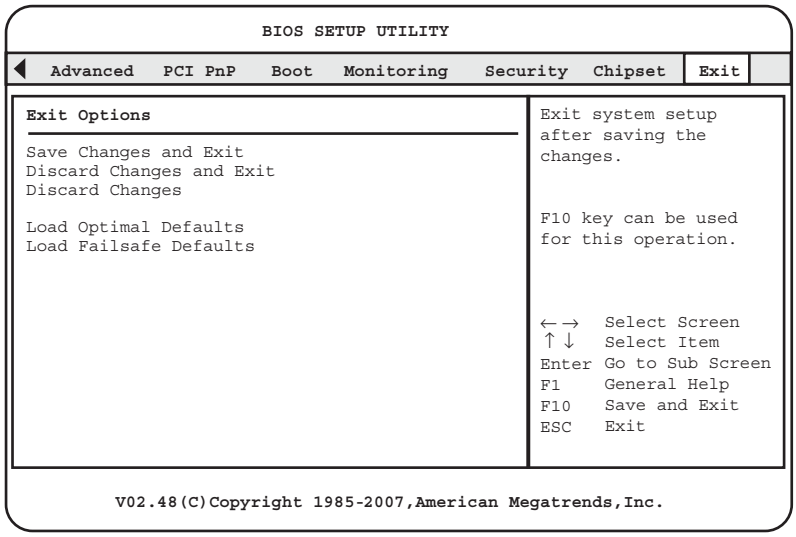
BIOS セットアップの初期設定値には、以下の 2 種類があります。

- 工場出荷設定値　：お客さまがご購入時に、すでに設定されている値
- 自動安全制御設定値：CMOS RAM の異常時に、自動的に設定される値

備考

CMOS RAM の異常とは、以下のような場合です。

- CMOS RAM のバッテリ異常
- CMOS RAM のチェックサム異常


BIOS SETUP UTILITY
Advanced PCI PnP Boot Monitoring Security Chipset Exit
Exit Options
Save Changes and Exit
Discard Changes and Exit
Discard Changes
Load Optimal Defaults
Load Failsafe Defaults
Exit system setup after saving the changes.
F10 key can be used for this operation.
← → Select Screen
↑ ↓ Select Item
Enter Go to Sub Screen
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
V02.48(C)Copyright 1985-2007,American Megatrends,Inc.

Save Changes and Exit

設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。
(<F10> キーを使用した場合と同じ動作となります。)

Discard Changes and Exit

設定内容を保存しないで、BIOS セットアップを終了します。
(<ESC> キーを使用した場合と同じ動作となります。)

Discard Changes

CMOS RAM に保存されている設定を読み出して、前回の設定内容に戻します。
(<F7> キーを使用した場合と同じ動作となります。)

Load Optimal Defaults

設定内容を、工場出荷時の設定に戻します。
(<F9> キーを使用した場合と同じ動作となります。)

Load Failsafe Defaults

設定内容を、自動安全制御設定にします。
(<F8> キーを使用した場合と同じ動作となります。)

参照 「4.5 BIOS セットアップのメニュー（モデル 210)」の「(2) BIOS セットアップで使用するキー」(→ P.49)

4.6 BIOS セットアップのメニュー（モデル 220）

BIOS セットアップのメニューは、以下の 6 つに分かれています。さらに、Main メニュー、Advanced メニュー、Power メニューおよび Boot メニューには、より詳細な設定を行うためのサブメニューが用意されています。

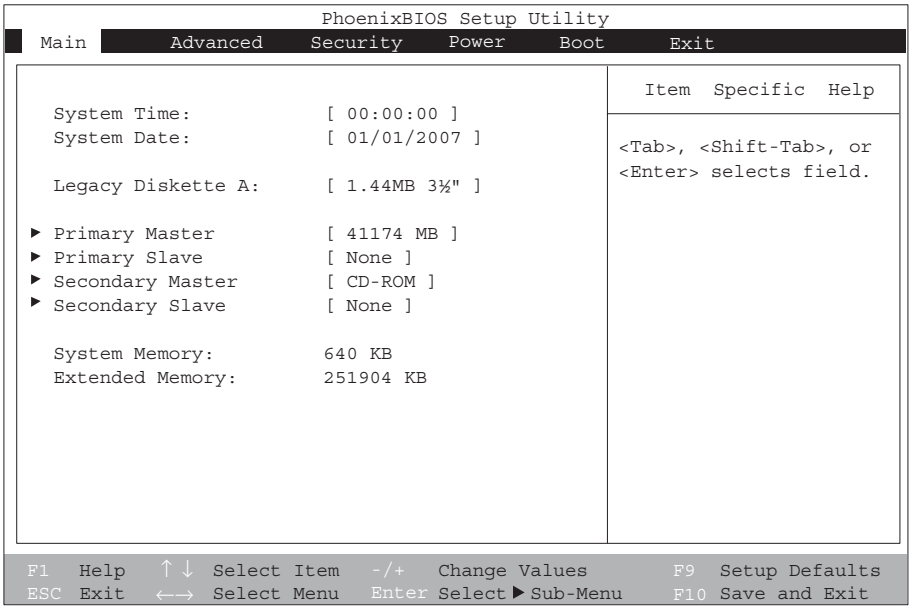
メニュー名	内　容	参照ページ
Main	日時やドライブの設定など、基本的なシステムコンフィグレーションに関する設定を行います。	132
Advanced	内蔵機器のポートアドレスやチップセットに関連した、高度な設定を行います。	135
Security	BIOS セットアップを起動する際のパスワード認証に関する設定を行います。	147
Power	省電力モードに関する設定を行います。	147
Boot	起動に関する設定を行います。	150
Exit	BIOS セットアップの終了、設定値の変更および保存を行います。	153

以降、各メニューの項目の詳細について説明します。

参照 操作方法については、「4.2 BIOS セットアップの操作（モデル 200/220/210E）」の「●モデル 220 の場合」（→ P.43）を参照してください。

（1） Main メニュー

Main メニューでは、基本的なシステム構成について設定／表示を行います。
< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを設定します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
System Time: [00:00:00]
System Date: [01/01/2007]
Legacy Diskette A: [1.44MB 3½"]
Primary Master [41174 MB]
Primary Slave [None]
Secondary Master [CD-ROM]
Secondary Slave [None]
System Memory: 640 KB
Extended Memory: 251904 KB
<Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter> selects field.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

System Time　時：分：秒を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

System Date　月／日／年（西暦）を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

Legacy Diskette A　フロッピーディスクドライブ A の使用について、設定します。使用可能なフロッピーディスクドライブは、3.5 インチ 1.44MB のみです。

- □ **Disabled**　フロッピーディスクドライブを使用しません。
- ■ **1.44MB 3 1/2"**　3.5 インチ 1.44MB ドライブを使用します。

Primary Master
Primary Slave
Secondary Master
Secondary Slave　各 IDE ドライブのタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。

参照 「(2) Main メニューのサブメニュー」（→ P.133）

System Memory　基本メモリ容量が表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

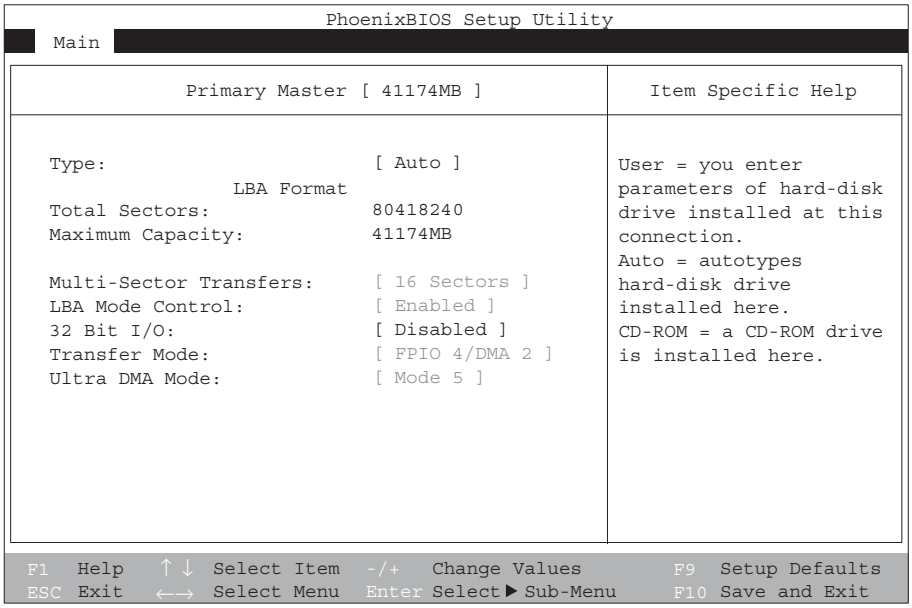
Extended Memory　拡張メモリ容量が表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

（2） Main メニューのサブメニュー

ここでは、Main メニューのサブメニューについて説明します。

● IDE ドライブ詳細設定

各ドライブ（プライマリマスター、プライマリスレーブ、セカンダリマスター、セカンダリスレーブ）のハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。



この画面では、BIOS で認識したハードディスクの LBA（論理ブロックアドレッシング）での総セクタ数とハードディスク容量を表示します。8.4GB 以下のハードディスクについては、シリンダ数、ヘッド数、およびセクタ数とハードディスク容量を、併せて表示します。以下は、「Primary Master」の例です。

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type　IDE ドライブの接続の有無や、各パラメタを設定します。

- **■ Auto**　自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。ハードディスクが接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数など）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。
- **□ None**　ハードディスクを未接続とします。
- **□ CD-ROM**　CD-ROM（IDE）ドライブを接続します。
- **□ ATAPI Removable**　ATAPI リムーバブルデバイスを接続します。
- **□ User**　各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数など）を直接指定します。

Multi-Sector Transfers
複数のセクタのデータを、一括して転送するかどうかを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定可能です。

- ☐ **Disabled** 1 セクタずつ転送します。
- ☐ **2 Sectors~ 16 Sectors** 一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control
LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定可能です。

- ☐ **Disabled** LBA モードを使用しません。
- ☐ **Enabled** LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O
内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。「None」以外を指定した場合に設定可能です。

- ■ **Disabled** 32 ビット転送をしません。
- ☐ **Enabled** 32 ビット転送をします。

Transfer Mode
データの転送モードを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定可能です。
各モードの設定では数値が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

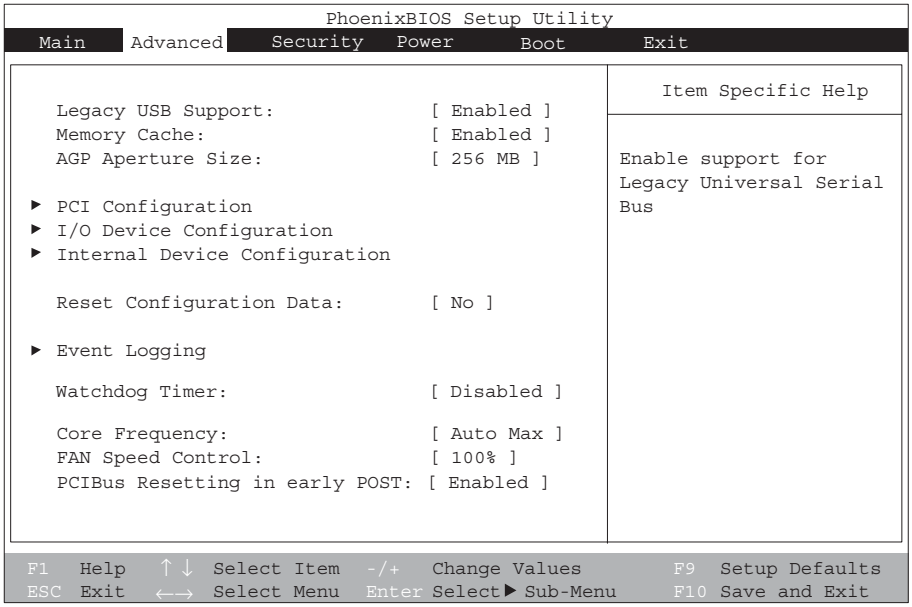
- ☐ **Standard** PIO Mode 0 に設定します。
- ☐ **Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4** Fast PIO Mode 1 ～ Fast PIO Mode 4 のいずれかを選択します。
- ☐ **FPIO 3/DMA 1** Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。
- ☐ **FPIO 4/DMA 2** Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

Ultra DMA Mode
Ultra DMA モードの使用について設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定可能です。

- ☐ **Disabled** Ultra DMA モードを使用しません。
- ☐ **Mode 0 ～ Mode 5** Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

（3） Advanced メニュー

Advanced メニューでは、本製品に搭載されたデバイスについて詳細な設定を行います。
< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
Legacy USB Support: [Enabled]
Memory Cache: [Enabled]
AGP Aperture Size: [256 MB]
Enable support for Legacy Universal Serial Bus
▶ PCI Configuration
▶ I/O Device Configuration
▶ Internal Device Configuration
Reset Configuration Data: [No]
▶ Event Logging
Watchdog Timer: [Disabled]
Core Frequency: [Auto Max]
FAN Speed Control: [100%]
PCIBus Resetting in early POST: [Enabled]
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Legacy USB Support　USB をサポートしていない OS での、USB キーボードや USB マウスの使用について設定します。

- ■ **Enabled**　レガシー USB サポートを有効にします。
- □ **Disabled**　レガシー USB サポートを無効にします。

重要　USB ストレージデバイス（USB フロッピーディスクドライブ、USB CD-ROM ドライブ）を起動ドライブの対象にする場合は、この設定を「Enabled」にする必要があります。

Memory Cache　2 次キャッシュ（L2 キャッシュ）の使用について、設定します。

- □ **Disabled**　L2 キャッシュを使用しません。
- ■ **Enabled**　L2 キャッシュを使用します。

AGP Aperture Size　AGP のビデオカードが使用するメモリ空間のサイズを設定します。

- ■ **256 MB**　256MB 分の空間を使用します。
- □ **128 MB**　128MB 分の空間を使用します。
- □ **64 MB**　64MB 分の空間を使用します。

PCI Configuration 外部 PCI スロットに対する資源の割り当ての設定を行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● PCI Configuration」(→ P.138)

I/O Device Configuration 内蔵機器の、I/O ポートアドレスや IRQ の設定などを行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● I/O Device Configuration」(→ P.140)

Internal Device Configuration 内蔵デバイスに関する設定を行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Internal Device Configuration」(→ P.142)

Reset Configuration Data ESCD (Extended System Configuration Data) 領域のデータ初期化を指定します。「Yes」に変更後、再起動すると、データが初期化されます。PCI カードなどのコンフリクトを原因とする起動エラー (Invalid System Configuration Data) が発生した場合、本機能により解決できる場合があります。

重要 本項目の設定値は、データ初期化を実行後、自動的に「No」へ戻ります。

Event Logging イベントログ機能の設定を行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Event Logging」(→ P.144)

Watchdog Timer POST 終了時に、Watchdog Timer を起動するかどうかを指定します。

- □ **Enabled** POST 終了時に、Watchdog Timer を起動します。
- ■ **Disabled** POST 終了時に、Watchdog Timer を起動しません。

重要 Watchdog Timer の時間は約 38 秒としています。この時間内に Heart Beat できない場合は、この設定を「Disabled」に設定してください。

Core Frequency メモリクロックおよびグラフィックコアの、動作クロックを指定します。

選択可能なクロックは以下のとおりです。

- ■ **Auto Max** メモリの種類を自動的に判別し、最適なクロックを使用します。
- □ **200MHz/133MHz**
- □ **200MHz/200MHz**
- □ **266MHz/200MHz**
- □ **333MHz/250MHz**

FAN Speed Control

ファンの回転速度を設定します。FAN0 ～ FAN3 コネクタに接続されたすべてのファンの回転速度は、本項目の設定値に連動して変化します。

- □ **25%** Duty 比 25% でファンを回転させます。
- □ **50%** Duty 比 50% でファンを回転させます。
- □ **75%** Duty 比 75% でファンを回転させます。
- ■ **100%** フルスピードでファンを回転させます。

本製品はパルス幅変調（PWM）方式によりファンの回転速度を制御しています。本設定は、このパルス幅変調の Duty 比を指定するものであり、実際のファンの回転数比率を指定するものではありません。

PCIBus Resetting in early POST

POST 時の PCI バスのリセットについて設定します。

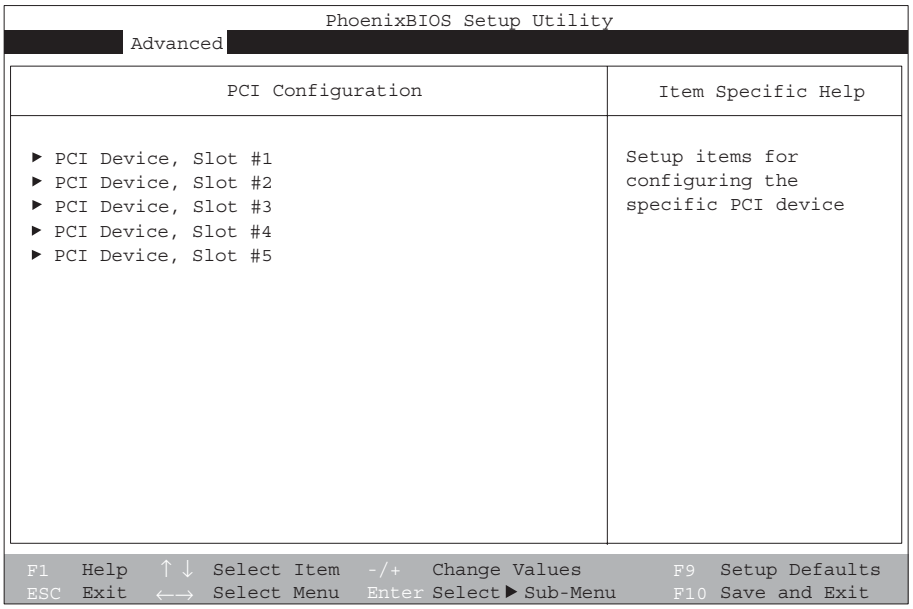
- ■ **Enabled** POST 時に PCI バスをリセットします。
- □ **Disabled** POST 時に PCI バスをリセットしません。

（4） Advanced メニューのサブメニュー

ここでは、Advanced メニューのサブメニューについて説明します。

● PCI Configuration

PCI スロットに関する設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
PCI Configuration
Item Specific Help
▶ PCI Device, Slot #1
▶ PCI Device, Slot #2
▶ PCI Device, Slot #3
▶ PCI Device, Slot #4
▶ PCI Device, Slot #5
Setup items for configuring the specific PCI device
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

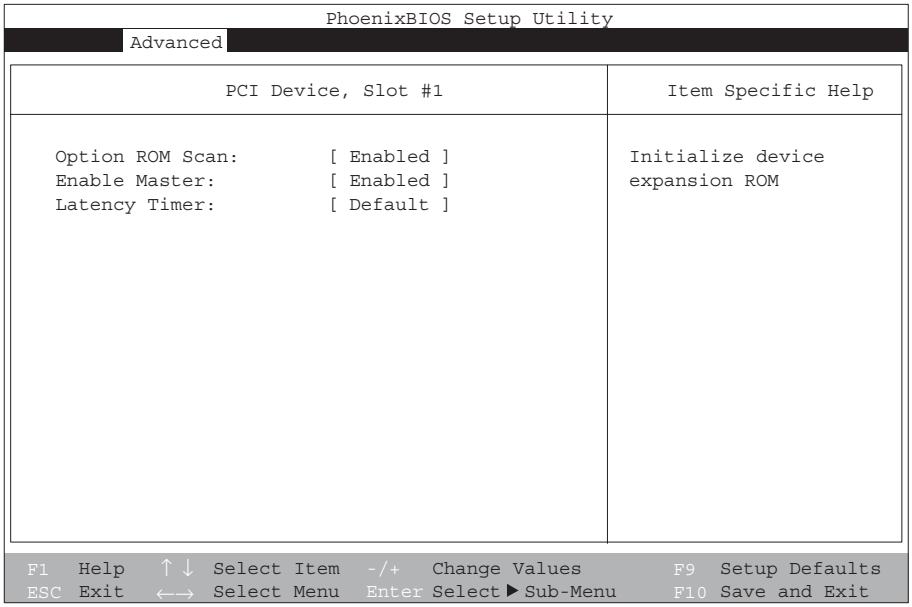
PCI Device, Slot #n　PCI デバイスまたは PCI スロット #1 ～ #5 のコンフィグレーションを行います。

参照「● PCI Configuration のサブメニュー」の「PCI Device, Slot #n」（→ P.139）

● PCI Configuration のサブメニュー

PCI Configuration のサブメニューについて説明します。

PCI Device, Slot #n


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
PCI Device, Slot #1
Item Specific Help
Option ROM Scan: [Enabled]
Enable Master: [Enabled]
Latency Timer: [Default]
Initialize device expansion ROM
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Option ROM Scan　PCI デバイスに搭載されているオプション ROM をスキャンするかどうかを、指定します。

- ■ **Enabled**　スキャンします。
- □ **Disabled**　スキャンしません。

Enable Master　接続されているデバイスを PCI バスマスターデバイスとして使用するかどうかを、指定します。

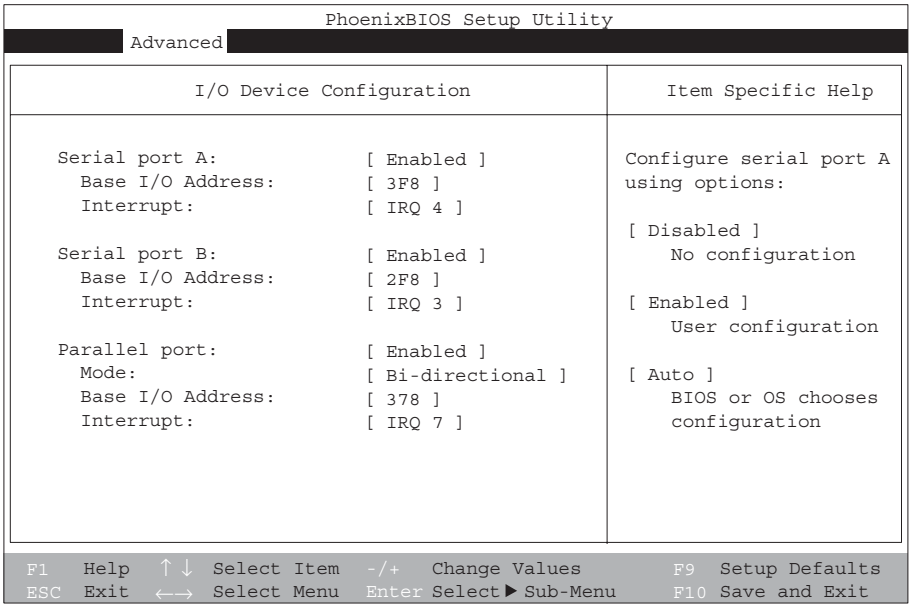
- ■ **Enabled**　バスマスターデバイスとして使用します。
- □ **Disabled**　バスマスターデバイスとして使用しません。

Latency Timer　バスマスターデバイスとして使用する場合の、PCI バスの使用優先度を指定します。

- ■ **Default**　標準の優先度とします。
- □ **0020h ～ 00E0h**　優先度を PCI バスクロック数で指定します。高速なデバイスに対して大きな値を指定すると、高い性能が得られます。

● I/O Device Configuration

内蔵機器の I/O ポートアドレスや IRQ（割り込みレベル）の設定などを行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
I/O Device Configuration
Item Specific Help
Serial port A: [Enabled]
Base I/O Address: [3F8]
Interrupt: [IRQ 4]
Serial port B: [Enabled]
Base I/O Address: [2F8]
Interrupt: [IRQ 3]
Parallel port: [Enabled]
Mode: [Bi-directional]
Base I/O Address: [378]
Interrupt: [IRQ 7]
Configure serial port A using options:
[Disabled]
No configuration
[Enabled]
User configuration
[Auto]
BIOS or OS chooses configuration
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Serial port A
Serial port B

内蔵シリアルポート A（または B）の I/O ポートアドレスおよび IRQ を指定します。

■ Enabled

シリアルポート A（または B）を使用します。本設定値を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

Base I/O address

I/O ポートアドレスを以下の 4 種類から選択します。

- **■ 3F8（Serial port A）**
- **■ 2F8（Serial port B）**
- **□ 3E8**
- **□ 2E8**

Interrupt

割り込みレベルを以下の2種類から選択します。

- **■ IRQ 4（Serial port A）**
- **■ IRQ 3（Serial port B）**

□ Auto

シリアルポート A（または B）を使用します。
I/O ポートアドレスおよび IRQ は自動的 に設定されます。

□ Disabled

シリアルポート A（または B）を使用しません。

Parallel port　内蔵パラレルポートの動作モード、I/O ポートアドレスおよび IRQ を指定します。

■ **Enabled**　パラレルポートを使用します。本設定値を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

Mode　パラレルポートの動作モードを指定します。

■ **Bi-directional**　双方向モードで動作します。

□ **ECP**　ECP モードで動作します。

□ **EPP**　EPP モードで動作します。

□ **Output only**　単方向モードで動作します。

Base I/O address　I/O ポートアドレスを以下の 2 種類から選択します。

□ **278**、■ **378**

Interrupt　割り込みレベルを以下の 2 種類から選択します。

□ **IRQ 5**、■ **IRQ 7**

DMA channel　DMA チャネルを指定します。動作モードに ECP を指定した場合にのみ設定可能です。

□ **DMA 1**　DMA チャネル 1 を使用します。

□ **DMA 3**　DMA チャネル 3 を使用します。

□ **Auto**　パラレルポートを使用し、動作モードのみを選択します。I/O ポートアドレス、IRQ および DMA チャネルは自動的に設定されます。

Mode　パラレルポートの動作モードを指定します。

□ **Bi-directional**　双方向モードで動作します。

□ **ECP**　ECP モードで動作します。

□ **EPP**　EPP モードで動作します。

□ **Output only**　単方向モードで動作します。

□ **Disabled**　パラレルポートを使用しません。

重要

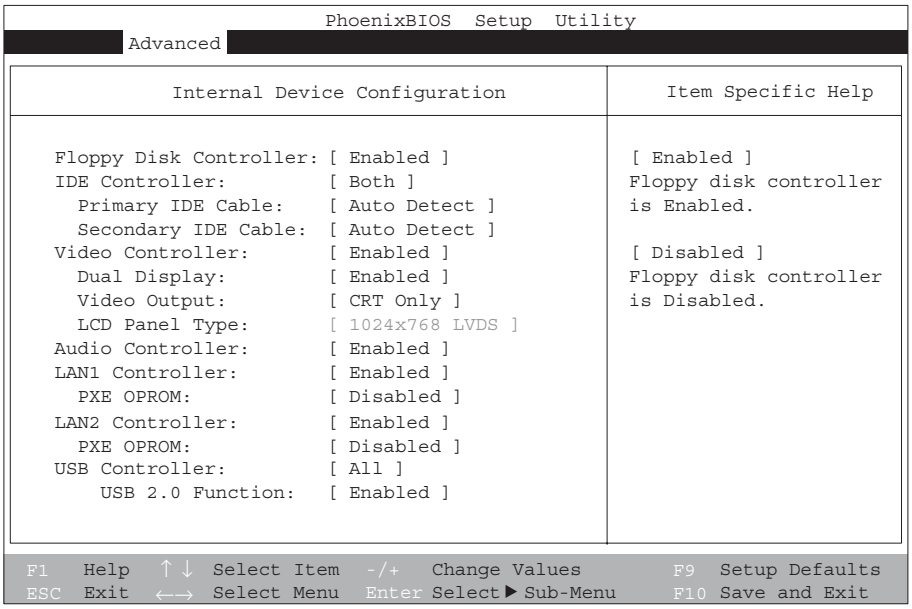
シリアルポートおよびパラレルポートの設定を「Auto」にして使用する場合、PCI デバイスに対する各リソース（I/O ポートアドレスや IRQ）の割り当てが優先されます。

その結果、シリアルポートやパラレルポートに割り当て可能なリソースが不足することにより、シリアルポートやパラレルポートが無効に設定される場合があります。

このため、シリアルポートやパラレルポートを優先して使用する場合は、「Auto」ではなく「Enabled」に設定してください。

● Internal Device Configuration

各コントローラについて設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Internal Device Configuration
Item Specific Help
Floppy Disk Controller: [Enabled]
IDE Controller: [Both]
Primary IDE Cable: [Auto Detect]
Secondary IDE Cable: [Auto Detect]
Video Controller: [Enabled]
Dual Display: [Enabled]
Video Output: [CRT Only]
LCD Panel Type: [1024x768 LVDS]
Audio Controller: [Enabled]
LAN1 Controller: [Enabled]
PXE OPROM: [Disabled]
LAN2 Controller: [Enabled]
PXE OPROM: [Disabled]
USB Controller: [All]
USB 2.0 Function: [Enabled]
[Enabled]
Floppy disk controller is Enabled.
[Disabled]
Floppy disk controller is Disabled.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定

Floppy Disk Controller

本製品内のフロッピーディスクコントローラの使用について、設定します。

- ■ **Enabled**　フロッピーディスクコントローラを使用します。
- □ **Disabled**　フロッピーディスクコントローラを使用しません。

IDE Controller

本製品内の IDE コントローラの使用について、設定します。

- ■ **Both**　プライマリおよびセカンダリの IDE コントローラを使用します。
- □ **Primary**　プライマリ IDE コントローラのみ使用します。
- □ **Secondary**　セカンダリ IDE コントローラのみ使用します。
- □ **Disabled**　IDE コントローラを使用しません。

Primary IDE Cable
Secondary IDE Cable

使用する IDE ケーブルタイプを指定します。

- ■ **Auto Detect**　ケーブルタイプを自動判別します。
- □ **80-Wire**　Ultra ATA/100 まで対応可能な IDE 80 芯ケーブルを使用します。
- □ **40-Wire**　Ultra ATA/33 まで対応可能な IDE 40 芯ケーブルを使用します。

重要

- IDE デバイス側の仕様により、IDE 80 芯ケーブルを使用していてもそのケーブルの自動判別ができない場合があります。
- IDE ドライブ詳細設定（「(2) Main メニューのサブメニュー」(→ P.133)）内の「Type」が「Auto」であるときの「Ultra DMA Mode」が、そのデバイスで対応可能なもっとも高い転送モードであることを確認してください。
もっとも高い転送モードになっていない場合、本メニューで「80-Wire」に変更後、再起動すると、転送モードが変更される場合があります。

Video Controller

本製品内のビデオコントローラの使用について、設定します。

- ■ **Enabled** ビデオコントローラを使用します。
- □ **Disabled** ビデオコントローラを使用しません。

Dual Display

デュアルディスプレイ機能の使用について、設定します。

- ■ **Enabled** デュアルディスプレイ機能を使用します。
- □ **Disabled** デュアルディスプレイ機能を使用しません。

Video Output

Video の出力先を指定します。なお、LCD （液晶ディスプレイ）表示時に使用可能な画面の解像度は、LCD の解像度に依存します。例えば、1024 × 768 の LCD を使用している場合は、640 × 480 や 800 × 600 の表示はできません。

- □ **CRT & LCD** CRT と LCD を同時に表示します。
- ■ **CRT Only** CRT のみ表示します。
- □ **LCD Only** LCD のみ表示します。
- □ **VBIOS Default** ビデオ BIOS のデフォルト設定に従います。

重要

本設定は、Windows® XP および Windows® 2000 でディスプレイドライバを使用する場合には 、無効です。これらの OS では、ディスプレイドライバの設定で出力先を指定します。

LCD Panel Type

液晶ディスプレイパネルの形式を指定します。

- ■ **1024x768 LVDS**

Audio Controller

本製品内の AC'97 オーディオコントローラの使用について、設定します。

- ■ **Enabled** AC'97 オーディオコントローラを使用します。
- □ **Disabled** AC'97 オーディオコントローラを使用しません。

LAN1 Controller

本製品内の LAN1 コントローラの使用について、設定します。

- ■ **Enabled** LAN ポート 1 のコントローラを使用します。
- □ **Disabled** LAN ポート 1 のコントローラを使用しません。

PXE OPROM

本製品内の LAN1 コントローラ用 PXE オプション ROM 機能の使用について、設定します。

- □ **Enabled** PXE オプション ROM 機能を使用します。
- ■ **Disabled** PXE オプション ROM 機能を使用しません。

LAN2 Controller

本製品内の LAN2 コントローラの使用について、設定します。

- ■ **Enabled** LAN ポート 2 のコントローラを使用します。
- □ **Disabled** LAN ポート 2 のコントローラを使用しません。

PXE OPROM 本製品内の LAN2 コントローラ用 PXE オプション ROM 機能の使用について、設定します。

- □ **Enabled** PXE オプション ROM 機能を使用します。
- ■ **Disabled** PXE オプション ROM 機能を使用しません。

USB Controller 本製品内の USB コントローラの使用について、設定します。

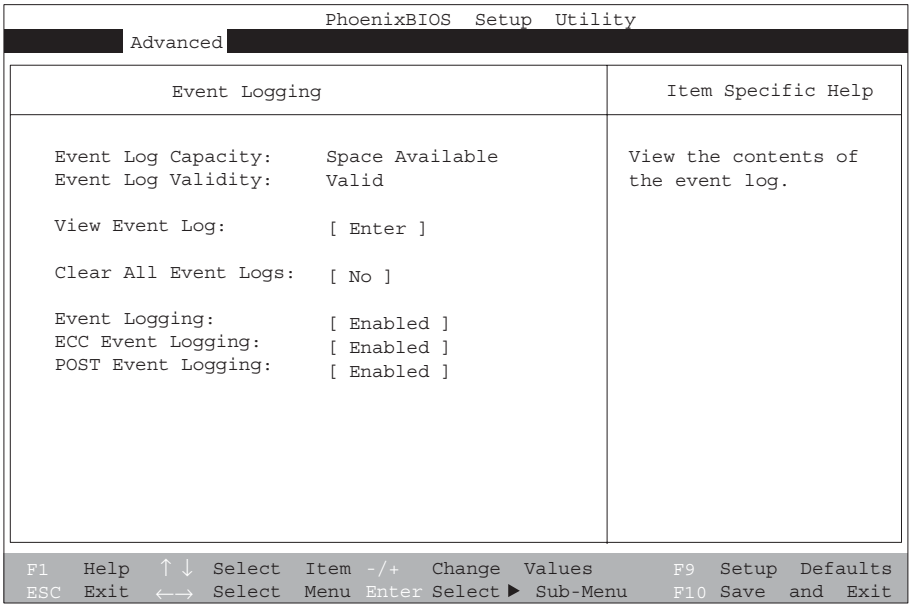
- ■ **All** すべての USB ポート（0 ～ 5）を使用します。
- □ **4 Port** USB ポート 0、1、2、3 のみ使用します。
- □ **2 Port** USB ポート 0、1 のみ使用します。
- □ **Disabled** すべての USB ポートを使用しません。

USB 2.0 Function USB 2.0 機能の使用について設定します。

- ■ **Enabled** USB 2.0 機能を使用します。
- □ **Disabled** USB 2.0 機能を使用しません。

● Event Logging

イベントログ機能に関する設定などを行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Event Logging
Item Specific Help
Event Log Capacity: Space Available
Event Log Validity: Valid
View Event Log: [Enter]
Clear All Event Logs: [No]
Event Logging: [Enabled]
ECC Event Logging: [Enabled]
POST Event Logging: [Enabled]
View the contents of the event log.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定

Event Log Capacity 現在のイベントログ領域の状態を表示します。本設定は選択できません。

- ■ **Space Available** イベントログ領域に保存可能です。
- □ **Full** イベントログ領域に空きがないため、保存できません。

重要

イベントログ領域の全体サイズは固定であり、保存可能なログ情報の数は最大127 個です。

「Event Log Capacity」欄に 「Full」と表示された場合は、イベントログ領域に空きがないことを示しています。以後のイベントログを採取する場合は、本設定画面内の「Clear All Event Logs」の値を「Yes」に設定し、ログ情報を消去してください。

Event Log Validity 現在のイベントログ領域の内容が有効かどうかを表示します。本設定は選択できません。

- ■ **Valid** イベントログ領域の内容が有効です。
- □ **Not Valid** イベントログ領域の内容が無効です。

View Event Log ログ情報の内容を表示します。この欄に「Enter」と表示されている場合は、<Enter> キーを押すと、採取されているログ情報が画面に表示されます。

Clear All Event Logs ログ情報を消去する場合に使用します。

- ■ **No** ログ情報の内容を保持します。
- □ **Yes** ログ情報を消去する場合に指定します。BIOS セットアップ を終了して再起動するタイミングで、ログ情報の消去が行われます。本設定の内容は、再起動後「No」に戻ります。

Event Logging イベントログ機能の使用について設定します。

- ■ **Enabled** イベントログ機能を使用します。
- □ **Disabled** イベントログ機能を使用しません。この場合、本設定画面には、「ECC Event Logging」および「POST Event Logging」は表示されません。

ECC Event Logging ECC エラーに関するログ情報を採取するかどうかを指定します。

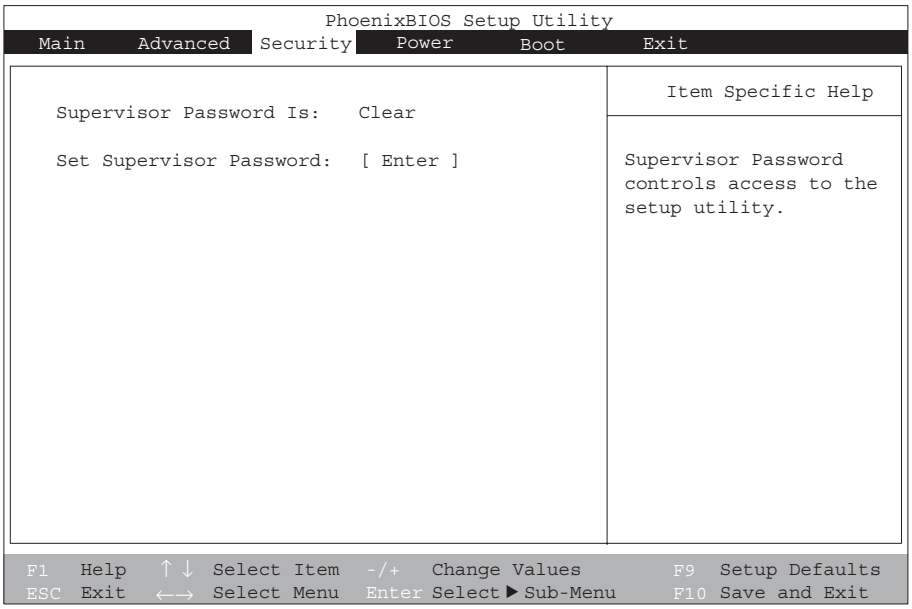
- ■ **Enabled** ECC エラーのログ情報を採取します。
- □ **Disabled** ECC エラーのログ情報を採取しません。

POST Event Logging POST エラーに関するログ情報を採取するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled** POST エラーのログ情報を採取します。
- □ **Disabled** POST エラーのログ情報を採取しません。

（5） Security メニュー

Security メニューでは、システムのパスワードに関する設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Supervisor Password Is: Clear
Set Supervisor Password: [Enter]
Item Specific Help
Supervisor Password controls access to the setup utility.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

Supervisor Password Is BIOS セットアップを起動するための管理者用パスワードの状態を表示します。

Set Supervisor Password BIOS セットアップを起動するための管理者用パスワードを設定します。

重要

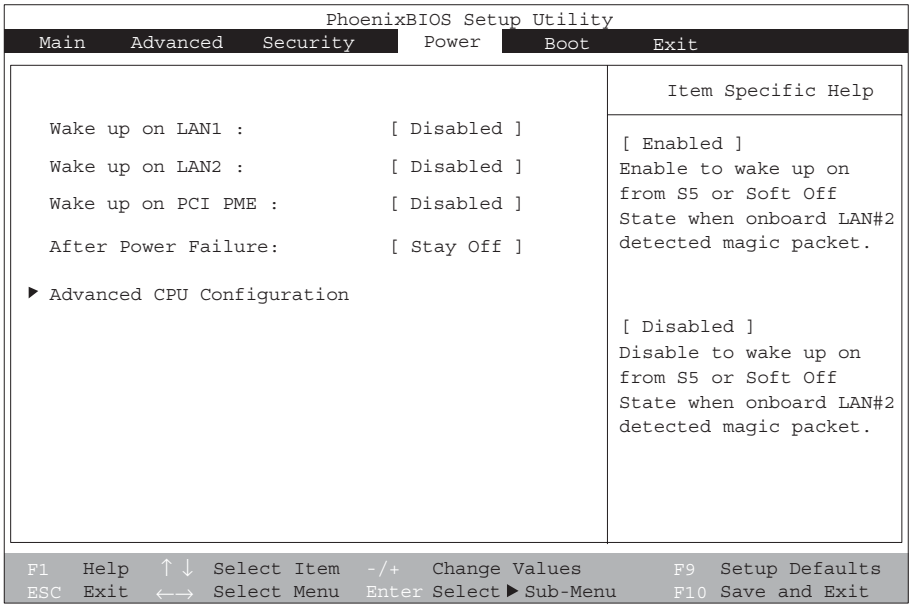
パスワードは以下のルールに従います。

- 文字数は、最小 1 文字、最大 8 文字です。
- 使用できる文字は、アルファベットと数字です。
- アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

（6） Power メニュー

Power メニューでは、電源のオン／オフに関する詳細な設定を行います。

＜↑＞／＜↓＞キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Wake up on LAN1

LAN コントローラ（ポート 1）に接続したネットワークから特別なパケットを受信したときに、ACPI の S5 状態またはソフトオフ状態のシステムを起動するかどうかを指定します。

- □ **Enabled**　特別なパケット受信時にシステムを起動します。
- ■ **Disabled**　特別なパケットを受信してもシステムを起動しません。

Wake up on LAN2

LAN コントローラ（ポート 2）に接続したネットワークから特別なパケットを受信したときに、ACPI の S5 状態またはソフトオフ状態のシステムを起動するかどうかを指定します。

- □ **Enabled**　特別なパケット受信時にシステムを起動します。
- ■ **Disabled**　特別なパケットを受信してもシステムを起動しません。

Wake up on PCI PME

PCI バス経由で PME 信号を受信したときに、ACPI の S5 状態またはソフトオフ状態のシステムを起動するかどうかを指定します。

- □ **Enabled**　PME 信号受信時にシステムを起動します。
- ■ **Disabled**　PME 信号を受信してもシステムを起動しません。

After Power Failure 停電後に復電した場合に、システムを再起動するかどうかを指定します。

- □ **Power On** 復電後にシステムは再起動します。
- ■ **Stay Off** 復電後もシステムは停止した状態となります。この場合は、電源スイッチ（Power SW）を押すとシステムが起動します。
- □ **Last State** 停電前の電源状態に復帰します。

Advanced CPU Configuration プロセッサの省電力機能の設定を行います。

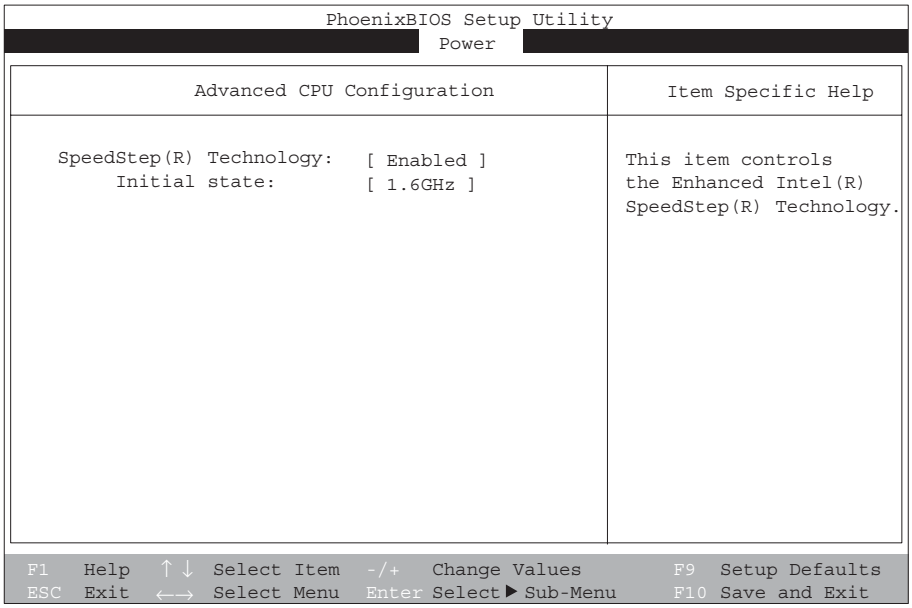
参照 「(7) Power メニューのサブメニュー」(→ P.149)

（7） Power メニューのサブメニュー

ここでは、Power メニューのサブメニューについて説明します。

● Advanced CPU Configuration

CPU に関する詳細な設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Power
Advanced CPU Configuration
Item Specific Help
SpeedStep(R) Technology: [Enabled]
Initial state: [1.6GHz]
This item controls the Enhanced Intel(R) SpeedStep(R) Technology.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

SpeedStep(R) Technology　拡張版 Intel® SpeedStep® テクノロジーの使用について、設定します。

■ **Enabled**　拡張版 Intel® SpeedStep® テクノロジーを使用します。

□ **Disabled**　拡張版 Intel® SpeedStep® テクノロジーを使用しません。

重要　本設定を「Disabled」に変更した場合、プロセッサは常にもっとも低い周波数（600MHz）で動作します。

Initial state　システム起動時のプロセッサの動作周波数を指定します。

搭載プロセッサの種類により、設定可能な動作周波数が異なります。

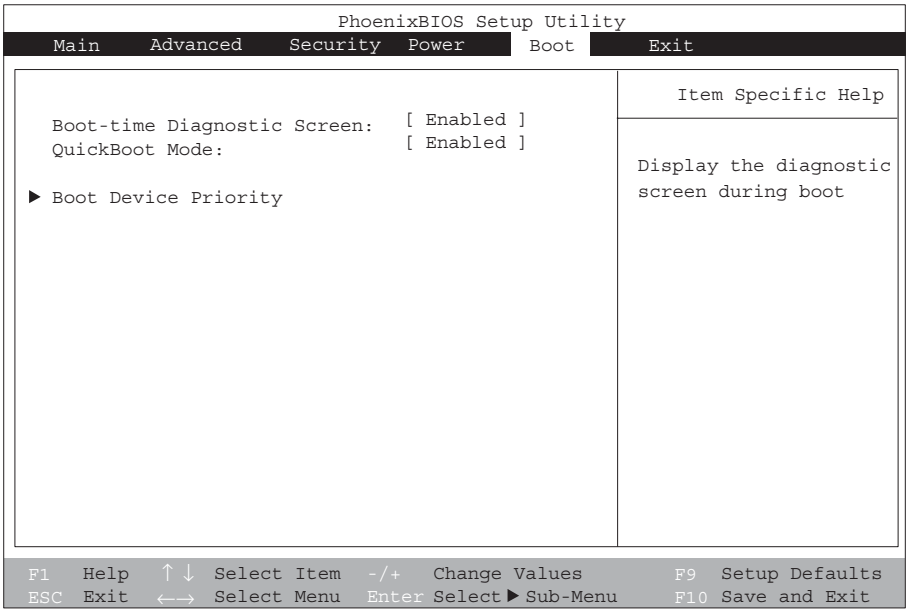
Intel® Pentium® M プロセッサ 1.8GHz を実装した場合は、以下の周波数に設定できます。

■ **1.8GHz**、□ **1.6GHz**、□ **1.4GHz**、□ **1.2GHz**、
□ **1.0GHz**、□ **800MHz**、□ **600MHz**

（8） Boot メニュー

Boot メニューでは、システムの起動に関する設定を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
Boot-time Diagnostic Screen: [Enabled]
QuickBoot Mode: [Enabled]
▶ Boot Device Priority
Display the diagnostic screen during boot
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Boot-time Diagnostic Screen

POST 時の診断画面やメッセージを表示するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　POST の診断画面やメッセージを表示します。
- □ **Disabled**　POST の診断画面やメッセージを表示せずに、ロゴ（グラフィックイラスト）のみを表示します。

QuickBoot Mode

Quick ブートを行うかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　メモリチェックなどを簡素化し、POST 処理時間を短縮します。
- □ **Disabled**　通常の POST 処理を行います。

重要

- 起動時に CMOS チェックサムエラー（下記メッセージ）が発生した場合、Quick ブートは行われません。

```
----------------------------------------------------------------------------
System CMOS checksum bad - Default configuration used
----------------------------------------------------------------------------
```

- 起動時に CMOS チェックサムエラー以外の POST エラーが発生した場合、次回の起動時には Quick ブートは行われません。
- POST エラー発生後、一度正常に起動が完了すると、次回起動時から Quick ブートが有効になります。

Boot Device Priority　起動ドライブの優先順位の設定を行います。

参照 「(7) Boot メニューのサブメニュー」(→ P.86)

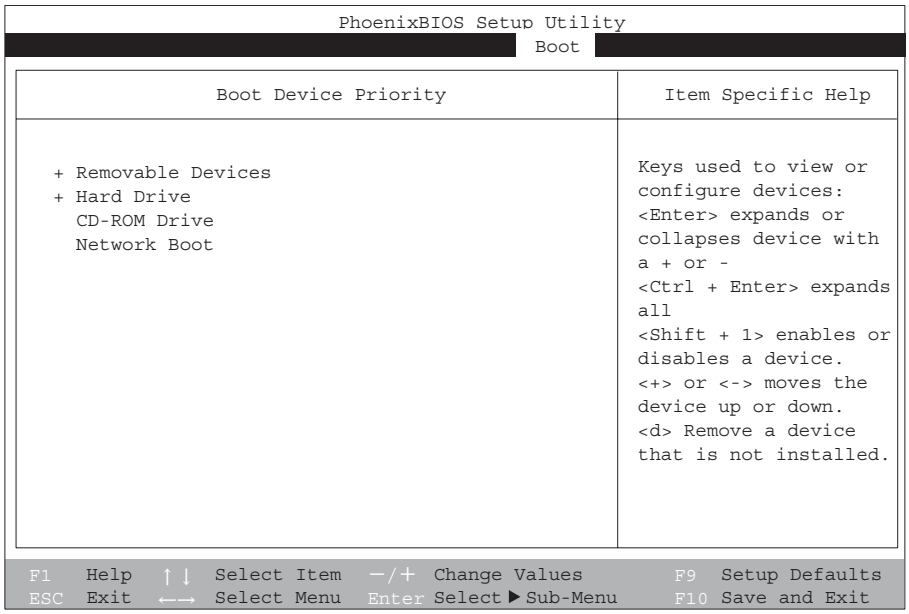
(9) Boot メニューのサブメニュー

ここでは、Boot メニューのサブメニューについて説明します。

● Boot Device Priority

起動ドライブの優先順位を設定します。以下のキー入力を行うことによって、優先順位の変更、およびそのドライブからのブートを有効にするか無効にするかを設定できます。

使用するキー	意味
< + >	カーソルのあるエントリを上位の優先順位にします。
< − >	カーソルのあるエントリを下位の優先順位にします。
<Shift> + <1>	そのドライブからのブートを有効にするか無効にするかを切り替えます。
<Enter>	各エントリの前に「+」がある場合は、詳細情報を表示します。 各エントリの前に「−」がある場合は、詳細情報を非表示にします。
<d>	接続されていない、ハードディスクやリムーバブルドライブを削除します。



Removable Devices リムーバブルドライブからのブートを行います。
リムーバブルドライブとは、ドライブレターが A となるドライブのことです。フロッピーディスクや LS-120 などがこれにあたります。
対象となるドライブについては、詳細情報を表示することによって確認することができます。

Hard Drive ハードディスクからのブートを行います。
IDE ハードディスク、SCSI ハードディスク、IDE インタフェースに準拠したデバイスなどがこれにあたります。
対象となるドライブについては、詳細情報を表示して確認することができます。

重要 ハードディスクや ATA/ATAPI インタフェース準拠のリムーバブルドライブの情報は、取り外したデバイスについても保持されます。取り外したデバイスの情報を削除する場合は、デバイスを選択の上、<d> キーを押してください。

CD-ROM Drive ATAPI インタフェース準拠または USB 接続の CD-ROM ドライブからのブートを行います。

Network Boot ブート機能を備えたネットワークカードを使用して、ネットワークからのブートを行います。

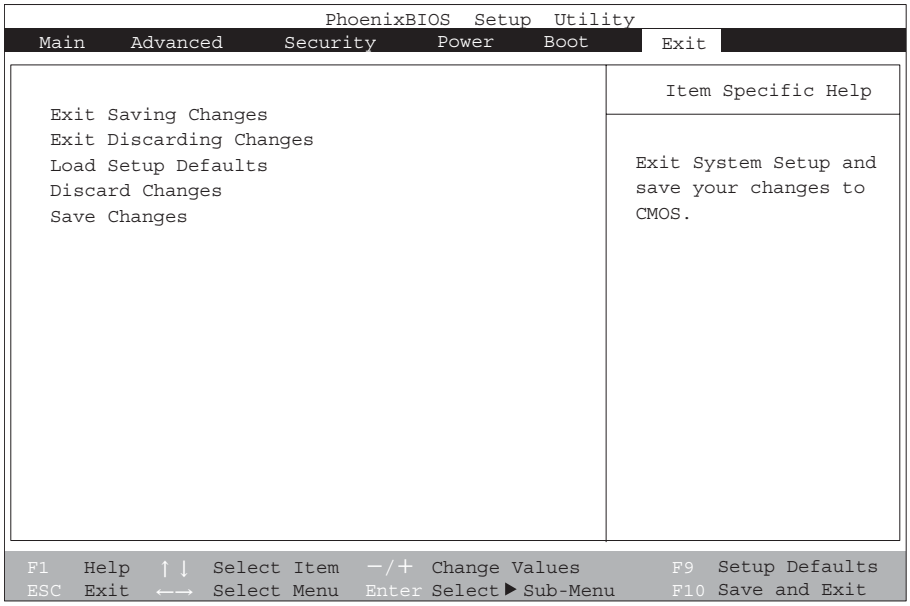
IBA FE Slot 0228 v4118 本製品に搭載された LAN コントローラ（ポート 2）を使用して、ネットワークからのブートを行います。

IBA FE Slot 0240 v4118 本製品に搭載された LAN コントローラ（ポート 1）を使用して、ネットワークからのブートを行います。

重要 上記 2 つの項目は、「● Internal Device Configuration」（→ P.142）の「LAN1 Controller」または「LAN2 Controller」が「Enabled」で、かつ「PXE OPROM」が「Enabled」の状態で起動した場合にのみ表示されます。

（10） Exit メニュー

Exit メニューでは、設定を保存したり工場出荷時の設定に戻したりしてから、BIOS セットアップを終了します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Exit Saving Changes
Exit Discarding Changes
Load Setup Defaults
Discard Changes
Save Changes
Item Specific Help
Exit System Setup and save your changes to CMOS.
F1 Help ↑↓ Select Item −/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

Exit Saving Changes 設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。

Exit Discarding Changes 設定内容を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。

Load Setup Defaults 設定内容を工場出荷時の設定に戻します。

Discard Changes 変更した内容を元に戻します。

Save Changes 現在の内容を CMOS RAM に保存します。

4.7 BIOS セットアップのメニュー（モデル 210E）

BIOS セットアップメニューは、以下の 6 つに分かれています。メニューによっては、より詳細な設定を行うためのサブメニューが用意されています。

メニュー名	内　容	参照ページ
Main	基本的な構成の表示と日時の設定を行います。	89
Advanced	内蔵デバイスに関する詳細な設定を行います。	91
Security	セキュリティレベルやパスワードの設定を行います。	175
Power	省電力モードに関する設定を行います。	176
Boot	システムの起動に関する設定を行います。	112
Exit	設定値の保存、初期設定値の読み込み、およびメニューの終了を行います。	129

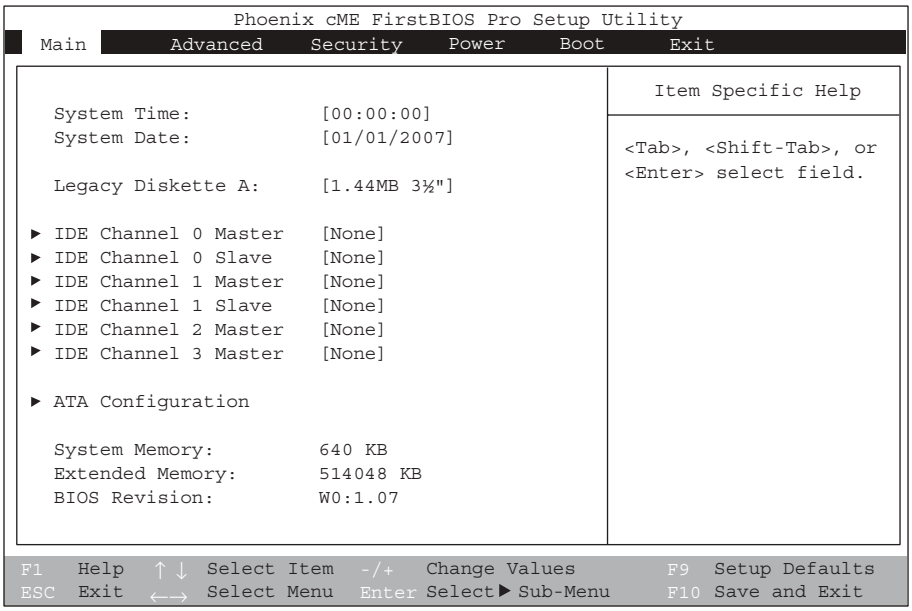
以降、各メニューの項目の詳細について説明します。

操作方法については、「4.2 BIOS セットアップの操作（モデル 200/220/210E）」の「●モデル 210E の場合」（→ P.44）を参照してください。

（1） Main メニュー

Main メニューでは、基本的なシステム構成について設定／表示を行います。

＜↑＞／＜↓＞キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを設定します。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
System Time: [00:00:00]
System Date: [01/01/2007]
Legacy Diskette A: [1.44MB 3½"]
▶ IDE Channel 0 Master [None]
▶ IDE Channel 0 Slave [None]
▶ IDE Channel 1 Master [None]
▶ IDE Channel 1 Slave [None]
▶ IDE Channel 2 Master [None]
▶ IDE Channel 3 Master [None]
▶ ATA Configuration
System Memory: 640 KB
Extended Memory: 514048 KB
BIOS Revision: W0:1.07
<Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter> select field.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

System Time
時：分：秒を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

System Date
月／日／年（西暦）を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

Legacy Diskette A
フロッピーディスクドライブ A の使用について、設定します。使用可能なフロッピーディスクドライブは、3.5 インチ 1.44MB のみです。

□Disabled　フロッピーディスクドライブを使用しません。

■1.44MB 3½"　3.5 インチ 1.44MB ドライブを使用します。

IDE Channel 0 Master
IDE Channel 0 Slave
IDE Channel 1 Master
IDE Channel 1 Slave
IDE Channel 2 Master
IDE Channel 3 Master
IDE チャネルの設定をします。

参照 「(2) Main メニューのサブメニュー」の「● IDE チャネル詳細設定」(→ P.157)

ATA Configuration シリアル ATA およびパラレル ATA の設定をします。

参照 「(2) Main メニューのサブメニュー」の「● ATA Configuration」(→ P.159)

System Memory 基本メモリ容量が表示されます。この項目は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

Extended Memory 拡張メモリ容量が表示されます。この項目は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

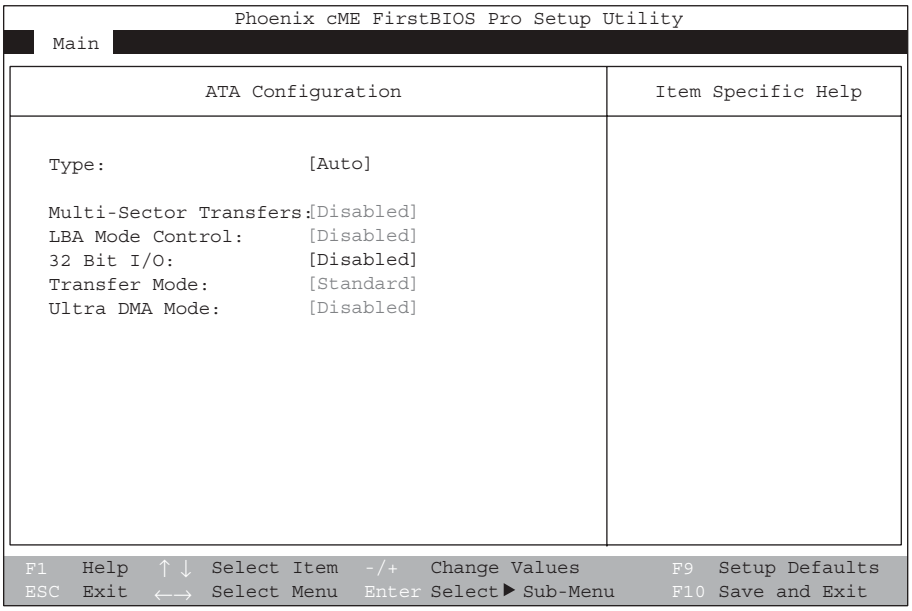
BIOS Revision BIOS の版数が表示されます。変更はできません。

（2） Main メニューのサブメニュー

ここでは、Main メニューのサブメニューについて説明します。

● IDE チャネル詳細設定

各ドライブ（プライマリマスター、プライマリスレーブ、セカンダリマスター、セカンダリスレーブなど）のハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。



この画面では、BIOS で認識したハードディスクの LBA（論理ブロックアドレッシング）での総セクタ数とハードディスク容量を表示します。8.4GB 以下のハードディスクについては、シリンダ数、ヘッド数、およびセクタ数とハードディスク容量を、併せて表示します。

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type　IDE ドライブの接続の有無や、各パラメタを設定します。

- **■Auto**　自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。ハードディスクが接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数など）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。
- **□None**　ハードディスクを未接続とします。
- **□CD-ROM**　CD-ROM（IDE）ドライブを接続します。
- **□ATAPI Removable**　ATAPI リムーバブルデバイスを接続します。
- **□User**　各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数など）を直接指定します。

重要 当該 IDE チャネルをシリアル ATA として使用する場合、「Type」に「Auto」と「None」以外は設定できません。

Multi-Sector Transfers 複数のセクタのデータを、一括して転送するかどうかを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定できます。

- ■ **Disabled** 1 セクタずつ転送します。
- □ **2 Sectors ～ 16 Sectors** 一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定できます。

- ■ **Disabled** LBA モードを使用しません。
- □ **Enabled** LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O 内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。「Type」に「Auto」、「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定できます。

- ■ **Disabled** 32 ビット転送を行いません。
- □ **Enabled** 32 ビット転送を行います。

Transfer Mode データの転送モードを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定できます。

各モードの設定では数値が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

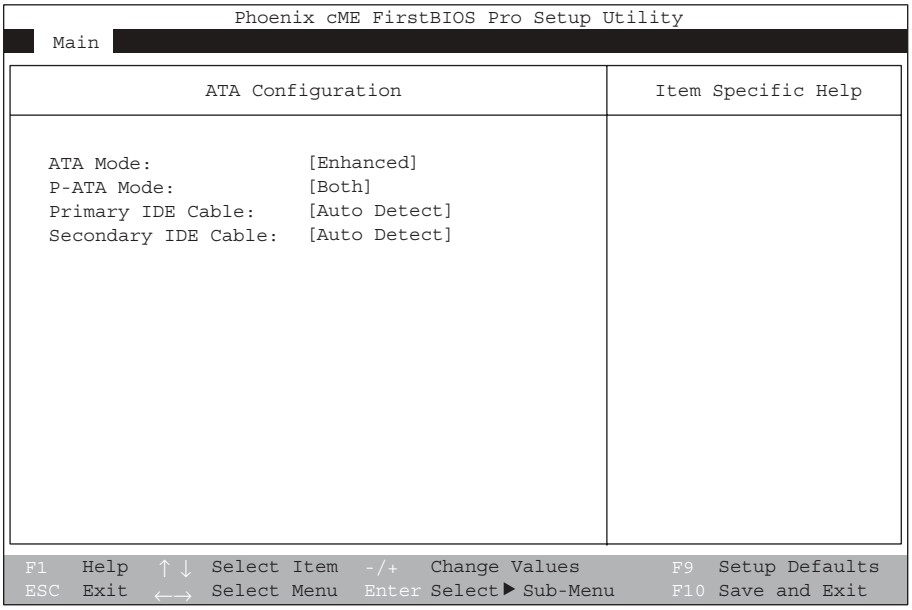
- ■ **Standard** PIO Mode 0 に設定します。
- □ **Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4** Fast PIO Mode 1 ～ Fast PIO Mode 4 のいずれかを選択します。
- □ **FPIO 3/DMA 1** Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。
- □ **FPIO 4/DMA 2** Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

Ultra DMA Mode Ultra DMA モードの使用について設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定できます。

- ■ **Disabled** Ultra DMA モードを使用しません。
- □ **Mode 0 ～ Mode 5** Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

● ATA Configuration

シリアル ATA とパラレル ATA を設定します。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Main
ATA Configuration
Item Specific Help
ATA Mode: [Enhanced]
P-ATA Mode: [Both]
Primary IDE Cable: [Auto Detect]
Secondary IDE Cable: [Auto Detect]
F1 Help ↑ ↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

ATA Mode　シリアル ATA とパラレル ATA の動作モードを設定します。

- **□Disabled**　ATA を使用しません。
- **□P-ATA Only**　パラレル ATA のみ使用します。
- **□S-ATA Only**　シリアル ATA のみ使用します。
- **□Combined**　パラレル ATA とシリアル ATA を混在して使用します。
- **■Enhanced**　パラレル ATA とシリアル ATA を混在して使用します。シリアル ATA は Native モードで動作します。
- **□RAID**　シリアル ATA に接続した 2 台のドライブを RAID で使用します。

P-ATA Mode　パラレル ATA に関する設定を行います。

- **□ Disabled**　パラレル ATA を使用しません。
- **□ Primary**　Primary のみ使用します。
- **□ Secondary**　Secondary のみ使用します。
- **■ Both**　Primary、Secondary どちらも使用します。

重要　P-ATA の Primary（および Secondary）に 1 台だけデバイスを接続する場合には、デバイスをマスターに設定してください。

S-ATA Mode　シリアル ATA に関する設定を行います。

- **□ Legacy**　シリアル ATA を Legacy モードで使用します。
- **□ Native**　シリアル ATA を Native モードで使用します。

重要 この項目は「ATA Mode」が「S-ATA Only」の場合にのみ、表示されます。

Primary in Combined Mode パラレル ATA とシリアル ATA を混在して使用する場合に、どちらを Primary にするかを設定します。

- ☐ **P-ATA** Primary に P-ATA を、Secondary に S-ATA を使用します。Secondary の P-ATA は使用できません。
- ☐ **S-ATA** Primary に S-ATA を、Secondary に P-ATA を使用します。Primary の P-ATA は使用できません。

重要 この項目は「ATA Mode」が「Combined」の場合にのみ、表示されます。

Primary IDE Cable 使用するパラレル ATA の IDE ケーブルタイプを指定します。

- ■ **Auto Detect** ケーブルタイプを自動判別します。
- ☐ **80-Wire** Ultra ATA/100 まで対応可能な IDE80 芯（80pin）ケーブルを使用します。
- ☐ **40-Wire** Ultra ATA/33 まで対応可能な IDE40 芯（40pin）ケーブルを使用します。

重要
- IDE デバイス側の仕様により、IDE80 芯（80pin）ケーブルを使用していても、そのケーブルの自動判別ができない場合があります。
- Main メニューのサブメニューで、「Primary Master」および「Primary Slave」の「Type」が「Auto」であるときの「Ultra DMA Mode」が、そのデバイスで対応可能なもっとも高い転送モードであることを確認してください。
もっとも高い転送モードになっていない場合、本項目を「80-Wire」に変更して再起動すると、転送モードが変更される場合があります。

Secondary IDE Cable 使用するパラレル ATA の IDE ケーブルタイプを指定します。

- ■ **Auto Detect** ケーブルタイプを自動判別します。
- ☐ **80-Wire** Ultra ATA/100 まで対応可能な IDE80 芯（80pin）ケーブルを使用します。
- ☐ **40-Wire** Ultra ATA/33 まで対応可能な IDE40 芯（40pin）ケーブルを使用します。

重要
- IDE デバイス側の仕様により、IDE80 芯（80pin）ケーブルを使用していても、そのケーブルの自動判別ができない場合があります。
- Main メニューのサブメニューで、「Secondary Master」および「Secondary Slave」の「Type」が「Auto」であるときの「Ultra DMA Mode」が、そのデバイスで対応可能なもっとも高い転送モードであることを確認してください。
もっとも高い転送モードになっていない場合、本項目を「80-Wire」に変更して再起動すると、転送モードが変更される場合があります。

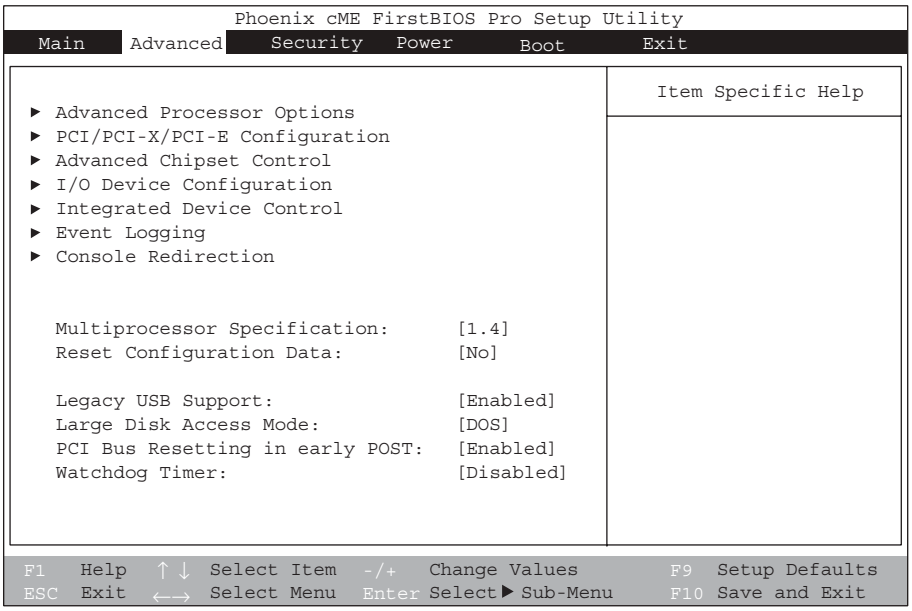
S-ATA RAID BIOS S-ATA RAID のオプション ROM の動作を設定します。

- ☐ **Enabled** オプション ROM を使用します。
- ☐ **Disabled** オプション ROM を使用しません。

重要
- この項目は、「ATA Mode」が「RAID」の場合にのみ、表示されます。
- シリアル ATA のハードディスクから OS をブートするときには、本設定を「Enabled」にしてお使いください。
なお、OS をブートするには、別途 6300ESB RAID オプションのご購入が必要です。弊社の担当営業までお問い合わせください。

（3） Advanced メニュー

Advanced メニューでは、本製品に搭載されたデバイスについて詳細な設定を行います。
< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
▶ Advanced Processor Options
▶ PCI/PCI-X/PCI-E Configuration
▶ Advanced Chipset Control
▶ I/O Device Configuration
▶ Integrated Device Control
▶ Event Logging
▶ Console Redirection
Multiprocessor Specification: [1.4]
Reset Configuration Data: [No]
Legacy USB Support: [Enabled]
Large Disk Access Mode: [DOS]
PCI Bus Resetting in early POST: [Enabled]
Watchdog Timer: [Disabled]
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶Sub-Menu F10 Save and Exit

□:設定項目　■:工場出荷設定値

Advanced Processor Options　プロセッサに関する設定を行います。

参照「（3）Advanced メニューのサブメニュー」の「● PCI Configuration」（→ P.67）

PCI/PCI-X/PCI-E Configuration　外部 PCI スロットに対する資源の割り当ての設定を行います。

参照「（3）Advanced メニューのサブメニュー」の「● IDE Configuration」（→ P.94）

Advanced Chipset Control　チップセット関連の設定を行います。

参照「（3）Advanced メニューのサブメニュー」の「● IDE Configuration のサブメニュー」（→ P.95）

I/O Device Configuration　内蔵機器の、I/O ポートアドレスや割り込みレベルの設定などを行います。

参照「（3）Advanced メニューのサブメニュー」の「● I/O Device Configuration」（→ P.169）

Integrated Device Control　内蔵デバイスに関する設定を行います。

参照「(3) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Integrated Device Control」(→ P.171)

Event Logging　イベントログ機能の設定を行います。

参照「(3) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Event Logging」(→ P.172)

Console Redirection　コンソールリダイレクションの設定を行います。

参照「(3) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Console Redirection」(→ P.173)

Multiprocessor Specification　マルチプロセッサ仕様で対応するバージョンを選択します。

- ■ **1.4**　バージョン 1.4 を使用します。
- □ **1.1**　バージョン 1.1 を使用します。

Reset Configuration Data　ESCD（Extended System Configuration Data）領域のデータ初期化を指定します。「Yes」に変更後、再起動すると、データが初期化されます。PCI カードなどのコンフリクトを原因とする起動エラー（Invalid System Configuration Data）が発生した場合、本機能により解決できる場合があります。

重要 本項目の設定値は、データ初期化を実行後、自動的に「No」へ戻ります。

Legacy USB Support　USB をサポートしていない OS での、USB キーボードや USB マウスの使用について設定します。

- ■ **Enabled**　レガシー USB サポートを有効にします。
- □ **Disabled**　レガシー USB サポートを無効にします。

重要 USB ストレージデバイス（USB フロッピーディスクドライブ、USB CD-ROM ドライブ）を起動ドライブの対象にする場合は、この設定を「Enabled」にする必要があります。

Large Disk Access Mode　アクセスモードを設定します。

- □ **Other**　Linux などの OS を使用時に問題が発生した場合に、設定します。
- ■ **DOS**　通常の設定です。

PCI Bus Resetting in early POST　POST 時の PCI バスのリセットについて設定します。

- ■ **Enabled**　POST 時に PCI バスをリセットします。
- □ **Disabled**　POST 時に PCI バスをリセットしません。

Watchdog Timer　POST 終了時に、Watchdog Timer を起動するかどうかを指定します。

- □ **Enabled**　POST 終了時に、Watchdog Timer を起動します。
- ■ **Disabled**　POST 終了時に、Watchdog Timer を起動しません。

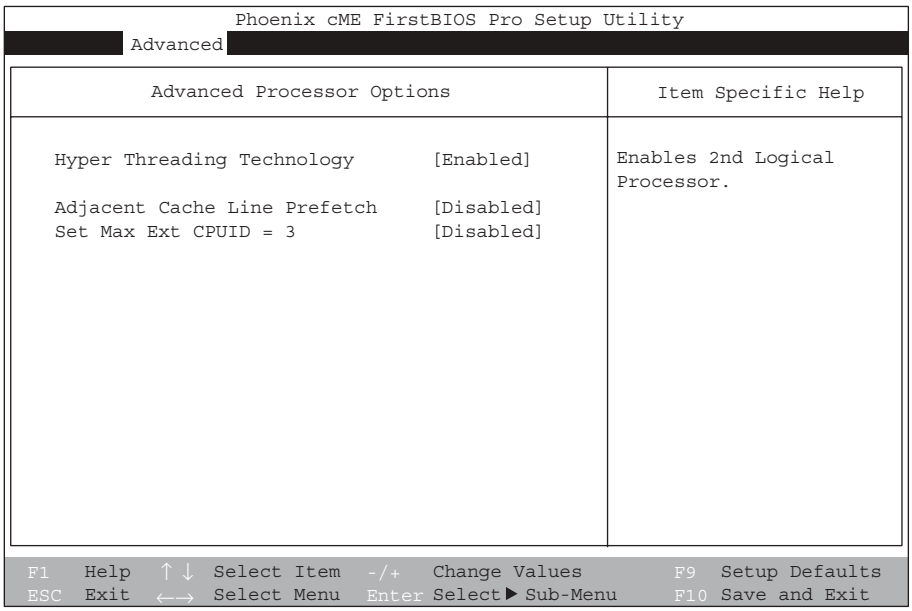
「WatchdogTimer」の時間は約 38 秒としています。この時間内に Heart Beat できない場合は、この設定を「Disabled」に設定してください。

（4） Advanced メニューのサブメニュー

ここでは、Advanced メニューのサブメニューについて説明します。

● Advanced Processor Options

CPU に関する設定を行います。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Advanced
Advanced Processor Options
Item Specific Help
Hyper Threading Technology [Enabled]
Adjacent Cache Line Prefetch [Disabled]
Set Max Ext CPUID = 3 [Disabled]
Enables 2nd Logical Processor.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Hyper Threading Technology

CPU のハイパースレッディング機能の使用について、設定します。

- ■ **Enabled**　ハイパースレッディング機能を使用します。
- □ **Disabled**　ハイパースレッディング機能を使用しません。

重要

Windows® 2000 Professional/Server は、ハイパースレッディング機能に対応しておりません。

Windows® 2000 Professional/Server をご使用の場合は「Disabled」に設定してください。

Adjacent Cache Line Prefetch

CPU のキャッシュアクセス機能の使用について、設定します。

- □ **Enabled**　CPU のキャッシュアクセス機能を使用します。
- ■ **Disabled**　CPU のキャッシュアクセス機能を使用しません。

重要

この機能の使用による性能向上の効果は CPU 構成、OS/ アプリケーションの動作内容によって異なります。動作検証を行ったうえでお使いください。

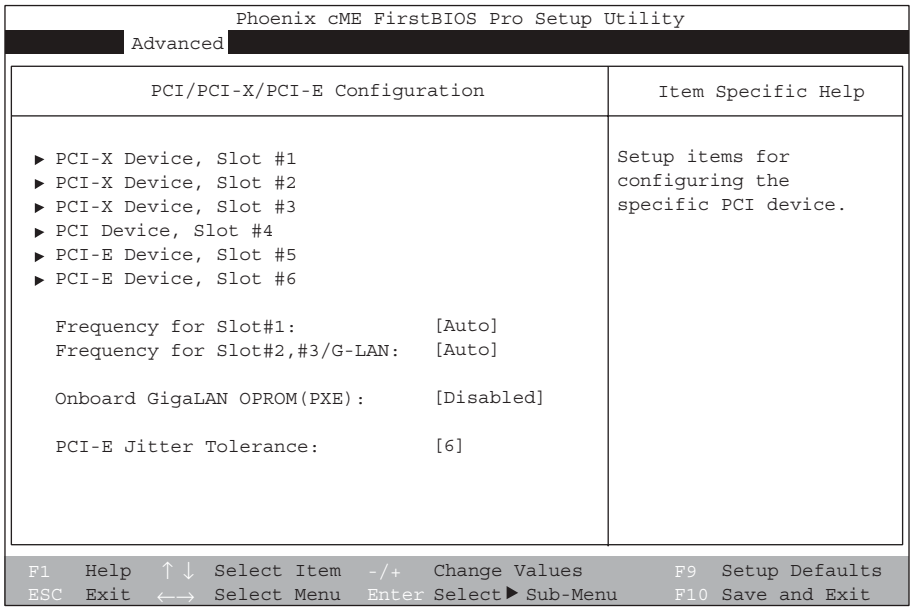
Set Max Ext CPUID = 3　CPUID 命令が認識可能な CPUID 基本情報の最大値を設定します。

- □ **Enabled**　最大値が "3" 固定となるようにします。
- ■ **Disabled**　最大値が搭載 CPU で有効な最大値となるようにします。

重要　"3" を超える拡張された CPUID 基本情報に対応していない OS のブートが必要な場合は、「Enabled」に設定してください。

● PCI/PCI-X/PCI-E Configuration

PCI スロットに関する設定を行います。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Advanced
PCI/PCI-X/PCI-E Configuration
Item Specific Help
▶ PCI-X Device, Slot #1
▶ PCI-X Device, Slot #2
▶ PCI-X Device, Slot #3
▶ PCI Device, Slot #4
▶ PCI-E Device, Slot #5
▶ PCI-E Device, Slot #6
Frequency for Slot#1: [Auto]
Frequency for Slot#2,#3/G-LAN: [Auto]
Onboard GigaLAN OPROM(PXE): [Disabled]
PCI-E Jitter Tolerance: [6]
Setup items for configuring the specific PCI device.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

PCI-X Device, Slot #1 ～ #3　PCI-X デバイス、または PCI-X スロット #1 ～ #3 のコンフィグレーションを行います。

参照　「● PCI/PCI-X/PCI-E Configuration のサブメニュー」の「PCI/PCI-X/PCI-E Device, Slot #n」（→ P.166）

PCI Device, Slot #4　PCI デバイス、または PCI スロット #4 のコンフィグレーションを行います。

参照　「● PCI/PCI-X/PCI-E Configuration のサブメニュー」の「PCI/PCI-X/PCI-E Device, Slot #n」（→ P.166）

PCI-E Device, Slot #5 ～ #6 PCI Express デバイス、または PCI Express スロット #5 ～ #6 のコンフィグレーションを行います。

参照 「● PCI/PCI-X/PCI-E Configuration のサブメニュー」の「PCI/PCI-X/PCI-E Device, Slot #n」（→ P.166）

Frequency for Slot#1 PCI Slot#1/GigaLAN の周波数を設定します。

- ■ **Auto** デバイスに合わせた周波数を自動的に使用します。
- □ **33 MHz PCI** 33MHz の PCI スロットとして使用します。
- □ **66 MHz PCI** 66MHz の PCI スロットとして使用します。
- □ **66 MHz PCI-X** 66MHz の PCI-X スロットとして使用します。
- □ **100 MHz PCI-X** 100MHz の PCI-X スロットとして使用します。
- □ **133 MHz PCI-X** 133MHz の PCI-X スロットとして使用します。

Frequency for Slot#2,#3/G-LAN PCI Slot#2/Slot#3 の周波数を設定します。

- ■ **Auto** デバイスに合わせた周波数を自動的に使用します。
- □ **33 MHz PCI** 33MHz の PCI スロットとして使用します。
- □ **66 MHz PCI** 66MHz の PCI スロットとして使用します。
- □ **66 MHz PCI-X** 66MHz の PCI-X スロットとして使用します。
- □ **100 MHz PCI-X** 100MHz の PCI-X スロットとして使用します。

Onboard GigaLAN OPROM(PXE) 本体内の GigaLAN-PXE オプション ROM 機能を使用するかどうかを指定します。

- □ **Enabled** GigaLAN-PXE オプション ROM 機能を使用します。
- ■ **Disabled** GigaLAN-PXE オプション ROM 機能を使用しません。

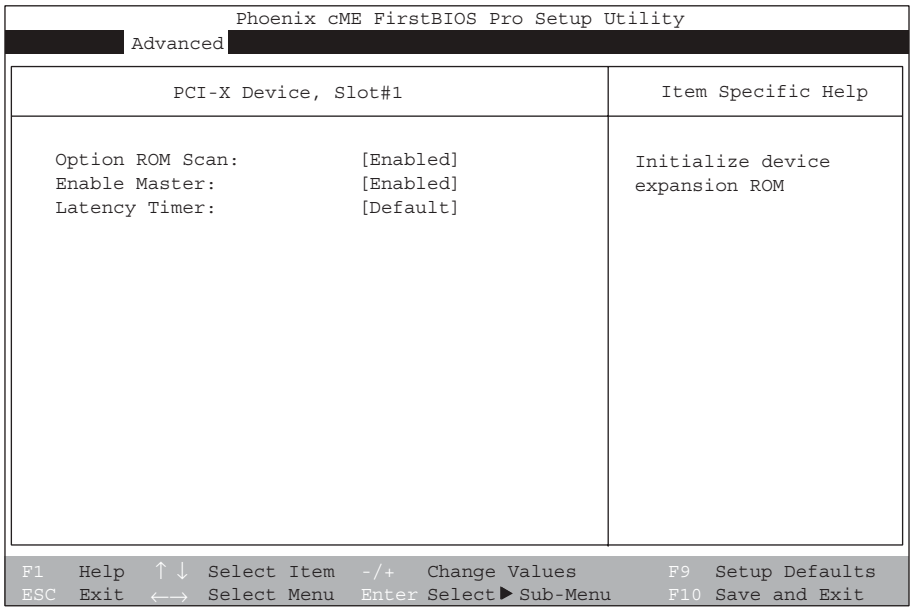
PCI-E Jitter Tolerance PCI Express Jitter Tolerance を以下から指定します。

- □ **4 ~ 12（■ 6）**

● PCI/PCI-X/PCI-E Configuration のサブメニュー

PCI/PCI-X/PCI-E Configuration のサブメニューについて説明します。

PCI/PCI-X/PCI-E Device, Slot #n


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Advanced
PCI-X Device, Slot#1
Item Specific Help
Option ROM Scan: [Enabled]
Enable Master: [Enabled]
Latency Timer: [Default]
Initialize device expansion ROM
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Option ROM Scan

PCI デバイスに搭載されているオプション ROM をスキャンするかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　スキャンします。
- □ **Disabled**　スキャンしません。

重要

「Option ROM Scan」の設定を「Enabled」にした場合、下記条件のいずれかで、

```
----------------------------------------------------------------------------
Expansion ROM not initialized - PCI xxx Controller in slot xx
BUS:xx, Device:xx, Function:xx
----------------------------------------------------------------------------
```

というメッセージが表示され、Option ROM が Scan されない場合があります。

条件：

1. Advanced メニューのサブメニュー「● PCI/PCI-X/PCI-E Configuration」（→ P.164）の「Onboard GigaLAN OPROM(PXE)」を「Enabled」に設定した状態で Option ROM 搭載の PCI カードを使用した場合。
2. Option ROM を搭載した PCI カードを複数枚使用した場合。
3. 大きな容量の Option ROM を搭載した PCI カードを使用した場合。

下記のいずれかの方法で回避してください。

1. PXE を使用しない場合は、「Onboard GigaLAN OPROM(PXE)」を「Disabled」に設定してください。
2. ブートデバイスとして使用するPCIデバイス以外ではOption ROMは不要ですので、ブートデバイスとして使用しないデバイスを使っている PCI スロットの「Option ROM Scan」の設定を「Disabled」にしてください。
3. 使用する PCI デバイスとその構成を見直してください。

Enable Master 接続されているデバイスを PCI バスマスターデバイスとして使用するかどうかを指定します。

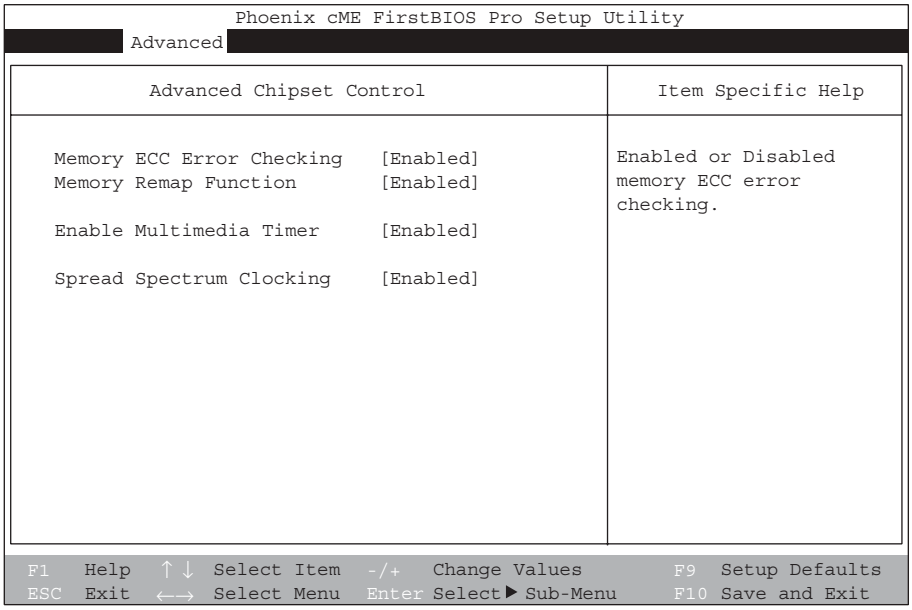
- ■ **Enabled** PCI バスマスターデバイスとして使用します。
- □ **Disabled** PCI バスマスターデバイスとして使用しません。

Latency Timer PCI バスマスターデバイスとして使用する場合の PCI バスの使用優先度を指定します。

- ■ **Default** 標準の優先度とします。
- □ **0020h ~ 00E0h** 優先度を PCI バスクロック数で指定します。高速なデバイスに対して大きな値を指定すると、高い性能が得られます。

● Advanced Chipset Control

チップセットに関する設定を行います。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Advanced
Advanced Chipset Control
Item Specific Help
Memory ECC Error Checking [Enabled]
Memory Remap Function [Enabled]
Enable Multimedia Timer [Enabled]
Spread Spectrum Clocking [Enabled]
Enabled or Disabled memory ECC error checking.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Memory ECC Error Checking　シングルビット／マルチビットエラーを検出するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　シングルビット／マルチビットエラーを検出します。
- □ **Disabled**　シングルビット／マルチビットエラーを検出しません。

Memory Remap Function　PCI のリソースを Memory に Remap するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　Remap を行います。
- □ **Disabled**　Remap を行いません。

Enable Multimedia Timer　Multimedia Timer をサポートするかどうかを指定します。

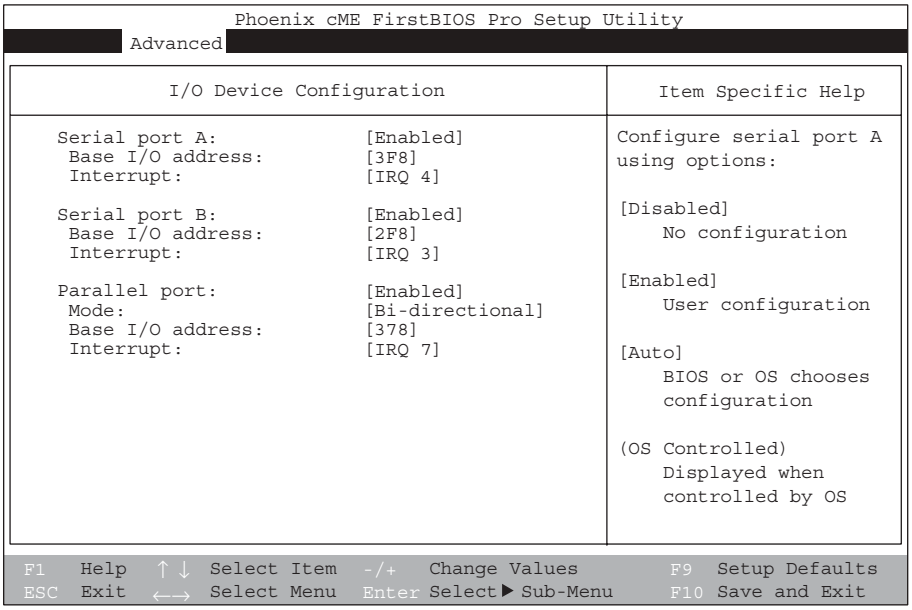
- ■ **Enabled**　Multimedia Timer を使用します。
- □ **Disabled**　Multimedia Timer を使用しません。

Spread Spectrum Clocking　Spread Spectrum Clocking を使用するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　Spread Spectrum Clocking を使用します。
- □ **Disabled**　Spread Spectrum Clocking を使用しません。

● I/O Device Configuration

内蔵機器の I/O ポートアドレスや割り込みレベルの設定などを行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Serial port A
Serial port B　内蔵シリアルポート A（または B）の I/O ポートアドレスを指定します。

■ **Enabled**　シリアルポート A（または B）を使用します。本設定値を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

Base I/O address　I/O ポートアドレスを以下の 4 種類から選択します。

- ■ **3F8（Serial port A）**
- ■ **2F8（Serial port B）**
- □ **3E8**
- □ **2E8**

Interrupt　割り込みレベルは I/O ポートアドレスに従って自動的に設定されます。

- ■ **IRQ 4（Serial port A）**
- ■ **IRQ 3（Serial port B）**
- □ **IRQ 11**
- □ **IRQ 10**

□ **Auto**　シリアルポート A（または B）を使用します。I/O ポートアドレスおよび割り込みレベルは自動的に設定されます。

□ **Disabled**　シリアルポート A（または B）を使用しません。

Parallel port 内蔵パラレルポートの動作モード、I/O ポートアドレスおよび IRQ（割り込みレベル）を指定します。

■ **Enabled** パラレルポートを使用します。本設定値を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

Mode パラレルポートの動作モードを指定します。

■ **Bi-directional** 双方向モードで動作します。

□ **ECP** ECP モードで動作します。

□ **EPP** EPP モードで動作します。

□ **Output only** 単方向モードで動作します。

Base I/O address I/O ポートアドレスを以下の 2 種類から選択します。

□ **278**、■ **378**

Interrupt 割り込みレベルを以下の 2 種類から選択します。

□ **IRQ 5**、■ **IRQ 7**

DMA channel DMA チャネルを指定します。動作モードに ECP を指定した場合にのみ設定できます。

□ **DMA 1** DMA チャネル 1 を使用します。

□ **DMA 3** DMA チャネル 3 を使用します。

□ **Auto** パラレルポートを使用し、動作モードのみを選択します。I/O ポートアドレス、割り込みレベルおよび DMA チャネルは自動的に設定されます。

Mode パラレルポートの動作モードを指定します。

□ **Bi-directional** 双方向モードで動作します。

□ **ECP** ECP モードで動作します。

□ **EPP** EPP モードで動作します。

□ **Output only** 単方向モードで動作します。

□ **Disabled** パラレルポートを使用しません。

重要

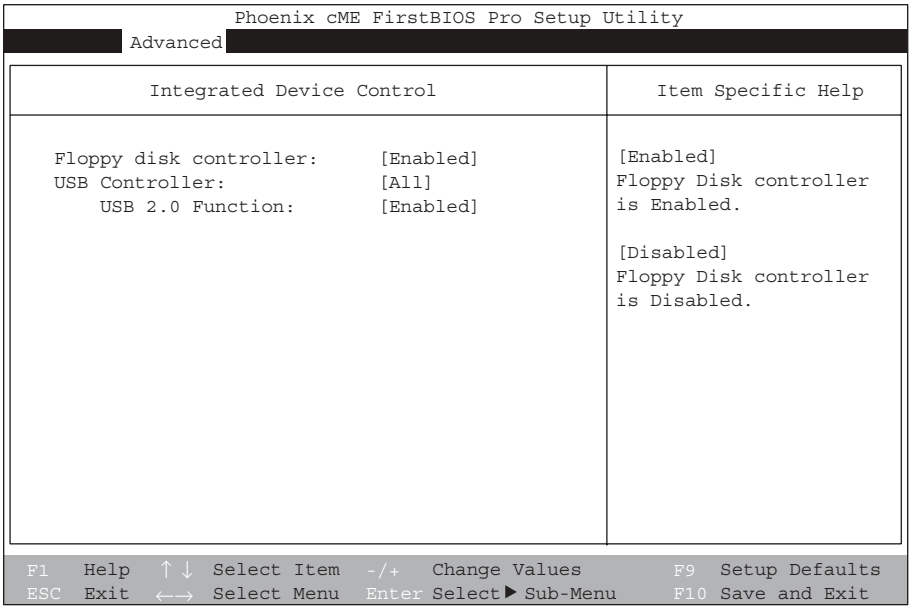
シリアルポートおよびパラレルポートの設定を「Auto」にして使用する場合、PCI デバイスに対する各リソース（I/O ポートアドレスや割り込みレベル）の割り当てが優先されます。

その結果、シリアルポートやパラレルポートに割り当て可能なリソースが不足することにより、シリアルポートやパラレルポートが無効に設定される場合があります。

このため、シリアルポートやパラレルポートを優先して使用する場合は、「Auto」ではなく「Enabled」に設定してください。

● Integrated Device Control

各コントローラについて設定を行います。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Advanced
Integrated Device Control
Item Specific Help
Floppy disk controller: [Enabled]
USB Controller: [All]
USB 2.0 Function: [Enabled]
[Enabled]
Floppy Disk controller is Enabled.
[Disabled]
Floppy Disk controller is Disabled.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Floppy Disk Controller　本製品内のフロッピーディスクコントローラの使用について、設定します。

- ■ **Enabled**　フロッピーディスクコントローラを使用します。
- □ **Disabled**　フロッピーディスクコントローラを使用しません。

USB Controller　本体内の USB コントローラを使用するかどうかを指定します。

- ■ **All**　すべての USB ポート（0 ～ 3）を使用します。
- □ **2 Port**　USB ポート 0、1 のみ使用します。
- □ **Disabled**　すべての USB ポートを使用しません。

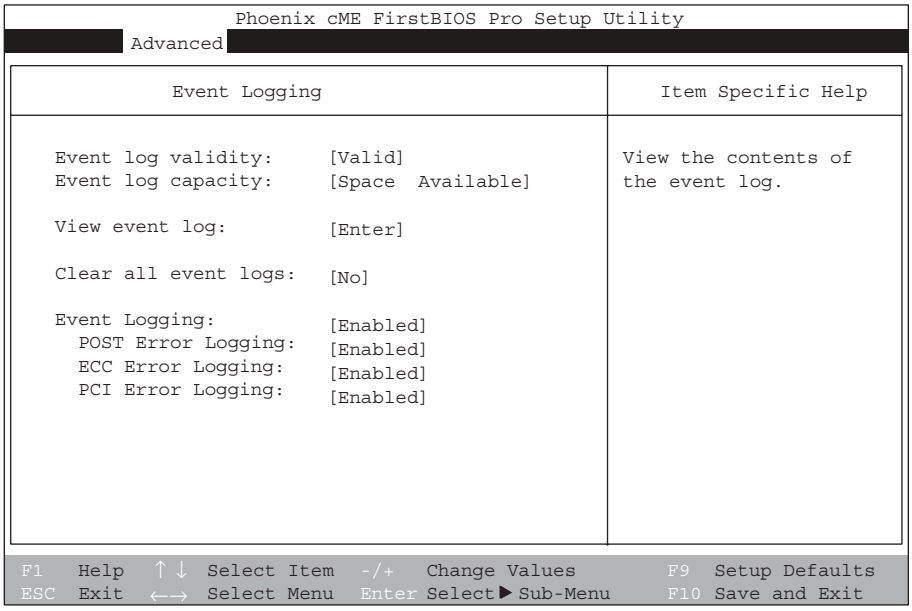
重要　本項目の設定値が「Disabled」の場合、次に説明する「USB2.0 Function」は設定画面上に表示されません。

USB 2.0 Function　USB 2.0 機能を使用するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　USB 2.0 機能を使用します。
- □ **Disabled**　USB 2.0 機能を使用しません。

● Event Logging

イベントログ機能に関する設定などを行います。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Advanced
Event Logging
Item Specific Help
Event log validity: [Valid]
Event log capacity: [Space Available]
View event log: [Enter]
Clear all event logs: [No]
Event Logging: [Enabled]
POST Error Logging: [Enabled]
ECC Error Logging: [Enabled]
PCI Error Logging: [Enabled]
View the contents of the event log.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Event Log Validity　現在のイベントログ領域の内容が有効かどうかを表示します。本設定は選択できません。

- ■ **Valid**　イベントログ領域の内容が有効です。
- □ **Not Valid**　イベントログ領域の内容が無効です。

Event Log Capacity　現在のイベントログ領域の状態を表示します。本設定は選択できません。

- ■ **Space Available**　イベントログ領域に保存できます。
- □ **Full**　イベントログ領域に空きがないため、保存できません。

重要

イベントログ領域の全体サイズは固定であり、保存可能なログ情報の数は最大126 個です。

「Event Log Capacity」欄に「Full」と表示された場合は、イベントログ領域に空きがないことを示しています。以後のイベントログを採取する場合は、本設定画面内の「Clear All Event Logs」の値を「Yes」に設定し、ログ情報を消去してください。

View Event Log　ログ情報の内容を表示します。<Enter> キーを押すと、採取されているログ情報が画面に表示されます。

Clear All Event Logs ログ情報を消去する場合に使用します。

- ■ **No** ログ情報の内容を保持します。
- ☐ **Yes** ログ情報を消去する場合に指定します。BIOS セットアップ を終了して再起動するタイミングで、ログ情報の消去が行われます。本設定の内容は、再起動後「No」に戻ります。

Event Logging イベントログ機能の使用について設定します。

- ■ **Enabled** イベントログ機能を使用します。
- ☐ **Disabled** イベントログ機能を使用しません。

重要 本項目の設定値が「Disabled」の場合、次に説明する「POST Error Logging」、「ECC Error Logging」、および「PCI Error Logging」は設定画面上に表示されません。

POST Error Logging POST 中に発生したエラーを記録するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled** POST エラーのログ情報を採取します。
- ☐ **Disabled** POST エラーのログ情報を採取しません。

ECC Error Logging ECC エラーが発生したとき、エラーを記録するかどうかを指定します。

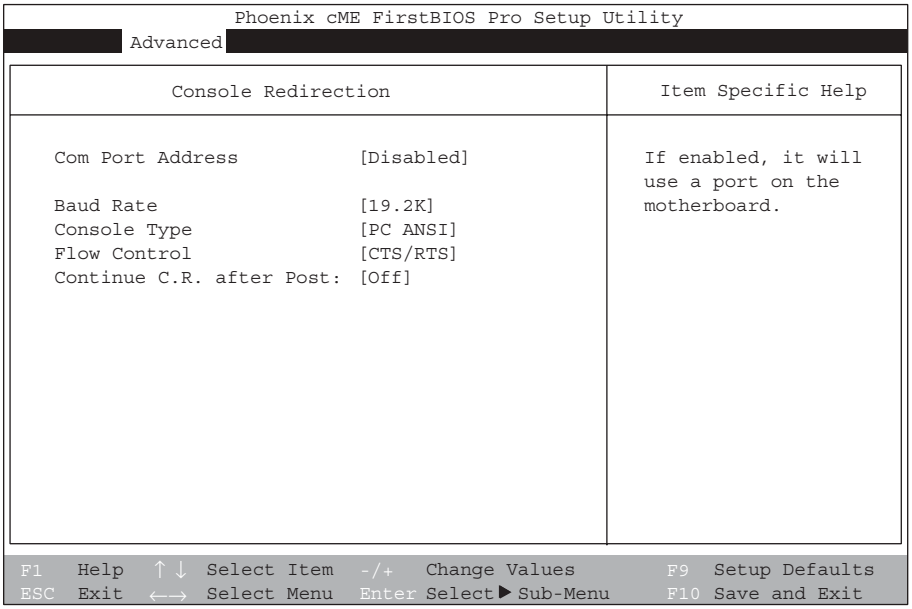
- ■ **Enabled** ECC エラーのログ情報を採取します。
- ☐ **Disabled** ECC エラーのログ情報を採取しません。

PCI Error Logging PCI デバイスで発生したエラーを記録するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled** PCI エラーのログ情報を採取します。
- ☐ **Disabled** PCI エラーのログ情報を採取しません。

● Console Redirection

コンソールリダイレクションに関する設定を行います。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Advanced
Console Redirection
Item Specific Help
Com Port Address [Disabled]
Baud Rate [19.2K]
Console Type [PC ANSI]
Flow Control [CTS/RTS]
Continue C.R. after Post: [Off]
If enabled, it will use a port on the motherboard.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Com Port Address　コンソールリダイレクションを使用するかどうかを設定します。使用する場合は、使用するシリアルポートを設定します。

- ■ **Disabled**　コンソールリダイレクションを使用しません。
- □ **COM Port A**　シリアルポート A でコンソールリダイレクションを使用します。
- □ **COM Port B**　シリアルポート B でコンソールリダイレクションを使用します。

重要　コンソールリダイレクションを使用する場合、ロゴスクリーンは表示されません。

Baud Rate　コンソールリダイレクションで使用するボーレートを、300bps から 57.6Kbps の間で設定します。

Console Type　使用するクライアントソフトウェアのコンソールの種類を設定します。

- ■ **PC ANSI**　「PC ANSI」を使用します。
- □ **VT100**　「VT100」を使用します。

Flow Control　シリアルポートで使用する Flow control を設定します。

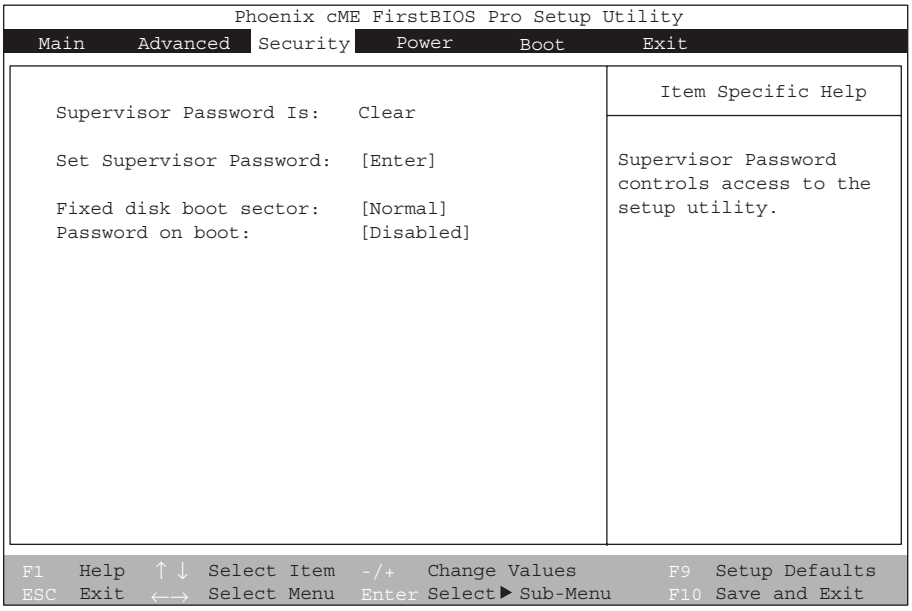
- □ **None**　「Flow control」を使用しません。
- □ **XON/XOFF**　ソフトウェアで「Flow control」を制御します。
- ■ **CTS/RTS**　ハードウェアで「Flow control」を制御します。

Continue C.R. after Post　POST 完了後にコンソールリダイレクションを使用するかどうかを設定します。

- ■ **Off**　POST 完了後はコンソールリダイレクションを使用しません。
- □ **On**　POST 完了後もコンソールリダイレクションを使用します。

（5） Security メニュー

Security メニューでは、システムのパスワードに関する設定を行います。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
Supervisor Password Is: Clear
Set Supervisor Password: [Enter]
Fixed disk boot sector: [Normal]
Password on boot: [Disabled]
Supervisor Password controls access to the setup utility.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Supervisor Password Is　BIOS セットアップを起動するための管理者用パスワードの状態を表示します。

Set Supervisor Password　BIOS セットアップを起動するための管理者用パスワードを設定します。

重要

パスワードは以下のルールに従います。

- 文字数は、最小 1 文字、最大 8 文字です。
- 使用できる文字は、アルファベットと数字です。
- アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

Fixed disk boot sector　ブートセクタの保護機能を設定します。

- ■ **Normal**　ブートセクタへの書き込みを許可します。
- □ **Write Protect**　ブートセクタへの書き込みを禁止します。

重要

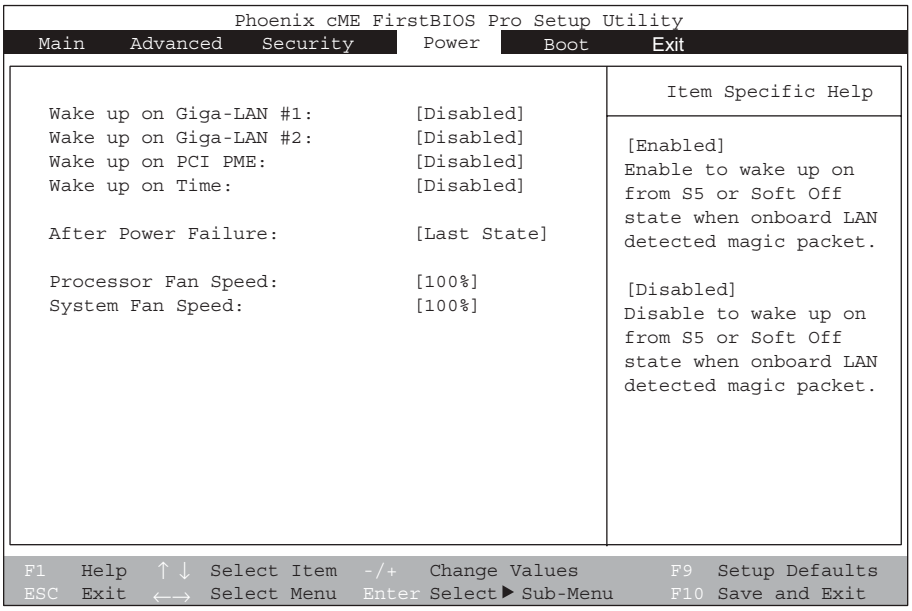
「Write Protect」に設定することで、ブートセクタをターゲットにしたウィルスを防ぐことができますが、OS のインストールなどはできなくなります。そのような場合には「Normal」に設定してください。

Password on boot　Boot 時にパスワード入力を要求するかどうかを設定します。

- □ **Enabled**　パスワード入力を要求します。
- ■ **Disabled**　パスワード入力を要求しません。

（6） Power メニュー

Power メニューでは、電源のオン／オフに関する詳細な設定を行います。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
Wake up on Giga-LAN #1: [Disabled]
Wake up on Giga-LAN #2: [Disabled]
Wake up on PCI PME: [Disabled]
Wake up on Time: [Disabled]
After Power Failure: [Last State]
Processor Fan Speed: [100%]
System Fan Speed: [100%]
[Enabled]
Enable to wake up on from S5 or Soft Off state when onboard LAN detected magic packet.
[Disabled]
Disable to wake up on from S5 or Soft Off state when onboard LAN detected magic packet.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Wake up on Giga-LAN #1

ネットワークからマジックパケットを受信したときに、ACPI の S5 状態またはソフトオフ状態のシステムを起動するかどうかを指定します。

Wake up on Giga-LAN #2

- □ **Enabled**　マジックパケット受信時にシステムを起動します。
- ■ **Disabled**　マジックパケットを受信してもシステムを起動しません。

Wake up on PCI PME

PCI バス経由で PME 信号を受信したときに、ACPI の S5 状態またはソフトオフ状態のシステムを起動するかどうかを指定します。

- □ **Enabled**　PME 信号受信時にシステムを起動します。
- ■ **Disabled**　PME 信号を受信してもシステムを起動しません。

Wake up on Time

指定時刻に ACPI の S5 状態またはソフトオフ状態のシステムを起動するかどうかを指定します。

- □ **Enabled**　指定時刻にシステムを起動します。
- ■ **Disabled**　指定時刻にシステムを起動しません。

重要　本項目の設定値が「Disabled」の場合、次に説明する「Wake up Time」は設定画面上に表示されません。

Wake up Time

システム起動時刻を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで、次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

After Power Failure　停電後に復電した場合に、システムを再起動するかどうかを指定します。

- ☐ **Power On**　復電後にシステムは再起動します。
- ☐ **Stay Off**　復電後もシステムは停止した状態となります。この場合は、パワースイッチ（Power SW）を押すとシステムが起動します。
- ■ **Last State**　停電前の状態に戻ります。

Processor Fan Speed　FAN0 および FAN1 コネクタに接続されたプロセッサ・ファンの回転速度を選択します。

- ☐ **25%**　Duty 比 25% でファンを回転させます。
- ☐ **50%**　Duty 比 50% でファンを回転させます。
- ☐ **75%**　Duty 比 75% でファンを回転させます。
- ■ **100%**　フルスピードでファンを回転させます。

重要　プロセッサ温度がある一定の温度を超えた場合に、一時的にフルスピードで回転しますが、プロセッサ温度が低下すれば、元の Duty 比に戻ります。

System Fan Speed　FAN2 ～ FAN7 コネクタに接続されたシステム・ファンの回転速度を選択します。

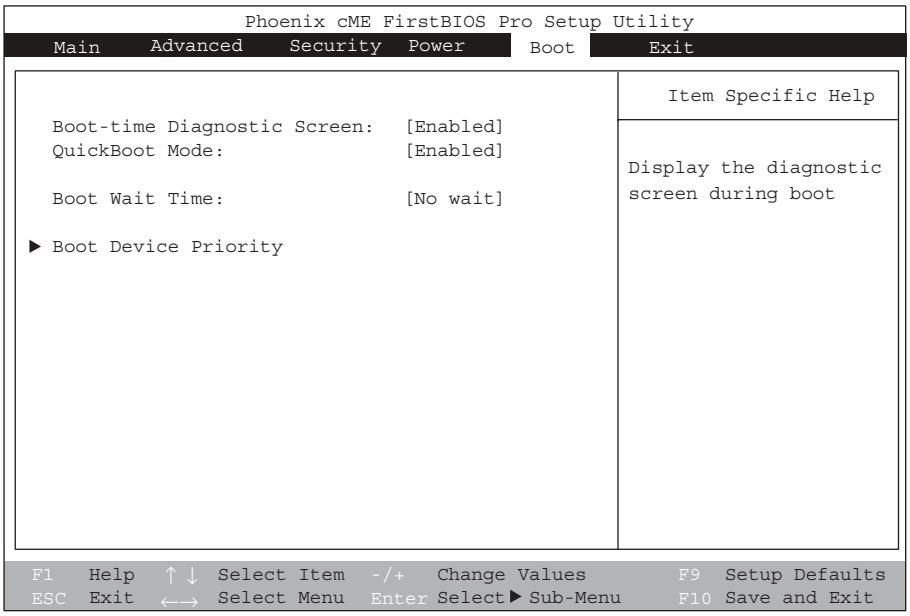
- ☐ **25%**　Duty 比 25% でファンを回転させます。
- ☐ **50%**　Duty 比 50% でファンを回転させます。
- ☐ **75%**　Duty 比 75% でファンを回転させます。
- ■ **100%**　フルスピードでファンを回転させます。

重要　本製品はパルス幅変調（PWM）方式によりファンの回転速度を制御しています。本設定は、このパルス幅変調の Duty 比を指定するものであり、実際のファンの回転数比率を指定するものではありません。

（7） Boot メニュー

Boot メニューでは、システムの起動に関する設定を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを設定します。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
Boot-time Diagnostic Screen: [Enabled]
QuickBoot Mode: [Enabled]
Boot Wait Time: [No wait]
▶ Boot Device Priority
Display the diagnostic screen during boot
F1 Help ↑ ↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Boot-time Diagnostic Screen　POST 時の診断画面やメッセージを表示するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　POST の診断画面やメッセージを表示します。
- □ **Disabled**　POST の診断画面やメッセージを表示せずに、ロゴ（グラフィックイラスト）のみを表示します。

QuickBoot Mode　クイックブートを行うかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　メモリチェックなどを簡素化し、POST 処理時間を短縮します。
- □ **Disabled**　通常の POST 処理を行います。

重要

- 起動時に CMOS チェックサムエラー（下記メッセージ）が発生した場合、クイックブートは行われません。

```
--------------------------------------------------------------------------------
 System CMOS checksum bad - Default configuration used
--------------------------------------------------------------------------------
```

- 起動時に CMOS チェックサムエラー以外の POST エラーが発生した場合、次回の起動時にはクイックブートは行われません。
- POST エラー発生後、一度正常に起動が完了すると、次回起動時からクイックブートが有効になります。

Boot Wait Time　システム起動時のウェイト時間（秒）を、以下から選択します。

■ **No wait**、□ **30s**、□ **60s**、□ **90s**、□ **120s**、□ **150s**、□ **180s**

Boot Device Priority　起動ドライブの優先順位の設定を行います。

「(7) Boot メニューのサブメニュー」(→ P.114)

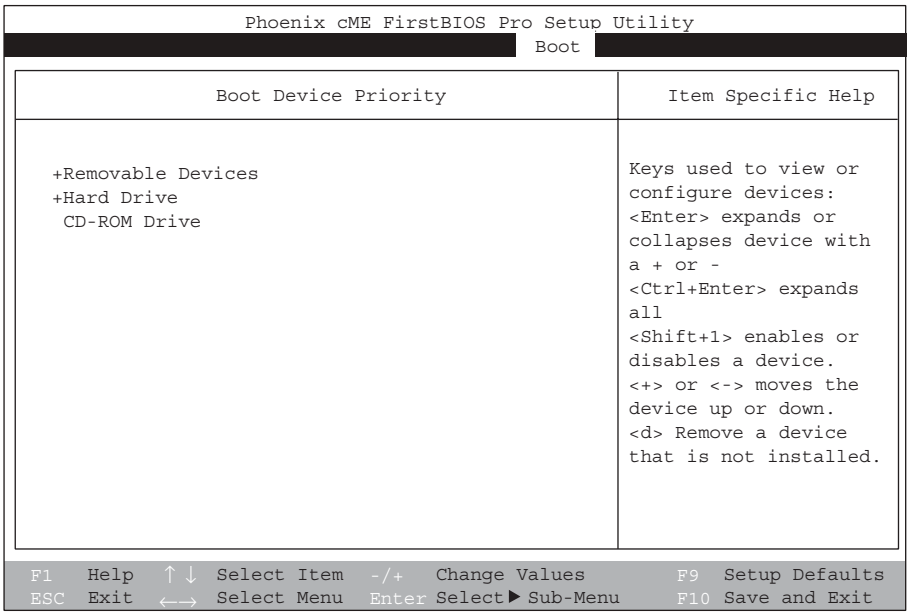
（8） Boot メニューのサブメニュー

ここでは、Boot メニューのサブメニューについて説明します。

● Boot Device Priority

起動ドライブの優先順位を設定します。以下のキー入力を行うことによって、優先順位の変更、およびそのドライブからのブートを有効にするか無効にするかを設定できます。

使用するキー	意味
< ＋ >	カーソルのあるエントリを上位の優先順位にします。
< － >	カーソルのあるエントリを下位の優先順位にします。
<Shift> + <1>	そのドライブからのブートを有効にするか無効にするかを切り替えます。
<Enter>	各エントリの前に「＋」がある場合は、詳細情報を表示します。 各エントリの前に「－」がある場合は、詳細情報を非表示にします。
<d>	接続されていない、ハードディスクやリムーバブルドライブを削除します。



Removable Devices

リムーバブルドライブからのブートを行います。

リムーバブルドライブとは、ドライブレターが A となるドライブのことです。フロッピーディスクや LS-120 などがこれにあたります。

対象となるドライブについては、詳細情報を表示することによって確認できます。

重要

BIOS の設定によって詳細情報が表示されないことがありますが、BIOS の POST および OS 起動に支障はありません。設定内容を保存し、再起動後、BIOS セットアップを起動することで現象が解消される場合があります。

Hard Drive　ハードディスクからのブートを行います。
IDE ハードディスク、SCSI ハードディスク、IDE インタフェースに準拠したデバイスなどがこれにあたります。
対象となるドライブについては、詳細情報を表示して確認できます。

重要

- ハードディスクやATA/ATAPIインタフェース準拠のリムーバブルドライブの情報は、取り外したデバイスについても保持されます。取り外したデバイスの情報を削除する場合は、デバイスを選択の上、<d> キーを押してください。
- ATA Configuration 設定の「ATA Mode」を変更した場合、ドライブのチャネル割り当てが変更されるため、「Hard Drive」の優先順位は初期化されます。
- BIOS の設定によって詳細情報が表示されないことがありますが、BIOS の POST および OS 起動に支障はありません。設定内容を保存し、再起動後、BIOS セットアップを起動することで現象が解消される場合があります。

CD-ROM Drive　ATAPI インタフェース準拠または USB 接続の CD-ROM ドライブからのブートを行います。

IBA GE Slot 0210 v1226　オンボード Gigabit Ethernet コントローラを使用して、ネットワークからのブートを行います。

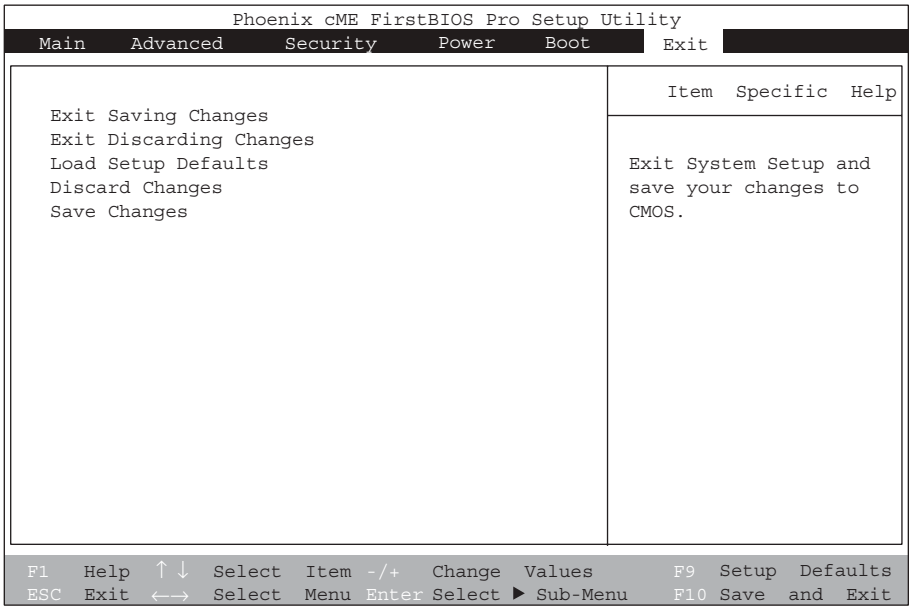
IBA GE Slot 0211 v1226　「IBA GE Slot 0210 v1226」は LAN1 コネクタ、「IBA GE Slot 0211 v1226」は LAN2 コネクタです。

重要

この項目は、「(3) Advanced メニューのサブメニュー」の「● IDE Configuration」(→ P.94)の「Onboard GigaLAN OPROM(PXE)」が「Enabled」の状態で起動した場合にのみ、表示されます。

（9） Exit メニュー

Exit メニューでは、設定を保存したり初期設定値に戻すなどしたあとで、BIOS セットアップを終了します。


Phoenix cME FirstBIOS Pro Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
Exit Saving Changes
Exit Discarding Changes
Load Setup Defaults
Discard Changes
Save Changes
Exit System Setup and save your changes to CMOS.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

Exit Saving Changes 設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。

Exit Discarding Changes 設定内容を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。

Load Setup Defaults 設定内容を工場出荷時の設定に戻します。

Discard Changes 変更した内容を元に戻します。

Save Changes 現在の内容を CMOS RAM に保存します。

第 5 章 SCSI セレクトユーティリティ（モデル 210/210E のみ）

この章では、モデル 210/210E の SCSI セレクトユーティリティの概要およびメニューの項目について、説明します。

5.1 SCSI セレクトユーティリティについて

SCSI セレクトユーティリティとは

SCSI セレクトユーティリティとは、SCSI 周辺機器と接続するための環境を設定するプログラムです。

SCSI セレクトユーティリティが必要な場合

SCSI セレクトユーティリティが必要な場合の一例を、以下に示します。

- 本製品購入時に設定値を確認する場合
- SCSI コントローラや SCSI オプションの設定を変更、確認する場合
- SCSI オプションの物理フォーマット（ハードディスクなど）または媒体検査を行う場合

5.2　SCSI セレクトユーティリティの操作

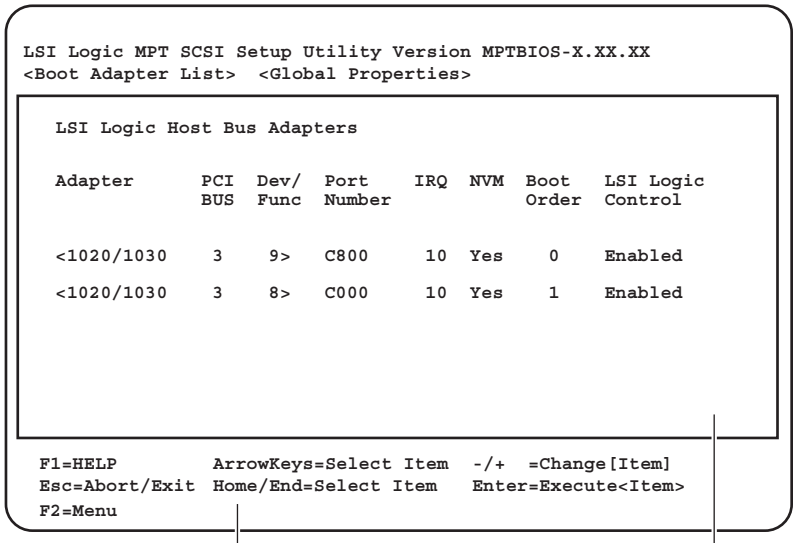
SCSI セレクトユーティリティの起動、終了および設定変更の方法を、以下に説明します。

（1） SCSI セレクトユーティリティの起動

SCSI セレクトユーティリティは、システム起動時に画面に「Press <Ctrl><C>to start LSI Logic Configuration Utility...」と表示されている間に <Ctrl>+<C> キーを押すと、起動します。

メッセージが「Please wait, invoking LSI Logic Configuration Utility...」に変わり、画面が表示されます。

以下に、SCSI セレクトユーティリティ画面を示します。



キー一覧
設定時に使えるキーの一覧です。

設定フィールド
各メニューで設定する項目と設定値が表示されます。

（2） SCSI セレクトユーティリティで使用するキー

SCSI セレクトユーティリティの実行時は、使用できるキーが画面下に一覧表示されます。使用できるキーと意味について以下に示します。表示されるキーは、画面によって異なります。

使用するキー	意味
↑ ↓、Home、End	設定する項目にカーソルを移動します。
ー、＋	項目の設定値を変更します。
<F1>	SCSI セレクトユーティリティに関する全体のヘルプが表示されます。
<F2>	Boot Adapter List にカーソルが移動します。
<ESC>	SCSI セレクトユーティリティを終了します。ただし、サブメニューを表示している場合は、メニューに戻ります。
<Enter>	設定項目を設定します。

重要

USB 接続キーボードは、SCSI セレクトユーティリティでは使用できません。SCSI セレクトユーティリティを使用する際には、必ず PS/2 キーボードを接続してください。

（3） SCSI セレクトユーティリティの終了

SCSI セレクトユーティリティを終了する場合の手順を、以下に示します。

1. Main メニューで、< ↑ > ／ < ↓ > キーまたは <Home> ／ <End> キーを押して、「Quit」を選択します。
2. 再起動する際の通知メッセージが、「Rebooting system to change global settings... Press any key」と表示されるので、何かキーを押します。
   SCSI セレクトユーティリティが終了します。

オプション製品の SCSI カード、およびその SCSI バス上の SCSI 装置の設定を行う場合、オプション製品のユーティリティについては、各製品の取扱説明書を参照してください。SCSI セレクトユーティリティでの設定は、各 SCSI バスに対して行ってください。

●変更した設定内容を保存して終了するとき

1. < ↑ > ／ < ↓ > キーまたは <Home> ／ <End> キーで変更する項目を選択し、<Enter> キーを押します。
   サブメニューがない場合は、項目が変更されます。
   サブメニューがある場合はサブメニューが表示されるので、同様の手順で変更します。
2. 設定を終了したら、サブメニューの「Exit this menu」を選択し、<Enter> キーを押します。
   変更した値を保存するかどうかのメッセージが表示されます。
3. 保存して Main メニューに戻るときは「Save Changes」を、再度サブメニューに戻るときは「Cancel Exit」を選択し、<Enter> キーを押します。

●変更した設定内容を保存しないで終了するとき

1. < ↑ > ／ < ↓ > キーまたは <Home> ／ <End> キーで変更する項目を選択し、<Enter> キーを押します。
   サブメニューがない場合は、項目が変更されます。
   サブメニューがある場合は、サブメニューが表示されます。同様の手順で変更します。
2. 設定を終了したら、サブメニューの「Exit this menu」を選択し、<Enter> キーを押します。
   変更した値を保存するかどうかのメッセージが表示されます。
3. 保存せずに Main メニューに戻るときは「Cancel Changes」を、再度サブメニューに戻るときは「Cancel Exit」を選択し、<Enter> キーを押します。

5.3 SCSI セレクトユーティリティのメニュー

SCSI セレクトユーティリティメニューは、以下の 5 つに分かれています。

メニュー名	内容	参照ページ
Main	SCSI セレクトユーティリティに関する基本的な設定を行います。	187
Boot Adapter List	SCSI コントローラに関する設定を行います。	188
Global Properties	情報の表示／非表示や画面などに関する設定を行います。	189
Adapter Properties	SCSI アダプタに関する設定を行います。	190
Device Properties	SCSI デバイスに関する設定を行います。	192

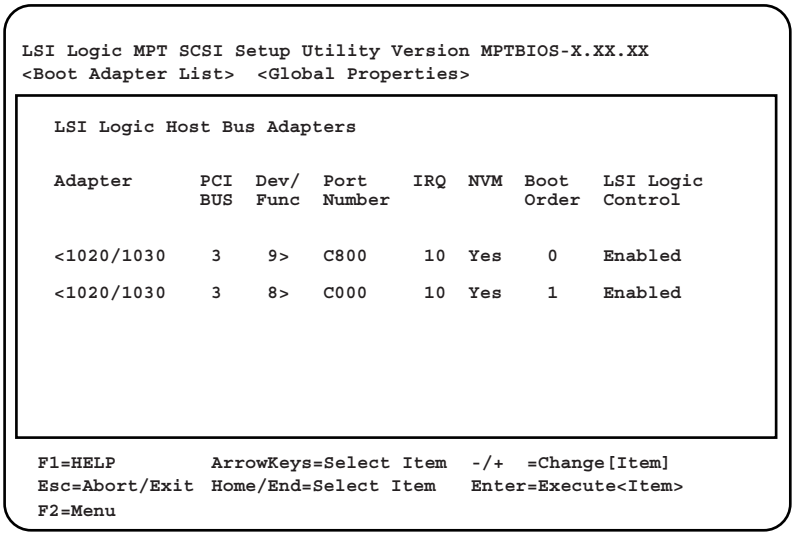
以降、各メニューの項目の詳細について説明します。

参照 操作方法については、「5.2 SCSI セレクトユーティリティの操作」（→ P.184）を参照してください。

（1） Main メニュー

この画面では、認識されている SCSI アダプタの概略が表示されます。

<F2> キーを使用すると Boot Adapter List メニューや Global Properties メニューへ、アダプタを選択して <Enter> キーを押すと Adapter Properties メニューへ、移ることができます。



PCI Bus

接続されている PCI バス番号が表示されます。

Dev/Func

システム BIOS によって割り当てられている PCI Device/Function 番号が表示されます。

Port Number
割り当てられたポート番号が表示されます。

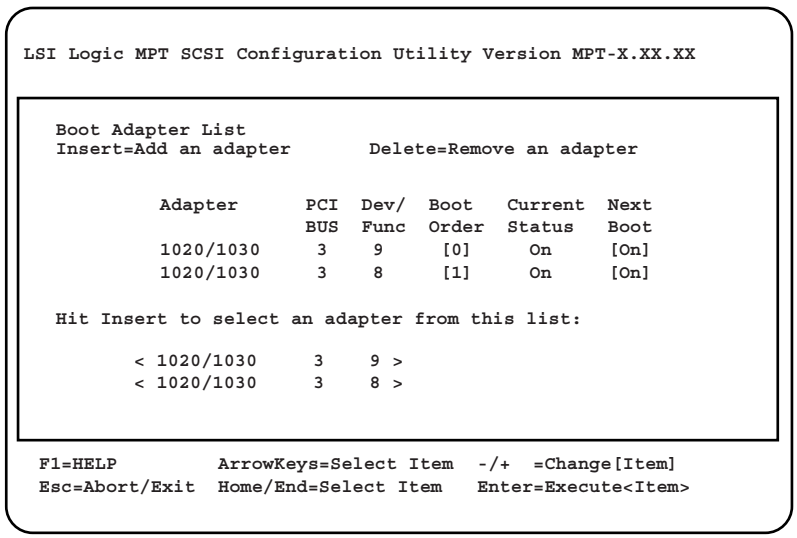
IRQ
割り当てられた IRQ が表示されます。

NVM
NVRAM メモリの有無が表示されます。

Boot Order
起動時の優先順位が表示されます。

LSI Logic Control
アダプタが LSI Logic ソフトウェアでコントロールされるかどうかが表示されます。

（2） Boot Adapter List メニュー
Boot Adapter List メニューでは、SCSI アダプタからの起動の設定を行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

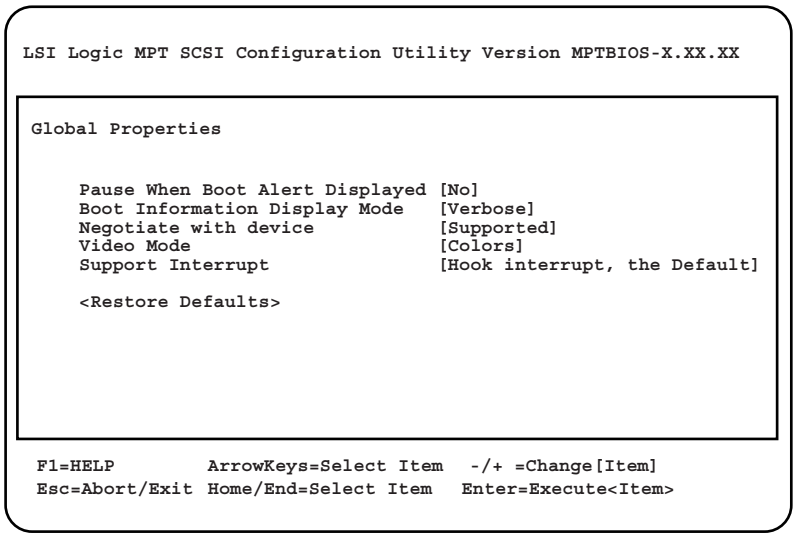
Boot Order
システム起動時の SCSI コントローラの優先順位を設定します。

Next Boot
SCSI コントローラについて設定します。

□ **Off**	SCSI コントローラを使用しません。
■ **On**	SCSI コントローラを使用します。

（3） Global Properties メニュー

Global Properties メニューでは、SCSI コントローラの動作について設定します。


LSI Logic MPT SCSI Configuration Utility Version MPTBIOS-X.XX.XX
Global Properties
Pause When Boot Alert Displayed [No]
Boot Information Display Mode [Verbose]
Negotiate with device [Supported]
Video Mode [Colors]
Support Interrupt [Hook interrupt, the Default]
<Restore Defaults>
F1=HELP ArrowKeys=Select Item -/+ =Change[Item]
Esc=Abort/Exit Home/End=Select Item Enter=Execute<Item>

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Pause When Boot Alert Displayed

SCSI スキャン時に異常を検出した場合、停止するかどうかを設定します。

- ■ **No**　SCSI スキャン時に停止しません。
- □ **Yes**　SCSI スキャン時に停止します。

Boot Information Display Mode

設定情報の表示方法について設定します。

- ■ **Verbose**　詳細な設定情報を表示します。
- □ **Terse**　設定情報を簡略化して表示します。

Negotiate with device

ホストコントローラが取り扱うデバイスを設定します。

- ■ **Supported**　サポートするデバイスを設定します。
- □ **All**　すべてのデバイスを設定します。

Video Mode

画面のカラーを設定します。

- □ **Monochrome**　画面をモノクロに設定します。
- ■ **Colors**　画面をカラーに設定します。

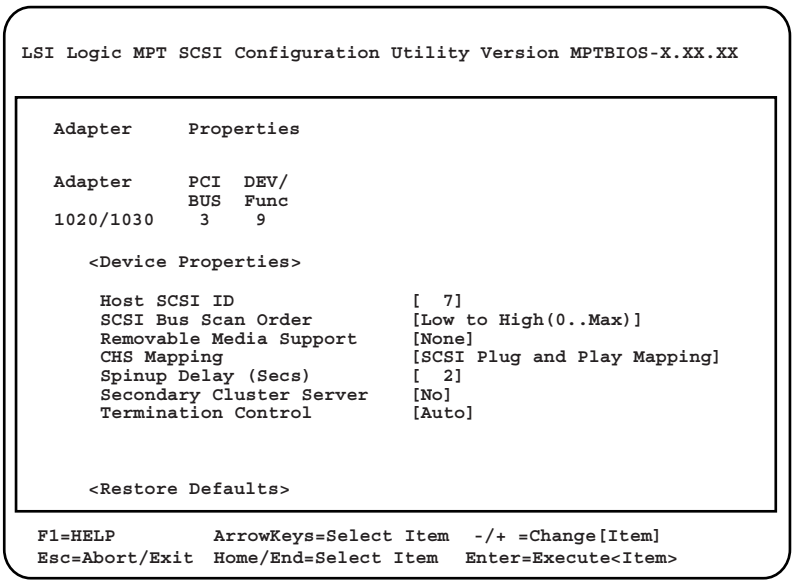
Support Interrupt

INT 40 によってフックを許可するかどうかを設定します。

- ■ **Hook interrupt, the Default**　INT 40 によってフックを許可します。
- □ **Bypass interrupt hook**　INT 40 によってフックをサポートしません。

（4） Adapter Properties メニュー

Adapter Properties メニューでは、各 SCSI アダプタの詳細構成情報を設定します。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Host SCSI ID（変更禁止）

SCSI コントローラの SCSI ID を 0 ～ 15 から選択します。SCSI コントローラの SCSI ID は、SCSI バス上で最高の優先順位の「7」に設定されています。この設定は変更しないでください。

SCSI Bus Scan Order

システム起動時、SCSI コントローラが認識する SCSI 装置の順序を設定します。

■ **Low to High(0..Max)**	SCSI ID 0 から昇順に起動します。
□ **High to Low(Max..0)**	設定している SCSI ID の最大値から降順に起動します。

Removable Media Support

リムーバブルディスクユニット（光磁気ディスクユニットなど）をハードディスクとしてサポートするかどうかを設定します。

■ **None**	リムーバブルディスクユニットをサポートしません。
□ **Boot Drive Only**	起動ディスクに指定されたリムーバブルディスクユニットのみ、サポートします。
□ **With Media Installed**	リムーバブルディスクユニットに媒体が入っている場合のみ、サポートします。

CHS Mapping

CHS のマッピング方法を設定します。

■ **SCSI Plug and Play Mapping**	SCSI Plug and Play Mapping に対応したデバイスを使用します。
□ **Alternate CHS Mapping**	SCSI Plug and Play Mapping に互換性のないデバイスを使用します。

Spinup Delay（Secs）

ディスクを Spinup する間隔（秒）を、以下のいずれかに設定します。

□ **0 ～ 15（■ 2）**

Secondary Cluster Server

セカンダリクラスタサーバについて設定します。

■ **No**	セカンダリクラスタサーバを使用しません。
□ **Yes**	セカンダリクラスタサーバを使用します。

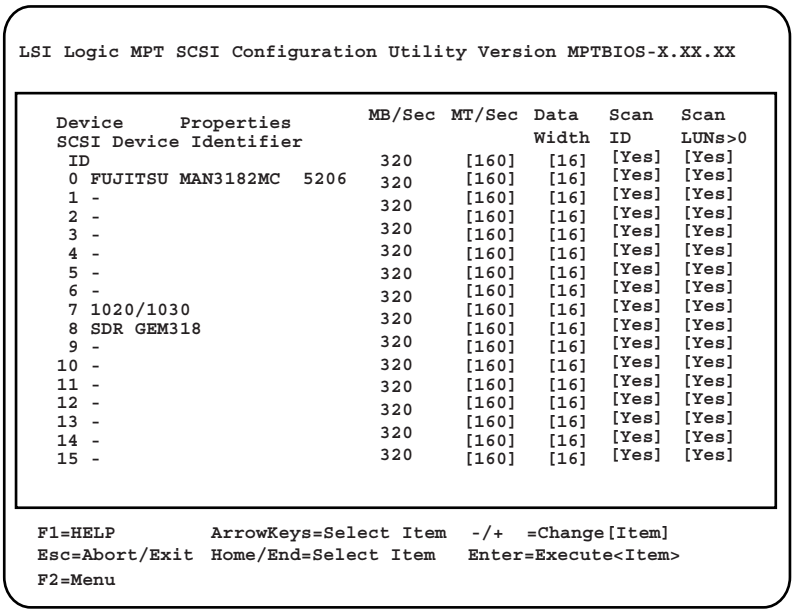
Termination Control（変更不可）

ターミネータ制御の設定が表示されます。この設定は変更できません。

■ **Auto**	ターミネータの制御を自動的に行います。

（5） Device Properties メニュー

Device Properties メニューでは、SCSI アダプタに接続されているデバイスの各種設定を行います。


LSI Logic MPT SCSI Configuration Utility Version MPTBIOS-X.XX.XX
Device Properties
SCSI Device Identifier
MB/Sec MT/Sec Data Width Scan ID Scan LUNs>0
ID
0 FUJITSU MAN3182MC 5206 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
1 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
2 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
3 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
4 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
5 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
6 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
7 1020/1030 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
8 SDR GEM318 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
9 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
10 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
11 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
12 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
13 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
14 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
15 - 320 [160] [16] [Yes] [Yes]
F1=HELP ArrowKeys=Select Item -/+ =Change[Item]
Esc=Abort/Exit Home/End=Select Item Enter=Execute<Item>
F2=Menu

□：設定項目　■：工場出荷設定値

MT/Sec

SCSI コントローラがサポートする最大同期転送速度を、以下のいずれかに設定します。

■ 160、□ 80、□ 40、□ 20、□ 10、□ 5、□ 0

Data Width

SCSI コントローラが行うデータ転送のバス幅を、以下のいずれかに設定します。

■ 16、□ 8

Scan ID

SCSI ID を認識するかどうかを設定します。

□ No　　SCSI ID を認識しません。

■ Yes　　SCSI ID を認識します。

Scan LUNs >0

複数の LUN がある SCSI 装置のサポートについて設定します。

□ No　　LUN 0 のみサポートします。

■ Yes　　複数の LUN をサポートします。

Disconnect

SCSI コントローラのディスコネクト機能について設定します。

□ **Off**　　ディスコネクト機能を使用しません。

■ **On**　　ディスコネクト機能を使用します。

SCSI Timeout

SCSI 装置の読み込みまたは書き込みする間の、SCSI コントローラのタイムアウト時間（秒）を、以下のいずれかに設定します。

□ **0 ～ 255（■ 10）**

Queue Tags

キュータグ機能をサポートする SCSI 装置について、設定します。

□ **Off**　　キュータグ機能をサポートしません。

■ **On**　　キュータグ機能をサポートします。

Boot Choice（変更不可）

ブートの選択が表示されます。この設定は変更できません。「No」が設定されています。

Format

選択した SCSI 装置に対して、物理フォーマットを行います。

重要　この項目を選択すると、選択した SCSI 装置の全データが消去されます。事前に、必ずデータのバックアップを取っておいてください。

Verify

選択した SCSI 装置の媒体を検査します。

Restore Defaults

それぞれの設定を初期値に戻します。

このページは空白です。

第 6 章 困ったときには

この章では、本製品を使用していてトラブルが発生した場合の対処方法について、説明します。
原因の特定ができない場合や現象が解消されない場合は、弊社の担当営業に連絡してください。以下に、発生すると考えられる代表的なトラブルについて説明します。状況整理時の参考にしてください。

6.1 起動時の動作に関するトラブル

本製品の起動時には、以下のようなトラブルが発生する場合があります。

(1) 電源が入らない

【現象】電源スイッチを押しても電源が入らない。
【原因】以下のどれかの原因が考えられます。

- ケーブルが抜けている、または断線している。
  →ケーブルが正しく接続されているかを確認してください。
  断線している場合は、ケーブルの交換が必要です。弊社の担当営業に連絡してください。
- UPS 装置を使用しているが UPS 装置の電源が入っていない、またはバッテリの残量がない。
  → UPS 装置の電源を入れる、またはバッテリの残量を確認してください。
  UPS 装置のバッテリ残量が少ない場合、バッテリの交換が必要になる場合があります。UPS 装置の購入元に連絡してください。なお、UPS 装置の起動状態およびバッテリ残量の確認方法については、UPS 装置の取扱説明書を参照してください。
- UPS 装置と接続しているときに、UPS 装置のオフボタンを押した。
  → UPS 装置のオン／テストボタンを押して、UPS 装置の電源を入れてください。
- 本体装置の故障などのハードウェア障害が発生した。
  →弊社の担当営業に連絡してください。

(2) 起動時にメッセージが表示される

【現象】POST 時に BIOS メッセージが表示されて OS が起動しない。
【対処】「付録 B BIOS メッセージ」（→ P.203 ）を参照してください。

6.2 営業員に連絡するときは

どうしても故障の原因がわからないときは、弊社の担当営業に連絡してください。
なお、OS またはアプリケーションに関するトラブルについては、お客様にて対処をお願いします。

（1） 確認事項

事前に次のことを確認して、営業員に伝えられるようにしておいてください。

- 本製品の型名
- 本製品に取り付けているオプションの種類
- BIOS セットアップや SCSI セレクトユーティリティでの工場出荷設定値からの変更箇所
- ご使用の OS
- 現象（何をしているときに何が起きたか、画面に表示されたメッセージなど）
- 本製品の設置環境
- 各種ランプの状態
- BIOS Event Log
- System Monitor 実行時には、以下の情報
    - System Monitor Log
    - BIOS Event Log
    - 温度監視情報
    - 電圧値監視情報
    - ファン回転数監視情報
    - 通報メッセージ

（2） 修理対象期間

修理対象期間は納品日（顧客検収時）から起算し 5 年間です。

納品日が分からない場合は、本装置の製造年月（装置銘板で確認できます）から起算し 5 年間とします。

本製品を修理依頼する場合は、お客様で搭載したユニット等は取り外して故障の再現確認を実施後、修理依頼を行ってください。
なお、ハードディスクなど格納されているデータについては保証できませんので、お客様自身でバックアップをとるなどの処置を行ってください。

付録 A 仕様

A.1 製品仕様

本製品の仕様は以下のとおりです。

モデル 200/210（RoHS 未対応）

項目		概要	
品名		エンベデッドコンピュータ AR8300 シリーズ	
モデル		モデル 200（RoHS 未対応）	モデル 210（RoHS 未対応）
型名		PD-AR8HP4M	PD-AR8HXEM
CPU （必須オプション）		インテル® Celeron® プロセッサ 2.0GHz / 128KB ／ インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.4GHz / 512KB ／ インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.8GHz / 512KB	インテル® Xeon® プロセッサ 2.4GHz / 512KB ／ インテル® Xeon® プロセッサ 2.8GHz / 512KB （最大 2CPU）
チップセット		インテル® 845E チップセット	インテル® E7501 チップセット
FSB		533MHz / 400MHz	533MHz / 400MHz
メモリ （必須オプション）		DDR DIMM Unbuffered ECC 機能：あり／なし スロット数：2 標準：256MB / 512MB 最大：1GB（512MB × 2）	DDR DIMM Registered ECC 機能：あり スロット数：6 標準：1GB（512MB × 2）/ 2GB（1GB × 2） 最大：6GB（1GB × 6）
表示制御	グラフィックスコントローラ	Silicon Motion 製 LynxEM+ （VRAM 4MB）	Silicon Motion 製 Lynx3DM+ （VRAM 8MB）
	CRT 最大解像度 / 表示色	1,280 × 1,024 ドット / 65,536 色	1,280 × 1,024 ドット / 1,677 万色
ハードディスク （必須オプション）		3.5 インチ IDE ハードディスク（ATA100） 40GB / 80GB から選択（最大 2 台搭載可）(*1)	
光学ドライブ		薄型 24 倍速 CD-ROM（標準搭載）	
フロッピーディスクドライブ		厚型フロッピーディスクドライブ（標準搭載） × 1	
5 インチベイ		1	

項目	概要	
インタフェース		
LAN	10/100BASE-TX × 1	10/100BASE-TX × 1、 10/100/1000BASE-T × 1
シリアル	RS-232C（D-SUB 9 ピン)）× 1	
パラレル	IEEE1284（D-SUB 25 ピン）× 1	
キーボード／マウス	PS/2（DIN 6 ピン）×各 1	
USB	USB2.0 × 6（前面× 2、背面× 4）	USB1.1 × 2（背面）
SCSI	−	内部に 2 ポート（Ultra320）
VGA	D-SUB 15 ピン× 1	
CF	−（*2）	
オーディオ	ラインイン× 1、ラインアウト× 1 マイクイン× 1	−
拡張インタフェース		
AGP	1 スロット	−
PCI	5 スロット（32bit/33MHz） うち 1 スロットはロングカード搭載可	6 スロット（64bit/100MHz × 2、 64bit/66MHz × 2、32bit/33MHz × 2） うち 2 スロットはロングカード搭載可
設置環境温度	5 ～ 40 ℃	
外形寸法 （横幅×奥行き×高さ）	160 × 450 × 422（mm）	
質量	21kg	22kg
電源	AC 100-240V（50/60Hz）	
最大消費電力	2.90A	4.50A
省電力モード	S1、S3、S4	−
RAS 機能	CPU 温度監視、ファン監視、電圧監視、HDD 監視（S.M.A.R.T.） （専用ソフトウェアによる状態表示、異常通知）	
対応 OS	Microsoft® Windows® XP Professional operating system Microsoft® Windows® XP Embedded operating system Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system Red Hat® Enterprise Linux® V3 / V4	

*1）カスタマイズ対応で IDE 活性交換ハードディスクの搭載が可能です。

*2）カスタマイズ対応で搭載可能

モデル 210 では省電力モードをサポートしていません。OS に Windows® をご使用の場合は、電源オプションの「休止状態を有効にする」のチェックを外してお使いください。

モデル 200（RoHS 対応）/210（RoHS 対応）

項目		概要	
品名		エンベデッドコンピュータ AR8300 シリーズ	
モデル		モデル 200（RoHS 対応）	モデル 210（RoHS 対応）
型名		PD-AR8HP4MR	PD-AR8HXEMR
CPU （必須オプション）		インテル® Celeron® プロセッサ 2.0GHz / 128KB ／ インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.4GHz / 512KB ／ インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.8GHz / 512KB	インテル® Xeon® プロセッサ 2.4GHz / 512KB ／ インテル® Xeon® プロセッサ 2.8GHz / 512KB （最大 2CPU）
チップセット		インテル® 845E チップセット	インテル® E7501 チップセット
FSB		533MHz / 400MHz	533MHz / 400MHz
メモリ （必須オプション）		DDR DIMM Unbuffered ECC 機能：あり／なし スロット数：2 256MB / 512MB / 1GB から選択 最大：2GB（1GB × 2）	DDR DIMM Registered ECC 機能：あり スロット数：6 1GB（512MB × 2）/ 2GB（1GB × 2） から選択 最大：6GB（1GB × 6）
表示制御	グラフィックスコントローラ	Silicon Motion 製 LynxEM+ （VRAM 4MB）	Silicon Motion 製 Lynx3DM+ （VRAM 8MB）
	CRT 最大解像度 / 表示色	1,280 × 1,024 ドット / 65,536 色	1,280 × 1,024 ドット / 1,677 万色
ハードディスク （必須オプション）		（標準構成） 3.5 インチ IDE ハードディスク（ATA100） 80GB / 160GB から選択（最大 2 台搭載可）(*1)	
		（RAID 構成） 3.5 インチ SATA ハードディスク × 2 80GB / 160GB / 250GB（高信頼）から選択 （SATA RAID カードを使用して RAID1 を構築）	
光学ドライブ		薄型 24 倍速 CD-ROM（標準搭載） 薄型 CD-RW/DVD-ROM（オプション）	
フロッピーディスクドライブ		薄型（標準搭載） × 1	
5 インチベイ		1	

項目	概要	
インタフェース		
LAN	10/100BASE-TX × 1（標準） LAN カードオプション搭載により、 10/100/1000BASE-T を 最大 3 個まで増設可能	10/100BASE-TX × 1、 10/100/1000BASE-T × 1（標準） LAN カードオプション搭載により、 10/100/1000BASE-T を 最大 4 個まで増設可能
シリアル	RS-232C（D-SUB 9 ピン）× 1（標準） RS-232C ブラケットオプション搭載により、1 個増設可能	
パラレル	IEEE1284（D-SUB 25 ピン）× 1	
キーボード／マウス	PS/2（DIN 6 ピン）×各 1	
USB	USB2.0 × 6（前面× 2、背面× 4）	USB1.1 × 2（背面）
SCSI	―	内部に 2 ポート（Ultra320）
VGA	D-SUB 15 ピン× 1	
CF	―（*2）	
オーディオ	ラインイン× 1、ラインアウト× 1 マイクイン× 1	―
拡張インタフェース		
AGP	1 スロット	―
PCI	5 スロット（32bit/33MHz） うち 1 スロットはロングカード搭載可	6 スロット（64bit/100MHz × 2、 64bit/66MHz × 2、32bit/33MHz × 2） うち 2 スロットはロングカード搭載可
設置環境温度	5 ～ 40 ℃	
外形寸法 （横幅×奥行き×高さ）	160 × 450 × 422（mm）	
質量	21kg	22kg
電源	AC 100V（50/60Hz）	
最大消費電力	2.80A	3.37A
省電力モード	S1、S4	―
RAS 機能	CPU 温度監視、ファン監視、電圧監視、HDD 監視（S.M.A.R.T.） （専用ソフトウェアによる状態表示、異常通知）	
対応 OS	Microsoft® Windows® XP Professional operating system（オプション搭載可） Microsoft® Windows® XP Embedded operating system Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system Red Hat® Enterprise Linux® V3 / V4	

*1）カスタマイズ対応で IDE 活性交換ハードディスクの搭載が可能です。
*2）カスタマイズ対応で搭載可能

モデル 220/210E

項目		概要	
品名		エンベデッドコンピュータ AR8300 シリーズ	
モデル		モデル 220	モデル 210E
型名		PD-AR8HPMM	PD-AR8HXEMP
CPU （必須オプション）		インテル® Celeron® M プロセッサ 320（1.3 GHz / 512KB） インテル® Pentium® M プロセッサ 1.6GHz / 1MB インテル® Pentium® M プロセッサ 745（1.8GHz / 2MB）	インテル® Xeon® プロセッサ 3.2GHz / 1MB （最大 2CPU）
チップセット		インテル® 855GME チップセット	インテル® E7520 チップセット
FSB		400MHz	800MHz
メモリ （必須オプション）		DDR DIMM Unbuffered ECC 機能：あり / なし スロット数：2 256MB / 512MB / 1GB から選択 最大：2GB（1GB × 2）	DDR2 DIMM Registered ECC 機能：あり スロット数：8 1GB（512MB × 2）/ 2GB（1GB × 2）から選択 最大：8GB（1GB × 8）
表示制御	グラフィックスコントローラ	BulitinChipset （VRAM はメインメモリ使用）	ATi 製 RN50 （VRAM 32MB）
	CRT 最大解像度 / 表示色	1,600 × 1,200 ドット / 1,677 万色	1,280 × 1,024 ドット / 1,677 万色
ハードディスク （必須オプション）		（標準構成） 3.5 インチ IDE ハードディスク （ATA100） 80GB / 160GB から選択 （最大 2 台搭載可）	（標準構成） 3.5 インチ SATA ハードディスク 80GB / 160GB / 250GB（24H 対応） （最大 2 台搭載可）
		（RAID 構成） 3.5 インチ SATA ハードディスク × 2 80GB / 160GB / 250GB（高信頼）から選択 （SATA RAID カードを使用して RAID1 を構築）	
光学ドライブ		薄型 24 倍速 CD-ROM（標準搭載） 薄型 CD-RW/DVD-ROM（オプション）	
フロッピーディスクドライブ		薄型（標準搭載） × 1	
5 インチベイ		1	

項目	概要	
インタフェース		
LAN	10/100BASE-TX × 2（標準） LAN カードオプション搭載により、 10/100/1000BASE-T を 最大 3 個まで増設可能	10/100/1000BASE-T × 2（標準） LAN カードオプション搭載により、 10/100/1000BASE-T を 最大 5 個まで増設可能
シリアル	RS-232C（D-SUB 9 ピン）× 1（標準） RS-232C ブラケットオプション搭載により、1 個増設可能	
パラレル	IEEE1284（D-SUB 25 ピン）× 1	
キーボード／マウス	PS/2（DIN 6 ピン）×各 1	
USB	USB2.0 × 6（前面× 2、背面× 4）	USB2.0 × 2（背面）
SCSI	―	内部に 2 ポート（Ultra320）
VGA	D-SUB 15 ピン× 1	
CF	―（*2）	
オーディオ	ラインイン× 1、ラインアウト× 1、 マイクイン× 1	―
拡張インタフェース		
AGP	1 スロット	―
PCI	5 スロット（32bit/33MHz） ロングカード 1 枚搭載可	4 スロット（64bit/100MHz × 2、 64bit/133MHz × 1、32bit/33MHz × 1） ロングカード 2 枚搭載可
PCI Express	―	2 スロット（PCI Express x8）
設置環境温度	5 ～ 40 ℃	
外形寸法 （横幅×奥行き×高さ）	160 × 450 × 422（mm）	
質量	21kg	23kg
電源	AC 100-240V（50/60Hz）	
最大消費電力	2.05A	4.63A
省電力モード	S1、S4	―
RAS 機能	CPU 温度監視、ファン監視、電圧監視、HDD 監視（S.M.A.R.T.） （専用ソフトウェアによる状態表示、異常通知）	
対応 OS	Microsoft® Windows® XP Professional operating system（オプション搭載可） Microsoft® Windows® XP Embedded operating system Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system Red Hat® Linux® Enterprise V3 / V4	

*1）カスタマイズ対応で IDE 活性交換ハードディスクの搭載が可能です。

*2）カスタマイズ対応で搭載可能

重要 モデル 210/210E では省電力モードをサポートしていません。OS に Windows® をご使用の場合は、電源オプションの「休止状態を有効にする」のチェックを外してお使いください。

付録 B BIOS メッセージ

POST 時に表示される BIOS メッセージとその意味について示します。

B.1 モデル 200/210E

メッセージ	意味
0200: Failure Fixed Disk	ハードディスクが不良です。
0210: Stuck Key	キーボードの操作エラー（Stuck Key）です。
0211: Keyboard error	キーボードのエラーです。
0212: Keyboard Controller Failed	キーボードコントローラのエラーです。
0213: Keyboard locked - Unlock key switch	キーボードがロック状態です。キースイッチのロックを解除してください。
0220: Monitor type does not match CMOS - Run SETUP	モニタのタイプが CMOS と一致しません。BIOS セットアップをやり直してください。
0230: System RAM Failed at offset: nnnn	システム RAM のメモリエラーです。
0231: Shadow Ram Failed at offset: nnnn	シャドウ RAM のメモリエラーです。
0232: Extended RAM Failed at address line: nnnn	拡張 RAM のメモリエラーです。
0250: System battery is dead - Replace and run SETUP	バックアップバッテリの消耗です。弊社の担当営業までご連絡ください。
0251: System CMOS checksum bad - Default configuration used	CMOS RAM の内容が異常です。一部デフォルトの設定で起動します。
0260: System timer error	システムタイマのエラーです。
0270: Real time clock error	RTC のエラーです。
0271: Check date and time settings	日付と時刻の設定を確認してください。
0280: Previous boot incomplete - Default configuration used	前回、正常に起動できなかったので、一部デフォルトの設定で起動します。
0281: Memory Size found by POST differed from EISA CMOS	POST で検出されたメモリサイズが EISA CMOS の内容と一致しませんでした。
02B0: Diskette drive A error	フロッピーディスク（A ドライブ）のエラーです。
02B1: Diskette drive B error	フロッピーディスク（B ドライブ）のエラーです。
02B2: Incorrect Drive A type - run SETUP	フロッピーディスク（A ドライブ）の種別が正しくありません。BIOS セットアップをやり直してください。
02B3: Incorrect Drive B type - run SETUP	フロッピーディスク（B ドライブ）の種別が正しくありません。BIOS セットアップをやり直してください。
02D0: System cache error - Cache disabled	システムキャッシュのエラーです。キャッシュは使用できません。
xxxx Address Conflict	複数の I/O のアドレスがコンフリクトしています。
Allocation Error for xxxx	xxxx に表示されたデバイスによって、リソースのアロケーションエラーが発生しました。

メッセージ	意味
CD ROM Drive	CD-ROM ドライブが認識されました。
Entering SETUP ...	SETUP を起動中です。
Failing Bits: xxxx	xxxx で示したアドレスでメモリテスト fail が発生しました。
Fixed Disk n:	n 番目（0 ～ 3）のディスクが検出されました。
Invalid System Configuration Data	システム設定値が正しくありません。
I/O device IRQ conflict	複数の I/O の IRQ がコンフリクトしています。
Keyboard Detected	キーボードが検出されました。
Mouse initialized	マウスが初期化されました。
nnnn M Extended RAM Passed	拡張 RAM のテストが終了しました。
nnnn Cache SRAM Passed	キャッシュ SRAM のテストが終了しました。
nnnn KB Shadow RAM Passed	シャドウ RAM のテストが終了しました。
nnnn KB System RAM Passed	システム RAM のテストが終了しました。
Operating system not found	OS が格納されているデバイスが見つかりません。ドライブが正しく設定されているか確認してください。
Parity Check 1 nnnn	nnnn で示されるシステムバス上でパリティエラーが発生しました。
Parity Check 2 nnnn	nnnn で示される I/O バス上でパリティエラーが発生しました。
Press <F1> to resume, <F2> to Setup, <F3> for previous	POST 時にエラーが発生すると表示されます。<F1> キーを押すと OS、<F2> キーを押すと BIOS セットアップ、<F3> キーを押すと拡張 BIOS 上の Setup Utility が起動されます。
Press <F1> to resume, <F2> to Setup	POST 時にエラーが発生すると表示されます。<F1> キーを押すと OS、<F2> キーを押すと BIOS セットアップが起動されます。
Press <F1> to resume, <F3> for previous	POST 時にエラーが発生すると表示されます。<F1> キーを押すと OS、<F3> キーを押すと拡張 BIOS 上の Setup Utility が起動されます。
Press <F1> to resume	<F1> キーを押すと OS が起動されます。
Press <F2> for System Utilities	<F2> キーを押すと BIOS セットアップが起動されます。
System BIOS shadowed	システム BIOS をシャドウしました。
Video BIOS shadowed	ビデオ BIOS をシャドウしました。
Single-bit ECC error occurred.	メモリ ECC エラー（シングルビット）が発生しました。
Multiple-bit ECC error occurred.	メモリ ECC エラー（マルチビット）が発生しました。

B.2 モデル 210/220

メッセージ	意味
Floppy Controller Failure	BIOS 設定と実際のフロッピーディスクドライブが異なっています。
A: Drive Error	Floppy Drive 0 で seek error が発生しました。
B: Drive Error	Floppy Drive 1 で seek error が発生しました。
Timer Error	システムタイマ異常が発生しました。
Refresh timer test failed	Refresh テストがエラーとなりました。
Keyboard/Interface Error	キーボードコントローラ異常（キーボードコントローラから期待するステータスが返ってこない）が発生しました。
Unlock Keyboard	Keyboard lock bit(bit4) が 0 の時、エラーを発生します。
RAM R/W test failed	Memory R/W テストで Multi Bit エラーが発生しました。 異常メモリはバンク単位で切り離されます。
CMOS Battery Low	CMOS Battery 異常が発生しました。
CMOS Checksum Bad	CMOS チェックサム異常が検出されました。
CMOS Settings Wrong	CMOS 情報に異常が検出されました。
CMOS Date/Time Not Set	日付／時間が設定されていません。
Password check failed	パスワードチェックでエラーとなりました。
Primary Master Hard Disk Error	プライマリマスターのハードディスクチェックでエラーとなりました。
Primary Slave Hard Disk Error	プライマリスレーブのハードディスクチェックでエラーとなりました。
Secondary Master Hard Disk Error	セカンダリマスターのハードディスクチェックでエラーとなりました。
Secondary Slave Hard Disk Error	セカンダリスレーブのハードディスクチェックでエラーとなりました。
S.M.A.R.T. Command Failed	SMART コマンドでエラーとなりました。
S.M.A.R.T. Status BAD, Backup and Replace	SMART ステータス異常（BAD ステータス）を検出しました。
Primary Master Drive - ATAPI Incompatible	プライマリマスタードライブで異常（ATAPI 非互換）を検出しました。
Primary Slave Drive - ATAPI Incompatible	プライマリスレーブドライブで異常（ATAPI 非互換）を検出しました。
Secondary Master Drive - ATAPI Incompatible	セカンダリマスタードライブで異常（ATAPI 非互換）を検出しました。
Secondary Slave Drive - ATAPI Incompatible	セカンダリスレーブドライブで異常（ATAPI 非互換）を検出しました。
DMA Controller Error	DMA Controller 異常を検出しました。
DMA-1 Error	DMA Controller Unit1 の Channel Register 異常を検出しました。
DMA-2 Error	DMA Controller Unit2 の Channel Register 異常を検出しました。
CPU Clock Mismatch	CPU 構成異常（異なった動作周波数の CPU が混在）を検出しました。
Memory Allocation Error	拡張 BIOS の展開処理でメモリリソースエラーが発生しました。

付録 C コンフィグレーションシート

本製品のセットアップの設定値を記録しておきます。
各メニューのマークは、次を意味します。
□：設定項目　■：工場出荷設定値

C.1 BIOS 設定シート

以下に、BIOS セットアップの各項目と設定値の一覧を示します。

重要 CMOS のバックアップバッテリが切れた場合、BIOS セットアップの設定は工場出荷設定値に戻ります。

（1） モデル 200

Main メニュー

項目	設定値
System Time	時：分：秒を設定
System Date	月／日／年（西暦）を設定
Legacy Diskette A	□ Disabled ■ 1.44MB 3 1/2"
Primary Master（ハードディスク搭載時の例）	
Type	■ Auto □ None □ CD-ROM □ Other ATAPI □ User
Multi_Sector Transfers	□ Disabled ■ 16 Sectors □ 8 Sectors □ 4 Sectors □ 2 Sectors
LBA Mode Control	□ Disabled ■ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled □ Enabled
Transfer Mode	□ Standard □ Fast PIO 1 □ Fast PIO 2 □ Fast PIO 3 □ Fast PIO 4 □ FPIO 3/DMA 1 ■ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	□ Disabled □ Mode 0 □ Mode 1 □ Mode 2 □ Mode 3 □ Mode 4 ■ Mode 5
Primary Slave	
Type	■ Auto □ None □ CD-ROM □ Other ATAPI □ User
Multi_Sector Transfers	■ Disabled □ 16 Sectors □ 8 Sectors □ 4 Sectors □ 2 Sectors
LBA Mode Control	■ Disabled □ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled □ Enabled
Transfer Mode	■ Standard □ Fast PIO 1 □ Fast PIO 2 □ Fast PIO 3 □ Fast PIO 4 □ FPIO 3/DMA 1 □ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	■ Disabled □ Mode 0 □ Mode 1 □ Mode 2 □ Mode 3 □ Mode 4 □ Mode 5

項目	設定値
Secondary Master	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ Other ATAPI ☐ User
Multi_Sector Transfers	■ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ■ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ■ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
Secondary Slave	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ Other ATAPI ☐ User
Multi_Sector Transfers	■ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	■ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	■ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
QuickBoot Mode	☐ Disabled ■ Enabled
System Memory	基本メモリ容量を表示
Extended Memory	拡張メモリ容量を表示
BIOS Revision	BIOS のバージョンを表示

Advanced メニュー

項目	設定値
PCI Configuration	
PCI Device, Slot #1	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI Device, Slot #2	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI Device, Slot #3	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h

項目	設定値
PCI Device, Slot #4	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI Device, Slot #5	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
Advanced Chipset Control	
Graphics Aperture	☐ 256MB ☐ 128MB ■ 64MB ☐ 32MB
Default Primary Video Adapter	☐ PCI ■ AGP
ECC Config	☐ Disabled ■ ECC
PCI Error Checking	☐ Disabled ■ Enabled
PCIBus Resetting in early POST	☐ Disabled ■ Enabled
I/O Device Configuration	
Serial port A	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Base I/O Address	■ 3F8 / IRQ 4 ☐ 2F8 / IRQ 3 ☐ 3E8 / IRQ 4 ☐ 2E8 / IRQ 3
Serial port B	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Base I/O Address	☐ 3F8 / IRQ 4 ■ 2F8 / IRQ 3 ☐ 3E8 / IRQ 4 ☐ 2E8 / IRQ 3
Parallel port	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Mode	☐ Output only ■ Bi-directional ☐ ECP ☐ EPP
Base I/O Address	■ 378 ☐ 278
Interrupt	☐ IRQ 5 ■ IRQ 7
DMA Channel	■ DMA 1 ☐ DMA 3
Console Redirection	
Com Port Address	■ Disabled ☐ On-board COM A ☐ On-board COM B
Baud Rate	☐ 300 ☐ 1200 ☐ 2400 ■ 9600 ☐ 19.2K ☐ 38.4K ☐ 57.6K ☐ 115.2K
Console Type	☐ VT100 ☐ VT100, 8bit ☐ PC-ANSI, 7bit ■ PC ANSI ☐ VT100+ ☐ VT-UTF8
Flow Control	■ None ☐ XON/XOFF ☐ CTS/RTS
Console connection	■ Direct ☐ Via modem
Continue C.R. after POST	■ Off ☐ On

項目	設定値
Integrated Device Control	
USB#0 Controller	☐ Disabled ■ Enabled
USB#1 Controller	☐ Disabled ■ Enabled
USB#2 Controller	☐ Disabled ■ Enabled
USB 2.0 Function	☐ Disabled ■ Enabled
AC97 Audio Controller	☐ Disabled ■ Enabled
LAN Controller	☐ Disabled ■ Enabled
PXE Oprom	■ Disabled ☐ Enabled
Onboard VGA	☐ Disabled ■ Enabled
Event Logging	
Event log validity	☐ Valid ☐ Not valid
Event log capacity	☐ Space Available ☐ Full
View event log	イベントログの内容を表示
Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
ECC Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
Env. Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
Temperature Configuration	
Motherboad Temperature	☐ Disabled ■ Enabled
CPU Temperature	☐ Disabled ■ Enabled
Voltage Configuration	
CPU core	☐ Disabled ■ Enabled
1.25V	☐ Disabled ■ Enabled
1.5V	☐ Disabled ■ Enabled
1.5V Standby	☐ Disabled ■ Enabled
1.8V	☐ Disabled ■ Enabled
2.5V	☐ Disabled ■ Enabled
3.3V	☐ Disabled ■ Enabled
3.3V Standby	☐ Disabled ■ Enabled
5V	☐ Disabled ■ Enabled
5V Standby	☐ Disabled ■ Enabled
+12V	☐ Disabled ■ Enabled
-12V	☐ Disabled ■ Enabled
Lithium battery	☐ Disabled ■ Enabled
Fan Configuration	
FAN1	☐ Disabled ■ Enabled
FAN2	■ Disabled ☐ Enabled
FAN3	■ Disabled ☐ Enabled
FAN4	☐ Disabled ■ Enabled
Mark events as read	未読のイベントログを既読に変更
Clear all event logs	☐ Yes ■ No
Enable ACPI	■ Yes ☐ No
Installed O/S	■ Win2000 ☐ Other
Reset Configuration Data	☐ Yes ■ No

項目	設定値
Boot-time Diagnostic Screen	☐ Disabled ■ Enabled
Summary screen	■ Disabled ☐ Enabled
Local Bus IDE adapter	☐ Disabled ☐ Primary ☐ Secondary ■ Both
Legacy USB Support	☐ Disabled ■ Enabled
Large Disk Access Mode	☐ Other ■ DOS
Primary IDE Cable	■ Auto Detect ☐ 80-Wire ☐ 40-Wire
Secondary IDE Cable	■ Auto Detect ☐ 80-Wire ☐ 40-Wire

Power メニュー

項目	設定値
ACPI Standby Mode	■ S3 ☐ S1
After Power Failure	☐ Stay Off ■ Last State ☐ Power On
Onboard LAN	
Wake up on LAN	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on LAN from S5	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on PCI PME from S5	■ Disabled ☐ Enabled
Thermal Throttle	☐ Disabled ■ Enabled
Thermal Temperature Setting	☐ 70 ℃ ☐ 80 ℃ ☐ 90 ℃ ■ 100 ℃
Thermal Throttle Duty	■ 25% ☐ 50% ☐ 75%
Upper Threshold of Temperature	☐ 30 ℃ ☐ 35 ℃ ☐ 40 ℃ ☐ 45 ℃ ☐ 50 ℃ ☐ 55 ℃ ■ 60 ℃

Boot メニュー

項目	設定値
Boot Device Priority	ブート順を設定 ☐ Removable Devices ☐ Hard Drive ☐ CD-ROM Drive ☐ IBA FE Slot 0240 v4110
Boot Wait Time	■ No wait ☐ 30s ☐ 60s ☐ 90s ☐ 120s ☐ 150s ☐ 180s

（2） モデル 210

Main メニュー

項目	設定値
AMIBIOS	AMIBIOS 情報を表示
Version	AMIBIOS のバージョンを表示
Build Date	AMIBIOS のリリース日時を表示
ID	AMIBIOS の ID を表示
Processor	検出された CPU 情報を表示
Type	システムに搭載されているプロセッサ名を表示
Speed	プロセッサ動作周波数を表示
Count	論理プロセッサ数を表示
System Memory	基本メモリの情報を表示
Size	認識された基本メモリ容量を表示
System Time	時：分：秒を設定
System Date	月／日／年（西暦）を設定

Advanced メニュー

項目	設定値
CPU Configuration	
Manufacturer	製造元を表示
Brand String	商標文字列を表示
Frequency	プロセッサ動作周波数を表示
Ratio Status	プロセッサ動作周波数と FSB 周波数の比率が固定されているかどうか表示
Ratio Actual Value	プロセッサ動作周波数と FSB 周波数の比率を表示
HyperThreading	☐ Disabled ■ Enabled
IDE Configuration	
Onboard PCI IDE Configuration	☐ Disabled ☐ Primary ☐ Secondary ■ Both
Primary IDE Master	
Type	■ Auto ☐ ARMD ☐ CDROM ☐ Not Installed
LBA/Large Mode	■ Auto ☐ Disabled
Block (Multi-Sector Transfer)	■ Auto ☐ Disabled
PIO Mode	■ Auto ☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4
DMA Mode	■ Auto ☐ SWDMA0 ～ 2 ☐ MWDMA0 ～ 2 ☐ UDMA0 ～ 4
S.M.A.R.T.	■ Auto ☐ Disabled ☐ Enabled
32Bit Data Transfer	■ Disabled ☐ Enabled
ARMD Emulation Type	■ Auto ☐ Floppy ☐ Hard Disk
Primary IDE Slave	
Type	■ Auto ☐ ARMD ☐ CDROM ☐ Not Installed
LBA/Large Mode	■ Auto ☐ Disabled

項目	設定値
Block (Multi-Sector Transfer)	■ Auto ☐ Disabled
PIO Mode	■ Auto ☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4
DMA Mode	■ Auto ☐ SWDMA0 ～ 2 ☐ MWDMA0 ～ 2 ☐ UDMA0 ～ 4
S.M.A.R.T.	■ Auto ☐ Disabled ☐ Enabled
32Bit Data Transfer	■ Disabled ☐ Enabled
ARMD Emulation Type	■ Auto ☐ Floppy ☐ Hard Disk
Secondary IDE Master	
Type	■ Auto ☐ ARMD ☐ CDROM ☐ Not Installed
LBA/Large Mode	■ Auto ☐ Disabled
Block (Multi-Sector Transfer)	■ Auto ☐ Disabled
PIO Mode	■ Auto ☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4
DMA Mode	■ Auto ☐ SWDMA0 ～ 2 ☐ MWDMA0 ～ 2 ☐ UDMA0 ～ 4
S.M.A.R.T.	■ Auto ☐ Disabled ☐ Enabled
32Bit Data Transfer	■ Disabled ☐ Enabled
ARMD Emulation Type	■ Auto ☐ Floppy ☐ Hard Disk
Secondary IDE Slave	
Type	■ Auto ☐ ARMD ☐ CDROM ☐ Not Installed
LBA/Large Mode	■ Auto ☐ Disabled
Block (Multi-Sector Transfer)	■ Auto ☐ Disabled
PIO Mode	■ Auto ☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4
DMA Mode	■ Auto ☐ SWDMA0 ～ 2 ☐ MWDMA0 ～ 2 ☐ UDMA0 ～ 4
S.M.A.R.T.	■ Auto ☐ Disabled ☐ Enabled
32Bit Data Transfer	■ Disabled ☐ Enabled
ARMD Emulation Type	■ Auto ☐ Floppy ☐ Hard Disk
Hard Disk Write Protect	■ Disabled ☐ Enabled
IDE Detect Time Out (Sec)	☐ 0 ☐ 5 ☐ 10 ☐ 15 ☐ 20 ☐ 25 ☐ 30 ■ 35
ATA（PI）80pin Cable Detection	■ Host & Device ☐ Host ☐ Device
Floppy Configuration	
Floppy A	☐ Disabled ■ 1.44MB 3 1/2"
SuperIO Configuration	
Onboard Floppy Controller	☐ Disabled ■ Enabled
Serial Port 1 Address	☐ Disabled ■ 3F8/IRQ4 ☐ 2F8/IRQ3 ☐ 3E8/IRQ4 ☐ 2E8/IRQ3
Serial Port 2 Address	☐ Disabled ☐ 3F8/IRQ4 ■ 2F8/IRQ3 ☐ 3E8/IRQ4 ☐ 2E8/IRQ3
Serial Port 2 Mode	■ Normal ☐ Sharp-IR ☐ SIR ☐ Consumer
IR Duplex Mode	☐ Full Duplex ■ Half Duplex
IR Receiver Pin	■ IRRX 1 ☐ IRRX 2
Parallel Port Address	■ Disabled ☐ 378 ☐ 278 ☐ 3BC
Parallel Port Mode	■ Normal ☐ Bi-Directional ☐ EPP ☐ ECP
EPP Version	■ 1.9 ☐ 1.7（「Parallel Port Mode」が「EPP」のときに設定可能）
ECP Mode DMA Channel	☐ DMA0 ☐ DMA1 ■ DMA3（「Parallel Port Mode」が「ECP」のときに設定可能）

項目	設定値
Parallel Port IRQ	☐ IRQ5 ■ IRQ7
ACPI Configuration	
ACPI Aware O/S	☐ No ■ Yes
Advanced ACPI Configuration	
ACPI APIC Support	☐ Disabled ■ Enabled
AMI OEMB table	☐ Disabled ■ Enabled
DMI Event Logging	イベントログを表示
Remote Access Configuration	
Remote Access	■ Disabled ☐ Serial
Serial Port number	☐ COM1 ■ COM2
Serial Port Mode	☐ 115200 8,n,1 ☐ 57600 8,n,1 ☐ 19200 8,n,1 ■ 9600 8,n,1
Post-Boot support	☐ Disabled ■ Enabled
USB Configuration	
Legacy USB Support	☐ Auto ☐ Disabled ■ Enabled
USB Beep Message	☐ Disabled ■ Enabled
USB Mass Storage Device Configuration	
USB Mass Storage Reset Delay	☐ 10 sec ■ 20 sec ☐ 30 sec ☐ 40 sec
Emulation Type	■ Auto ☐ Floppy ☐ Forced FDD ☐ Hard Disk ☐ CDROM

PCI PnP メニュー

項目	設定値
Plug & Play O/S	■ No ☐ Yes
PCI Latency Timer	☐ 32 ■ 64 ☐ 96 ☐ 128 ☐ 160 ☐ 192 ☐ 224 ☐ 248
Allocate IRQ to PCI VGA	☐ No ■ Yes
Palette Snooping	■ Disabled ☐ Enabled
PCI IDE Bus Master	■ Disabled ☐ Enabled
Offboard PCI / ISA IDE Card	■ Auto ☐ PCI Slot1 ☐ PCI Slot2 ☐ PCI Slot3 ☐ PCI Slot4 ☐ PCI Slot5 ☐ PCI Slot6
Offboard PCI IDE Primary IRQ	■ Disabled ☐ INTA ☐ INTB ☐ INTC ☐ INTD ☐ Hardwired
Offboard PCI IDE Secondary IRQ	■ Disabled ☐ INTA ☐ INTB ☐ INTC ☐ INTD ☐ Hardwired
IRQ3	■ Available ☐ Reserved
IRQ4	■ Available ☐ Reserved
IRQ5	■ Available ☐ Reserved
IRQ7	■ Available ☐ Reserved
IRQ9	■ Available ☐ Reserved
IRQ10	■ Available ☐ Reserved
IRQ11	■ Available ☐ Reserved
IRQ14	■ Available ☐ Reserved
IRQ15	■ Available ☐ Reserved
DMA Channel 0	■ Available ☐ Reserved
DMA Channel 1	■ Available ☐ Reserved

項目	設定値
DMA Channel 3	■ Available ☐ Reserved
DMA Channel 5	■ Available ☐ Reserved
DMA Channel 6	■ Available ☐ Reserved
DMA Channel 7	■ Available ☐ Reserved
Reserved Memory Size	■ Disabled ☐ 16K ☐ 32K ☐ 64K
Reserved Memory Address	☐ C0000 ☐ C4000 ■ C8000 ☐ CC000 ☐ D0000 ☐ D4000 ☐ D8000 ☐ DC000
PCI Slot1 ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
PCI Slot2 ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
PCI Slot3 ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
PCI Slot4 ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
PCI Slot5 ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
PCI Slot6 ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled

Boot メニュー

項目	設定値
Boot Settings Configuration	
Quick Boot	■ Disabled ☐ Enabled
Quiet Boot	■ Disabled ☐ Enabled
Add On ROM Display Mode	■ Force BIOS ☐ Keep Current
Bootup Num-Lock	☐ Off ■ On
PS/2 Mouse Support	☐ Disabled ■ Enabled
Typematic Rate	☐ Slow ■ Fast
System Keyboard	☐ Absent ■ Present
Parity Check	☐ Disabled ■ Enabled
Extended Memory Test Mode	■ Simple ☐ All
Wait For 'F1' If Error	☐ Disabled ■ Enabled
Hit 'DEL' Message Display	■ Disabled ☐ Enabled
Power State	■ Last State ☐ Power ON ☐ Stay OFF
Interrupt 19 Capture	■ Disabled ☐ Enabled
Boot Device Priority	
1st Boot Device	☐ Disabled ☐ Hard Drives ■ Removable Dev. ☐ ATAPI CDROM
2nd Boot Device	☐ Disabled ☐ Hard Drives ■ Removable Dev. ☐ ATAPI CDROM
3rd Boot Device	☐ Disabled ☐ Hard Drives ■ Removable Dev. ☐ ATAPI CDROM
Hard Disk Drives	
1st Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
2nd Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
3rd Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
4th Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
5th Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
6th Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）

項目	設定値
7th Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
8th Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
9th Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
10th Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
11th Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
12th Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
Removable Drives	
1st Drive	☐ Disabled ■ [ ]（デバイス名）
2nd Drive	☐ Disabled ■ [ ]（デバイス名）
3rd Drive	☐ Disabled ■ [ ]（デバイス名）
4th Drive	☐ Disabled ■ [ ]（デバイス名）
ATAPI CDROM Drives	
1st Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
2nd Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
3rd Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）
4th Drive	☐ Disabled ■ [ ]（型式名）

Monitoring メニュー

項目	設定値
System Event Log	☐ Disabled ■ Enabled
FAN 0	☐ Disabled ■ Enabled
FAN 1	■ Disabled ☐ Enabled
FAN 2	■ Disabled ☐ Enabled
FAN 3	☐ Disabled ■ Enabled
FAN 4	■ Disabled ☐ Enabled
FAN 5	■ Disabled ☐ Enabled
FAN 6	■ Disabled ☐ Enabled
FAN 7	■ Disabled ☐ Enabled
Chassis Intrusion	■ Disabled ☐ Enabled
Clear Chassis Int.	「Chassis secure switch」で検出した割り込みをクリア

Security メニュー

項目	設定値
Supervisor Password	■ Not Installed ☐ Installed
User Password	■ Not Installed ☐ Installed
Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定／変更
User Access Level	☐ No Access ☐ View Only ☐ Limited ■ Full Access
Change User Password	ユーザパスワードの設定／変更
Clear User Password	ユーザ用パスワードを削除
Password Check	■ Setup ☐ Always
Boot Sector Virus Protection	■ Disabled ☐ Enabled

Chipset メニュー

項目	設定値
Intel E7500/E7501 North Bridge Configuration	
Chipset Memory Remap Feature	☐ Disabled ■ Enabled
Memory Hole	■ Disabled ☐ Enabled
Intel ICH3 South Bridge Configuration	
ICH 3 Dev31 Func1,IDE	☐ Disabled ■ Enabled
ICH 3 Dev31 Func3,SMBUS	☐ Disabled ■ Enabled
ICH 3 Dev29 Func0,USB#1	☐ Disabled ■ Enabled
LPC 2Eh-2Fh Decode	☐ Disabled ■ Enabled
Moon ISA Device	■ Disabled ☐ Enabled
ICH3 Positive Decode	■ Disabled ☐ Enabled
IOAPIC	☐ Disabled ■ Enabled
Extended IOAPIC	☐ Disabled ■ Enabled
CPU B.I.S.T	■ Disabled ☐ Enabled
ICH3 DMA Collection	☐ Disabled ■ Enabled
DMA-0 Type	☐ PC / PCI ■ LPC DMA
DMA-1 Type	☐ PC / PCI ■ LPC DMA
DMA-2 Type	☐ PC / PCI ■ LPC DMA
DMA-3 Type	☐ PC / PCI ■ LPC DMA
DMA-5 Type	☐ PC / PCI ■ LPC DMA
DMA-6 Type	☐ PC / PCI ■ LPC DMA
DMA-7 Type	☐ PC / PCI ■ LPC DMA
Intel PCI-64 Hub 2 Configuration	
PCI Bus Frequency	☐ 66Mhz ☐ 100Mhz ☐ 133Mhz ■ Auto

（3） モデル 220

Main メニュー

項目		設定値
System Time		時：分：秒を設定
System Date		月／日／年（西暦）を設定
Legacy Diskette A		☐ Disabled ■ 1.44MB 3 1/2"
Primary Master		
	Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
	Multi-Sector Transfers	☐ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
	LBA Mode Control	☐ Disabled ☐ Enabled
	32Bit I/O	☐ Disabled ☐ Enabled
	Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
	Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
Primary Slave		
	Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
	Multi-Sector Transfers	☐ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
	LBA Mode Control	☐ Disabled ☐ Enabled
	32Bit I/O	☐ Disabled ☐ Enabled
	Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
	Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
Secondary Master		
	Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
	Multi-Sector Transfers	☐ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
	LBA Mode Control	☐ Disabled ☐ Enabled
	32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
	Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
	Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
Secondary Slave		
	Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
	Multi-Sector Transfers	☐ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
	LBA Mode Control	☐ Disabled ☐ Enabled
	32Bit I/O	☐ Disabled ☐ Enabled
	Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
	Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
System Memory		基本メモリの情報を表示
Extended Memory		拡張メモリの情報を表示

Advanced メニュー

項目	設定値
Legacy USB Support	☐ Disabled ■ Enabled
Memory Cache	☐ Disabled ■ Enabled
AGP Aperture Size	■ 256 MB ☐ 128 MB ☐ 64 MB
PCI Configuration	
PCI Device,Slot #1	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI Device,Slot #2	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI Device,Slot #3	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI Device,Slot #4	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI Device,Slot #5	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
I/O Device Configuration	
Serial port A	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Base I/O address	■ 3F8 ☐ 2F8 ☐ 3E8 ☐ 2E8
Interrupt	■ IRQ4 ☐ IRQ3
Serial port B	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Base I/O address	☐ 3F8 ■ 2F8 ☐ 3E8 ☐ 2E8
Interrupt	☐ IRQ4 ■ IRQ3
Parallel port	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Mode	■ Bi-directional ☐ ECP ☐ EPP ☐ Output only
Base I/O address	☐ 278 ■ 378
Interrupt	☐ IRQ5 ■ IRQ7
DMA channel	☐ DMA 1 ☐ DMA 3

項目	設定値
Internal Device Configuration	
Floppy Disk Controller	☐ Disabled ■ Enabled
IDE Controller	■ Both ☐ Primary ☐ Secondary ☐ Disabled
Primary IDE Cable	■ Auto Detect ☐ 80-Wire ☐ 40-Wire
Secondary IDE Cable	■ Auto Detect ☐ 80-Wire ☐ 40-Wire
Video Controller	☐ Disabled ■ Enabled
Dual Display	☐ Disabled ■ Enabled
Video Output	☐ CRT & LCD ■ CRT Only ☐ LCD Only ☐ VBIOS Default
LCD Panel Type	■ 1024x768 LVDS
Audio Controller	☐ Disabled ■ Enabled
LAN1 Controller	☐ Disabled ■ Enabled
PXE OPROM	■ Disabled ☐ Enabled
LAN2 Controller	☐ Disabled ■ Enabled
PXE OPROM	■ Disabled ☐ Enabled
USB Controller	■ All ☐ 4 Port ☐ 2 Port ☐ Disabled
USB 2.0 Function	☐ Disabled ■ Enabled
Reset Configuration Data	ESCD 領域のデータ初期化を指定
Event Logging	
Event Log Capacity	■ Space Available ☐ Full
Event Log Validity	■ Valid ☐ Not Valid
View Event Log	イベントログを表示
Clear All Event Logs	☐ Yes ■ No
Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
ECC Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
POST Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
Watchdog Timer	■ Disabled ☐ Enabled
Core Frequency	■ Auto Max ☐ 200MHz/133MHz ☐ 200MHz/200MHz ☐ 266MHz/200MHz ☐ 333MHz/250MHz
FAN Speed Control	☐ 25% ☐ 50% ☐ 75% ■ 100%
PCIBus Resetting in early POST	☐ Disabled ■ Enabled

Security メニュー

項目	設定値
Supervisor Password Is	管理者用パスワードの状態を表示
Set Supervisor Password	管理者用パスワードを設定

Power メニュー

項目	設定値
Wake up on LAN1	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on LAN2	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on PCI PME	■ Disabled ☐ Enabled
After Power Failure	☐ Power On ■ Stay Off ☐ Last State
Advanced CPU Configuration	
SpeedStep(R) Technology	☐ Disabled ■ Enabled
Initial state	■ 1.8GHz ☐ 1.6GHz ☐ 1.4GHz ☐ 1.2GHz ☐ 1.0GHz ☐ 800MHz ☐ 600MHz

Boot メニュー

項目	設定値
Boot-time Diagnostic Screen	☐ Disabled ■ Enabled
Quick Boot Mode	☐ Disabled ■ Enabled
Boot Device Priority	ブート順を設定 ☐ Removable Devices ☐ Hard Drive ☐ CD-ROM Drive ☐ Network Boot ☐ IBA FE Slot 0228 v4118 ☐ IBA FE Slot 0240 v4118

（4） モデル 210E

Main メニュー

項目		設定値
System Time		時：分：秒を設定
System Date		月／日／年（西暦）を設定
Legacy Diskette A		☐ Disabled ■ 1.44MB 3 1/2"
IDE Channel 0 Master		
	Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
	Multi-Sector Transfers	■ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
	LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
	32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
	Transfer Mode	■ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
	Ultra DMA Mode	■ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
IDE Channel 0 Slave		
	Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
	Multi-Sector Transfers	■ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
	LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
	32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
	Transfer Mode	■ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
	Ultra DMA Mode	■ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
IDE Channel 1 Master		
	Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
	Multi-Sector Transfers	■ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
	LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
	32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
	Transfer Mode	■ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
	Ultra DMA Mode	■ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
IDE Channel 1 Slave		
	Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
	Multi-Sector Transfers	■ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
	LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
	32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
	Transfer Mode	■ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
	Ultra DMA Mode	■ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5

項目	設定値
IDE Channel 2 Master	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
Multi-Sector Transfers	■ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	■ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	■ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
IDE Channel 3 Master	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
Multi-Sector Transfers	■ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	■ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	■ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
ATA Configuration	
ATA Mode	☐ Disabled ☐ P-ATA Only ☐ S-ATA Only ☐ Combined ■ Enhanced ☐ RAID
P-ATA Mode	☐ Disabled ☐ Primary ☐ Secondary ■ Both
S-ATA Mode	☐ Legacy ☐ Native
Primary in Combined Mode	☐ P-ATA ☐ S-ATA
Primary IDE Cable	■ Auto Detect ☐ 80-Wire ☐ 40-Wire
Secondary IDE Cable	■ Auto Detect ☐ 80-Wire ☐ 40-Wire
S-ATA RAID BIOS	☐ Disabled ☐ Enabled
System Memory	基本メモリ容量を表示
Extended Memory	拡張メモリ容量を表示
BIOS Revision	BIOS の版数が表示

Advanced メニュー

項目	設定値
Advanced Processor Options	
Hyper Threading Technology	☐ Disabled ■ Enabled
Adjacent Cache Line Prefetch	■ Disabled ☐ Enabled
Set Max Ext CPUID = 3	■ Disabled ☐ Enabled

項目	設定値
PCI/PCI-X/PCI-E Configuration	
PCI-X Device, Slot #1	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI-X Device, Slot #2	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI-X Device, Slot #3	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI Device, Slot #4	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI-E Device, Slot #5	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI-E Device, Slot #6	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
Frequency for Slot#1	■ Auto ☐ 33 MHz PCI ☐ 66 MHz PCI ☐ 66 MHz PCI-X ☐ 100 MHz PCI-X ☐ 133 MHz PCI-X
Frequency for Slot#2,#3/G-LAN	■ Auto ☐ 33 MHz PCI ☐ 66 MHz PCI ☐ 66 MHz PCI-X ☐ 100 MHz PCI-X
Onboard GigaLAN OPROM(PXE)	■ Disabled ☐ Enabled
PCI-E Jitter Tolerance	☐ 4 ☐ 5 ■ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9 ☐ 10 ☐ 11 ☐ 12

項目	設定値
Advanced Chipset Control	
Memory ECC Error Checking	☐ Disabled ■ Enabled
Memory Remap Function	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Multimedia Timer	☐ Disabled ■ Enabled
Spread Spectrum Clocking	☐ Disabled ■ Enabled
I/O Device Configuration	
Serial port A	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Base I/O address	■ 3F8 ☐ 2F8 ☐ 3E8 ☐ 2E8
Interrupt	■ IRQ4 ☐ IRQ3
Serial port B	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Base I/O address	☐ 3F8 ■ 2F8 ☐ 3E8 ☐ 2E8
Interrupt	☐ IRQ4 ■ IRQ3
Parallel port	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Mode	■ Bi-directional ☐ ECP ☐ EPP ☐ Output only
Base I/O address	☐ 278 ■ 378
Interrupt	☐ IRQ 5 ■ IRQ 7
DMA channel	☐ DMA 1 ☐ DMA 3
Integrated Device Control	
Floppy Disk Controller	☐ Disabled ■ Enabled
USB Controller	■ All ☐ 2 Port ☐ Disabled
USB 2.0 Function	☐ Disabled ■ Enabled
Event Logging	
Event Log Validity	■ Valid ☐ Not Valid
Event Log Validity	■ Space Available ☐ Full
View Event Log	イベントログを表示
Clear All Event Logs	☐ Yes ■ No
Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
POST Error Log-ging	☐ Disabled ■ Enabled
ECC Error Log-ging	☐ Disabled ■ Enabled
PCI Error Logging	☐ Disabled ■ Enabled

項目	設定値
Console Redirection	
Com Port Address	■ Disabled ☐ COM Port A ☐ COM Port B
Baud Rate	コンソールリダイレクションで使用するボーレートを設定
Console Type	■ PC ANSI ☐ VT100
Flow Control	☐ None ☐ XON/XOFF ■ CTS/RTS
Continue C.R. after Post	■ Off ☐ On
Multiprocessor Specification	■ 1.4 ☐ 1.1
Reset Configuration Data	ESCD 領域のデータ初期化を設定
Legacy USB Support	☐ Disabled ■ Enabled
Large Disk Access Mode	☐ Other ■ DOS
PCI Bus Resetting in early POST	☐ Disabled ■ Enabled
Watchdog Timer	■ Disabled ☐ Enabled

Security メニュー

項目	設定値
Supervisor Password Is	管理者用パスワードの状態を表示
Set Supervisor Password	管理者用パスワードを設定
Fixed disk boot sector	■ Normal ☐ Write Protect
Password on boot	■ Disabled ☐ Enabled

Power メニュー

項目	設定値
Wake up on GigaLAN#1	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on GigaLAN#2	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on PCI PME	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on Time	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up Time	システム起動時刻を設定
After Power Failure	☐ Power On ☐ Stay Off ■ Last State
Processor Fan Speed	☐ 25% ☐ 50% ☐ 75% ■ 100%
System Fan Speed	☐ 25% ☐ 50% ☐ 75% ■ 100%

Boot メニュー

項目	設定値
Boot-time Diagnostic Screen	☐ Disabled ■ Enabled
Quick Boot Mode	☐ Disabled ■ Enabled
Boot Wait Time	■ No wait ☐ 30s ☐ 60s ☐ 90s ☐ 120s ☐ 150s ☐ 180s
Boot Device Priority	ブート順を設定 ☐ Removable Devices ☐ Hard Drive ☐ CD-ROM Drive ☐ Network Boot ☐ IBA GE Slot 0210 v1226 ☐ IBA GE Slot 0211 v1226

C.2 SCSI セレクトユーティリティ設定シート（モデル 210/210E）

以下に、モデル 210/210E の SCSI セレクトユーティリティの各項目と設定値の一覧を示します。

Boot Adapter List メニュー

項目	設定値	
	チャネル 1	チャネル 2
Boot Order	■ 0 □ 1	□ 0 ■ 1
Next Boot	□ Off ■ On	□ Off ■ On

Global Properties メニュー

項目	設定値
Pause When Boot Alert Displayed	■ No □ Yes
Boot Information Display Mode	■ Verbose □ Terse
Negotiate with device	■ Supported □ All
Video Mode	□ Monochrome ■ Colors
Support Interrupt	■ Hook interrupt, the Default □ Bypass interrupt hook

Adapter Properties メニュー

項目	設定値	
	チャネル 1	チャネル 2
Host SCSI ID	■ 7（変更禁止）	
SCSI Bus Scan Order	■ Low to High(0..Max) □ High to Low(Max..0)	■ Low to High(0..Max) □ High to Low(Max..0)
Removable Media Support	■ None □ Boot Drive Only □ With Media Installed	■ None □ Boot Drive Only □ With Media Installed
CHS Mapping	■ SCSI Plug and Play Mapping □ Alternate CHS Mapping	■ SCSI Plug and Play Mapping □ Alternate CHS Mapping
Spinup Delay（Secs）	■ 2 □（ ）	■ 2 □（ ）
Secondary Cluster Server	■ No □ Yes	■ No □ Yes
Termination Control	■ Auto（変更不可）	

Device Properties メニュー

項目	設定値	
	チャネル 1	チャネル 2
MT/Sec	■ 160 □ 80 □ 40 □ 20 □ 10 □ 5 □ 0	■ 160 □ 80 □ 40 □ 20 □ 10 □ 5 □ 0
Data Width	■ 16 □ 8	■ 16 □ 8
Scan ID	□ No ■ Yes	□ No ■ Yes
Scan LUNs >0	□ No ■ Yes	□ No ■ Yes
Disconnect	□ Off ■ On	□ Off ■ On
SCSI Timeout	■ 10 □（ ）	■ 10 □（ ）
Queue Tags	□ Off ■ On	□ Off ■ On
Boot Choice	■ No（選択不可）	
Format	選択した SCSI 装置に対して、物理フォーマットを行う	
Verify	選択した SCSI 装置の媒体を検査する	
Restore Defaults	設定を初期値に戻す	

付録 D アラーム LED の仕様について

POST 動作中にエラーを検出した場合に、BIOS でアラーム LED を点灯させます。
アラーム LED の点灯／消灯条件は以下のとおりです。

（1） モデル 200/220

●アラーム LED 点灯条件

以下の POST エラーおよび環境監視エラー（温度／電圧／ファン回転数）が発生した時に、アラーム LED を点灯させます。

- System timer error
- System battery is dead
- System CMOS checksum bad
- Keyboard error
- System cache error
- Diskette drive A error
- Incorrect Drive A type
- Check date and time settings

重要 RAID オプション搭載時、RAID に障害が発生してもアラーム LED は点灯しません。

●アラーム LED 消灯条件

システムリセット時、S4 状態、および電源を切ったときに、アラーム LED を消灯させます。

重要 サスペンド（S1/S3）を行った場合、アラーム LED は消灯しません。

（2） モデル 210/210E

●アラーム LED 点灯条件

以下の POST エラー、および環境監視エラー（温度／電圧／ファン回転数）が発生したときに、アラーム LED を点灯させます。

- Channel 2 timer error
- CMOS battery failure
- CMOS system options not set
- CMOS checksum error
- Keyboard not functional
- Keyboard controller not functional
- Floppy drive 0 error
- Floppy controller error
- CMOS time not set
- CPU Clock Mismatch
- Expansion ROM Allocation Failure

●アラーム LED 消灯条件

システムリセット時、および電源を切ったときに、アラーム LED を消灯させます。

重要

- モデル 210 では、サスペンド（S1/S3/S4）は未サポートです。
- モデル210Eにおいて、システム稼動中に電源スイッチを5秒以上押し続けて電源を切った場合には、LED を点灯させます。
  この場合は、AC ケーブルを抜いてからアラーム LED を消灯させてください。

付録 E 他社製周辺機器をご利用の際の注意事項

他社製の周辺機器をご利用の場合には、以下の点を確認してください。

- 本製品が、ご利用になる周辺機器のハードウェア条件を満たしていること
- ご利用の OS が、周辺機器の対応 OS に含まれていること
- ご利用の周辺機器がデバイスドライバを必要とする場合、そのドライバが最新版であること
- ご利用の周辺機器が、パワーマネジメント（サスペンド・レジューム）機能をサポートしていること

  備考 パワーマネジメント機能をサポートしていない周辺機器を接続した状態で、サスペンドモードに移行すると、問題が発生する場合があります。

- その他、周辺機器の使用条件を満たしていること

単独では正常動作する周辺機器であっても、他の周辺機器との組み合わせによって、不具合が発生する可能性があります。

付録 F ハードディスクの連続長時間運用に関する注意事項

オプションの PD-AR8D80R / PD-AR8D802（80GB ハードディスク）と PD-AR8D160 / PD-AR8D1602（160GB ハードディスク）は、1 日 8 時間、月 200 時間動作で 5 年の使用を目安に設計しています。これは、使用環境温度が 25 ℃で、湿度範囲 20 ～ 80%（RH）の条件下で、本書の設置環境に記載した適切な設置条件を想定しています。
長時間連続で使用した場合には、1 年以内であっても故障が多発する場合があります。
24 時間運用など長時間連続運用される場合には、必ず弊社にご相談ください。

F.1 故障と運用時の注意事項

HDD の故障は劣化要因以外にも偶発的に起こる場合があります。重要なデータを消失しないためには、他の記憶装置（HDD ／ MO ／テープなど）にバックアップする以外に確実な方法はありません。連続運用時間に関わらず、バックアップをとることをお薦めします。
また、未使用時は極力、装置の電源切断や省電力モードによるハードディスクの電源切断を行ってください。

F.2 修理について

上記ハードディスクを 24 時間運用など長時間連続で使用した場合、無償保証期間内の故障であっても、無償修理にはなりませんのでご注意ください。

付録 G カリフォルニア州法（過塩素酸塩の取り扱いに関する規制）について

カリフォルニア州で「過塩素酸塩の取り扱いに関する規制」が制定されています。

G.1 規制対象

本製品の時計バックアップ用のリチウム一次電池は、過塩素酸塩含有量が 6ppb 以上であり、規制の対象です。

G.2 適用範囲

カリフォルニア州で過塩素酸塩物質を管理（製造、輸送、使用など）する全ての取扱者に適用されます。

G.3 過塩素酸塩物質の管理実践要求事項の表示

カリフォルニア州で過塩素酸塩物質を製造、流通、販売、使用、廃棄される場合、およびカリフォルニア州に輸出される場合は、個装箱、輸送箱（出荷梱包用）などに下記表示が義務化されています。

Perchlorate Material - special handling may apply.
See www.dtsc.ca.gov/hazardouswaste/perchlorate

G.4 必要な対応

お客様において本製品、または本製品を組み込んだお客様製品をカリフォルニア州へ輸出される場合は、この州法への対応を実施してください。

このページは空白です。

索引

あ行

アラームランプ 5
インレット 6, 8, 9, 11

か行

外形寸法の詳細 15
拡張カード
　拡張カードスロットの仕様 35
　搭載場所 33
　取り付け 38
　取り外し 39
カバー
　取り付け 37
　取り外し 37
キーボードコネクタ 6, 8, 9, 11
コネクタの接続 19

さ行

シリアルポート 6, 7, 8, 9, 10, 11

た行

台足 18
ディスプレイコネクタ 6, 8, 9, 11
電源スイッチ 5
電源の入れ方／切り方 23
電源ランプ 5

は行

ハードディスクアクセスランプ 5
パラレルポート 6, 8, 9, 11
防塵フィルタ 30

ま行

マイクインコネクタ 6, 9
マウスコネクタ 6, 8, 9, 11

ら行

ラインアウトコネクタ 6, 9
ラインインコネクタ 6, 9
ラベル 13
リセットスイッチ 5

A

AGP スロット 6, 9

B

BIOS セットアップ 41
BIOS セットアップ（モデル 200）
　起動 43
　終了 46
　使用するキー 45
　すべての設定内容を一度に工場出荷時の設定に戻すには 45
　すべての設定内容を一度に変更前の内容に戻すには 45
　設定した内容をいったん CMOS RAM に保存するには 46
　設定変更 45
　変更した設定内容を保存して終了するとき 46
　変更した設定内容を保存しないで終了するとき 46
　メニュー 51
　ACPI Standby Mode 83
　AC97 Audio Controller 76
　Advanced Chipset Control 63, 69
　Advanced メニュー 63
　After Power Failure 83
　Base I/O address 71, 72
　Baud Rate 73
　BIOS Revision 53
　Boot Device Priority 85, 86
　Boot Wait Time 85
　Boot メニュー 85
　Boot-time Diagnostic Screen 64
　CD-ROM Drive 87
　Clear all event logs 78
　Com Port Address 73

Console connection 74
Console Redirection 72, 73
Console Type 73
Continue C.R. after POST 74
CPU core 80
CPU Temperature 79
d キー 86
Default Primary Video Adapter 69
Discard Changes 88
DMA Channel 72
ECC Config 69
ECC Event Logging 77
Enable ACPI 64
Enable Master 68
Enter キー 86
Env. Event Logging 78
Event log capacity 77
Event log validity 77
Event Logging 64, 77
Exit Discarding Changes 88
Exit Saving Changes 88
Exit メニュー 88
Extended Memory 53
Fan Configuration 78, 82
FAN1 82
FAN2 82
FAN3 82
FAN4 82
Flow Control 74
Graphics Aperture 69
Hard Drive 87
IBA FE Slot 0240 v4110 87
Installed O/S 64
Integrated Device Control 64, 75
Interrupt 72
I/O Device Configuration 63, 71
LAN Controller 76
Large Disk Access Mode 65
Latency Timer 68
LBA Mode Control 55, 57, 59, 61
Legacy Diskette A 52
Legacy USB Support 65
Lithium battery 81
Load Setup Defaults 88
Local Bus IDE adapter 65
Main メニュー 52
Mark events as read 78
Mode 72
Motherboad Temperature 79
Multi-Sector Transfers
.....55, 57, 59, 61
Onboard LAN 83
Onboard VGA 76
Option ROM Scan 68
Parallel port 72
PCI Configuration 63, 67
PCI Device, Slot #n 67, 68
PCI Error Checking 70
PCIBus Resetting in early POST
..... 70
Power メニュー 83
Primary IDE Cable 65
Primary Master 52, 54
Primary Slave 53, 56
PXE Oprom 76
Quick ブート時の起動 47
QuickBoot Mode 53
Removable Device 86
Reset Configuration Data 64
Save Changes 88
Secondary IDE Cable 66
Secondary Master 53, 58
Secondary Slave 53, 60
Serial port A 71
Serial port B 71
Shift+1 キー 86
Summary screen 64
System Date 52
System Memory 53
System Time 52
Temperature Configuration 78, 79
Thermal Temperature Setting 84
Thermal Throttle 84
Thermal Throttle Duty 84
Transfer Mode 55, 57, 59, 61
Type 54, 56, 58, 60
Ultra DMA Mode 55, 58, 60, 62
Upper Threshold of Temperature
..... 84
USB2.0 Controller 76
USB#0 Controller 75
USB#1 Controller 75
USB#2 Controller 75
View event log 77

Voltage Configuration 78, 80
Wake up on LAN 83
Wake up on LAN from S5 84
Wake up on PCI PME from S5 84
1.25V 80
1.5V 80
1.5V Standby 80
1.8V 81
2.5V 81
32 Bit I/O 55, 57, 59, 61
3.3V 81
3.3V Standby 81
5V 81
5V Standby 81
+12V 81
-12V 81
＋キー 86
－キー 86
BIOS セットアップ（モデル 210E）
起動 44
終了 46
使用するキー 45
すべての設定内容を一度に工場出荷時の設定に戻すには 45
すべての設定内容を一度に変更前の内容に戻すには 45
設定した内容をいったん CMOS RAM に保存するには 46
設定変更 45
変更した設定内容を保存して終了するとき 46
変更した設定内容を保存しないで終了するとき 46
メニュー 154
Advanced Chipset Control 168
Advanced Processor Options 163
Advanced メニュー 161
Boot Device Priority 180
Boot メニュー 178
Console Redirection 173
Event Logging 172
Exit メニュー 182
Integrated Device Control 171
I/O Device Configuration 169
Main メニュー 155
PCI/PCI-X/PCI-E Configuration 164
PCI/PCI-X/PCI-E Device, Slot #n 166
Power メニュー 176
Quick ブート時の起動 47
Security メニュー 175
BIOS セットアップ（モデル 210）
起動 48
終了 50
使用するキー 49
すべての設定内容を一度に工場出荷時の設定に戻すには 50
すべての設定内容を一度に変更前の内容に戻すには 50
セキュリティ機能の動作 124
設定変更 50
変更した設定内容を保存して終了するとき 50
変更した設定内容を保存しないで終了するとき 50
メニュー 89
ACPI APIC support 102
ACPI Aware O/S 101
ACPI Configuration 92, 101
AddOn ROM Display Mode 114
Advance ACPI Configuration 101, 102
Advanced メニュー 91
Allocate IRQ to PCI VGA 108
AMI OEMB table 102
AMIBIOS 89
ARMD Emulation Type 97
ATAPI CDROM Drives 113, 119
ATA(PI)80-pin Cable Detection ...95
Block(Multi- Sector Transfer) 97
Boot Device Priority 112, 116
Boot Sector Virus Protection 122
Boot Settings Configuration 112, 114
Boot メニュー 112
Bootup Num-Lock 115
Brand String 93
Build Date 90
Change Supervisor Password ...122
Change User Password 122
Chassis Intrusion 120
Chipset Memory Remap Feature 126
Chipset メニュー 125

Clear Chassis Int. 120
Clear Event Log 103
Clear User Password 122
Count 90
CPU B.I.S.T 128
CPU Configuration 91, 93
Discard Changes 130
Discard Changes and Exit 130
DMA Channel 0 108
DMA Channel 1 108
DMA Channel 3 108
DMA Channel 5 ～ 7 108
DMA Mode 97
DMA-0 ～ 7 Type 128
DMI Event Logging 92, 103
ECP Mode DMA Channel 101
Emulation Type 106
EPP Version 100
Event Log Statistics 103
Exit メニュー 129
Extended IOAPIC 128
Extended Memory Test Mode 115
FAN 0 ～ 7 120
Floppy A 98
Floppy Configuration 91, 98
Frequency 93
Hard Disk Drives 112, 117
Hard Disk Write Protect 95
Hit 'DEL' Message Display 116
HyperThreading 93
ICH 3 Dev29 Func0,USB#1 128
ICH 3 Dev31 Func1,IDE 127
ICH 3 Dev31 Func3,SMBUS 127
ICH3 DMA Collection 128
ICH3 Positive Decode 128
ID 90
IDE Configuration 91, 94
IDE Detect Time Out(Sec) 95
Intel E7500/E7501 North Bridge Configuration 125, 126
Intel ICH3 South Bridge Configuration 125, 127
Intel PCI-64 Hub 2 Configuration 125, 129
Interrupt 19 Capture 116
IOAPIC 128
IR Duplex Mode 100
IR Receiver Pin 100
IRQ14 108
IRQ15 108
IRQ3 ～ 5 108
IRQ7 108
IRQ9 ～ 11 108
LBA/Large Mode 97
Legacy USB Support 105
Load Failsafe Defaults 130
Load Optimal Defaults 130
LPC 2Eh-2Fh Decode 128
Main メニュー 89
Manufacturer 93
Mark all events as read 103
Memory Hole 126
Monitoring メニュー 120
Moon ISA Device 128
Offboard PCI IDE Primary IRQ .. 110
Offboard PCI IDE Secondary IRQ 110
Offboard PCI / ISA IDE Card 108, 110
Onboard Floppy Controller 99
Onboard PCI IDE Configuration .. 94
Palette Snooping 108
Parallel Port IRQ 101
Parallel Port Address 100
Parallel Port Mode 100
Parity Check 115
Password Check 124
PCI Bus Frequency 129
PCI IDE Bus Master 108
PCI Latency Timer 108
PCI PnP メニュー 107
PCI Slot(1 ～ 6) ROM Scan 109
PIO Mode 97
Plug & Play O/S 107
Post-Boot support 104
Power State 116
Primary IDE Master 94, 95
Primary IDE Slave 94, 95
Processor 90
PS/2 Mouse Support 115
Quick Boot 114
Quiet Boot 114
Ratio Actual Value 93
Ratio Status 93

Remote Access 104
Remote Access Configuration 92, 104
Removable Drives 113, 118
Reserved Memory Address 111
Reserved Memory Size 108, 111
Save Changes and Exit 130
Secondary IDE Master 94, 95
Secondary IDE Slave 94, 95
Security メニュー 121
Serial Port Mode 104
Serial Port number 104
Serial Port 1 Address 99
Serial Port 2 Address 99
Serial Port 2 Mode 100
Size 90
Speed 90
Super IO Configuration 92, 99
Supervisor Password 121
System Date 90
System Event Log 120
System Keyboard 115
System Memory 90
System Time 90
S.M.A.R.T. 97
Type 90, 96
Typematic Rate 115
USB Beep Massage 105
USB Configuration 92, 105
USB Mass Storage Device Configuration 105, 106
USB Mass Storage Reset Delay 106
User Access Level 123
User Password 121
Version 89
View Event Log 103
Wait For 'F1' If Error 115
32Bit Data Transfer 97
BIOS セットアップ（モデル 220）
起動 43
終了 46
使用するキー 45
シリアルポート A 140
シリアルポート B 140
すべての設定内容を一度に工場出荷時の設定に戻すには 45
すべての設定内容を一度に変更前の内容に戻すには 45
設定した内容をいったん CMOS RAM に保存するには 46
設定変更 45
転送モード 134
パラレルポート 141
変更した設定内容を保存して終了するとき 46
変更した設定内容を保存しないで終了するとき 46
メニュー 131
Advanced CPU Configuration 148, 149
Advanced メニュー 135
After Power Failure 148
AGP Aperture Size 135
Audio Controller 143
Base I/O address 140, 141
Boot Device Priority 151
Boot メニュー 150
Boot-time Diagnostic Screen 150
CD-ROM Drive 152
Clear All Event Logs 145
Core Frequency 136
d キー 151
Discard Changes 153
DMA channel 141
Dual Display 143
ECC Event Logging 145
Enable Master 139
Enter キー 151
Event Log Capacity 144
Event Log Validity 145
Event Logging 136, 144, 145
Exit Discarding Changes 153
Exit Saving Changes 153
Exit メニュー 153
Extended Memory 132
FAN Speed Control 137
Floppy Disk Controller 142
Hard Drive 152
IBA FE Slot 0228 v4118 152
IBA FE Slot 0240 v4118 152
IDE Controller 142
Initial state 149

Internal Device Configuration 136, 142
Interrupt 140, 141
IRQ 140
I/O Device Configuration 136, 140
I/O ポートアドレス 140
LAN1 Controller 143
LAN2 Controller 143
Latency Timer 139
LBA Mode Control 134
LBA モード 134
LCD Panel Type 143
Legacy Diskette A 132
Legacy USB Support 135
Load Setup Defaults 153
Main メニュー 132
Memory Cache 135
Mode 141
Multi-Sector Transfers 134
Network Boot 152
Option ROM Scan 139
Parallel port 141
PCI Configuration 136, 138
PCI Device, Slot #n 138, 139
PCIBus Resetting in early POST 137
POST Event Logging 145
Power メニュー 147
Primary IDE Cable 142
Primary Master 132
Primary Slave 132
PXE OPROM 143, 144
Quick ブート時の起動 47
QuickBoot Mode 150
Removable Devices 152
Reset Configuration Data 136
Save Changes 153
Secondary IDE Cable 142
Secondary Master 132
Secondary Slave 132
Security メニュー 146
Serial port A 140
Serial port B 140
Set Supervisor Password 146
Shift+1 キー 151
SpeedStep(R) Technology 149
Supervisor Password Is 146
System Date 132
System Memory 132
System Time 132
Transfer Mode 134
Type 133
Ultra DMA Mode 134
USB Controller 144
USB 2.0 Function 144
Video Controller 143
Video Output 143
View Event Log 145
Wake up on LAN1 147
Wake up on LAN2 147
Wake up on PCI PME 147
Watchdog Timer 136
32 Bit I/O 134
＋キー 151
－キー 151
BIOS セットアップ（モデル 210E）
シリアルポート A 169
シリアルポート B 169
転送モード 158
パラレルポート 170
Adjacent Cache Line Prefetch 163
Advanced Chipset Control 161
Advanced Processor Options 161
After Power Failure 177
ATA Configuration 156
ATA Mode 159
Baud Rate 174
BIOS Revision 156
Boot Device Priority 179
Boot Wait Time 178
Boot-time Diagnostic Screen 178
CD-ROM Drive 181
Clear All Event Logs 173
Com Port Address 174
Console Redirection 162
Console Type 174
Continue C.R. after Post 174
d キー 180
Discard Changes 182
ECC Error Logging 173
Enable Master 167
Enable Multimedia Timer 168
Enter キー 180
Event Log Capacity 172

Event Log Validity 172
Event Logging 162, 173
Exit Discarding Changes 182
Exit Saving Changes 182
Extended Memory 156
Fixed disk boot sector 175
Floppy Disk Controller 171
Flow Control 174
Frequency for Slot#1 165
Frequency for Slot#2,#3/G-LAN 165
Hard Drive 181
Hyper Threading Technology 163
IBA GE Slot 0210 v1226 181
IBA GE Slot 0211 v1226 181
IDE Channel 0 Master 155
IDE Channel 0 Slave 155
IDE Channel 1 Master 155
IDE Channel 1 Slave 155
IDE Channel 2 Master 155
IDE Channel 3 Master 155
Integrated Device Control 162
IRQ 170
I/O Device Configuration 161
I/O ポートアドレス 169
Large Disk Access Mode 162
Latency Timer 167
LBA Mode Control 158
LBA モード 158
Legacy Diskette A 155
Legacy USB Support 162
Load Setup Defaults 182
Memory ECC Error Checking 168
Memory Remap Function 168
Multiprocessor Specification 162
Multi-Sector Transfers 158
Onboard GigaLAN OPROM(PXE) 165
Option ROM Scan 166
Parallel port 170
Password on boot 175
PCI Bus Resetting in early POST 162
PCI Device, Slot #4 164
PCI Error Logging 173
PCI-E Device, Slot #5 ～ #6 165
PCI-E Jitter Tolerance 165
PCI-X Device, Slot #1 ～ #3 164
PCI/PCI-X/PCI-E Configuration 161
POST Error Logging 173
Primary IDE Cable 160
Primary in Combined Mode 160
Processor Fan Speed 177
P-ATA Mode 159
QuickBoot Mode 178
Removable Devices 180
Reset Configuration Data 162
Save Changes 182
Secondary IDE Cable 160
Serial port A 169
Serial port B 169
Set Max Ext CPUID = 3 164
Set Supervisor Password 175
Shift+1 キー 180
Spread Spectrum Clocking 168
Supervisor Password Is 175
System Date 155
System Fan Speed 177
System Memory 156
System Time 155
S-ATA Mode 159
S-ATA RAID BIOS 160
Transfer Mode 158
Type 157
Ultra DMA Mode 158
USB Controller 171
USB 2.0 Function 171
View Event Log 172
Wake up on Giga-LAN #1 176
Wake up on Giga-LAN #2 176
Wake up on PCI PME 176
Wake up on Time 176
Wake up Time 176
Watchdog Timer 162
32 Bit I/O 158
＋キー 180
－キー 180

C

CD-ROM
セット 28
取り扱い上の注意 26
取り出し 29

CD-ROM ドライブ 5

L

LAN コネクタ 6, 8, 9, 10, 11, 12

P

PCI Express x8 スロット 11
PCI スロット 7, 8, 10, 12

R

RAID カード 6, 8, 9, 12

S

SCSI セレクトユーティリティ 183
起動 184
終了 186
使用するキー 185
変更した設定内容を保存して終了するとき 186
変更した設定内容を保存しないで終了するとき 186
メニュー 187
Adapter Properties メニュー 190
Boot Choice 193
Boot Information Display Mode 189
Boot Order 188
CHS Mapping 191
Data Width 192
Device Properties メニュー 192
Dev/Func 187
Disconnect 193
Format 193
Global Properties メニュー 189
Host SCSI ID 190
IRQ 188
LSI Logic Control 188
Main メニュー 187
MT/Sec 192
Negotiate with device 189
Next Boot 188
NVM 188
Boot Adapter List メニュー 188
Pause When Boot Alert Displayed 189
PCI Bus 187
Port Number 188
Queue Tags 193
Removable Media Support 190
Restore Defaults 193
Scan ID 192
Scan LUNs >0 192
SCSI Bus Scan Order 190
SCSI Timeout 193
Secondary Cluster Server 191
Spinup Delay（Secs）..... 191
Support Interrupt 189
Termination Control 191
Verify 193
Video Mode 189

U

USB コネクタ 5, 6, 8, 9, 11

数字

5 インチベイ 5

エンベデッドコンピュータ AR8300 シリーズ

取扱説明書

P3XU-E271-04Z0

発 行 日　2007 年 4 月

発行責任　株式会社 PFU

●本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

●本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、弊社はその責を負いません。

●無断転載を禁じます。